



NetSupport School

ユーザーガイド

バージョン 15.12

著作権

マニュアルの著作権 (C) 2025 NetSupport Ltd. 無断転載を禁ず。

この文書に書かれている情報は、予告なしに変更されることがあります。NetSupport Ltd はこの文書を改訂したり隨時内容を変更する権利を持ち、そうした改訂や変更をお客様に通知する責務を負いません。

この文書に記述されているソフトウェアは、国際著作権条約で保護されており、ライセンス規約の下に提供されています。ライセンス契約書に記載されて利う方法でのみこの送付とウェアを使用することができ、バックアップを目的とする場合に限ってバックアップを作成することができます。

商業的または特定の目的に適合することの保証を含むどのような暗黙的な保証も、ライセンス契約書に明示的に記載されている保証条項に制限されます。

プログラムの著作権 (C) 1991 - 2025 NetSupport Ltd. 無断転載を禁ず。

商標

Netsupport は NetSupport Ltd. の登録商標です。

Windows、Windows 7、Windows 8/8.1、Windows 10、Windows 11 および Windows 11 は Microsoft Corporation の登録商標です。その他の製品名、商標、登録商標は、それらを所有する各社に帰属します。

NetSupport School のライセンス

NetSupportソフトウェアを使用する前に本契約をお読みください。これは、お客様とNetSupport Ltdとの間で締結される法的な契約です。本ライセンス契約の条項に同意されない場合は、本ソフトウェアを起動、アクティブ化または使用することはできません。

期間：下記の解除条項における解除をしない限り、本ライセンスは永続的なものとします。

ライセンス許諾：該当するライセンス料の支払い、本契約の条項および条件によるお客様の順守を条件に、NetSupport Ltdは、ここにお客様が取得したソフトウェアの指定されたバージョンを使用する通常実施権、譲渡禁止の権利を許諾します。

使用：本ソフトウェアは、該当する注文確認、製品請求書、ライセンス証明書または製品パッケージに指定された数量の使用条件に基づきライセンスされています。条件で指定された数だけデバイスにソフトウェアの追加を作成、インストールそして使用することができます。お客様は、本ソフトウェアがインストールされたデバイス数がお客様の取得したライセンス数を超えないための合理的なメカニズムを設ける必要があります。

サーバでの使用：該当する注文確認、製品請求書、製品パッケージまたはライセンス証明書が定めた範囲内において、お客様はデバイスやマルチユーザーまたはネットワーク環境（「サーバでの使用」という）内のサーバ上のソフトウェアを使用することができます。そのようなデバイスまたは座席がソフトウェアに同時に接続している、または実際に使用するときに関係なく、ソフトウェアに随時接続する各デバイスまたは「座席」には個別のライセンスが必要になります。接続して直接または同時（例えば「マルチプレギング」または「プーリング」ソフトウェアまたはハードウェア）にソフトウェアを使用するデバイスや座席数を減少させるソフトウェアまたはハードウェアの使用は必要なライセンス数を減らすことはありません。具体的には、マルチプレギングまたはプーリングのソフトウェアまたはハードウェア（「フロントエンド」）に対し個別の接続数と同じ数のライセンス数を所持する必要があります。ソフトウェアに接続できるデバイスまたは座席数が取得したライセンス数を超える場合、お客様はソフトウェアの使用が取得したライセンスに指定された使用限度を超えないための合理的なメカニズムを設ける必要があります。

著作権：本ソフトウェアは、国際著作権法により保護されています。お客様はバックアップの目的以外にそれを複製することはできません。本ソフトウェアは、お客様に使用を許可したものであり、お客様に販売されたものではありません。

制限事項：すべてのコピーを保持しないことを条件に、オリジナルのコピーを販売または無償で譲渡する場合を除き、お客様ならびに販売店は、本ライセンスを賃貸、リース、販売、または本ソフトウェアを使用する権利を第三者に譲渡することはできません。NetSupport Ltdの書面による事前の承諾がある場合を除き、ソフトウェアを変更、逆アセンブルまたはリバースエンジニアリングすることはできません。

限定保証：NetSupport Ltdは、購入日から90日の期間に対しソフトウェアが付属のマニュアルに従って実質的に動作することを保証します。NetSupportの全責任およびお客様の救済手段は、a)欠陥のあるソフトウェアの交換、またはb)支払った価格の返金のいずれかとする。本救済手段はNetSupportの判断、許可された発行元からの購入証明書を条件とします。

特定の目的に対する品質または適合性のいかなる保証を含むすべての默示的な保証は、明示的な保証の条件に制限されています。いかなる場合においても、NetSupport Ltdは、これらの保証の不履行、またはそのような損害の可能

性について助言されているにも関わらずソフトウェアの使用に起因するあらゆる種類の利益、データまたは情報の損失、または特別な、偶発的、必然的、間接的またはその他の同様の損害について責任を負いません。一部の国では、偶発的または間接的な損害の制限または免責を許可しないため、上記の制限または免責がお客様に適用されない場合もあります。本保証は、お客様の法的権利には影響しません。そして国ごとに異なるその他の権利が認められる場合があります。いかなる場合においても、NetSupportの最大の責任はエンドユーザー/ライセンシーが支払った価格を上限とします。

契約の解除：お客様は、いつでもプログラムと付属の書類そしてすべての形式のコピーを破棄することにより本ライセンスおよび本契約書を解除することができます。

お客様が本ライセンスのいずれかの条項の重大な違反を犯した場合、(改善される違反の場合)NetSupport Ltdからの書面による要求の受領後30日以内にこれを怠った場合、NetSupportはお客様に書面で通知することにより本ライセンスを直ちに解除することができます。違反(そのような要求にはNetSupportの解除意思の警告を意味しています)を解決するために、これを実行いたします。解除に際し、本ソフトウェアのオリジナルとすべての複製を破棄またはNetSupport Ltdに返却し、これが実行されたことを宛ての書面にて確認します。

サポート：本ソフトウェアのインストールで問題がある場合は、まず販売店に連絡してください。機能強化やアップグレードの提供を含むサポートとメインテナンスを別途購入することができます。

準拠法：本契約は、英國法に準拠するものとします。

目次

Windows 用 NetSupport School とは?	11
ヘルプの使い方と用語について	13
インストールの準備	14
システム必要条件	15
インストールの開始	17
NetSupport School のインストールプログラム	18
の使用許諾契約書	18
ライセンス情報	18
セットアップの種類の選択	20
カスタムセットアップ	21
部屋の確認	24
インストール開始	25
既にインストールされています	26
配布用コピーを使ってインストールする	27
サイレントインストール	28
設定オプションのインストール	29
NetSupport School デプロイ - はじめに	30
印刷履歴を表示する	32
NetSupport School デプロイ - メインウインドウ	34
NetSupport School デプロイ - デプロイの準備	35
NetSupport School デプロイ - 遠隔インストール	36
NetSupport School パッケージをデプロイ - プロパティ一般タブ	38
NetSupport School パッケージをデプロイ - プロパティオプションタブ	39
NetSupport School パッケージをデプロイ - プロパティ承認タブ	40
NetSupport School パッケージをデプロイ - プロパティメッセージタブ	41
NetSupport School パッケージをデプロイ - プロパティ再起動タブ	42
NetSupport School デプロイ - クライアント設定をデプロイ	43
NetSupport School デプロイ - ライセンスファイルのデプロイ	44
NetSupport デプロイ - 遠隔アンインストール	45
遠隔アンインストールをデプロイ - プロパティ一般タブ	47
遠隔アンインストールをデプロイ - プロパティ承認タブ	48
遠隔アンインストールをデプロイ - プロパティメッセージタブ	49
遠隔アンインストールをデプロイ - プロパティ再起動タブ	50
遠隔アンインストールをデプロイ - プロパティ再起動タブ	51
デプロイ設定の事前入力	52
NetSupport School デプロイ - ログファイル	54
NetSupport Schoolを起動する	55
NetSupport Schoolデプロイ - 部屋モード	57
生徒機を検索して接続する	59
クラスウィザード	61
部屋モードで生徒に接続する	64
検索モードを使用して生徒に接続する	66
PCモードを使用して生徒に接続する	67

ユーザー モードを使用して生徒に接続する	69
SIS モードを使用して生徒に接続する	70
NetSupport School と Google Classroom を統合する	72
教室リスト	75
macOS 生徒用 NetSupport School に接続する	76
先生 コンソール	77
一覧表示	81
ステータスバー	83
一緒に作業する生徒の選択	84
中級モード	85
簡単モード	87
先生 コンソール ツールバー	89
生徒の自動ログイン	90
出席確認	91
生徒のログイン名を表示するには	94
生徒のログイン名を保存するには	95
教室のレイアウトを変更する	96
ビットマップの背景を設定する	97
電源管理	98
生徒機の電源を入れる	99
生徒機の電源を切る	100
アクティブセッションからのクライアント切断	101
クラスから生徒を削除する	102
NetSupport School でサブネット検索の設定をする	103
IP アドレスについて	104
ターミナルサーバ環境で NetSupport School を実行する	106
NetSupport 先生アシスタントのインストールと構成設定	107
Google Chrome で NetSupport School をインストールおよび構成	110
Google Chrome のライセンス	113
Android 用 NetSupport School 先生をインストールする	114
Android タブレット用 NetSupport School の生徒のインストールと構成	115
NetSupport ブラウザアプリケーション (iOS 版) のインストールと設定	117
NetSupport School Windows 10 先生アプリ	119
タブレット用のライセンス	121
アクティブディレクトリとの融合	122
無線の教室で NetSupport School を使用する	123
NetSupport 接続サーバーを使用して生徒 PC を検索する	125
NetSupport 接続サーバーのインストールと設定	126
NetSupport 接続サーバー構成ユーティリティ - 全般タブ	127
NetSupport 接続サーバー構成ユーティリティ - キータブ	129
NetSupport 接続サーバー構成ユーティリティ - ライセンスタブ	130
NetSupport 接続サーバー構成ユーティリティ - セキュリティタブ	131
NetSupport 接続サーバー構成ユーティリティ - クラスタブ	132
NetSupport 接続サーバー	134
グループに対する操作	136

グループを削除する	138
グループリーダーを指定する	139
グループリーダーを停止する	140
グループリーダーを解任する	141
生徒またはグループアイコンをカスタマイズする	142
NetSupport School の使い方	143
生徒のマウスとキーボードをロック/解除する	144
生徒をロックする際の画像を変更する	146
生徒の画面を受信する	147
画面受信モード	149
ビュー中に生徒機で画面を非表示にする	151
Ctrl+Alt+Del を送信する	152
全生徒機で画面を非表示にする	153
リモートクリップボード	154
生徒の画面を巡回する	155
生徒の画面を一度に複数表示して巡回する	156
巡回ウィンドウ	157
モニタモード	159
画面キャプチャ	162
生徒に先生の画面を送信する	163
ショーを終了する	164
ショー中にバックグラウンドで別の作業を行う	165
一時停止(サスPEND)状態のショーを再開する	166
画面送信リーダー	167
特定の生徒画面を他の生徒に転送する	168
ショーアプリケーション	170
生徒のフィードバックとウェルビーニング	171
インタラクティブホワイトボード	172
画面をマーキングする	174
オーディオ監視	176
サウンド機能を使用する	179
アナウンス機能を使用する	180
画面受信中や画面送信中にサウンド機能を使用する	181
マイクとスピーカーの音量を調節する	182
NetSupport Schoolビデオプレイヤー	184
パソコンでビデオファイルを再生するには	185
ビデオプレイヤー操作パネル	186
リプレイファイルを使用する	188
それぞれの生徒のリプレイファイルを記録する	189
それぞれ生徒のリプレイファイルを記録する	190
先生機でリプレイファイルを記録する	192
リプレイファイルを見る	193
リプレイウィンドウ - 操作パネル	195
リプレイファイルを生徒たちに見せる	197
リプレイファイルをビデオファイルに変換する	198

ショーアプリケーション	199
生徒とチャットをする	200
チャット ウィンドウ	202
生徒にメッセージを送信する	204
プリセットメッセージを作成する	206
ヘルプ依頼を送信する	207
ヘルプ依頼に対処する	208
ファイルを転送する	209
ファイルとフォルダーを管理する	211
ファイルを配布する	214
教材を配布する	216
教材を回収する	219
配布/回収操作の作業を変更する	221
生徒側のアプリケーションと Web サイトをリモートで起動する	222
グループの生徒にアプリケーションを起動するには	225
保存したアプリケーションまたは Web サイトを編集するには	226
保存したアプリケーションまたは Web サイトを削除するには	227
ユーザー定義ツール	228
生徒機をリブート / ログアウトする	230
ユーザー アカウントの管理	231
ウェブ管理モジュール	232
生徒機で現在閲覧中の URL を特定する	234
生徒機の Web サイトを管理する	236
許可/制限 ウェブサイトを設定する	238
インターネットへのアクセスを制限/禁止	241
ウェブ履歴を表示する	243
アプリケーション管理モジュール	245
生徒機で現在稼動中のアプリケーションを特定する	246
生徒機のアプリケーションを管理する	248
承認/制限 アプリケーションを設定する	250
アプリケーション履歴を表示する	253
アンケート	255
アンケートリスト	257
質疑応答モード	259
質疑応答モジュール - 即答タイプ	261
質疑応答モード - 回答入力タイプ	262
質疑応答モード - 抽選質問タイプ	263
質疑応答モジュール - 先生インターフェイス	264
質疑応答モジュールを使用する	266
質問を移動する	267
相互評価	268
質疑応答チームモード	269
プリント管理	270
印刷管理を使用する	272
印刷履歴を表示する	275

デバイス制御	277
先生コンソールのプロファイル	279
生徒の教材を管理する	281
学習ノート	282
授業プラン	287
生徒ツールバー	290
評価	292
生徒ステッカー	293
生徒機を設定する	294
生徒のネットワーク設定	296
生徒の部屋設定	297
生徒機のセキュリティ設定	298
生徒の設定情報 - [サウンド]	300
生徒機インターフェース設定	301
生徒機の拡張設定	302
生徒日誌設定	304
生徒のターミナルサービス設定	305
先生コンソールを設定する	306
先生コンソールの開始オプション	308
先生の開始制限	310
先生コンソールのネットワークとワイヤレス	311
先生コンソールのパフォーマンス設定	314
生徒の選択設定	315
管理 - セキュリティ設定	317
先生コンソールの管理 - プロファイル	319
先生プロファイル - ファイル場所	320
先生プロファイル - ファイルの場所	321
先生プロファイル - ファイル場所拡張	322
先生コンソールの設定情報を変更する	323
先生コンソールの設定情報 - [画面受信]	325
先生コンソールのキーボード/マウスの設定	328
リプレイファイルの設定	330
先生コンソールの設定情報 - [サウンド]	331
先生のチャット設定	333
先生コンソールのファイル転送設定	334
先生コンソールのユーザーインターフェイス設定	336
生徒ユーザーインターフェイス設定	338
先生アシスタント設定	339
グループリーダーに関する設定情報	341
生徒ツールバー設定	343
先生用学習ノートの設定	344
画面送信設定	346
テックコンソール	347
生徒機を探す	350
生徒のサービスを停止する	351

リモートインベントリとシステム情報	353
インベントリウィンドウ	354
タスクマネージャーウィンドウ	356
ポリシー管理	358
生徒のセキュリティ設定	360
リモートコマンドプロンプトウィンドウ	363
PowerShell ウィンドウ	365
NetSupport School テストモジュールについて	367
テストデザイナーのユーザーインターフェイス	368
テストデザイナーを起動する	370
問題インターフェイス	371
問題を作成する	373
問題の作成 - マルチ選択	375
問題の作成 - 穴埋め	376
問題の作成 - 画像合わせ	377
問題の作成する - コンボリスト	378
問題の作成 - タイトル合わせ	379
問題の作成 - 正誤選択	382
問題の作成 - 複数の正誤選択	383
問題の作成 - 並べ替え	384
文章問題をハイライト表示する	385
追加資料(素材)を含める	386
問題の保管と作成者のコメントの追加	388
問題を編集する	389
問題、科目、分野を削除する	390
試験インターフェイス	391
試験の成績評価	392
試験を作成する	393
問題の点数設定	395
試験をプレビューする	396
試験を削除する	397
試験を発行する	398
ユーザー アカウントの設定	399
アドミンオプション	400
データのインポート/エクスポート	401
テストコンソール	402
テストコンソール - 試験を実行する	404
テスト報告ウィンドウ	406
テストプレイヤー	408
ご意見・ご感想	410

Windows 用 NetSupport School とは?

NetSupport Schoolは、学校向けの市場をリードする教室ソフトウェアソリューションです。すべてのプラットフォーム間で動作し、NetSupport Schoolは、ICT機器を最大限活用できるように豊富な専用の評価、監視、共同作業そして制御機能で先生を支援します。

NetSupport Schoolは、個別、グループ、またはクラス全体として生徒たちとふれ合うだけでなく、教える、視覚的、聴覚的に監視する機能を先生に提供する教室指導トレーニングソフトウェアソリューションです。追加費用はかかりません: 専用の先生、教室アシスタント、技術者モジュールのすべての機能が含まれています。

NetSupport Schoolは、デスクトップ、ノートパソコンまたはタブレットと有線および無線ネットワーク上そして従来のPC、シンクライアントまたは仮装環境での使用に動作するように設計されています。

アップル iOS用先生アシスタントアプリ

既存のNetSupport School管理教室環境で使用するため、ICT環境での先生の高い機動性とティーチングアシスタントが生徒の進捗監視を支援できる理想的なツールを提供するNetSupport School 先生アシスタントは従来のデスクトップ先生アプリケーションを拡張したものです。

デバイスにインストールされると、先生が自由に教室を移動し、主要なコントロールを維持を補助し、すべての生徒機を監視できるようにアプリは NetSupport Schoolデスクトップ先生ソフトウェアとペアになります。

Android用先生は

Android用NetSupport School先生は、各生徒のデバイスに接続する機能とリアルタイムの相互作業や支援が可能になるように専用のタブレットベースの教室への製品の製品機能を拡張しています。

注意: 生徒のタブレットはNetSupport School 生徒アプリを実行している必要があります。

Android用生徒およびiOS用ブラウザ

Android用のNetSupport School生徒とiOS用のブラウザは、今日の教室でのモバイル技術の利用の増加による課題を解決します。 NetSupport Schoolで管理された授業にモバイル学習者が参加できるようにし、生徒のAndroidタブレットやiOSデバイスにインストールすると、先生は従来のデスクトップ先生アプリケーションから生徒と対話したりサポートすることができます。

Google Chromebookの生徒をサポート

Google Chromebookの教育環境でNetSupport Schoolのパワーを使用します。既存または新規NetSupport Schoolの教室管理を使用するには、Google ChromeOSが動作している各生徒のChromebookにNetSupport School Chrome 生徒拡張をインストールすることができます。

Teacher App - Windows 10

Windows用デスクトップ先生アプリケーションに加えて、ネイティブなTeacherアプリがWindowsタブレットやタッチ対応デバイスにインストールできるように設計されています。すべての期待されるコア教室の機能に加えて、Teacherアプリは、主

重要なWindows 10およびOffice 365教育サービスの統合に重点を置いています。

macOS用NetSupport School

お使いのMacの教室で使用するために、macOS用NetSupport Schoolは、生徒の監視、交流、共同作業に必要なツールを提供する教室管理ソフトウェアソリューションです。

注意: 必要に応じて、NetSupport SchoolのWindows先生はMacの生徒に接続できます。

ヘルプの使い方と用語について

ヘルプの使い方

- ステップ・バイ・ステップで操作方法を説明しています。1、2、3といった番号順に操作してください。
- 操作方法が二つ以上ある場合は、「次のどれかを行ないます。」と記述し、操作方法を箇条書きにしています。個々の操作手順が長いときは、「または」と記して別の操作手順を示している場合もあります。いずれの場合も、どの方法でも目的の操作を行うことができます。
- 「注意:」という見出しのあとにヒントや解説が書かれていることがあります。ご参考になさってください。

用語について

先生コンソール(コントロール)

ネットワーク上の別のパソコンをリモートコントロールするためのソフトウェアです。先生(コントロール)のプログラムがインストールされ、起動しているパソコンを先生コンソールといい、生徒機をリモートコントロールすることができます。

生徒機(クライアント)

ネットワーク上の別のパソコンからリモートコントロールされるのに必要なソフトウェアです。生徒機(クライアント)のプログラムがインストールされ、起動しているパソコンを生徒機といい、先生コンソールからリモートコントロールできます。

接続できる生徒

生徒のプログラムで使用するプロトコルなどを正しく設定すると、生徒機は先生機から接続できるようになります。この状態の生徒機を、接続可能な生徒といいます。先生が生徒機に接続するためには、接続可能な生徒になっていなければなりません。

既知の生徒

一度接続した生徒機の情報は、Client.nssというファイルに保存されます。情報がClient.nssファイルに保存されている生徒機を、既知の生徒といいます。既知の生徒はネットワーク上で検索しなくとも、直ちに接続できます。

接続中の生徒

接続可能な全生徒または特定のグループに所属する生徒に、同時に接続できます。生徒または生徒のグループに接続すると、それらの生徒は接続中の生徒となります。先生がリモートコントロールできるのは、接続中の生徒だけです。

選択中の生徒

クライアントまたは接続しているクライアントのグループは、コントロールによって選択されます。その後、コントロールは画面受信、画面送信そしてメッセージ等の様々な機能を実行することができます。

インストールの準備

NetSupport School は、手順に従って操作するだけで、簡単にインストールでき、すぐに使用を開始できます。

インストールする機能を決定します。

先生としてクラスを管理したい場合は、お使いのコンピュータ(コントロール)をインストール必要があります。

接続したい各生徒機に、生徒(クライアント)をインストールする必要があります。

技術者が、技術サポートを提供しながら学校のネットワークを管理そして維持できるようにするには、技術者のコンソールをインストールすることができます。

注意: NetSupport School 先生 はTCP/IP を使用するように設定されています。

生徒(クライアント)に接続するための推奨方法

部屋モードは、与えられた部屋のクライアントに接続するための迅速かつ簡単な方法です。スタートアップウィザードは、特定の部屋にマシンを割り当てることができ、授業開始時に先生は単に接続したい事前に定義した部屋を示します。「ローミング」の生徒は指定の部屋に接続するオプションもあります。

部屋の設定は、NetSupport School生徒構成設定の生徒で設定することができます。

先生が生徒に接続する他の方法は検索モード、PCモード、ユーザーモードまたはSISモード。

これで、NetSupport Schoolの先生(コントロール)と生徒(クライアント)のプログラムをインストールする準備が整いました。

システム必要条件

一部の NetSupport School の機能は特定のファイルやアプリケーションの状態に依存しています。

一般

Windows 7*、Windows 8/8.1、Windows 10 および Windows 11.

生徒のみ: 空き容量 250Mバイト

先生だけのインストール用の空きディスク容量 400Mバイト

IT技術者のインストール用の空きディスク容量 400Mバイト

フルインストール: 空き容量 600Mバイト

NetSupport 接続サーバのみのインストールの場合、50MB の空きディスク容量。

* NetSupport School先生とテックコンソールを Windows 7で実行するには、Aeroを有効にする必要があります。スタート > コントロールパネルを選択します。外観とカスタマイズセクションで、色のカスタマイズをクリックします。配色メニューからWindows Aeroを選択し、OKをクリックします。

NetSupport Schoolはターミナルサーバー、ゼロ/シンクライアント、仮想デスクトップそして共有リソースコンピューティング環境で動作しGoogle Chromebooks および Android/iOS tabletsでサポートされています。

Tutor Assistant app はsupported on 9またはそれ以降が動作するiOSデバイス。

Windows 10デバイスでサポートされているネイティブの先生アプリ。

Android用NetSupport School 先生 app はsupported on 5.0またはそれ以降が動作するAndroidタブレット。

Android用NetSupport School 生徒 app はsupported on 12またはそれ以降が動作するAndroidタブレット。

注意: バージョン15.10.0003以降、NetSupport School Student for Androidは、最新のCPUアーキテクチャ(64ビットARMプロセッサ用のarm64-v8a ABI)に対応したAndroidデバイスのみをサポートします。詳細については、「[NetSupport School Student for Android - バージョン15.10.0003からのCPUアーキテクチャサポートの変更](#)」をご覧ください。

NetSupportブラウザアプリ(iOS)は、バージョン14以降を実行しているiOSデバイスでサポートされています。

Macサポートは [macOS用NetSupport School](#)で利用可能です。

NetSupport School 先生コンソールは1024 x 768またはそれ以上の画面解像度が必要です。

Synchronised Multimedia Player for WAV, MOV, AVI, MPG, etc. files.

NetSupport 接続サーバ

NetSupport 接続サーバは、Windows 7以降またはWindows Server 2008r2以降でのみサポートされています。

タッチ対応 サポート

Windows 7またはそれ以降が実行されているNetSupport School先生。

Windows 8/8.1またはそれ以降が実行されているNetSupport School生徒。

テストデザイナー

テストデザイナーでは MDAC 2.1 もしくはそれ以上、及び COMCTL32.dll version 5.80 もしくはそれ以上が必要です。NetSupport School インストール中にこれらのファイルが存在するか確認します。存在しない場合は報告します。デプロイ機能でサイレントインストールする場合は、ファイルが存在しなくても報告しません。

注意: 先生PCに送信されるプリンタ通知を有効にするため、インストーラーによって生徒PCに次の変更が適用されます;

Windows ファイアウォール

インストール時にアクティブネットワークに対して製品が使用できるようにWindowsファイアウォールのエントリが自動的に追加されます。別のネットワークに変更する場合は、Windowsファイアウォールを通過して接続ができるようにWindowsファイアウォールのエントリの範囲を拡張する必要があります。

ローカルセキュリティポリシー設定

ワークグループに接続しているPCでは、次のローカルポリシー設定が設定されます:

Network Access: anonymous SID/Name トランスレーション許可	有効
Network Access: anonymous enum of SAM アカウントを許可しない	無効
Network Access: anonymous enum of SAM アカウント & 共有を許可しない	無効
Network Access: everyone permissions にanonymous usersを適用	有効
Network Access: anonymous のNamed Pipes and 共有へのアクセス制限	無効

インストールの開始

また、www.netsupportschool.com/downloads.asp からNetSupport Schoolをダウンロードすることができます。

使用するインストーラーをsetup.exeまたはMSIファイルのどちらか選択します(Active Directoryデプロイのみ)。

Active Directoryにデプロイを実行する必要がある場合は、MSIファイルを使ってインストールしてください。

注意: Active Directory経由でのインストールの詳細については、当社ナレッジベースを訪問し、製品記事「[Active Directoryのグループポリシー経由でNetSupport Schoolをインストールする](#)」を参照してください。(英文)

NetSupport Schoolインストーラーはようこそ画面を表示し始めます。



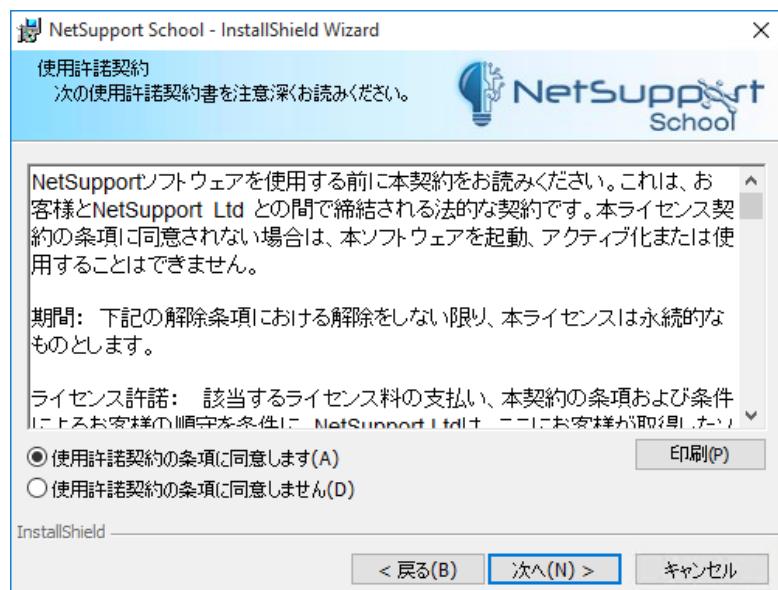
続けるには[次へ]をクリックします。

注意 :

- Windowsオペレーティングシステムをアップグレードしている場合は、アップグレードを行う前に必ずNetSupport Schoolを一度アンインストールしてください。OSのアップグレード完了後に、NetSupport Schoolを再度インストールしなおしてください。
- インストールするときは、管理者権限でログインしていることを確認してください。
- Windows 7、Windows 2008 Server R2、Windows 8、Windows 2012にNetSupport Schoolをインストールするときに、必要なサービスパックや修正プログラムが無い場合は、フィルタドライバがインストールされていない可能性があります。フィルタドライバなしでNetSupport Schoolのインストールを続行できますが、一部のインターネット制御機能が使用できなくなります。詳細については、テクニカルサポートチームにお問い合わせください。(英語対応) <https://support.netsupportsoftware.com/>。

NetSupport School のインストールプログラム

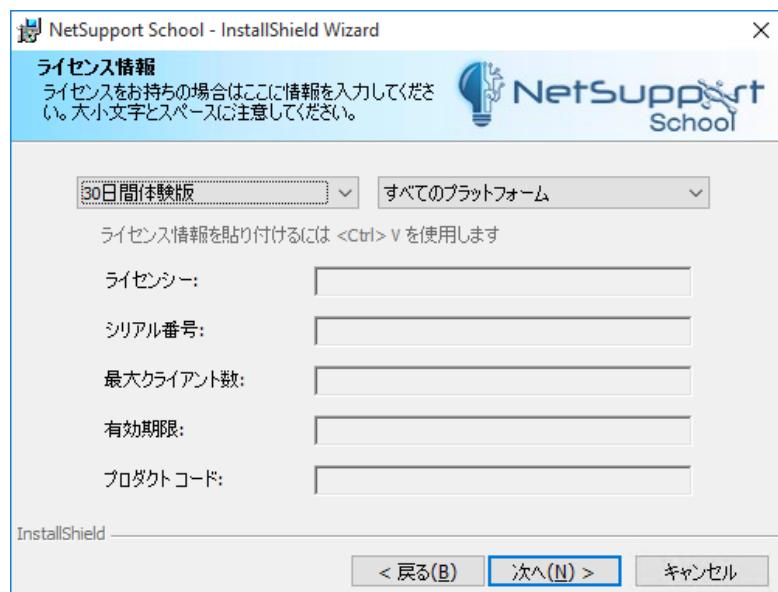
の使用許諾契約書



NetSupport School の使用許諾契約書が表示されますライセンス使用許諾書をよくお読みください。次へをクリックして続行します。

使用許諾契約書に同意しない場合は、[ライセンス使用許諾書に同意しない]を選択し、[キャンセル]をクリックしてください。NetSupport School はインストールされません。画面の指示に従ってインストールプログラムを終了してください。

ライセンス情報



登録を選択し、提供されたNetSupport Schoolのライセンス詳細を入力します。NetSupportを試用する場合は、30日間体験版を選択します。

使用したいライセンスの種類を選択します。

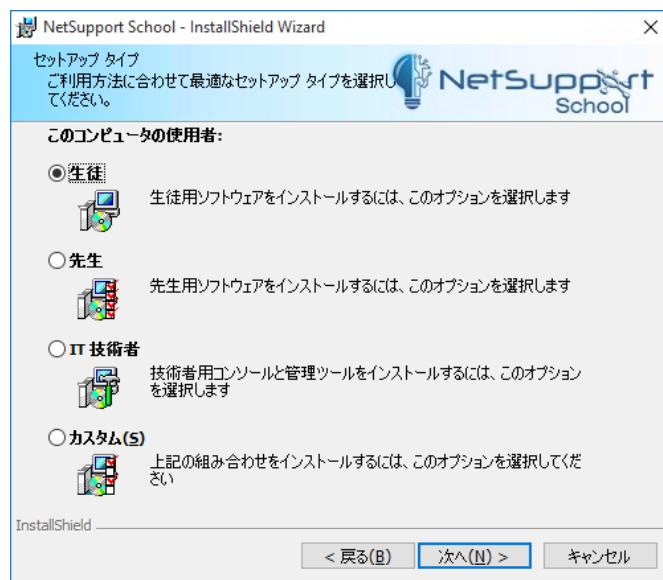
すべてのプラットフォーム: 生徒は、すべてWindowsベースまたはWindows、macOS、ChromeOS、Android、またはiOS混在を使用している。

Windows以外: 生徒は全員、Windows 以外のデバイス (macOS、ChromeOS、Android、または iOS) を使用しています。

すべてのプラットフォーム: 生徒は全員、Windows 以外のデバイス (ChromeOS、Android、または iOS) を使用しています。

セットアップの種類の選択

コンピュータにインストールするセットアップの種類を選択します。



生徒

生徒用ソフトウェアをインストールします。この機能(クライアント)は、バーチャルセッションにのみインストールされます。

先生コンソール

先生用のソフトウェアをインストールします。このコンポーネントはコントロールともいい、他のパソコンをリモートコントロールする側のパソコンで使用します。

IT 技術者

テックコンソールをインストールします。このコンポーネントはコンピュータを管理、メンテナンスするワークステーションにインストールしてください。

カスタム

生徒および先生用ソフトウェアの両方をインストールします。

続行するには、[次へ] をクリックします。カスタムを選択している場合は、カスタムインストール画面が表示されます。

カスタムセットアップ

インストールするコンポーネントを選択してください。



生徒

クライアントとも呼ばれるこのプログラムをインストールするとコンピュータはリモートコントロールされます。このプログラムをインストールすることで、先生は生徒と接続を確立することができます。生徒が使用できる機能は、先生とコミュニケーションをするための機能に限定されています。例えば、ヘルプの送信など。

クライアント設定をインストールする: NetSupport School クライアント設定は、各コンピュータの生徒プログラムの設定をカスタマイズする時に使用します。例えば、使用するプロトコルを選択する、生徒名を割り当てる、セキュリティを設定するなど。

生徒用のプログラムを選択した場合も、クライアント設定のインストールするオプションがあります。

設定プログラムのインストールを希望しない場合は、このボックスのチェックを外してください。その場合でもインストールの最終段階で、クライアント設定が起動し生徒のコンピュータの設定することができます。

注意: 先生用のプログラムをインストールすると、初期設定でクライアント設定も同時にインストールされます。

スタートメニューにクライアント設定のアイコンを追加する: 生徒のコンピュータのスタートメニューにクライアント設定のショートカットを作成するかどうかを選択します。生徒のコンピュータにこのコンポーネントをインストールする利点は、今後の設定変更が簡単なことです。欠点は、生徒達がオプションのアクセスや変更が可能になってしまうことです。

先生コンソール

別名コントロールともいう、このプログラムは他のコンピュータをリモートコントロールするコンピュータにインストールします。先生は、生徒の画面を見たり、自分の画面を生徒に見せるといった NetSupport School の様々な機能にアクセス可能になります。

このプログラムをインストールすると、ポータブル先生コンソールフォルダも同時にインストールします。USB ドライブ、メモリスティック、フラッシュドライブといったポータブルデバイスから先生を起動することができます。

詳細については、当社ナレッジベースを訪問し、製品記事「[ポータブルデバイスからNetSupport School先生を実行する](#)」を参照してください。(英文)

注意: 先生の画面を生徒に見せる機能「画面送信」を使用するには、先生のコンピュータに生徒用のプログラムをインストールする必要があります。

デスクトップにアイコンを追加する: 先生用のプログラムを簡単に起動できるように、デスクトップにコントロール(先生コンソール)アイコンを作成するかどうかを選択できます。

リモートデプロイ: リモートデプロイは、その場にいながら、複数のコンピュータに NetSupport School のインストールが可能になります。

テックコンソール

このプログラムはコンピュータを管理またはメンテナンスするコンピュータにインストールしてください。コンピュータ教室の担当技術者やネットワーク管理者が主なNetSupport School の機能を使用できるようになります。

このコンポーネントを選択すると、ポータブルテックコンソールフォルダもインストールされます。これにより、USB ペンドライブ、メモリースティック、フラッシュドライブなどのポータブルデバイスからテックコンソールを実行できます。

ネームサーバ

生徒のコンピュータのロケーションと接続を簡単で信頼性の高い方法を提供します。

注意:

- NetSupport 接続サーバは、Windows 7以降または Windows Server 2008r2以降でのみサポートされています。
- NetSupport 接続サーバは、NetSupport DNAローカル(サーバー)ゲートウェイがインストールされているマシンにはインストールできません。

リプレイ変換ユーティリティ

このユーティリティはリプレイファイルをビデオファイルに変換することができます。

注意: これは先生またはテックコンソールコンポーネントをインストールしている場合、デフォルトでインストールされます。

テストのデザインと実施

テストデザイナーを使えば画像、音声、動画形式で出題できるテストをカスタマイズ作成できます。

インストール先:

初期設定では、次のフォルダに NetSupport School がインストールされます。C:\Program
Files\NetSupport\NetSupport School別のフォルダにインストールしたい場合は、[変更] をクリックします。

準備ができたら、[次へ]をクリックしてください。

部屋の確認

接続したい部屋の値を入力します。既定値では、Eval が部屋の値です。部屋の値は、あとで先生の環境設定の設定で変更することができます。



続行するには、【次へ】をクリックします。

インストール開始

インストール開始

インストールを開始するには、インストールをクリックします。前の設定項目を変更する場合は、[戻る]をクリックしてください。インストールを取りやめる場合は、[キャンセル]をクリックします。

注意: 生徒のプログラムをインストールすると、Windowsの起動時に自動的に生徒のプログラムが読み込まれるように、System.INIファイルとレジストリが書き換えられます。ただし、これが既存のドライバなどに影響することはありません。

インストール完了

インストールを完了するには:

- クライアント構成設定を起動するか選んでください。クライアント情報やセキュリティの基本設定が行えます。
- リモートデプロイ機能を実行するか選択します。複数のワークステーションにNetSupport Schoolのインストールと設定を行うことができます。

[完了]をクリックしてセットアッププログラムを終了してください。

既にインストールされています

この画面は、NetSupport School が既にインストールされているときに表示されます。



次のどれかを選択できます:

変更

インストール済みのプログラムを変更します。

修復

プログラム内のインストールエラーを修復します。

削除

コンピュータからNetSupport Schoolを削除します。

どれかを選択し、[次へ]をクリックして次に進みます。

配布用コピーを使ってインストールする

管理者がネットワーク接続された多くのパソコンに NetSupport School をインストールする際に、インストールメディアやライセンスの詳細などを持ち運ばなくても、NetSupport School の配布用コピーを使用すれば、いつでも短時間でインストールすることができます。

配布用コピーにセットアップ項目などをあらかじめ設定しておけば、全てのパソコンに NetSupport School を全く同じ設定で確実にインストールできます。

作成した配布用コピーを使って、通常のインストールを行うことも、サイレントインストールを行うこともできます。

NetSupport School の配布用コピーをサーバ上に用意する

1. NetSupport School をインストールする予定の全てのパソコンからアクセス可能なネットワーク上にフォルダを作成します。
2. NetSupport School のインストール CD-ROM から、SETUP.EXE ファイルを、このフォルダにコピーします。
3. 有効な NSM.LIC ファイルを作成し、このフォルダにコピーします。インストール時にフォルダ内にライセンスファイルが見つからないと、デフォルトの評価用ライセンスでインストールされます。
4. CLIENT32U.INI ファイルを作成し、このフォルダにコピーします。

注意：設定情報が誤って書き換えられないように、ネットワークフォルダを「読み取り専用」にしておくことをお勧めします。

NetSupport School をサーバから個々のパソコンにインストールする

1. NetSupport School をインストールするパソコンで、NetSupport School のセットアップファイルが含まれるネットワークフォルダを開きます。
2. Setup.exe を実行します。
3. 「Windows にインストールする」の手順に従ってインストールします。

サイレントインストール

サイレントインストールとは、ユーザーの入力を一切必要とせずに行うインストール方法です。

サイレントインストールを行う

- 必要な NetSupport School インストールファイル、NSS.ini および NSM.lic を含む NetSupport School の配布コピーを作成します (評価する場合、NSM.lic は必要ありません)。
- インストールのプロパティを決定するには、コマンドラインで NetSupport School プログラムフォルダから INSTCFG.EXE /S を実行します。インストール設定オプションダイアログが表示されます。デフォルト名 NSS.ini というパラメータファイルに選択したプロパティが保存されています。
- {ファイル}{保存}を選択して NetSupport School の配布コピーが存在するフォルダに 'r; NSS.ini' ファイルを保存します。
- 選択したパソコンでサイレントインストールを実行するには、配布コピーのあるフォルダから:

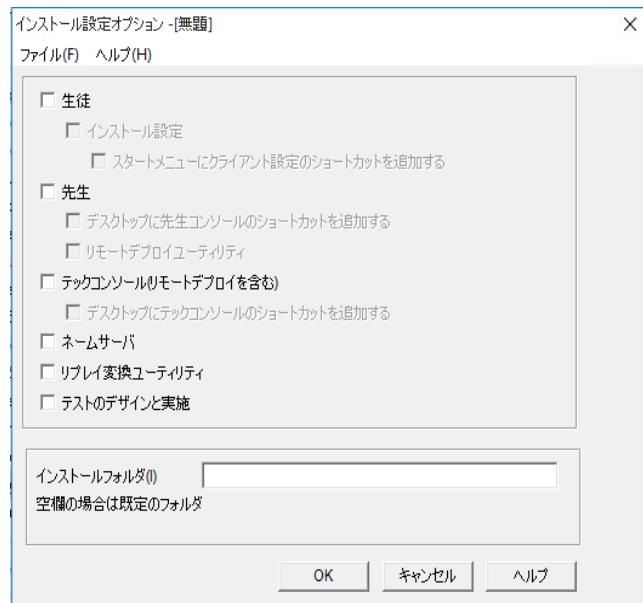
```
msiexec /i "NetSupport School.msi" /qn (MSI インストーラー)
```

```
setup /S /v/qn (setup.exe インストーラー)
```

注意: NetSupport School は、Active Directory を経由してインストールすることができます。ソフトウェアのインストール Group Policy Object (GPO) は、ユーザーではなくコンピュータアカウントを含む Organisational Units (組織単位) に適用する必要があります。ソフトウェアのインストールを行うには、ソフトウェアのインストール対象になっているコンピュータを制御するグループポリシーの Computer Configuration | Administrative Templates | System | Logon | 内のパラメータ「コンピュータの起動およびログオンで常にネットワークを待つ」を有効にする必要があるので注意してください。この変更がない場合は、追加ログオフ/ログインサイクルがインストールを行うために必要になります。

設定オプションのインストール

サイレントインストール や NetSupport School デプロイ を実行時に、それぞれの条件にあったインストール設定が行えます。NetSupport School プログラムフォルダ内の INSTCFG.EXE を起動するか、インストールプロパティの一般タブでのダイアログを表示します。インストールに必要な設定を変更できます。設定情報はパラメーターファイルに保存されます。デフォルトでは NSS.ini になります。



アイコン

生徒機にインストールする NetSupport School コンポーネントを選択します。

一般

インストールディレクトリ: NetSupport School インストール先のディレクトリを指定します。指定がない場合はデフォルトディレクトリ￥ Program Files ¥ NetSupport School になります。

NetSupport School デプロイ - はじめに

デプロイユーティリティのインストール

NetSupport School をインストールする際、コンポーネントの構成を決めてください。

NetSupport Schoolのデプロイは、現在、次のオペレーティングシステムでサポートされています：

- Windows Server 2008r2
- Windows 7
- Windows 8/8.1
- Windows Server 2012
- Windows 10
- Windows Server 2016
- Windows Server 2019
- Windows 11
- Windows Server 2022

準備

NetSupport School デプロイ は複数のワークステーションへ NetSupport School パッケージのインストールをスピーディかつ簡単にする強力なユーティリティです。本ソフトウェアをご使用になる上で、制約や互換性上の問題がないよう最善を尽くしておりますが、他のアプリケーションとの競合がないことを確認するために、まず小グループのワークステーションを対象にお試しいただくことをお勧めします。セキュリティと保護のために、デプロイを実行するユーザーはデプロイ先のワークステーションの管理者権限をもっている必要があります。

NetSupport School デプロイの起動

1. {スタート }{NetSupport School}{NetSupport School デプロイ} をクリックします。
2. NetSupport School デプロイ のメインウィンドウ が表示されます。

NetSupport School デプロイの仕組み

デプロイオプションが設定されたら、NetSupport School デプロイユーティリティは、ファイルとプリント共有を使用して対象のコンピュータに接続することで動作します。

この方法は、対象コンピュータのAdmin\$へのアクセスが必要でローカル管理者アクセス(ユーザーの詳細が要求される場合があります)を持つユーザーとして接続する必要があります。認証されると、NetSupport Schoolのパッケージファイルが Admin\$共有への接続を使用してリモートPCの次のフォルダにコピーされます：

C:\Windows\pcirdist.tmp\

最後に、対象のPCにファイルが送信されると、リモートプロシージャコール(RPC)サービスを使用してインストーラファイルが実行されます。

必須条件

対象のPCへNetSupport Schoolコンポーネントを正常に配布するためには、以下の項目が必要です：

- ファイルとプリント共有が対象PCで有効にする必要があります。
- ローカルアカウントポリシーの共有とセキュリティが対象PCで{クラシック}に設定する必要があります。
- 対象PCへの接続に使用するユーザー アカウントは、対象PCでローカル管理者権限を持っている必要があります。
- ネットワーク検索は、の対象PCで有効にする必要があります。
- UACリモート制限は、ワークグループ環境のを実行している対象PCを無効にする必要があります。

印刷履歴を表示する

NetSupport School デプロイとはネットワーク管理者が遠隔地より複数のマシンに NetSupport School のインストールと設定を行う機能です。ネットワークビューアでデプロイ先のパソコンを選択できます。

NetSupport Schoolのデプロイユーティリティ内で、IPアドレス範囲(指定したIP範囲、コントロールにローカルIP範囲があるコンピュータ)、Windowsドメインを使用してデプロイする機能があります。またはネットワークの表示が提供されます。これらのことを行なう方法は、デプロイ先のコンピュータを選択できます。

注意: Microsoft Intune を使用してデプロイすることもできます。詳細については、ナレッジベースにアクセスし、製品記事「[Microsoft Intune 経由での NetSupport School のデプロイ](#)」を参照してください。



NetSupport School デプロイは次のことが可能です：

- 遠隔地より一斉に複数のパソコンに NetSupport School パッケージをインストール が可能
 - 複数のパソコンに特定の クライアント設定 を作成しダウンロード 可能
 - 複数のパソコンに ライセンスファイル を更新 可能
 - 遠隔地より一斉に複数のパソコンから NetSupport School パッケージのアンインストール が可能
 - 事前に設定 して都合に合わせてデプロイ 可能。

注意: ドメインに参加している搭載コンピュータに対してデプロイを実行する場合は、コンソールユーザーがドメインにログオンもしくは対象のコンピュータのローカルアドミニストレータ権のあるドメインアカウントがなくてはなりません。

ログファイル

パッケージのインストール、ライセンス更新、設定の変更、アンインストールといった各デプロイ情報を記録します。前回のデプロイ内容が確認できます。情報はログファイルに保存されます。

NetSupport School デプロイ - メインウィンドウ



デプロイメイン ウィンドウは次の部分 から構成されています。

メニューバー

メニューバーにはデプロイを行うための様々なツールや設定ツールにアクセスするためのメニューで構成されています。

左 ウィンドウ

ネットワーク, ログファイル, セキュリティの3つのタブで構成されています。

ネットワークとセキュリティタブ: デプロイルーチンで選択する利用可能なネットワーク, ドメイン, ワークグループをツリーで表示します。

ログファイルタブ: 過去のデプロイ履歴をツリーで表示します。

右 ウィンドウ

「ネットワーク」タブを選択すると、選択したネットワーク/ドメイン(マシン名、クライアントアドレス、Macアドレス、NetSupport School クライアントのバージョンおよびプラットフォーム)にあるコンピュータに関する一般的な情報が表示されます。

ログファイルタブは種類別にカテゴリ分けして過去のデプロイを表示します。

「セキュリティ」タブは、選択したネットワーク/ドメインの各ワークステーション固有の情報も表示されます。マシン名、IPアドレス、クライアントのバージョンおよびプラットフォームに加え、クライアントがパスワードで保護されているか、ユーザーの承認が設定されているかどうかを確認できます。この情報を基にどのコンピュータをデプロイの対象または対象外にするか事前に決定できます。

NetSupport School デプロイ - デプロイの準備

デプロイ先の選択:

1. メインウィンドウから[ネットワーク]タブを選択します。

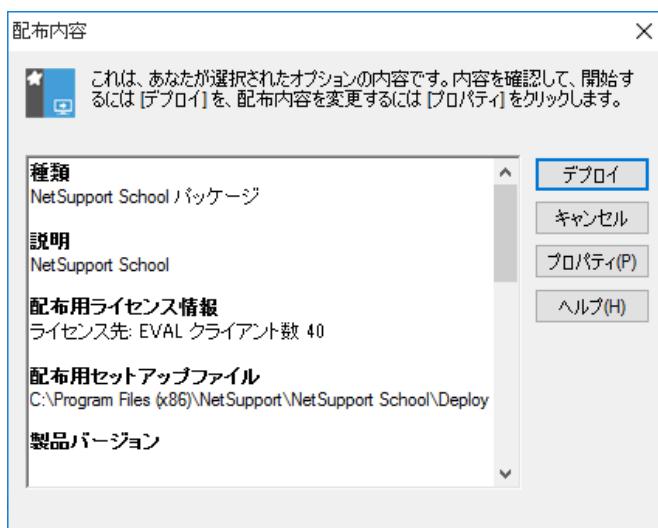


2. 選択可能なネットワーク、ドメイン、ワークグループが左側のペインに表示されます。+ や - をクリックしてリストを開いたり縮小したりします。
 3. デプロイ先のワークグループを選択します。
- 注意:** 複数ワークグループの選択はできません。複数のワークグループに対してデプロイを行うときはワークグループごとに処理を行ってください。
4. 右ウィンドウに選択したグループに所属するワークステーションの詳細が表示されます。ネットワークとセキュリティタブの間をクリックして、各マシンの特定の情報を表示させます。メニューバーから{表示}を選択してリストビューの外観を変更することができます。
 5. デプロイ先のワークステーションを選択します。(CTRL-クリックやSHIFT-クリックで複数選択ができます。)ワークステーション名を右クリックするとプロパティを見ることができます。

NetSupport School デプロイ - 遠隔インストール

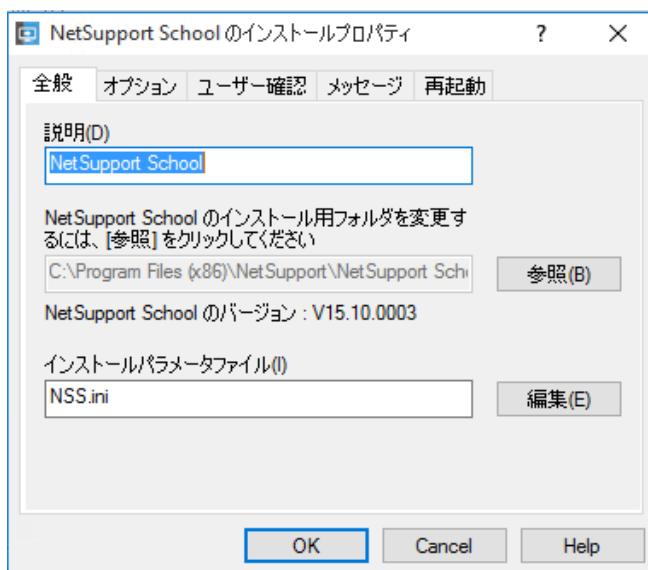
遠隔インストール

- 必要なワークステーションを選択します。
- [デプロイ]メニューから[NetSupport School パッケージ]を選択します。
または
セレクトされたワークステーションを右クリックして[デプロイ]-[NetSupport School パッケージ]を選択します。
- デプロイ概要ダイアログが表示されます。



このウィンドウではデプロイに必要なオプションの概要が表示されます。初めてデプロイを実行するときには、未設定項目が赤い文字で表示されます。デプロイのオプションの入力、変更をするには[プロパティ]をクリックしてください。

- インストールプロパティダイアログが表示されます。



次のタブでそれぞれ設定を行います。

[一般] タブ

[オプション] タブ

[承認] タブ

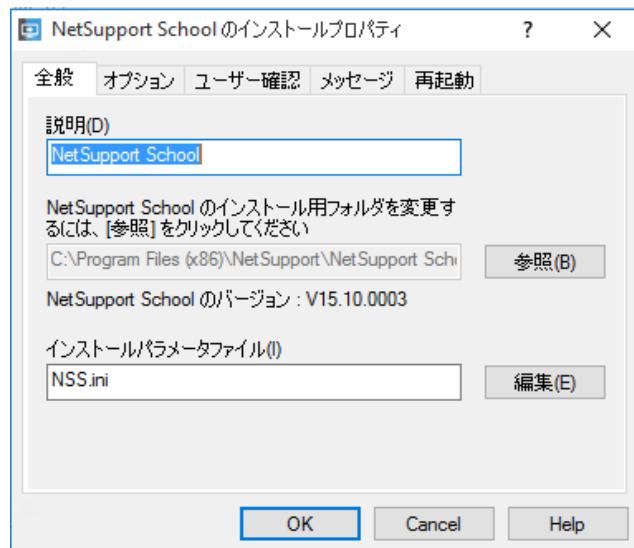
[メッセージ] タブ

[再起動] タブ

5. すべてのタブでの設定が終了したら [OK] をクリックしてデプロイ概要ダイアログに戻ります。設定事項を確認し、必要であれば設定を変更してください。
6. [デプロイ] をクリックしてインストールを開始します。次の部分から構成された ウィンドウが表示され、各ワークステーション上でのインストール作業の進行をモニタすることができます。
【ログ】タブ: では各ワークステーションへのデプロイ送信状況をモニタすることができます。
【ステータス】タブ: ではデプロイを受信した各ワークステーションでの処理状況をモニタすることができます。たとえばどのPCでインストールが終了し、どのPCではまだインストール中なのか、といったことが一目でわかります。
7. インストールが完了したら、[閉じる]をクリックしてデプロイメインウィンドウに戻ります。

注意: デプロイ中に[閉じる]をクリックするとインストール処理は続行されますが、ログへの書き込みがされません。

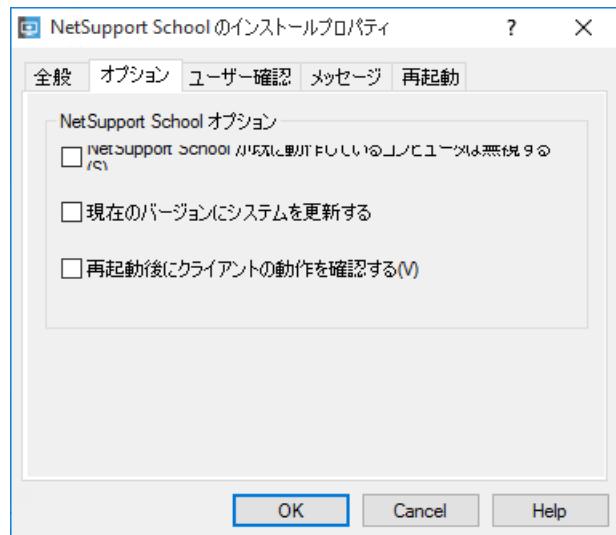
NetSupport School パッケージをデプロイ - プロパティ 一般タブ



インストール元の NetSupport School パッケージの場所と、インストールするコンポーネントの指定をします。

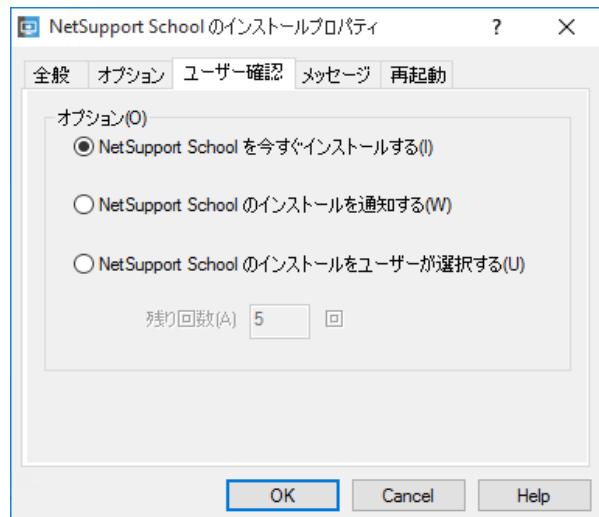
- デプロイするパッケージの説明を入力します。空白の場合はパッケージ名とバージョンになります。
- [参照] をクリックしてインストール元の NetSupport School 配布用コピーが保存されているフォルダを選択します。
- [編集] をクリックして、インストール設定オプションダイアログからインストールするコンポーネントを選択します。

NetSupport School パッケージをデプロイ - プロパティ オプションタブ



- [NetSupport School が既に実行中のマシンはスキップ] ボックスをチェックすると NetSupport School クライアントがインストール済みのワークステーションに対しては処理を行いません。
- [再起動後、クライアント実行を確認] ボックスをチェックすると、デプロイ終了後に各ワークステーション上でクライアントが正しく起動されているか確認することができます。このオプションを有効にするには、ワークステーションが自動的に再起動されるように設定してください。

NetSupport School パッケージをデプロイ - プロパティ 承認タブ



ワークステーションが使用中かどうかを考慮して次のオプションから選んでください。

今すぐ NetSupport School をインストール

デプロイ先にメッセージを表示することなくインストールを開始します。

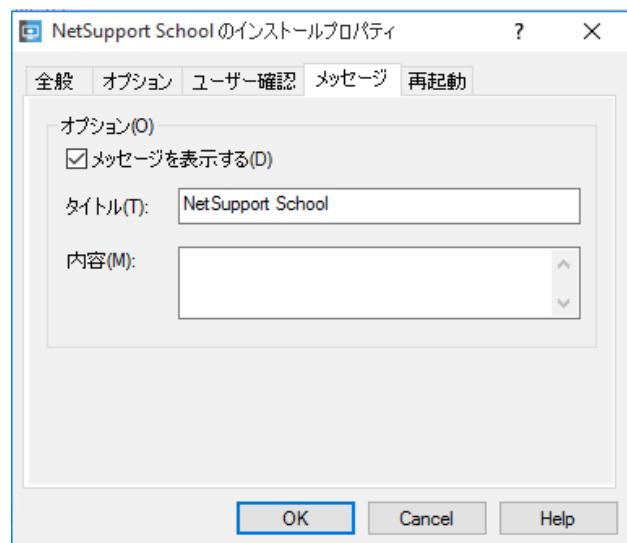
NetSupport School インストールの前にユーザへ警告

ユーザがメッセージを受け、[OK] をクリックしてからインストールが開始されます。ユーザはインストールを拒否する事はできません。

NetSupport School インストールをユーザが後で行う

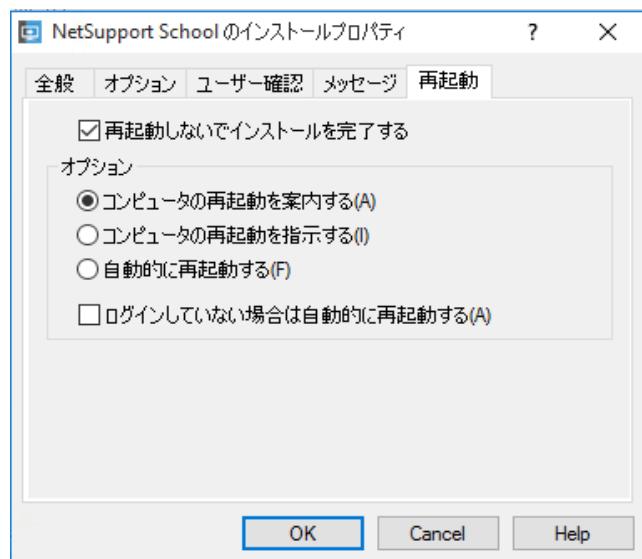
ユーザがインストールを延期できる回数を指定できます。ユーザがインストールの延期を選択すると一時間ごと、またはワークステーションが再起動されたときにインストール開始指示がされます。

NetSupport School パッケージをデプロイ - プロパティ メッセージタブ



インストール中にデプロイ先のワークステーションに表示するメッセージを入力します。

NetSupport School パッケージをデプロイ - プロパティ 再起動タブ



再起動しないでインストールを完了する

このオプションはターゲット PC がインストール完了時に強制再起動を必要とする場合のみ有効です。

注意 : クライアントが起動されていることを確認するように設定した場合、[再起動を行う] を選択してください。

オプション

ユーザにマシンの再起動を勧める: デプロイ先のワークステーションに後で再起動を行うように促すメッセージを表示します。上記の注意に該当する場合はこのオプションを選ばないでください。

ユーザにマシンの再起動を求める: デプロイ先のワークステーションに再起動を促すメッセージが表示され、ワークステーションのユーザが OK してから再起動が開始します。

再起動を行う: インストール完了後強制的に再起動を行います。デプロイ先のワークステーションには、再起動されることを告げるメッセージと、再起動までの残り秒数が表示されます。

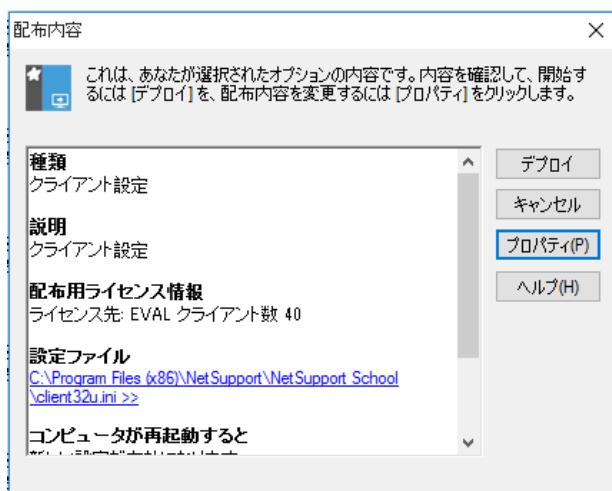
ログインしていない場合は、自動再起動: ユーザがログインしていないワークステーションは自動的に再起動します。

NetSupport School デプロイ - クライアント設定をデプロイ

NetSupport School デプロイ を使って クライアント設定 ファイルを遠隔地から複数 クライアントへダウンロードします。

クライアント設定をデプロイ

1. デプロイ先のワークステーションを選択します。
2. [デプロイ]メニューから[クライアント設定]を選択します。
または
選択したワークステーションを右クリックして{デプロイ}{クライアント設定}を選びます。
3. デプロイ概要ダイアログが表示されます。



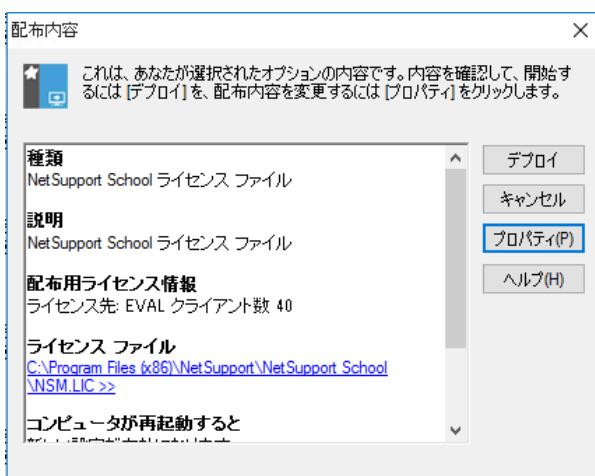
4. [プロパティ]をクリックしてデプロイの詳細を入力します。
 5. [参照]をクリックしてクライアント設定ファイルが保存されているフォルダを指定します。デフォルトの設定ファイルは NetSupport SchoolのインストールディレクトリにあるCLIENT32U.INIです。
- 注意:** v12.50以前のクライアントのデフォルト構成ファイルは、CLIENT32.INIといいます。
6. [編集]をクリックしてクライアントの拡張設定を起動し、設定ファイルを編集します。
 7. 必要に応じて追加クライアントパラメータを指定することができます。例えば、特定のユーザー確認(名前とパスワード)を追加したい追加設定ファイルの場所。
 8. 新しいクライアント設定を反映させるため、クライアントサービスが自動的に再起動されます。すぐに再起動を行わない場合は [NetSupport School クライアントサービスの再起動] のチェックをはずしてください。
 9. すべてのタブでの設定が終了したら[OK]をクリックしてデプロイ概要ダイアログに戻ります。ファイル名をクリックして設定ファイルの内容を確認することができます。
 10. [デプロイ]をクリックします。デプロイの進行状況が表示されます。
 11. 操作が完了したら[閉じる]をクリックします。

NetSupport School デプロイ - ライセンスファイルのデプロイ

ライセンスファイルは NetSupport School パッケージのインストール時に各ワークステーションに配布されます。ですが、その後追加ライセンスの購入などの理由でライセンス情報をアップデートする必要性が出てくるかもしれません。NetSupport School デプロイ機能を使えば遠隔地から複数のクライアント上のライセンスファイルを更新することができます。

ライセンスファイルのデプロイ

1. デプロイ先のワークステーションを選択します。
2. [デプロイ]メニューから[NetSupport School ライセンスファイル]を選択します。
または
選択したワークステーションを右クリックして [デプロイ] > [NetSupport School ライセンスファイル] を選びます。
3. デプロイ概要ダイアログが表示されます。



4. [プロパティ] をクリックしてデプロイの詳細を入力します。
5. [参照] をクリックしてライセンスファイルが保存されているフォルダを指定します。デフォルトのファイルは NSM.LIC です。
6. 新しい設定を反映させるため、クライアントサービスが自動的に再起動されます。すぐに再起動を行わない場合は、[NetSupport School クライアントサービスの再起動]のチェックをはずしてください。
7. [OK] をクリックしてデプロイ概要ダイアログに戻ります。ファイル名をクリックしてライセンスファイルの内容を見ることができます。
8. [デプロイ]をクリックします。デプロイの進行状況が表示されます。
9. 操作が完了したら[閉じる]をクリックします。

NetSupport デプロイ - 遠隔アンインストール

NetSupport School デプロイ機能を使って遠隔地からNetSupport Schoolをアンインストールすることができます。

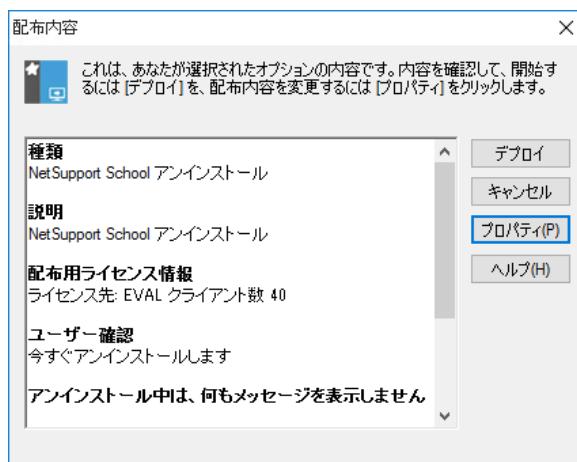
遠隔アンインストール

1. デプロイ先のワークステーションを選択します。
2. [デプロイ]メニューから[NetSupport School アンインストール]を選択します。

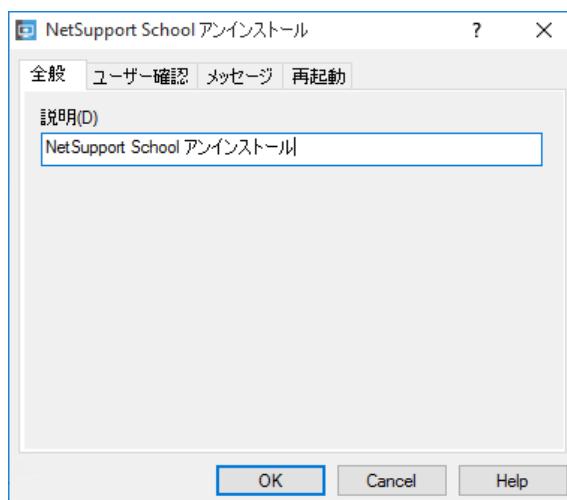
または

選択したワークステーションを右クリックして {デプロイ} {NetSupport School アンインストール}を選びます。

3. デプロイ概要ダイアログが表示されます。



4. [プロパティ]をクリックしてデプロイの詳細を入力します。NetSupport School アンインストールダイアログが表示されます。



5. プロパティの入力を4つのタブから行います。

[一般]タブ

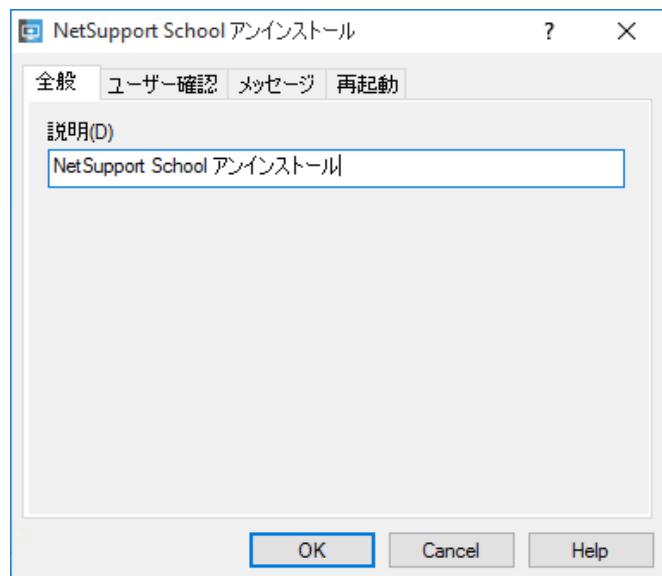
[承認]タブ

[メッセージ]タブ

[再起動]タブ

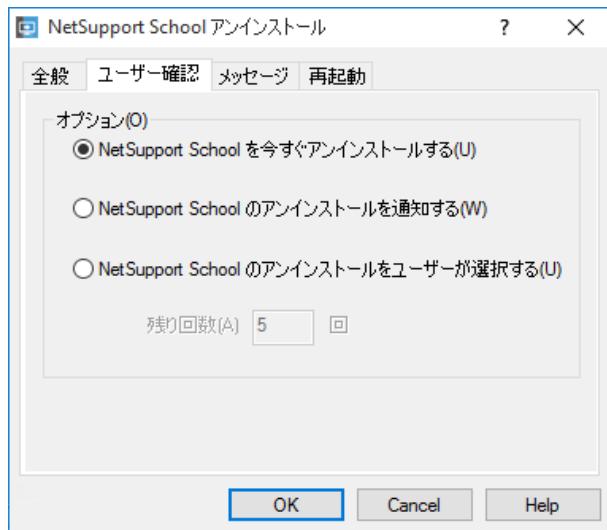
6. すべてのタブでの設定が終了したら [OK] をクリックしてデプロイ概要ダイアログに戻ります。設定事項を確認し、必要であれば設定を変更してください。
7. [デプロイ]をクリックしてアンインストールを開始します。各ワークステーション上でのアンインストール処理の進行状況をモニタすることができます。
8. 操作が完了したら[閉じる]をクリックします。

遠隔アンインストールをデプロイ - プロパティ一般タブ



アンインストールされるパッケージの説明です。

遠隔アンインストールをデプロイ - プロパティ 承認タブ



ワークステーションが使用中かどうかを考慮して次のオプションから選んでください。

今すぐ NetSupport School をアンインストール

デプロイ先にメッセージを表示することなくアンインストールを開始します。

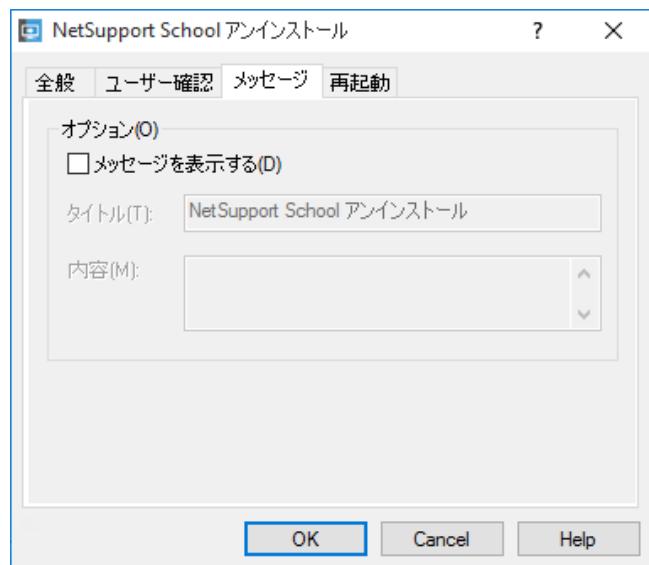
NetSupport School アンインストール前に、ユーザへ警告

ユーザがメッセージを受け、[OK] をクリックしてからアンインストールが開始されます。ユーザはアンインストールをキャンセルすることはできません。

NetSupport School のアンインストールをユーザが後で行う

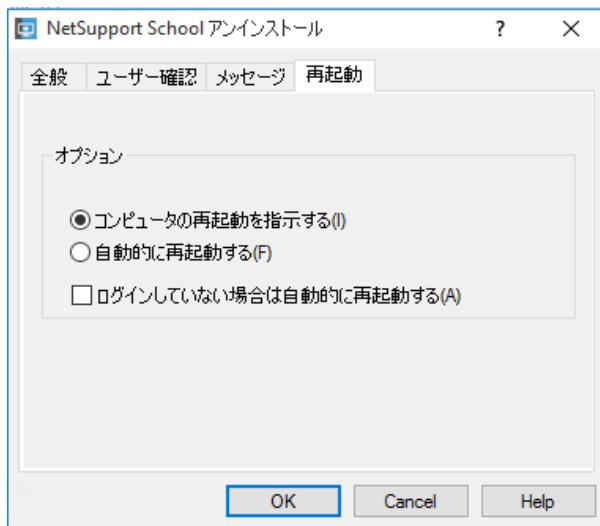
ユーザがアンインストールを延期できる回数を指定できます。ユーザがアンインストールの延期を選択すると一時間ごと、またはワークステーションが再起動されたときにアンインストール開始指示がされます。

遠隔アンインストールをデプロイ - プロパティ メッセージタブ



アンインストール中にデプロイ先のワークステーションに表示するメッセージを入力します。

遠隔アンインストールをデプロイ - プロパティ 再起動タブ



NetSupport School を完全に削除するためにはワークステーションを再起動しなければなりません。

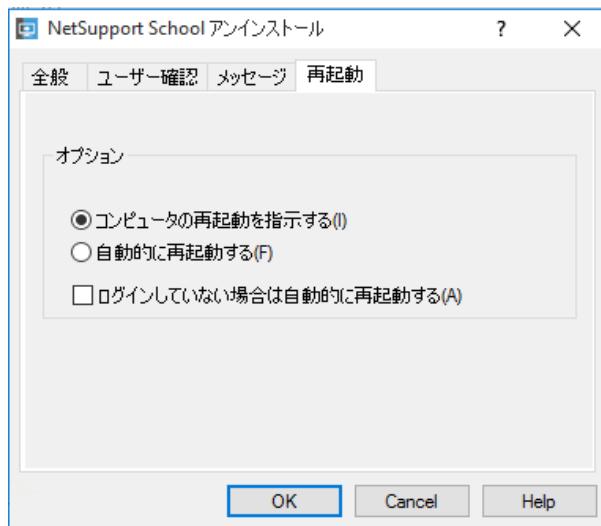
オプション

ユーザにマシンの再起動を求める: デプロイ先のワークステーションに再起動を促すメッセージが表示され、ワークステーションのユーザがOKしてから再起動が開始します。

再起動を行う: デプロイ後強制的に再起動を行います。デプロイ先のワークステーションには、再起動されることを告げるメッセージと、再起動までの残り秒数が表示されます。

ログインしていない場合は、自動再起動: デプロイ先のワークステーションにユーザがログインしていないければ自動的に再起動します。

遠隔アンインストールをデプロイ - プロパティ 再起動タブ



NetSupport School を完全に削除するためにはワークステーションを再起動しなければなりません。

オプション

ユーザにマシンの再起動を求める: デプロイ先のワークステーションに再起動を促すメッセージが表示され、ワークステーションのユーザがOKしてから再起動が開始します。

再起動を行う: デプロイ後強制的に再起動を行います。デプロイ先のワークステーションには、再起動されることを告げるメッセージと、再起動までの残り秒数が表示されます。

ログインしていない場合は、自動再起動: デプロイ先のワークステーションにユーザがログインしていないければ自動的に再起動します。

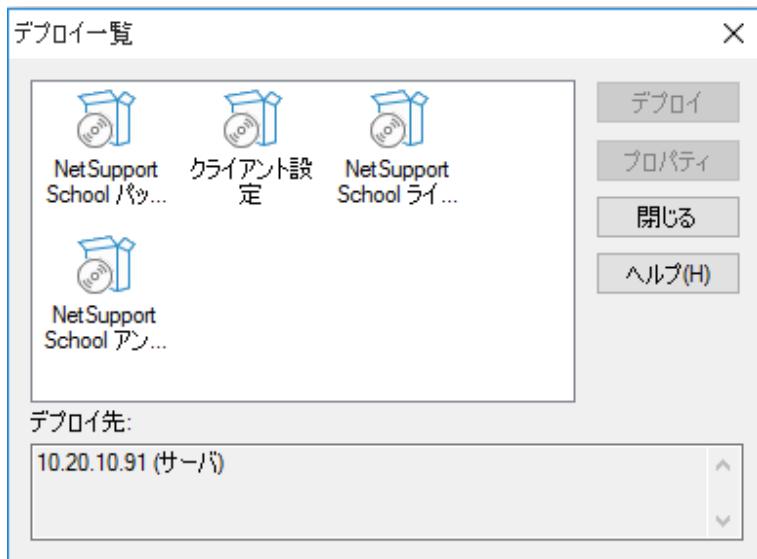
デプロイ設定の事前入力

NetSupport School デプロイでは事前に設定を入力しておき、都合のよい時に処理を実行することができます。

注意 : デプロイ先のワークステーションはデプロイを実行するときに随時選択します。

後でデプロイをするための設定を準備

1. デプロイ メインウィンドウの[デプロイ] メニューから[設定]を選択します。
2. デプロイリストダイアログが表示されます。



パッケージ、クライアント設定、ライセンスファイル、アンインストールの中からデプロイオプションを選びます。

3. [プロパティ] をクリックして設定事項を入力します。
4. 設定事項の入力が完了したら[閉じる]をクリックしてデプロイメインウィンドウに戻ります。

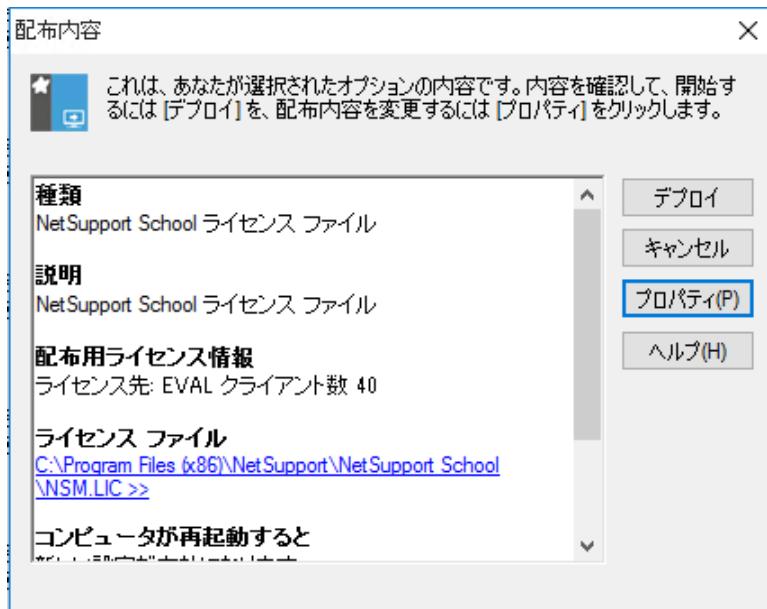
デプロイの実行

1. デプロイ先のワークステーションを選択します。詳しくは [を参照してください](#)。
2. メインウィンドウの[デプロイ]メニューをクリックします。

または

選択されたワークステーションを右クリックして[デプロイ]を選択します。

3. 該当するデプロイオプションを選択します。
4. デプロイ概要ダイアログが表示されます。以前の設定がそのまま使用されるので、必要に応じて設定を変更してください。



5. [デプロイ]をクリックして実行します。

NetSupport School デプロイ - ログファイル

NetSupport School デプロイ では、パッケージのインストール、クライアント設定のダウンロード、ライセンスファイルのダウンロード、パッケージのアンインストールといったデプロイ処理についての情報がログファイルに記録されます。以前のデプロイ処理について知りたい時などに大変便利です。

ログファイルを見る

1. NetSupport School デプロイ メインウィンドウから[ログファイル]タブをクリックします。



2. メインウィンドウの左側のツリービューを展開、縮小して、デプロイタイプ、日時、デプロイ先のワークステーションの詳細を見ることができます。
3. 左側のペインで項目を選択するとデプロイの履歴が右側のペインに表示されます。

ログファイルを印刷する

ログファイルを印刷するには:

1. ツリービューからログファイルを選択します。
2. [ログ]メニューの[印刷]をクリックします。

ログファイルを削除する

ログファイルを削除するには:

1. ツリービューからログファイルを選択します。
2. [ログ]メニューの[削除]をクリックします。

NetSupport Schoolを起動する

インストール後、生徒用プログラムは起動時に自動的に生徒機に読み込まれます。

NetSupport School 先生コンソールを起動するには

1. NetSupport Schoolプログラムグループ内の**NetSupport School先生コンソール**アイコンをダブルクリックします。

または

NetSupport School Tutor Console デスクトップアイコンをクリックします(先生コンソールのデスクトップショートカットをインストールしている場合)。

または

スタート画面をクリックし、すべてのアプリ/プログラム、**NetSupport School**、**NetSupport School先生コンソール**を選択します。

注意: Windows 8では、先生とテックコンソールアイコンだけがスタート画面に表示されます。右クリックして画面下部のすべてのアプリを選択することで、他のNetSupportコンポーネントにアクセスできます。他のNetSupportコンポーネントをスタート画面に表示させたい場合は、項目を右クリックして「スタート画面に表示する」を選択します。

NetSupport Schoolには、先生のユーザーインターフェースを表示するための上級、中級そして簡単の3つのモードがあります。上級モードは、NetSupport Schoolのすべての機能に完全にアクセスできます。中級モードは、主要な機能と頻繁に使用される教育ツールにアクセスできます。簡単モードは、教室の管理を維持するために必要最低限の教室管理機能にアクセスできます。NetSupport Schoolの開始時にどれを使用するか選択します。

上級または中級モードを選択すると、ようこそウィザードが表示されます。そこから、教室をクリックすると現在の教室内の新しいコンピュータに生徒用ソフトウェアを配布できます。生徒用ソフトウェアをネットワークに配布する必要や、より高度なオプションが必要な場合は、「ネットワーク」をクリックしてNetSupport School デプロイユーティリティを開きます。先生プログラムだけを開始するには、[開始]をクリックするとクラスウィザードが表示されます。

クラスウィザードは授業の一般的なプロパティを入力したり、生徒の場所と接続方法の選択をすることができます。様々な接続方法を使用して複数のクラスを作成することができます。必要なクラスは授業開始時に読み込むことができ、生徒のマシンに素早く接続することができます。

注意: クラスウィザードで使用できるオプションは、選択した先生のユーザーインターフェイスモードによって異なります。

先生プログラムを起動すると、NetSupport Schoolは指定した生徒をネットワーク検索します。検索中は検索メッセージが表示されます。生徒機が検索されて接続されると、先生コンソールのメインウィンドウが開き、接続された生徒のアイコンが表示されます。警告アイコンは、接続できないコンピュータを強調します。接続が失敗した理由を表示するにはマウスをアイコンの上に重ねます。

注意: インストール中にWindows以外のライセンスタイプを選択した場合、先生コンソールは必要な機能が制限されます。

標準ビューで現在のクラスの授業の詳細を入力または変更することができます。このペインは、ビューの最小化  アイコンをクリックすると最小化できます。

注意: テックコンソールが先生のワークステーションに自動的に接続しないようにするには、先生コンソールにNetSupport School クライアントがインストールされていることを確認し、クライアント設定で[ユーザー確認オプションを有効にする]を設定してください。接続開始前に必ず接続確認が必要になります。

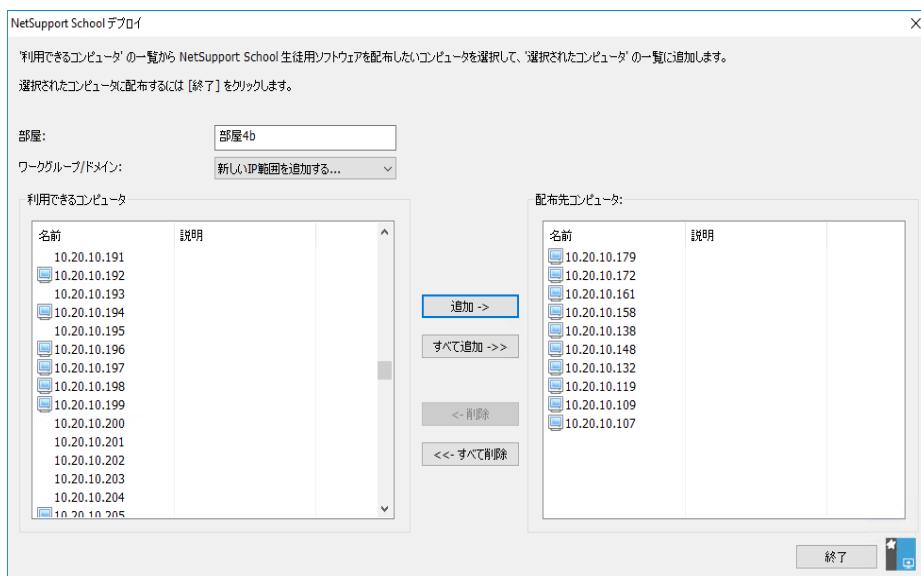
NetSupport School デプロイ - 部屋モード

NetSupport School は、特定の教室に PC を割り振りとそれらのマシンに生徒用ソフトウェアを配布するための素早く簡単な方法を提供します。先生は、授業開始時に対象の教室を指定し、その教室内のすべてのコンピュータに接続します。

注意: ネットワーク越しに生徒用ソフトウェアを配布する必要や高度なデプロイオプションが必要な場合は、NetSupport デプロイユーティリティを使う必要があります。NetSupport School の開始ウィザードで [ネットワーク] をクリックするとアクセスするか、もしくは {スタート} {すべてのプログラム} {NetSupport School} {NetSupport School デプロイ} を選びます。

学生用ソフトウェアを教室内のマシンに展開する

1. NetSupport School 開始ウィザードから教室を選びます。
2. NetSupport デプロイダイアログが表示されます。

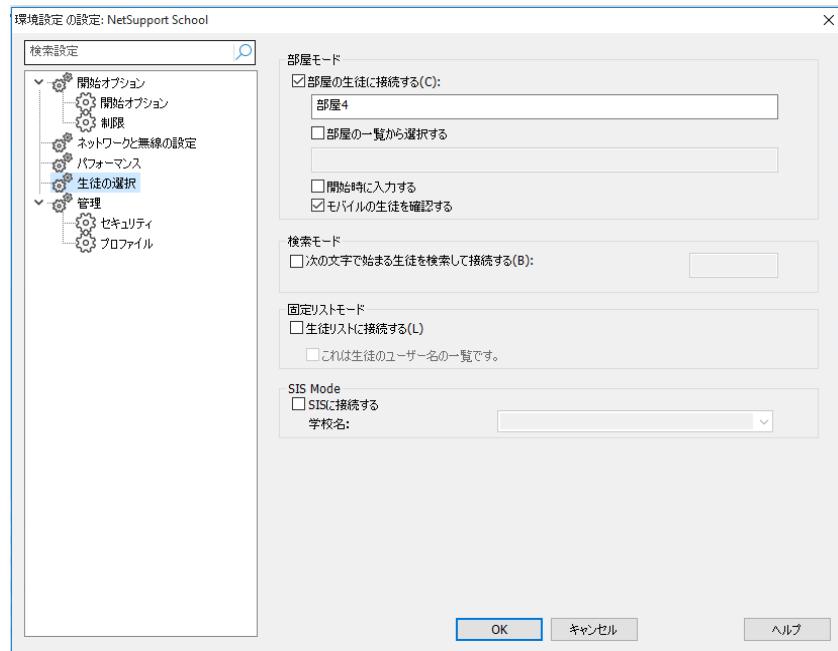


3. コンピュータを割り当てる教室を入力します。
4. ロップダウンリストに利用できるすべてのドメインとワークグループが表示されます。[一覧から新しいIP範囲を追加する]を選択するとIP範囲を指定してデプロイすることもできます。
5. 対象のグループを選択すると、利用できるコンピューター一覧に利用できるコンピュータが表示されます。
6. 生徒用ソフトウェアを配布するコンピュータを選び、[追加] をクリックします。選択したコンピューター一覧にコンピュータが移動します。
7. インストールを開始するには、[終了] をクリックします。進捗ダイアログが表示され、各コンピュータにインストールするごとに配布状況を確認できます。
8. NetSupport School 生徒用ソフトウェアが対象のマシンに配付され指定した教室に割り当てられます。

注意: 先生の環境設定から NetSupport ベーシックでプロイへアクセスすることもできます。先生コンソールでオプションをクリックし、ドロップダウンメニューからネットワーク設定を選択し、ネットワークとワイヤレス設定を選択して、デプロイをクリックします。

生徒機を検索して接続する

クラスウィザードは、先生が要件に最適な接続モードを選択することができます。クラスウィザードは、先生プログラムが最初に起動するとき、クラスが再起動した時に表示されます。生徒の接続方法を指定したり、先生環境設定でこららの設定を構成することもできます。先生コンソールの [オプション] をクリックし、ドロップダウン メニューから [ネットワーク設定] を選択し、[生徒の選択] を選択します。



使用可能な接続方法：

部屋モード：部屋で生徒のコンピュータに接続します。

PCモード：マシン名で生徒コンピュータの固定リストに接続します。

ユーザーモード：生徒の固定リストに接続します(ログオンユーザー名で)。

検索モード：ネットワークを検索して特定のマシン名の生徒コンピュータに接続します。

SISモード：OneRosterまたはGoogle Classroomを使用してSIS環境に接続します。

デフォルトのモードは、「部屋の生徒に接続する」です。

注意：

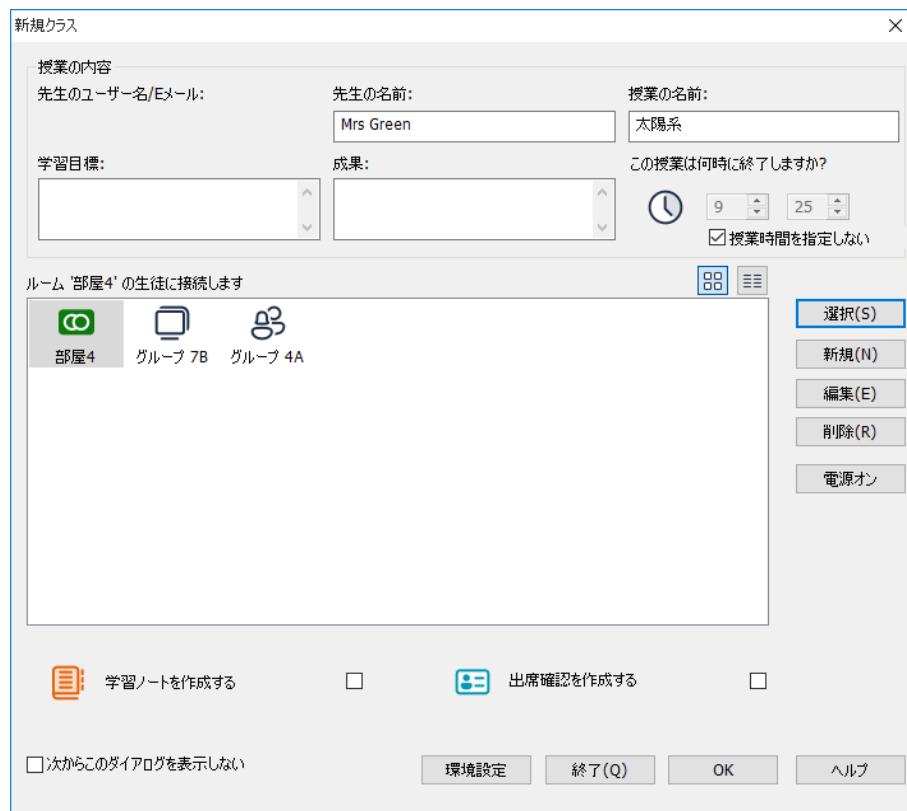
- クライアントが見つからない場合は、指定したネットワークを検索するように NetSupport Schoolを設定していない可能性があります。詳しくは [NetSupport School のサブネット検索の設定](#) を参照してください。
- ネームサーバ/ゲートウェイが登録されている場合、先生コンソールはネットワーク検索を実行するよりも、ここで登録されている詳細を使用します。

- 警告アイコンは、接続できないコンピュータを強調します。接続が失敗した理由を表示するにはマウスをアイコンの上に重ねます。

クラスウィザード

クラスウィザードは授業の一般的なプロパティを入力したり、生徒の場所と接続方法の選択をすることができます。様々な接続方法を使用して複数のクラスを作成することができます。必要なクラスは授業開始時に読み込むことができ、生徒のマシンに素早く接続することができます。

注意: 表示されるオプションは、起動時に選択した先生のユーザーインターフェイスモードによって異なります。



授業の内容

先生の名前、授業の題名、授業の目的と成果を入力するオプションがあります。これらの詳細が完了している場合、生徒登録の一部を形成し、生徒ツールバーに表示されます。

注意: 先生のユーザー名欄は、SISモードに接続されている場合にのみ使用できます。ドロップダウンリストから必要な先生を選択します。「接続先」ペインにクラスのリストが表示されます。

授業の終了時間: クラス終了時間を入力します。授業が進行中の間はタイマーが表示されます。[授業時間を指定しない]オプションを有効にすれば時間を気にせずに授業が行えます。

接続先

生徒の場所を接続方法を選びます。

クラスの接続方法を作成するには、「新規」をクリックします。開始モードの選択ダイアログが表示されます。部屋またはPC名、生徒のログオン名の一覧で接続するか、生徒を特定するためにローカルネットワークを検索することができます。

注意: SISモードを使用して接続するには、「構成」をクリックする必要があります。詳細は、「[SISモードを使用した生徒との接続](#)」を参照してください。

クラスの接続方法を定義すると、それがクラスウィザードに表示され選択できるようになります。必要なクラスをダブルクリックするか、クラスを反転表示して「選択」をクリックします。

注意: ルームモードで接続している場合は、必要なルームをハイライト表示し (Ctrl キーを押しながら必要なルームを選択)、選択をクリックすることで、複数の部屋に接続できます。

接続リストに必要なクラス(複数可)が設定されたら、大きなアイコンと詳細表示ボタンをクリックして表示モードを切り替えます。詳細表示は、SISモードを使用して接続する時は、追加のクラスの詳細をインポートするので便利です。以前に生徒情報システムに入力されている場合、同じような名前のクラスがいくつかある場合、正しい項目を識別するのに役立ちます。

既存のクラスを変更するには、必要なクラスを選択して編集をクリックします。接続方法に関連するダイアログが表示され、詳細を変更することができます。

注意: SISモード接続の場合、編集ダイアログは読み取り専用で、個々の生徒名を含むインポートされたSISデータを表示できます。

クラスを削除するには、必要なクラスを選択して削除をクリックします。

電源オン: 部屋またはPC名で接続するとににすべてのコンピュータの電源をオンにします。

アドホックの部屋: ここから、接続するアドホックの部屋に入室できます。このオプションは、「先生の構成 - 生徒の選択」設定で「起動時に入力」オプションが選択されている場合にのみ表示されます。

学習ノートを作成する

既存の学習ノートを開始または開くことができます。

出席確認を作成する

授業開始前に生徒に自分たちの名前でログインするようにします。先生のマシンにはマシン名の変わりに生徒名が表示されます。

次からこのダイアログを表示しない

このボックスにチェックをすると、開始時にクラスウィザードを表示しません。

注意: 開始時に再度クラスウィザードを表示させるには、構成設定の開始オプションでクラスウィザード表示オプションを設定してください。

設定

NetSupport接続サーバーを有効にしたり、使用する接続方法を選択するなどのネットワーク設定をするための先生設定の選択肢にアクセスできます。

授業を開始するには[OK]をクリックします。先生は、選択した接続方法を使用して検索し生徒に接続します。生徒に自分たちの名前を登録するように要求している場合は、出席確認ダイアログが表示されます。

部屋モードで生徒に接続する

NetSupport Schoolは、特定の部屋にあるマシンに接続するための素早く簡単な方法を提供します。直感的な設定ウィザードが特定の教室にPCを割り当て、それらのマシンに生徒プログラムを素早く配布するのを可能にします。授業の始めに、先生は接続したい部屋を単純に指定するだけです。「モバイル」の生徒には、指定された部屋に接続するオプションがあります。

部屋設定は、NetSupport Schoolクライアント設定の生徒項目で設定もできます。

クラスウィザードを使用した接続する

1. クラスウィザードで新規を選択します。
2. 「部屋モード」をクリックします。
3. 接続したい部屋の名前を入力します。
4. これをアクティブな接続方法にするには、「これをアクティブな接続方法にする」を選択します。
5. [OK] ボタンをクリックします。
6. クラスウィザードに新しいクラスが表示されます。
7. OK をクリックします。
8. 先生は検索し、見つかったすべての生徒に接続して、コントロールウィンドウ内にアイコンを表示します。

注意: 必要なルームをハイライト表示し (Ctrl キーを押しながら必要なルームを選択)、選択をクリックすることで、複数のルームに接続できます。

先生の構成を使用してルームを構成する

1. 先生コンソールの [オプション] をクリックし、ドロップダウン メニューから [ネットワーク設定] を選択します。
2. [生徒の選択] を選択します。
3. [部屋内の生徒に接続する] オプションをクリックして部屋の名前を入力します。
4. クラスウィザードの部屋のリストから選択するには、部屋のリストから選択をクリックします。必要な部屋名を入力し、各値をコンマで区切ります。
5. 生徒が部屋に入室できるようにするには、ローミング生徒を確認するをクリックします。
6. 先生がクラス ウィザードで接続するアドホックルームを指定できるようにする場合は、起動時にプロンプトを表示するをクリックします。
7. OK をクリックします。
8. 先生の設定を再初期化するには、[はい] をクリックします。
9. クラスウィザードが表示され、設定したルームが表示されます。必要なルームを選択し、選択をクリックして、OKをクリックします。

注意: 必要なルームをハイライト表示し (Ctrl キーを押しながら必要なルームを選択)、選択をクリックすることで、複数のルームに接続できます。

10. 先生は、見つかったすべての生徒に接続し、コントロールウィンドウに生徒アイコンを表示します。

注意: 接続できなかった生徒の隣に警告アイコンが表示されます。接続失敗の理由を確認するには、このアイコンにマウスを重ねます。

生徒が手動で部屋に接続する

ローミングの生徒は、手動で部屋に入る、またはタスクバーの生徒アイコンから利用可能な部屋のリストから選択するよう設定できます。生徒アイコンが隠れている場合は、生徒は、setroom.exe を実行して部屋を手動で入力することができます。このファイルは、生徒機のプログラムフォルダ内にあります。

注意: ローミング中の生徒が部屋に接続できるようにするには、先生の構成で「ローミングの生徒機の了承」オプションが選択されているか確認してください。生徒の構成では、次のモバイルオプションをどれか1つを選択する必要があります。「これはモバイルコンピュータで、以下の部屋のどこかにあります」、または「これはモバイルコンピュータで、その部屋は手動で入力します(生徒が利用可能なすべての部屋を閲覧できるようにするには、利用可能なすべての部屋を表示を選択します)」。

1. タスクバーからNetSupport School生徒アイコンを選択し、生徒ドロップダウンメニューから {命令} {入室/退出}を選択します。
または
生徒アイコンを右クリックし、「入室/退出」を選択します。
2. 「入室/退室」ダイアログが表示され、生徒の構成で設定されたオプションに応じて、必要な部屋名を入力したり、ドロップダウンリストから部屋を選択したり、利用可能なすべての部屋を表示できます。
3. 「OK」または「入室」をクリックします。
4. 生徒は選択した部屋に接続し、先生コンソールに表示されます。

注意: BYOD環境で生徒に接続するときにSISモードを使用する方法については、ナレッジベースにアクセスし、製品記事「[BYOD環境での NetSupport School の使用](#)」を参照してください。

検索モードを使用して生徒に接続する

クラスウィザードを使用した接続する

1. クラスウィザードで新規を選択します。
2. 検索モードをクリックします。
3. NetSupport School検索ダイアログが表示されます。
4. 接続したい生徒機の最初の共通文字列を入力します。例えば、Class1と入力するとClass1で始まる生徒機全てに接続します。例: Class1_Wk1,Class1_Wk2など。
5. これをアクティブな接続方法にするには、「これをアクティブな接続方法にする」を選択します。
6. [OK]ボタンをクリックします。
7. クラスウィザードに新しいクラスが表示されます。OKをクリックします。
8. 先生は検索し、見つかったすべての生徒に接続して、コントロールウィンドウ内にアイコンを表示します。

先生の構成を使用した接続

1. 先生コンソールの [オプション] をクリックし、ドロップダウン メニューから [ネットワーク設定] を選択します。
2. [生徒の選択]を選びます。
3. 検索して次の文字で始まる生徒に接続するをクリックし、接続したい生徒名の最初の数文字を入力します。空欄のままにすると、すべての生徒を検索できます。
4. OKをクリックします。
5. 先生の設定を再初期化するには、[はい]をクリックします。
6. 先生は、見つかったすべての生徒に接続し、コントロールウィンドウに生徒アイコンを表示します。

注意:

- 先生の初期化時にマシンが利用できない場合は、ステータスバーのクラスをクリックして更新を選択することで接続できます。
- この機能を有効に活用するためには、生徒機に計画的にクライアント名を付けておくことが重要です。生徒機のクライアント名の変更に関しては、「生徒機を設定する」を参照してください。

PCモードを使用して生徒に接続する

PCモードは、マシン名で生徒のコンピュータの固定リストに接続することができます。PCモードを使用して生徒に接続する場合、生徒はユーザーの固定リストの一部となります。ユーザーの固定リストはネットワーク上で見つかった利用可能な生徒の一覧です

クラスウィザードを使用した接続する

1. クラスウィザードで新規を選択します。
2. PCモードをクリックします。
3. クラス作成ダイアログが表示されます。
4. クラスの名前と説明を指定します。
5. テキストボックス内に生徒のコンピュータ名の先頭文字を入力します。(すべてのコンピュータを検索する場合は空白のまま)。
6. [検索]ボタンをクリックします。
7. 該当する全生徒機が[接続できる生徒]リストに表示されます。
8. リストから生徒を選択し、[追加]ボタンをクリックします。
9. これをアクティブな接続方法にするには、「これをアクティブな接続方法にする」を選択します。
10. [OK]ボタンをクリックします。
11. クラスウィザードに新しいクラスが表示されます。OKをクリックします。
12. 先生は選択した生徒に接続し、コントロールウィンドウ内にアイコンを表示します。これらの生徒はPCの固定リストに追加されます。

先生の構成を使用した接続

1. 先生コンソールの[オプション]をクリックし、ドロップダウンメニューから[ネットワーク設定]を選択します。
2. [生徒の選択]を選びます。
3. 「生徒のリストに接続する」をクリックします。
4. OKをクリックします。
5. 先生の設定を再初期化するには、[はい]をクリックします。
6. クラスウィザードが表示されたら、「クラスウィザードを使用した接続」の上記の手順に従います。

PCの固定リストからの生徒を削除するには

1. ステータスバーのクラス名をクリックし、**クラスの変更**を選択します。
2. クラスを変更ダイアログが表示されます。
3. 「クラスの生徒」リストから生徒アイコンを選択します。

4. 削除をクリックします。
5. 生徒は利用可能ですが、PCの固定リストの一部ではありません。
6. OKをクリックします。
7. 生徒アイコンがコントロールウィンドウから削除されます。

注意: 削除した生徒に再接続するには、生徒を検索して「クラスの生徒」リストに追加する必要があります。

ユーザー モードを使用して生徒に接続する

ユーザー モードは、生徒のログオンユーザー名で生徒の固定リストに接続することができます。ユーザー モードを使用して生徒に接続する場合、生徒はユーザーの固定リストの一部となります。ユーザーの固定リストはネットワーク上で見つかった利用可能な生徒の一覧です。

クラス ウィザードを使用した接続する

1. クラス ウィザードで新規を選択します。
2. ユーザー モードをクリックします。
3. クラス作成 ダイアログが表示されます。
4. クラスの名前と説明を指定します。
5. 1行に1つずつ生徒のログオン名を入力します。
6. これをアクティブな接続方法にするには、「これをアクティブな接続方法にする」を選択します。
7. [OK] ボタンをクリックします。
8. クラス ウィザードに新しいクラスが表示されます。OKをクリックします。
9. 先生は生徒を検索し接続しコントロール ウィンドウ内にアイコンが表示されます。これらの生徒はユーザーの固定リストに追加されます。

先生の構成を使用した接続

1. 先生コンソールの [オプション] をクリックし、ドロップダウン メニューから [ネットワーク設定] を選択します。
2. [生徒の選択] を選びます。
3. 「生徒のリストに接続する」をクリックし、「これは学生のユーザー名のリストです」をクリックします。
4. OKをクリックします。
5. 先生の設定を再初期化するには、[はい] をクリックします。
6. クラス ウィザードが表示されたら、「クラス ウィザードを使用した接続」の上記の手順に従います。

ユーザーの固定リストの生徒を変更するには

1. ステータスバーのクラス名をクリックし、クラスの変更を選択します。
2. クラスを変更 ダイアログが表示されます。
3. 削除またはリストに必要な生徒のログオン名を追加します。
4. OKをクリックします。

注意: BYOD環境で生徒に接続するときにSISモードを使用する方法については、ナレッジベースにアクセスし、製品記事「[BYOD環境でのNetSupport Schoolの使用](#)」を参照してください。

SISモードを使用して生徒に接続する

NetSupport Schoolは、OneRosterまたはGoogle Classroomを使用してSIS(生徒情報システム)と直接統合されているため、NetSupportで管理された授業の開始時にSISの教室や生徒アカウントに即座にアクセスできます。

注意: この方法を使用するには NetSupport 接続サーバーをWindowsサーバーにインストールする必要があります。

NetSupport 接続サーバーの構成

1. タスクバーの「**NetSupport 接続サーバー**」アイコンを右クリックし、「接続サーバーの構成」を選択します。
2. 「クラス」タブをクリックします。OneRosterテナントIDと関連するNetSupport Schoolセキュリティ/ APIキーを入力してOneRoster CSVファイルを参照するか、Google Classroomを使用している場合は、JSONファイルを参照し、管理者の資格情報を使用してGoogle G Suiteにサインインします。(Google Classroom プロジェクトの設定方法と必要な JSONファイルの作成方法については、[NetSupport School と Google Classroom の統合を参照してください](#))。

注意: 接続サーバーキーを作成し、先生と生徒の両方で入力する必要があります。

3. NetSupport School先生を開き、クラスウィザードで「設定」をクリックします。
4. 先生のネットワークとワイヤレスの設定で、接続サーバーの使用を選択し、設定をクリックして接続サーバーのIPアドレス、ポートそして作成したキーを入力します。
5. 「OK」をクリックします。

生徒に接続する

1. クラスウィザードで「構成」をクリックします。
2. 生徒の選択設定で、「**SISに接続**」を選択し、ドロップダウンリストから必要な学校名を選択します。
3. 「OK」をクリックします。
4. 先生のユーザー名のドロップダウンリストから必要な先生を選択します。
5. 利用可能なクラスのリストが表示されます。必要なクラスをダブルクリックします。表示されたリストに、必要な項目の識別が困難な重複または類似の名前のクラスが含まれている場合、**詳細表示** ボタンをクリックすると、追加情報を確認できます。データに定義されている場合は、クラスの場所および期間の列もインポートされます。
6. 先生は検索し、見つかったすべての生徒に接続して、生徒アイコンをコントロールウィンドウに表示します。

注意:

- Active Directoryを使用している場合は、クラスウィザードの先生のユーザー名欄にはログオンしているユーザー名があらかじめ入力され、利用可能なクラスのリストが表示されます。ドロップダウンリストから別の先生に切り替えるか、「構成」をクリックして、SISモードから別の学校名を選択します。
- Google Classroomと統合していて、生徒アカウントに関連付けられている写真がある場合は、標準の生徒アイコンの代わりに表示されます。これをオフにするには、先生のユーザーインターフェイス設定で [**Google Classroom** から生徒の写真を表示する] オプションをオフにします。

- BYOD環境で生徒に接続するときにSISモードを使用する方法については、ナレッジベースにアクセスし、製品記事「[BYOD環境での NetSupport School の使用](#)」を参照してください。

NetSupport SchoolとGoogle Classroomを統合する

NetSupport Schoolは、OneRosterおよびGoogle Classroomを介したSIS(生徒情報システム)環境との統合をサポートし、先生はNetSupportで管理されている授業の開始時にオンラインのSIS教室および生徒アカウントにアクセスできます。Google Classroomと統合する前に、まずGoogle Classroom Projectを設定する必要があります。

ビデオチュートリアルについては、[ここをクリックしてください。](#)

ステップ1 - Google Classroom Projectを設定する

1. <https://console.cloud.google.com>にアクセスして、G Suite for Educationドメインのグローバル管理者としてログインします。
2. 「プロジェクトの選択」ドロップダウンメニューから、「新しいプロジェクト」を選択します。

プロジェクト名を入力してください。例：Chrome Town High(学校または学区に対し固有のものである必要があります)。

「作成」をクリックします。

最近作成したプロジェクトを選択してコンソールダッシュボードに表示します。

3. ナビゲーションメニューで、**API & Services - > Library**を選択します。

次の3つのAPIを検索して有効にします：

- Google Classroom(名簿情報に必要)
- Cloud Pub / Sub(クラス変更通知に必要)
- 管理SDK(Google管理に必要)

4. ナビゲーションメニューで、**API & Services - > Credentials**を選択します。

OAuth同意画面をクリックします。

「内部」を選択し、「作成」を押します。

アプリケーション名にアプリケーションの名前を入力します、例 Chrome Town High。

[Google API のスコープ] で、[スコープの追加] を選択し、次の3つのスコープを探します：

- <https://www.googleapis.com/auth/classroom.courses.readonly>
- <https://www.googleapis.com/auth/classroom.rosters.readonly>
- <https://www.googleapis.com/auth/classroom.push-notifications>

追加をクリックします。

保存をクリックします。

5. 資格情報、資格情報の作成 -> サービスアカウントキーを選択します。

名前と説明を入力します、例 pubsubadmin。[作成] をクリックします。

[サービスアカウントのアクセス許可] で、**Pub/Sub管理者**のロールを追加します。

[続行] をクリックします。

[完了] をクリックします。

[編集] アイコンを選択して、作成したサービスアカウントを編集します。

[キー] に移動します。

[キーの追加] -> [キーの作成] を選択します。

ダイアログで **[JSON]** を選択し、[作成] を押します。JSONファイルがダウンロードフォルダーに保存されます。

注意: ここで作成したファイルは、名前と接続サーバーに必要です。

6. [API-資格情報] -> [資格情報の作成] -> [OAuthクライアントID] を選択し、[デスクトップアプリ] を選択して、名前を入力し、[作成] をクリックします。

クライアントIDとクライアントシークレットが表示されます。[OK] をクリックします。

7. [ダウンロード] アイコンをクリックして、作成した OAuthクライアントIDのJSONファイルをダウンロードし、JSONファイルを保存して、これを接続サーバーにコピーできるようにします。

8. ナビゲーションメニューで、[IAMと管理] を選択します。

[IAM] タブで、[追加] をクリックします。

次の電子メールを入力します:

classroom-notifications@system.gserviceaccount.com

候補を選択します。

[ロールの選択] ドロップダウンリストから、[Pub/Subパブリッシャー] を選択します。

[保存] をクリックします。

ステップ2 - Google Classroom用の「名前と接続サーバー」の設定

上記で作成した2つのJSONファイルは、Name & Connectivity Serverを構成するために必要です。これらのファイルをコピーし、名前と接続サーバーがインストールされているマシンに配置します。

1. システムトレイの  を右クリックして「接続サーバーの設定」を選択して、接続サーバー設定ユーティリティを開きます。
2. 「クラス」タブをクリックします。
3. **Google Classroom** を選択し、 をクリックしてマシンにコピーしたJSONファイルを参照し選択します。(両方のファイルが存在している必要がありますが、どちらのファイルも選択できます)
4. **適用**をクリックします。管理者の資格情報でGoogle G Suiteにサインインし、NetSupport Schoolへのアクセスを許可するように求められます。

これでSISモードを使用して必要な生徒に接続できます。

トラブルシューティング

上記を機能させるには、クライアントIDをGoogle Adminに追加する必要がある場合があります。

1. <https://console.cloud.google.com> に移動し、G Suite for Educationドメインのグローバル管理者としてログインします。
2. [APIとサービス] -> [資格情報]に移動します。
[OAuth 2.0 クライアントID] で、アプリケーションのクライアントIDの横にある [コピー] アイコンをクリックします。
次のセクションでこれが必要になります。
G Suite for Educationの管理者アカウントで Admin.google.com にログインし、[セキュリティ] -> [APIコントロール] に移動します。
[内部のドメイン所有アプリを信頼する]オプションにチェックを入れます。
3. [サードパーティーアプリの構成済み]セクションで、[サードパーティーアプリアクセスの管理] をクリックします。
4. [アプリ] タブが表示されていることを確認し、[新しいアプリの構成] を選択します。
5. ドロップダウン メニューから [OAuthアプリ名] または [クライアントID] を選択します。
6. 開発者コンソールからクライアントIDを貼り付けて、[検索] をクリックします。
7. 返されたアプリケーションを選択します。
8. 次のページで、ボックスにチェックを入れて [選択] をクリックします。
9. [アプリの構成] ページで、[信頼済み] を選択し、[構成] をクリックします。
10. サードパーティーアプリのリストにアプリケーションが表示されていることを確認します。
11. アプリケーションを選択し、[アクセスの変更] を押します。
12. 制限付き: 制限のない Google サービスのみにアクセスできます。にチェックをします。

教室リスト

NetSupport Schoolでは、教室リストを作成できるようになっています。素早く簡単に異なるクラスの複数の生徒のリストを保存することができます。教室リストは授業開始時に開くことができ、生徒機に素早く接続します。

PCモードまたはユーザー モードを使用するとクラスリストは自動的に作成されます。これらのモードは、NetSupport School先生の設定またはクラス ウィザードで切り替えできます。

注意: アクティブなセッションからも教室リストを作成できます。生徒リストを使って対象の生徒に接続しているか確認してください。コントロール ロック ダウン メニューから {スクール} 教室 - 作成}を選択します、教室リスト作成ダイアログが表示されるので、クラス名と説明を入力してください。

教室リストを終了するには

1. ステータスバーのクラス名をクリックし、**クラスの終了**を選択します。
2. 実行中の教室が終了して、新しい授業が開始できるようにクラス ウィザードが表示されます。

注意:

- 先生コンソールに教室リスト フォルダへの書き込み許可がない場合は、新規教室リストの作成や既存の編集はできません。
- 以下のレジストリキーを使い、場所を指定することで教室リストの保存先を指定することができます。

```
Files\Classlist
[HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Productive Computer
Insight\PCICTL\ConfigList\Standard]
"Files\\Classlist"="C:\\Temp"
```

macOS生徒用NetSupport Schoolに接続する

macOS用NetSupport SchoolはMac教室をサポートする教室管理ツールです。NetSupport School先生は、必要に応じてMac生徒と接続することもできます。

NetSupport School先生コンソールが読み込まれる前にNetSupport Schoolのプログラムフォルダ(C:\Program Files\NetSupport\NetSupport School)にNSW.LICをコピーします。

NetSupport School先生は、Mac生徒との接続を許可します。ライセンス数の制限が各製品に適用されます。

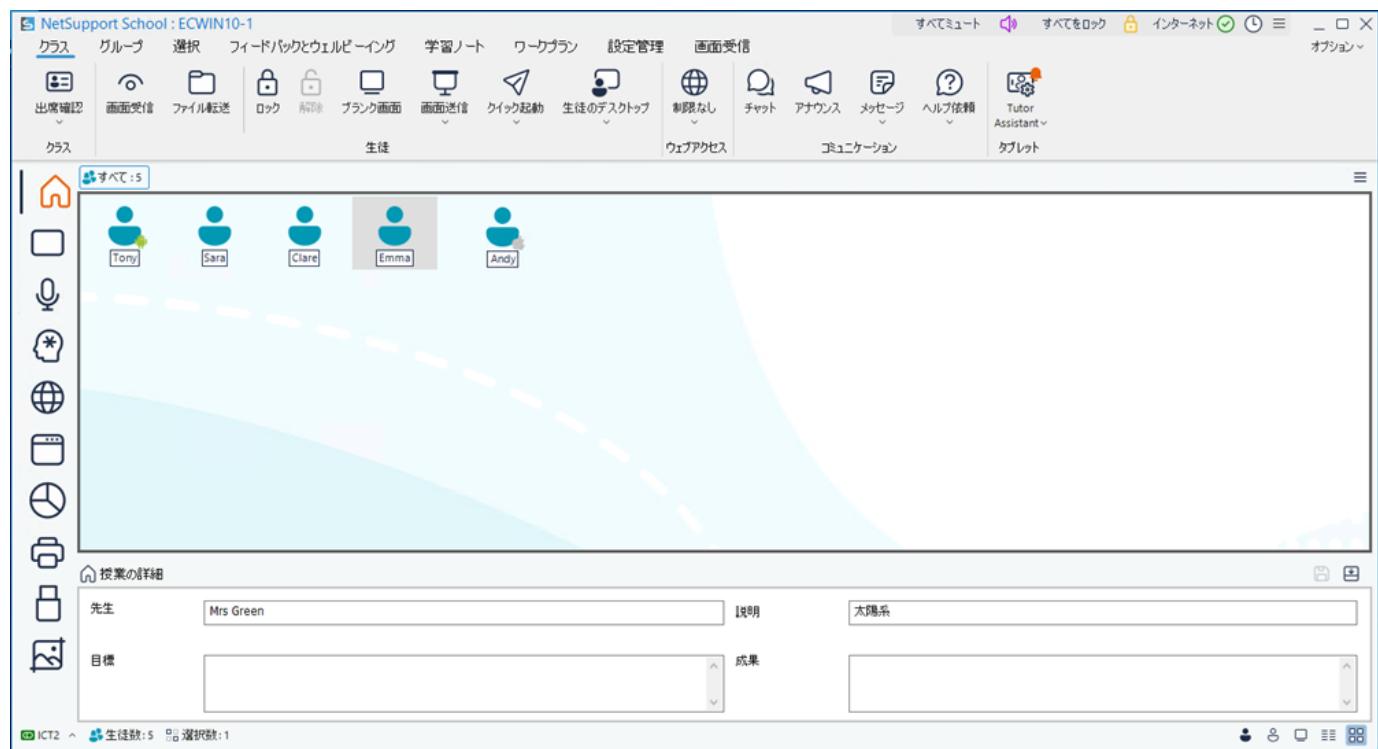
注意: Mac生徒には、macOS用NetSupport Schoolで利用できる機能しかありません。

macOS用NetSupport Schoolの詳細については、[こちらをクリックしてください](#)。

先生コンソール

コントロール ウィンドウの主な役割：

- 先生コンソールを設定する
- 生徒機に接続する
- 生徒の情報を管理する
- 操作する生徒を選択する
- 実行する作業を選択する



NetSupport Schoolには、ユーザーインターフェイスを表示するためにNetSupport Schoolのすべての機能へのフルアクセスを提供する上級、主要な機能と使用頻度の高い教育ツールへのアクセスを提供する中級、そして必要最低限の教室管理機能へのアクセスを提供する簡単の3つのモード3つのモードがあります。ツールバーの「中級モード/上級モード」アイコンをクリックして、上級モードと中級モードを切り替えることができます。簡単モードは、先生コンソールが最初に起動したときにのみ選択できます。

注意: ここで説明するオプションは、先生コンソールを上級モードで使用している場合のものです。中級または簡単モードを使用する場合、使用できるオプションは少なくなります。

キャプションバー

先生コンソールであることを示し、NetSupport School 先生機の名前が表示されます。テックコンソールで先生のサポート機能が有効になっている場合、ここにサポート アイコンが表示され、技術者とチャットまたはメッセージを送信できるように

なります。

注意: 先生コンソールの左側で表示モードを非表示にしている場合は、現在の表示モードがここに表示されます。アイコンをクリックすると、表示モードを切り替えることができます。

右側では次のオプションが利用可能です:

≡

クリック アクセス リストを開き、よく使用される機能をキャッシュバーに追加できます。デフォルトでは、すべてミュート、すべてロック、インターネット、レッスンタイマーが表示されます。

—

ウインドウを最小化します。

□

ウインドウを最大化します。

×

ウインドウを閉じます。

オプション

このドロップダウンメニューから、ユーザーインターフェイスを中級モードに切り替え、色分けされたユーザーインターフェイスをオフにし、設定、ヘルプファイル、バージョン番号、ライセンスおよびテクニカルサポート情報にアクセスし、先生コンソールの更新にアクセスできます（オプションは利用可能な更新がある場合はハイライトで表示されます）。

リボン

リボンからすべての機能とツールにアクセスできます。次のオプションが利用可能です:

クラス: 授業開始時に生徒に詳細の登録を依頼したり、個々の生徒の機能にアクセスしたり、Webアクセスのレベルを設定したり、生徒とコミュニケーションしたりすることができます。

注意: 現在の表示モードに応じて、追加のアイコンがここに表示される場合があります。

グループ: NetSupport School 内のグループ機能にアクセスできます。生徒のグループに接続し、タスクを整理し、実行できます。

選択: どの生徒と共同作業するかを選択し、リスト ビューで表示できます。

フィードバックとウェルビーイング: 生徒にリワードやアニメーションステッカーを付与し（生徒ツールバーに表示されます）、生徒からのフィードバックを要求して生徒のウェルビーイングを確認し、テストデザイナーにアクセスして生徒にテストを実行することができます。

フィードバックとウェルビーイング: 生徒にリワードやアニメーションステッカーを付与し（生徒ツールバーに表示されます）、生徒からのフィードバックを要求して生徒のウェルビーイングを確認し、テストデザイナーにアクセスして生徒にテストを実行することができます。

ワークプラン: 生徒にファイルを送信したり、生徒からファイルを収集したり、利用可能な生徒のリソースを管理したり、クラスタイマーを設定したり、授業計画を作成および管理したりします。

管理: NetSupport School の生徒管理機能 (電源オン/オフ、再起動、ログイン、ログアウト、ユーザー アカウントの管理、設定の変更と Android 生徒への適用、リプレイファイルへのアクセスなど) や先生コンソール機でタスクを自動的に実行できるユーザー定義ツールを作成へのアクセスを提供します。

表示: 表示モード、リストビューでの生徒の表示方法 (大きいアイコンまたは詳細ビュー)、グループ、アクションバー、および生徒ツールバーを表示するかどうかを選択できます。現在のレイアウトを印刷またはロックしたり、背景を設定したりすることもできます。

ホワイトボード: 全画面のインタラクティブなホワイトボードが提供され、様々な画面描画ツールにアクセスできます。

注意: このオプションは、ホワイトボード ビューが選択された場合にのみ表示されます。

授業バー

授業バーを使用すると、授業を作成し、進行中の授業を管理するツールを提供し、現在のアクティビティについてアドバイスを提供します。

注意: 授業プランバーを有効または無効にするには、リボンのワークプランタブを選択し、授業プランオプションをクリックまたはオフにします。授業プランの実行中に自動的に表示されます。

グループバー

生徒のグループを定義するまでは、すべてグループのみが表示されます。定義すると、グループ名とメンバーの数が表示されます。必要なグループを選択した状態で、**グループオプション** ≡ アイコンをクリックし、プロパティを選択することで、表示名やアイコン画像などのプロパティを変更できます。

グループタブの右側をクリックするとドロップダウンメニューが表示され、よく使用される機能にアクセスできます。

グループバーを有効または無効にするには、リボンのグループまたは表示タブを選択し、グループバー オプションを選択します。

表示モード

先生コンソールの左側に利用可能な表示モードがリストされます。アイコンをクリックするとリストビューの表示が切り替わり、モードに該当するアイコンがクラスタブに表示されます。

注意: これらのアイコンを非表示にして、リストビューのスペースを増やすことができます。リボンの表示タブを選択し、アクションバー オプションをオフにします。キャッシュバーに表示モードアイコンが表示され、現在の表示モードが示され、このアイコンをクリックすると表示を切り替えることができます。

次の表示モードが利用可能です:



ホーム



モニタモード

-  オーディオ
-  質疑応答
-  ウェブビュー
-  アプリケーション
-  アンケート
-  プリント
-  デバイス
-  ホワイトボード

注意: リボンの表示タブを選択し、モードセクションのドロップダウン矢印をクリックして、カスタマイズをクリックすることで、表示されるビューモードをカスタマイズできます。

デフォルトでは、先生ユーザーインターフェイスで使用される色は、現在の表示モードに合わせて変更されます。オフにするには、先生コンソールでオプションをクリックし、ドロップダウンメニューから色分けされたUI(このオプションはオンにするとハイライトされます)を選択します。先生ユーザーインターフェイス設定で有効/無効にすることもできます。

一覧表示

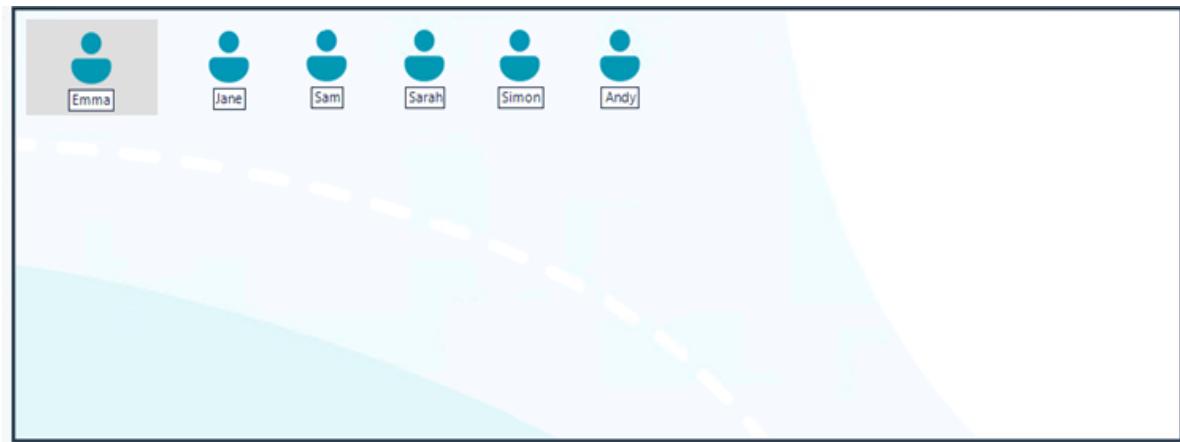
一覧表示は、現在接続中の生徒機またはグループが表示されます。リボンの表示タブまたはステータスバーから、大きなアイコンと詳細ビューの間で表示モードを切り替えることができます。

ステータスバー

ステータスバーは先生コンソールの下部に表示されます。現在のクラス(ここでクラスを終了し更新できます)、現在接続している生徒の数、選択したグループの生徒の数が表示されます。ここで、どの生徒に対してアクションを実行するか、およびリストビューの生徒の表示方法を選択できます。

一覧表示

一覧表示は、現在接続中の生徒機またはグループが表示されます。ステータスバーの大きいアイコン  アイコンまたは詳細  アイコンをクリックすると、大きいアイコンと詳細ビューの間で表示モードを切り替えることができます。



生徒アイコンの上にマウスを置くと、生徒機の詳細が表示されます。

表示名などの生徒のプロパティは、生徒を右クリックしてプロパティ  アイコンをクリックすることで変更できます。生徒アイコンの画像はカスタマイズできます。生徒を右クリックし、カスタマイズ  アイコンをクリックします。

注意: 生徒名は出席確認機能を使ってカスタマイズすることも可能です。

生徒のサムネイルの横にワイヤレスのステータスとバッテリー残量が表示されます。先生のユーザーインターフェイス設定でのインディケータを表示するか選択することができます。

一覧表示は次のモードで表示可能です:

- ホーム
- モニタモード
- オーディオ
- 質疑応答
- ウェブビュー
- アプリケーション
- アンケート
- プリンタ
- デバイス
- ホワイトボード

先生コンソールの左側にある個々のアイコンをクリックするか、リボンの表示タブを選択して、モードセクションのドロップダウン矢印をクリックします。カスタマイズを選択すると、利用可能なモードをカスタマイズできます。デフォルトの表示モードは通常ビューです。

注意: リボンの表示タブを選択し、アクションバーのオプションをオフにすると、アクションバー（コンソールの左側に表示モードアイコンが表示される部分）を非表示にして、リストビューのスペースを増やすこともできます。下部ペインのあるビューを表示している場合は、**ビューを最小化**  アイコンをクリックしてこれらを非表示にすることができます。

生徒アイコンは現在のデバイスの状態を示します:



デバイスの電源がオン、先生に接続済み、ログイン済み。



デバイスの電源がオン、先生に接続済み、ログアウト済み。



デバイスの電源がオフ、先生に未接続。

生徒のアイコンを必要な位置にドラッグすることにより、リストビューで教室のレイアウトを反映するように並べ替えることができます（レイアウトはロックできます）。背景画像を追加して、先生コンソールをさらにカスタマイズすることもできます。

ステータスバー

ステータスバーは先生コンソールの下部に表示されます。現在のクラス（クラス名をクリックするとクラスを終了し更新できます）、現在接続している生徒の数、現在選択されている生徒の数、選択したグループ内の生徒の数が表示されます。

注意: 監視、オーディオ、質疑応答ビューでは、サムネイルツールがステータスバーに表示されます。

リストビューで、どの生徒と共同作業するかを選択できます。たとえば電源がオフになっているすべてのマシンを選択して、電源をオンにできます。次のアイコンが使用できます：

- ログインしているすべての生徒を選択します。
- ログアウトしているすべての生徒を選択します。
- 電源がオフのすべてのデバイスを選択します。

注意: すべての生徒を選択し、リボンの選択タブから現在の選択をクリアすることもできます。

詳細  アイコンまたは**大きなアイコン**  アイコン（現在のモードがそのビューをサポートしている場合）をクリックすることで、リストビュー（詳細ビューまたは大きなアイコン）での生徒の表示方法を選択できます。

注意: リストビューで下部ペインを最小化した場合、**ビューの最大化**  アイコンをクリックすると再度表示できます。

一緒に作業する生徒の選択

リボンの選択タブから、一緒に作業する生徒を簡単に選択できます。

生徒はランダムに選ばれます。スライダーを使用してランダムに選択する生徒の数を選択し、**ランダム生徒**をクリックします。デフォルトでは、生徒が選択されるとサウンドが再生されます。これを無効にするには、**生徒でサウンドを再生オプション**をクリアします。

リボンまたはステータスバーの関連アイコンをクリックすると、ログイン済みの生徒、ログアウト済みの生徒、電源オフの生徒と一緒に作業するように選択できます。たとえば、電源がオフになっているすべてのマシンを選択して、電源をオンにすることができます。

中級モード

NetSupport Schoolには、先生のユーザーインターフェースを表示するための上級、中級そして簡単の3つのモードがあります。上級モードは、NetSupport Schoolのすべての機能に完全にアクセスできます。中級モードは、主要な機能と頻繁に使用される教育ツールにアクセスできます。簡単モードは、教室の管理を維持するために必要最低限の教室管理機能にアクセスできます。

中級モードを使用する

1. NetSupport School先生コンソールを開始します。
2. 中級モードの  アイコンをクリックします。
3. 「開始」をクリックします。
4. クラスウィザードで必要な詳細を入力し、接続するクラスを選択して「OK」をクリックします。
5. 先生コンソールは中級モードでロードされます。



デフォルトでは、中級モードで使用可能な表示モードは次のとおりです：

- モニタモード
- ウェブ管理モジュール
- アプリケーション管理モジュール
- アンケート
- プリンタ管理

注意: 使用可能な表示モードをカスタマイズするには、リボンの [表示] タブを選択し、[モード] セクションのドロップダウン矢印をクリックして、**[カスタマイズ]** を選択します。

デフォルトでは、リボンで使用できる機能は次のとおりです：

- 出席確認
- 生徒の画面を受信する
- ファイルを転送する
- 生徒のマウスとキーボードをロック/解除する
- ウェブのアクセスのレベル設定
- 生徒に先生の画面を送信する
- 生徒機の電源入/切
- 生徒のログイン
- 生徒のログアウト
- 生徒のフィードバックとウェルビーニング
- 生徒にメッセージを送信する
- チャット

モード間でユーザーインターフェイスを切り替えるには

1. 先生コンソールで **[オプション]** を選択し、**[縮小されたインターフェイス]** をクリックします（中間モードの場合は色で強調表示されます）。

注意: 先生コンソールが最初に起動したときにのみ、簡単モードを選択できます。

簡単モード

NetSupport Schoolには、先生のユーザーインターフェースを表示するための上級、中級そして簡単の3つのモードがあります。上級モードは、NetSupport Schoolのすべての機能に完全にアクセスできます。中級モードは、主要な機能と頻繁に使用される教育ツールにアクセスできます。簡単モードは、教室の管理を維持するために必要最低限の教室管理機能にアクセスできます。

簡単モードを使用する

1. NetSupport School先生コンソールを開始します。
2. 簡易モード  アイコンをクリックします。
3. クラスウィザードで必要な詳細を入力し、接続するクラスを選択して「OK」をクリックします。
4. 先生コンソールは簡単モードで表示されます。



5. ここから、クラスの生徒数、レッスンの実行時間（クリックして時間を一時停止できます）、および使用可能な機能アイコン（機能がアクティブな場合はアイコンが変わります）を確認できます。
 6. [メニュー]  アイコンをクリックし、[インターフェイスの最小化]を選択すると、ユーザーインターフェイスを最小化できます。最小化すると他の開いているウィンドウよりも前面に表示されたままになります。
- 注意:** ウィンドウをダブルクリックすると、最小化と最大化モードが切り替わります。
7. [メニュー]  アイコンをクリックし、[テーマ]を選択して、リストから必要なテーマを選択することで、ユーザーインターフェイスのテーマ/色を変更できます。
 8. [電源オン]をクリックして、生徒機の電源をオンにします。[生徒の名前を取得]をクリックすると、生徒の名前をリクエストできます。すべての生徒のオーディオをミュートするには、[オーディオをミュート]をクリックします。

注意: 電源オンアイコンは、電源をオンにする必要がある生徒機がある場合にのみ表示されます。

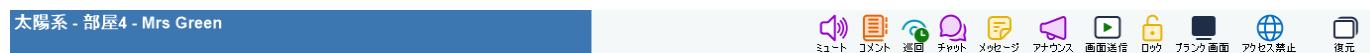
9. 生徒がヘルプを要求すると、ウィンドウに通知が表示されます。これをクリックするとヘルプ依頼ウィンドウが開き、生徒に返信できます。
10. クラスを終了して新しいクラスを開始するには[クラス終了]をクリックします。先生コンソールを終了するには[終了]をクリックします。

簡単モードで使用できる機能は次のとおりです。

- 生徒のマウスとキーボードをロック/解除する
- 生徒の画面をブランク
- 生徒の電源オン
- すべてのインターネットアクセスをブロック
- 生徒のフィードバックとウェルビーニング
- 生徒のオーディオをミュートする
- レッスンタイマー
- 生徒のヘルプ依頼を確認
- 生徒名の取得

先生コンソールツールバー

先生コンソールツールバーは先生に授業中の内容を知らせるだけでなく、先生コンソールを最小化してもNetSupport School の主要機能にアクセスできます。先生は、関連アイコンをクリックすることで、すべての生徒のサウンドをミュートしたり、生徒の学習ノートにコメントを追加したり、画面巡回、チャット、メッセージ、アナウンス、画面送信、生徒のロック/ロック解除、生徒画面のブランク表示、すべてのインターネットアクセスをブロックすることができます。先生コンソールを最大化すると先生ツールバーが消え、適用している設定がコントロールウィンドウ内に表示されます。



注意: 復元をクリックすると、先生コンソールを最大化できます。

先生ツールバーを無効にするには、先生コンソールでオプションをクリックし、ドロップダウンメニューから**設定**を選択し、**ユーザーインターフェイス - 先生**を選択して、**最小化時に先生ツールバーを表示する**オプションをクリアします。

注意: 生徒機で起動可能な生徒ツールバーもあります。授業中の各機能の状態が確認できます。

生徒の自動ログイン

教室のPCに一般的で規則的な名前が使われている場合は、授業の開始時に時間を節約するために生徒たちを自動的にログインさせることができます。

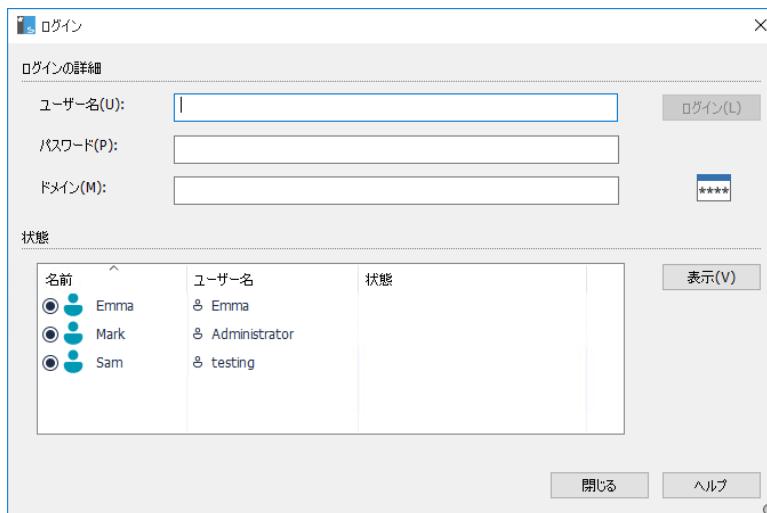
生徒のパソコンに自動的にログインするには

1. ログインしたい生徒のパソコン(複数可)を選択します。

または

ログインしていないすべての生徒のマシンを選択するには、ステータスバーの[ログアウトした生徒を選択]  アイコンをクリックします。

2. リボンの[管理]タブを選択し、[ログイン]をクリックします。



3. ユーザー名、パスワードそしてドメインを入力し、「ログイン」をクリックします。ログインに成功すると、ユーザー名が表示されます。
4. また、このダイアログから生徒の画面を表示することもできます。必要な生徒を選んで、「画面受信」をクリックします。
5. 完了したら、「閉じる」をクリックします。

出席確認

デフォルトでは、NetSupport Schoolは、コントロールウィンドウにクライアントパソコンのコンピュータ名を表示します。しかし、コントロールに生徒の実際の名前を表示したり、追加情報を要求したい場合もあるかもしれません。

出席確認オプションは、先生が生徒に自分達の詳細を入力するようにさせることができます。

注意: クライアントプロパティの「詳細」タブを編集することで、クライアントパソコンの名前を変更することもできます。

生徒にログインダイアログを表示するには:

- 特定の生徒の詳細が必要な場合、コントロールウィンドウで関連するクライアントアイコンを選択します。また、接続しているすべての生徒に入力させるには、アイコンを選択しないでください。
- リボンのクラスタブを選択し、**生徒登録**をクリックします。
- 出席確認ダイアログが表示されます。



それから、先生は生徒が入力する必要がある情報を選択することができます。

- 登録をクリックしてフォームを生徒機に送信します。生徒の反応に応じて進捗状況を監視できます。
- すべての生徒がサインインしたら、閉じるをクリックします。
- 登録の自動保存オプションを有効にした場合は、登録レポートのファイル名、拡張子の種類、場所を入力するよう求められます。保存をクリックします。
- 先生コンソールの生徒アイコンに登録名が表示されるようになります。

注意: クラスウィザードの「出席確認を作成する」にチェックが付いている場合も、出席確認が表示されます。

サインアウト

授業の終わりに、「サインアウト」オプションを使用してクライアント名をリセットすることができます。

1. リボンのクラスタブを選択し、**生徒登録**アイコンをクリックして**サインアウト**を選択します。
2. 生徒の登録を解除することを確認します。

注意: 今後、このメッセージを表示したくない場合は、[今後は表示しない] をクリックします。先生のユーザーインターフェイス設定でオンに戻すことができます。

出席確認レポート

出席確認とプリント利用の詳細をレポートで表示させることができます。コントロールが切断すると失われます。

注意: レポートのコピーを自動的に保存したい場合は、生徒の詳細を要求するときに、生徒登録ダイアログで**登録の自動保存**オプションが有効になっていることを確認してください。

1. リボンのクラスタブを選択し、**生徒登録**アイコンをクリックして、**登録レポート**を選択します。



注意:

- レポートのコピーを印刷するには、リボンのクラスタブを選択し、**生徒登録**アイコンをクリックして**クリック印刷**を選択します。
- 生徒登録は先生の学習ノートに追加できます。リボンのクラスタブを選択し、**生徒登録**アイコンをクリックして**生徒登録**を選択します。

生徒登録ダイアログ

このダイアログは生徒が自分の詳細を入力できるカスタマイズ登録フォームを先生が作成できるようになります。名前を選択することで先生はビューやチャットオプションを使って生徒とお互いに作業ができます。



クラス詳細

I登録フォームに先生名、授業、クラス、学習目標を含めて生徒に送信可能です。既にクラスウィザードでこれらを入力してある場合、詳細は完了します。

注意: デフォルトでは、起動モードは部屋の生徒に接続になっています。このモードでは、部屋欄は起動時に指定した部屋を表示し、変更することができません。

生徒詳細

生徒が入力する詳細を決定します。フォームにフィールドを2つ追加することもできます。

注意: "ログオンユーザー名取得" オプションを選択した場合、姓名と名前がグレイアウトになり、生徒名は自動的にログイン名をデフォルトにします。

登録オート保存

生徒登録詳細はレポートで見ることができますがコントロールが切断するとその内容は消えてしまいます。レポートのコピーを保存したい場合は、このオプションにチェックをします。ファイル名、保存先、ファイルフォーマット (CSV, HTML または XML) を入力します。

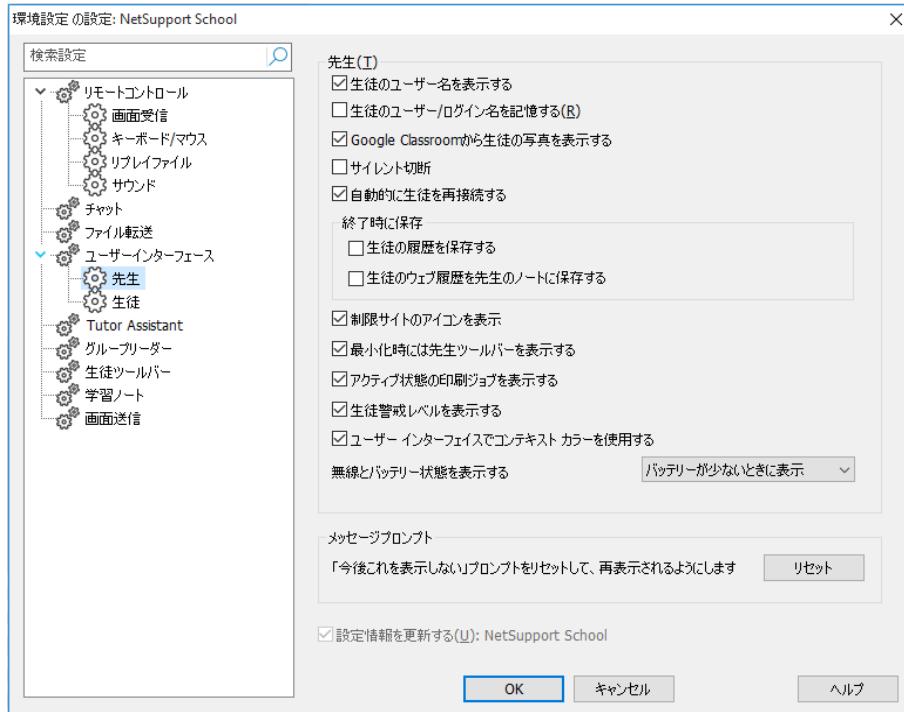
登録 をクリックして生徒機にフォームを送信します。生徒の進行具合をモニターできます。全生徒がサインインしたら閉じるをクリックします。コントロールウィンドウのクライアントアイコンが登録した名前で表示されます。

生徒のログイン名を表示するには

生徒の詳細を登録するときに、生徒たちに実際の名前を入力させずにログイン名をデフォルトにすることができます。

生徒のユーザー名を表示する

1. 先生コンソールのオプションをクリックし、ドロップダウンメニューから**設定**を選択します。
2. [ユーザーインターフェイス - 先生] を選択します。



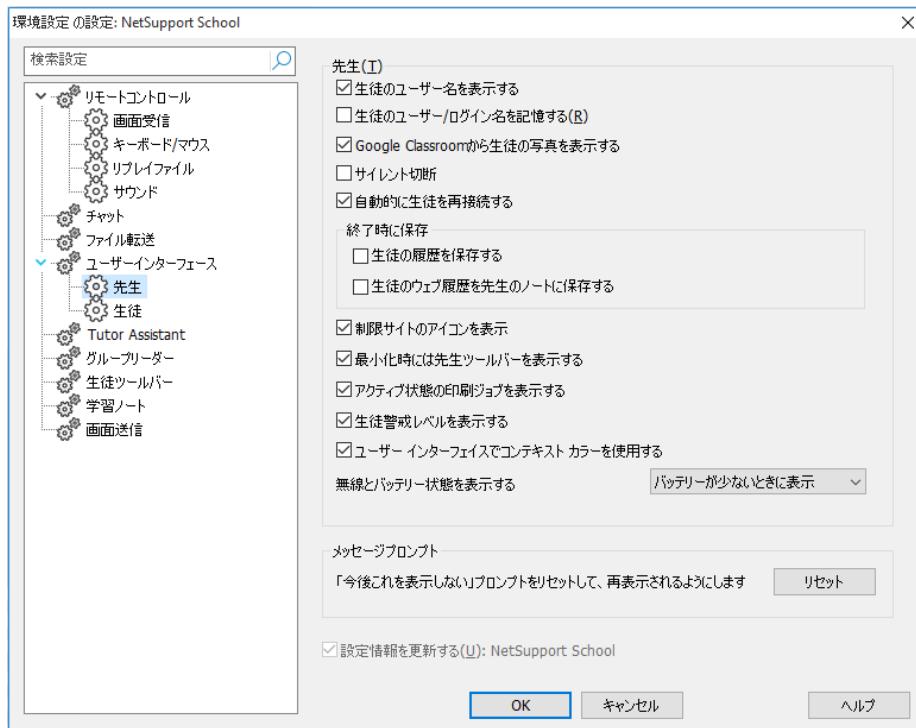
3. 「生徒のユーザー名を表示する」にチェックを付けます。
4. 「OK」をクリックします。

生徒のログイン名を保存するには

生徒のログイン名を永久的に保存するには、このオプションを有効にします。

生徒のログイン名を保存する

1. 先生コンソールのオプションをクリックし、ドロップダウンメニューから**設定**を選択します。
2. [ユーザーインターフェイス - 先生] を選択します。



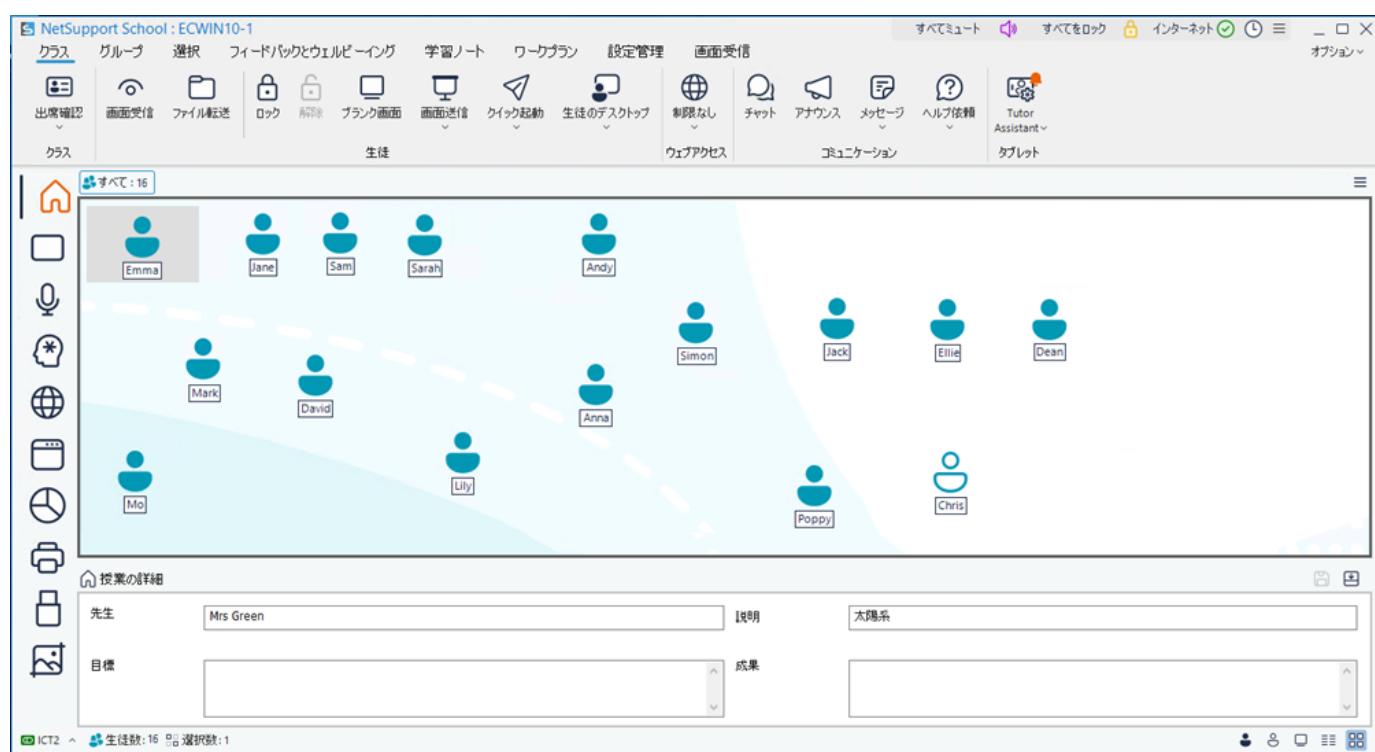
3. “生徒のユーザ / ログイン名を記憶する”にチェックをします。
4. OK をクリックします。

教室のレイアウトを変更する

コントロールウィンドウのビューリストに表示される生徒のアイコンをドラッグして、配置を実際の教室のデスクの配置に合わせて変更できます。グループがある場合は、グループ別にレイアウトを作成して保存できます。

部屋モードを使用するときは、教室レイアウトが自動的に選択した部屋に対して保存されます。先生を開始し部屋を選択すると、レイアウトが自動的に読み込まれます。

注意: ルームモードでないときにレイアウトを保存またはロードする方法については、当社ナレッジベースを訪問し、製品記事「[ルームモードを使用する際のレイアウト機能の変更](#)」を参照してください。(英文)



アイコンのレイアウトを保存する

1. 生徒のアイコンを選択し、移動したい位置にドラッグします。

レイアウトを固定するには

1. 好きな場所にクライアントアイコンを配置します。
2. リボンの表示タブを選択し、[レイアウトのロック]をクリックします。
3. クライアントアイコンがその場所に固定され、移動できなくなります。

注意: 現在の教室レイアウトを印刷できます。リボンの[表示]タブで、[レイアウトを印刷する]をクリックします。

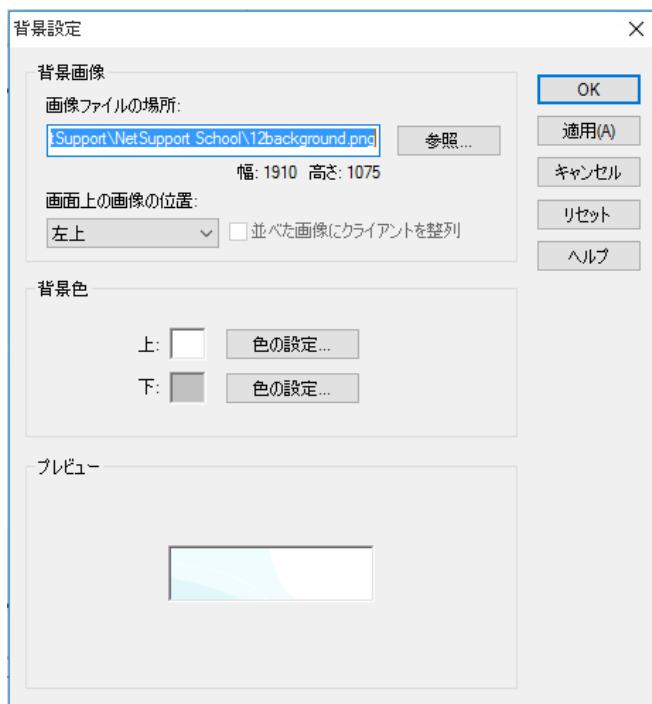
ビットマップの背景を設定する

コントロールリストビュー内のクライアントアイコンの位置をアレンジして教室のレイアウトを反映できるだけでなく、画像を選択して背景の装飾や、アイコンのレイアウトを強調できます。

注意: 背景レイアウトはBMP、PNG、GIF、JPGと透過画像に対応しています。

背景を設定するには

1. リボンの[表示]タブを選択し、[背景の設定]をクリックします。
2. 背景の設定ダイアログが表示されます。



3. 使用する画像の保存先を選択します。デフォルトの画像ファイルは、NetSupport School プログラム フォルダに保存されています。選択した画像をプレビューできます。
4. 画像の位置を選択するには、[画像の位置]を選びます。[並べて表示]を選択すると画像の中央に生徒アイコンをすることができます。
5. 必要ならば背景色を選択します。
6. OKをクリックしてコントロール ウィンドウに背景を追加します。

現在設定されている背景をクリアするには、リボンの[表示]タブから[背景をクリア]を選択します。

電源管理

電力消費は、大量の発熱、エネルギー消費の増加に相当します。使用中の数百万台のワークステーション、同じ会社や学校内にある使用中の数百万台、時には数百台のワークステーション。エネルギーを節約したいという願望は、過去10年以上の間でマイナーな問題から主要な問題へと成長してきました。

電源管理は、システムの消費電力を削減するためにハードウェアとソフトウェアができるようになる技術です。停止期間中にハードウェアの一部をシャットダウンすることで動作します。つまり、ワークステーションは必要な時に作業できる準備ができていて、そうでない時はエネルギーを節約することを意味します。

生徒機の電源を入れる

生徒機の電源を入れるには、生徒機のネットワークアダプタが Wake-on-LAN 機能を備えており、BIOS も Wake-on-LAN 機能に対応し、この項目がイネーブルになっていなくてはなりません(詳細は、お使いのネットワークアダプタおよび BIOS のマニュアルを参照してください)。また、生徒機が「既知の生徒リスト」に含まれていなければなりません。先生機は生徒機のネットワークアダプタに Wake-on-LAN パケットを送信し、生徒機に電源 ON を指示します。

生徒機の電源を入れる

1. 電源を入れたい生徒機を選択します。

または

電源がオフになっている生徒機をすべて選択するには、ステータスバーの[電源がオフのマシンを選択]  アイコンをクリックします。

リボンの管理タブを選択し、[電源オン]をクリックします。

2. 生徒機の電源が ON になります。

生徒機の電源を切る

NetSupport School では、Windows の電源管理 (APM)機能を使って生徒機の電源を切ることができます。APM が機能するためには、生徒機が ATX マザーボードと ATX 電源を備えていなくてはなりません。

先生は、NetSupport School の電源管理機能を使って、生徒機の電源をリモート 切断できます。

生徒機の電源を切る

1. 生徒機のアプリケーションが全て終了していることを確認してください。
2. 電源を切りたい生徒機アイコンを選択します。
3. リボンの [管理] タブを選択し、[電源オフ] をクリックします。

または

生徒を右クリックし、[電源オフ]  アイコンをクリックします。

または

ログインしていないすべての生徒機の電源をオフにするには、リボンの [管理] タブを選択し、[電源オフ] ドロップダウン矢印をクリックして、[ログアウトしたマシンの電源をオフにする] を選択します。

4. はいをクリックして、選択した生徒機の電源をオフにすることを確認します。

注意: 今後、このメッセージを表示したくない場合は、[今後は表示しない] をクリックします。先生のユーザーインターフェイス設定でオンに戻すことができます。

5. 生徒機の電源が OFF になります。

アクティブセッションからのクライアント切断

アクティブセッション中、例えば、生徒がマシンを再起動してしまった場合のように不意に生徒機が切断されてしまうことがあります。生徒機が切断された場合、切断メッセージが表示されるようになっていますが、設定で無効にすることが可能です。

切断メッセージを無効にする

1. 先生コンソールのオプションをクリックし、ドロップダウンメニューから**設定**を選択します。
2. [ユーザーインターフェイス - 先生] を選択します。
3. サイレント切断 オプションを選択してOKをクリックします。次からは、生徒機が切断されるとメッセージが表示されなくなります。

注意: 接続可能な生徒を自動で再接続するには、先生機のユーザーインターフェイス設定で生徒機自動再接続オプションが選択されていることを確認してください。

クラスから生徒を削除する

クラスから古い生徒アイコンを削除できます。

- 必要な生徒アイコンを右クリックし、[削除]  アイコンをクリックします。
- 確認を求めるメッセージが表示されます。[はい]をクリックします。

注意: 今後、このメッセージを表示したくない場合は、[今後は表示しない] をクリックします。先生のユーザーインターフェイス設定でオンに戻すことができます。

NetSupport Schoolでサブネット検索の設定をする

お使いのネットワークが複数のTCP/IPサブネットから構成されている場合は、クライアント検索時に追加サブネットを使用するようにNetSupport Schoolを設定する必要があります。

リモートIPサブネット上を検索できるようにNetSupport Schoolを設定する前に、IPアドレスの構成と特にIPブロードキャストアドレスとは何かを理解しておくと便利です。

NetSupport School コントロールがIPサブネットを検索できるように設定するには

1. 先生コンソールの [オプション] をクリックし、ドロップダウン メニューから [ネットワーク設定] を選択します。
2. 設定オプションから [ネットワークと無線の設定] を選びます。
3. 検索項目の [設定] ボタンをクリックします。
4. 設定TCP/IPクライアント検索ダイアログが表示されます。
5. 追加をクリックして検索したいネットワークのブロードキャストアドレスを入力します。

または

NetSupport Schoolでブロードキャストアドレスを計算するには、拡張をクリックしてターゲットのIPアドレスに続いてサブネットマスクを入力するか、アドレス範囲を入力してください。

6. OKをクリックします。

注意:

- リモートサブネットのアドレスを追加する時は、ローカルサブネットのブロードキャストアドレスも表示されていることを必ず確認してください。表示されていない場合は、ブラウズ時にコントロールはローカルクライアントを検索しません。
- お使いのネットワークルーターによってはWAN接続のブロードキャストパケットを遮断してしまう場合があります。この場合は、コントロールが正しく設定されてもリモートサブネットを検索することはできません。

IP アドレスについて

IP アドレスは 4 バイトで構成され、各バイトは 0 または 1 の値を持つ 8 個のビットで構成されています。そのため、IP アドレスは 0.0.0.0 から 255.255.255.255 までのどれかとなります。

IP アドレスはデバイスが存在するネットワークを表すネットワークアドレスと、デバイスそのものを指すホストアドレスで構成されます。

サブネットマスクは、何ビットをネットワークアドレスに使用するかを定義する 4 バイトの数値です。サブネットマスクの各ビットのうち、1 になっているビットは、IP アドレスの対応するビットがネットワークアドレスの一部であることを表します。

例えば、IP アドレスが 10.10.2.21 で、サブネットマスクが 255.255.255.0 のときは、以下のようになります：

IP アドレス	10	.	10	.	2	.	21
サブネットマスク	255	.	255	.	255	.	0
IP アドレスのバイナリ	00001010 . 00001010 . 00000010 . 00010101						
表記							
サブネットマスクのバイナリ表記	11111111 . 11111111 . 11111111 . 00000000						
IP アドレスのネットワーク部分	00001010 . 00001010 . 00000010 . 00000000						
IP アドレスのホスト部分	00000000 . 00000000 . 00000000 . 00010101						
IP アドレスのネットワーク部分	10	.	10	.	2	.	0
IP アドレスのホスト部分	0	.	0	.	0	.	21

したがって、IP パケットを 10.10.2.21 に送信すると、実際にはネットワーク 10.10.2.0 上のデバイス 21 にパケットが送信されます。

上の例では、ネットワーク 10.10.2.0 には 256 (0 から 255) のホストアドレスが存在できますが、そのうちの 0 と 255 は予約されています。全てのビットが 0 に設定されているホストアドレスはネットワークアドレス、全てのビットが 1 に設定されているホストアドレスはブロードキャストアドレスとなります。

上記の例の IP アドレスが 10.10.2.0 のネットワークでは

10.10.2.0 がネットワークアドレスで、

10.10.2.255 がブロードキャストアドレスとなります。

あるネットワークのブロードキャストアドレスに IP パケットを送信すると、その IP ネットワーク上の全てのデバイスがそのパケットを受信します。

NetSupport コントロールがリモート IP サブネットをブラウズできるように設定する際には、この IP ネットワークのブロードキャストアドレスを使用します。

ターミナルサーバ環境で **NetSupport School**を実行する

NetSupport School コントロールはターミナルサーバ環境下のクライアントに接続することができます。

手軽に実行できるように、NetSupport Schoolでは必要なインストールと設定方法を紹介したダウンロード可能なsetupパッケージをご用意しています。詳細な手順については、[当社ナレッジベースを訪問し](#)、製品記事「Microsoft Terminal Server環境で実行するためのNetSupport Schoolのセットアップ」を参照してください。(英文)

注意: ターミナルサーバと他のシンクライアントは、NetSupport School ネームサーバを使って設定できません。

ターミナルサーバセッションで動作している**NetSupport School** 生徒へ接続する

ターミナルサーバセッションで動作している生徒へ接続するオススメの方法は、"部屋モードで接続" オプションです。この方法を使えば、セッションにログオンしたユーザーに応じて特定の部屋にあるターミナルサーバセッションで動作している生徒を設定することも可能です。

先生を生徒と同じ部屋に設定すると、その部屋に配置されているすべての生徒へ自動的に接続します。

注意: NetSupport School クライアント設定で生徒のターミナルサーバ設定は設定できます。

NetSupport先生アシスタントのインストールと構成設定

既存のNetSupport Schoolで管理された教室環境での使用に、NetSupport School先生アシスタントはICTスイートでの先生の機動性を提供し、補助教員が生徒の進行具合を監視を支援できるようにするための理想的なツールです。NetSupport School先生アシスタントはiPad、iPhone、[Apple App](#) から無料で入手可能です。

ステージ 1 - NetSupport先生アシスタントに接続するためにNetSupport先生を設定する

初めて先生コンソールを実行すると、リボンのクラスタブに先生アシスタント  アイコンが表示されます（非表示になっている場合は、管理タブからアクセスできます）。ここから先生アシスタントからの接続を認証するためのパスコードを設定できます。Tutor Assistantの構成設定にアクセスするには：

1. 先生コンソールでオプションをクリックし、ドロップダウンメニューから設定を選択して、先生アシスタントを選択します。
2. 先生アシスタント構成設定ダイアログが表示されます。
3. 先生アシスタントで表示されるNetSupport School先生の名前を入力します。
4. 接続ポートを入力し、必要に応じて先生に接続するための先生アシスタントが入力する必要がある接続パスワードを入力します。
5. 先生アシスタントを自動的に認証または手動で認証するか決定します。
6. 「開始」をクリックしてアシスタントサーバーを起動します - 現在のIPアドレスが表示されます。
7. OKをクリックします。

ステージ 2 - NetSupport先生アシスタントをインストールする

1. 適切なアplistアからNetSupport School先生アシスタントをダウンロードしてください。
2. 先生アシスタントアプリを開きます。
3. NetSupport School先生コンソールのIPアドレスと接続パスワード（設定されている場合）を入力します。
4. デフォルトのポートは37777です。これは変更可能ですが、NetSupport School先生で変更する必要もあります。
5. 「接続」を選択すると、先生アシスタントは選択した先生コンソールに接続します。

注意：先生コンソールの設定によっては、先生アシスタントが先生コンソールに接続する前に認証を受ける必要があります。

先生アシスタントサービスが開始され、接続が許可されると、リボンの管理タブの先生アシスタントアイコンが  に変わります。接続されている先生アシスタントの数を示すインジケーターがアイコンに表示されます。先生アシスタントアイコンをクリックして、先生アシスタントサービスを開始/停止し、手動認証を使用している場合はデバイスを認証し（デバイスが承認を待っていることを示す警告インジケーターが表示されます）、デバイスを切断して設定にアクセスします。

タブレットでサポートされている機能:

- 生徒の縮小画面を表示。
- 設定されているメッセージを生徒に送信。
- 制限されたウェブサイトをブロック。
- 許可されたウェブサイトを設定。
- すべてのインターネットのアクセスをブロック。
- 生徒のコンピュータをロック/ロック解除。
- 生徒のコンピュータをログオフ。
- 生徒の画面をブランク/非ブランク化。
- 生徒の印刷を制限。
- 許可されたアプリケーションを設定。
- 制限されたアプリケーションをブロック。
- 生徒のグループを選択。
- 詳細表示。
- 生徒のヘルプ依頼通知を表示。
- 生徒を拡大。
- 名前/先生順に生徒を並べ替え。
- 現在のアプリケーションを表示。
- 現在のウェブサイトを表示。
- 接続パスワードを設定。
- 現在接続している先生アシスタント数をバッジで表示。

スマートフォンでサポートされている機能:

- iOSスマートフォンをサポート。
- 設定されたメッセージを生徒に送信。
- 制限されたウェブサイトをブロック。
- 許可されたウェブサイトを設定。
- すべてのインターネットのアクセスをブロック。
- 生徒のコンピュータをロック/ロック解除。
- 生徒のコンピュータをログオフ。
- 生徒の画面をブランク/非ブランク化。
- 生徒の印刷を制限。
- 許可されたアプリケーションを設定。
- 制限されたアプリケーションをブロック。
- 接続パスワードを設定。

Google ChromeでNetSupport Schoolをインストールおよび構成

NetSupport Schoolは、コンピューター主導の教育の効果を最大限にするために必要なツールを提供し、Google Chromebook環境で NetSupport Schoolのパワーを利用することができます。

NetSupport Schoolの生徒appは、Google ChromeOSが動作している各生徒機にインストールすることができます。先生のマシン(Windows)から、画面を監視し、迅速かつ効率的に各生徒と対話できるように各Chromebookのシステムに接続することができます。

注意: Student Chrome拡張機能がManifest V3をサポートするようになりました。サポートされるChromeOSの最小バージョンは99です。

インストールの準備

先生がChromebookを使用している生徒を監視し、対話するには、NetSupport SchoolネームサーバをWindowsサーバにインストールする必要があります。NetSupport School先生は、Windowsコンピュータにインストールする必要があります。Google Chrome拡張用NetSupport School生徒は、各生徒のChromebookにインストールする必要があります。

Chrome Studentに接続するようにNetSupport Schoolを設定する

1. 先生コンソールの [オプション] をクリックし、ドロップダウン メニューから [ネットワーク設定] を選択します。
2. ネットワークとワイヤレス設定を選択します。
3. TCP/IP設定で「**Chromebook** を含める」を選び、設定をクリックします。
4. ゲートウェイのアドレス、ポート番号そしてセキュリティキーを入力します。これはネームサーバーで設定されたものと同一でなければなりません。「**ホスト名で接続**」が選択されていないことを確認します。
5. OKをクリックします。
6. 部屋モード、ユーザーモード、固定リストまたはSISモードでGoogle Chromeの生徒を検索できます。

ChromebookでNetSupport Schoolの生徒をインストールし設定する

組織でGoogle Apps for Domainsを使用している場合、Google管理コンソールでNetSupport Schoolの設定を一元管理できます。詳細な手順については [ここをクリックしてください](#)。

1. [Google Chrome ストア](#) NetSupport School Chrome 拡張をダウンロードします。
2. 「拡張」設定ページにアクセスするためのURL <chrome://settings/extensions>を入力します。
3. Google Chrome 拡張用 NetSupport School生徒の場所を指定し、オプションをクリックします。
4. ゲートウェイのアドレスとネーム/接続サーバのポート番号を入力します。
5. 部屋モードを使用して生徒に接続する場合は、どの部屋に生徒を割り当てるかを決めます。
6. 任意で、この生徒を識別する名前を入力します。

7. 必要な生徒の設定オプションを入力したら、パスワードを入力して設定を保護することをお勧めします。
8. 「**保存**」をクリックして設定を保存します。
9. 手動で各Chromebookを設定するよりも、保存されたオプションを使用する複数インストールは、Google管理コンソールで中央管理できます。設定を含む設定ファイルを作成するには、「**ファイルにエクスポート**」をクリックします。ファイルが生成される前に、オプションページでクライアント名とMACアドレスの欄への変更を許可するオプションがあります。デフォルトでは、生成されたファイルはこれらの2つの設定を無効にします。
10. 「**ファイルの生成**」をクリックします。デフォルトでは、ファイル名は「Config.json」になります。このファイルは、一元的に必要なデバイスにNetSupport School 生徒の設定を適用するために、Google管理コンソールにアップロードすることができます。サポートが必要な場合は、[サポートチーム](#) (英国)がお手伝いをします。

接続ステータスインジケータは、生徒に表示され、生徒デバイスと先生機間の現在の接続状態を表示します。インジケーターの色は：

赤 = 接続がありません。

黄 = 接続を試みている。

オレンジ = NetSupport School 接続サーバーに接続しています。

緑 = NetSupport School 先生/現在の教室に接続しています。

注意: 生徒のインターネット使用を完全に把握できるようにするには、Google Apps for Education経由でChromeOSのユーザー設定でIncognitoモードを「禁止」することを推奨します。

インストール中にWindows以外のライセンスタイプを選択した場合、先生コンソールは必要な機能が制限されます。

特長:

- 単一のビューで各生徒機の透き通った縮小画面を表示する。
- 選択した生徒のChromebookを大きなサムネイルで表示するにはズームインします。.
- 各生徒に簡単なアンケートや意見の依頼を送信しリアルタイムで結果を表示する。
- リモートコントロール。生徒の画面を慎重に監視する(観察モード)だけでなく、リアルタイム・リモートコントロール(共有モード)で生徒のデスクトップを操作できるようになりました。必要に応じて生徒に1対1の補助と支援を提供するのに理想的です。
- 各生徒マシンに注目度の高いメッセージまたは指示を送信します。
- 先生の画面を表示。選択した生徒の画面に先生のデスクトップを「画面送信」で表示して生徒の関心と焦点を合わせます。
- 選択した生徒にアプリケーションを表示。
- 許可されていないウェブサイトをブロックする。
- 許可されたウェブサイトだけを使用する。
- すべてのインターネットアクセスをブロックする。
- 生徒のChromebookでウェブサイトを起動する。
- 生徒のChromebookのウェブサイトを閉じる。
- 生徒が現在閲覧しているウェブサイトの詳細を確認する。
- 各授業開始時に生徒に登録を要請する。
- 3種類のモードモバイルの生徒を管理できるように部屋で生徒をグループ化するための3種類のモード。

注意: 生徒のデスクトップ全体を画面受信するには、生徒は画面上のプロンプトに同意する必要があります。このオプションを提供せず、生徒が開いているブラウザウィンドウのみを画面受信したい場合は、プロンプトを無効にすることができます。詳細については、テクニカルドキュメント(英文)「[Behaviour when viewing Student Chromebooks from a NetSupport School Windows Tutor](#)」を参照してください。

Google Chromeのライセンス

ネーム/接続サーバに接続する各Google Chromeデバイスはライセンスを取得する必要があります。Google Chromeライセンスは、メインのNetSupport School製品とは独立して購入することができ、新しいライセンスファイル(NSW.LIC)を読み込むことでネーム/接続サーバに登録されます。このファイルは接続できるGoogle Chrome生徒の数を制御します。このファイルが存在しない場合でも、通常のネーム/接続ライセンスファイル(NSM.LIC)はGoogle Chromeの接続を許可しますが、これはNetSupport School生徒で利用可能なライセンス数を減らすことになります。

例

NSM.LIC(10ユーザー)とNSW.LIC(10ユーザー)の両方で、ソフトウェアは独立して各種10台の接続に制限しています。10台のNetSupport School生徒が接続していると、11台目のGoogle Chrome生徒は拒否されます。

NSM.LIC(20ユーザー)だけの場合、ソフトウェアはGoogle Chromeからまたは標準のNetSupport School生徒からに関わらず最大20台の接続に制限されます。

Android用NetSupport School先生をインストールする

先生のAndroidタブレットにインストールするために、Android用NetSupport School先生は、各生徒のデバイスに接続する機能とリアルタイムの相互作業や支援が可能になるように専用のタブレットベースの教室への製品の製品機能を拡張しています。

注意：生徒のタブレットはNetSupport School 生徒アプリを実行している必要があります。

Android用NetSupport School先生をインストールする

先生としてクラスを管理したい場合は、お使いのデバイスにNetSupport School先生(コントロール)をインストールする必要があります。

Android用NetSupport School先生アプリはAndroid v5.0いこうのタブレット上で動作し、[Google Play](#)ストアから入手可能です。

インストールおよびこの使用の詳細については、Android[先生マニュアル](#)を参照してください。

特長：

- 生徒の縮小画面を表示する。
- 生徒の画面を観察する。
- リアルタイムで生徒の評価(質疑応答)。
- アンケート。
- 生徒の登録。
- 授業の目標。
- チヤット。
- メッセージ。
- 生徒のヘルプ依頼。
- ウェブサイト起動。
- 生徒の報酬。
- ファイル転送。
- 生徒のコンピュータをロック/ロック解除。
- 生徒の画面をブランクにする。
- WiFi/バッテリーの表示。
- スタートアップ時に起動します。デバイスの電源がオンになると、Android用NetSupport School生徒が起動し(デバイスが固定の部屋にある場合)自動的にサインインします。

Androidタブレット用 NetSupport School の生徒のインストールと構成

コンピュータ主導の指導の効果を最大限に高めるために必要なツールを提供し、AndroidデバイスでNetSupport Schoolの電源機能を利 用することができます。

Android用 NetSupport School 生徒は各Androidタブレットにインストールすることができます。先生のデスクトップからは、迅速かつ効率的に各生徒との相互作用できるように各システムに接続することができます。

NetSupport Schoolの生徒アプリはAndroidタブレットで動作し、[Google Play](#)ストアから無料で入手可能です。

バージョン15.10.0003以降、NetSupport School Student for Androidは、最新のCPUアーキテクチャ(64ビットARMプロセッサ用のarm64-v8a ABI)に対応したAndroidデバイスのみをサポートします。詳細については、

[「NetSupport School Student for Android - バージョン15.10.0003からのCPUアーキテクチャサポートの変更」](#)をご覧ください。

注意: Androidアプリ用 NetSupport School先生は、お使いのAndroidデバイス上で使用することができます。

Android用生徒のセットアップと設定

デバイスからパスワード要求で保護された教室の接続設定で各デバイスを事前に設定するか、またはNetSupport School先生プログラム内から各デバイスに設定をプッシュすることができます：

1. リボンの管理タブを選択し、**生徒設定の適用**をクリックします。
2. 生徒の設定ダイアログが表示されます。
3. 設定を送信したい生徒を選びます。
4. 構成設定を変更するには「変更」をクリックします。
5. 生徒の設定変更ダイアログが表示されます。
6. 必要なオプションを設定して保存をクリックします。
7. Androidデバイス側で既にパスワードが設定されている場合は、それを入力します。
8. 送信をクリックします。
9. 部屋モードでAndroidの生徒を検索することができるようになります。

注意: 特定の環境ではNetSupport School先生コンソールは、検索中にAndroidの生徒を見つからない場合があります。Androidデバイスを検出して接続する方法の詳細については、当社ナレッジベースを訪問し、製品記事「[起動時に先生コンソールの検索でAndroidの生徒が見つからない場合の対処方法](#)」を参照してください。(英文)

インストール中にWindows以外のライセンスタイプを選択した場合、先生コンソールは必要な機能が制限されます。

Androidでサポートしている機能:

- 生徒の登録。
- 授業の目標。
- 先生からのメッセージを受信。
- 生徒のヘルプ依頼。
- グループまたは1対1のチャット。
- 生徒アンケート。
- 生徒のコンピュータをロック/ロック解除。
- リアルタイムでの指示(画面送信モード)。
- 生徒の縮小画面を表示する。
- 生徒の画面を観察する。
- 生徒の報酬。
- WiFi/バッテリーの表示。
- 生徒側でURLを起動する。
- 生徒の画面をブランクにする。
- 質疑応答モード。
- ファイル転送。
- ファイル配布。
- スタートアップ時に起動します。デバイスの電源がオンになると、Android用NetSupport School生徒が起動し(デバイスが固定の部屋にある場合)自動的にサインインします。

注意: 生徒の画面を画面受信すると、接続前に確認を求めるプロンプトが生徒に表示されます。生徒が許可しない場合、生徒の画面を画面受信できません。

NetSupport ブラウザアプリケーション(iOS版)のインストールと設定

コンピュータ主導の指導の効果を最大限に高めるために必要なツールを提供し、iOSデバイスでNetSupport Schoolの電源機能を利 用することができます。

このアプリはNetSupport DNAの中核となるデスクトップ管理機能もサポートしているので、システムの主要なインベントリの詳細を収集しオンラインアクティビティを監視することができます。NetSupport DNAの詳細については、[こちらをクリックしてください。](#)

NetSupport ブラウザアプリケーションは各 iOSデバイスにインストールできます。先生のデスクトップからは、迅速かつ効率的に各生徒との相互作用できるように各システムに接続することができます。

NetSupport ブラウザアプリはiOS v14以降で動作し、[iTunes](#)ストアから無料で入手できます。

注意: NetSupport Schoolの機能はタブレットでのみサポートされています。

NetSupport ブラウザアプリケーションを設定する

MDMソリューションを使用して、設定を一元的に構成し、プッシュすることができます。詳細については、テクニカルドキュメント(英文)「[Centrally configuring and deploying the NetSupport Browser app for iOS](#)」を参照してください。

インストール中にWindows以外のライセンスタイプを選択した場合、先生コンソールは必要な機能が制限されます。

iOSでサポートしている機能:

- 生徒登録:** 先生は各クラスの開始時に各生徒の標準またはカスタム情報を要求し、提供された情報から詳細な登録を作成することができます。
- 授業の目標:** 先生が提供している場合、接続すると現在の授業の詳細と、全体的な目標と期待される学習成果が提示されます。
- メッセージの送信:** 先生は個別、選択またはすべてのデバイスにメッセージを送信できます。メッセージを受信すると生徒は聴覚的で視覚的な通知を受信し閲覧および管理することができます。
- チャット:** 生徒と先生の両方がチャットセッションを開始し、グループディスカッションに参加できます。
- ヘルプの要求:** 生徒は支援が必要なときに教師に通知することができます。先生のデスクトップに通知が送信され、該当する生徒と対話することができます。
- 画面のロック:** 説明に注目させるために先生はアプリをロックすることができます。
- インターネットの監視:** 先生は授業中に承認されたウェブサイトだけ使用を許可したり、制限されたウェブサイトを開けなくすることができます。
- 質疑応答モジュール:** 先生は生徒の評価を実行できるようになります。口頭でクラスに質問し、回答する生徒(ランダム、早かった生徒、チーム)を選択します。複数の生徒に質問を移し、回答を評価し、その過程を通して回答を探点します。

- **クラスアンケート**：生徒やクラスの評価の一環として、先生はその場でアンケートを行い生徒の知識と理解を知ることができます。生徒はアンケートの質問にリアルタイムで対応でき、先生はクラス全体にその結果を表示することができます。生徒は自分の進捗状況のフィードバックを即時に受け取ることができます。
- **画面の送信**：説明中に先生は自分のデスクトップを接続しているデバイスに表示することができます。その時点で生徒は必要に応じて重要な情報を強調表示するためにピンチ、パン、ズームのタッチスクリーンジェスチャを使用することができます。

NetSupport School Windows 10先生アプリ

Windows用デスクトップ先生アプリケーションに加えて、ネイティブなTeacherアプリがWindowsタブレットやタッチ対応デバイスにインストールできるように設計されています。これは、補完的なコンポーネントであり、[Windowsストア](#)からダウンロードすることができます。

注意：先生アプリをインストールおよび使用の詳細については、[Windows 10先生アプリマニュアルを参照してください。](#)

シンプルで使い易さは、Teacherアプリの中心であり、コアな教室機能の多くは、新しく洗練されたインファーフェイで提供されます。

- Microsoft Surface Dialのサポート - 一般的なタスクをすばやく簡単に実行するためのNetSupportツールのラジアルメニューを表示。
- 承認および制限されたウェブサイトリストのインポート/エクスポート。
- 生徒機に文書やリソースを転送するときに、保存先フォルダを指定。
- 新しい「クラスモード」接続オプションは、Microsoft School Data Syncとの直接の統合を提供し、先生はNetSupportで管理されている授業の開始時にオンラインのSIS(Student Information Systems)教室と生徒のアカウントに即時にアクセスできます
- Chrome OSとApple Macシステムを使用している生徒の拡張プラットフォームのサポート
- デバイス制御 - USBストレージやCDR/DVDデバイスとのデータのコピー禁止や生徒機でのミュート/ミュート解除
- 電源管理 - 電源のオン/オフ、ログイン/ログアウト、教室内のコンピュータの再起動
- 教室内でのコラボレーションを向上させるための豊富な描画ツールを搭載している仮想ホワイトボード
- 生徒登録機能に印刷オプションを追加
- アプリケーション制御 - 開いているアプリケーションを最小化または閉じるオプションを新たに追加
- 生徒のヘルプ依頼を優先度(作業完了、ヘルプが必要、緊急にヘルプが必要)がわかるように色分け
- NetSupport School生徒ツールバーのオン/オフを切り替えるオプション
- 授業目標と成果の期待を表示
- 生徒の出席登録を収集
- 生徒のヘルプ依頼を監視
- 注目させるために生徒の画面をロックまたはブランク
- 生徒画面のサムネイルを監視
- 詳細な監視の場合、先生は選択した生徒の画面を気付かれずに表示することができます
- チャットとクラスにメッセージを送信
- インターネット利用の監視と制限
- アプリケーション利用(デスクトップおよびストア)の監視と制御

- 生徒の画面上にアプリケーションやウェブサイトを起動
- 授業終了時にアンケートを実施
- 進行状況を測定 - 相互および個別評価、得点など
- すべてまたは選択した生徒にドキュメントおよびリソースを転送。

タブレット用のライセンス

NetSupport School先生に接続する各AndroidまたはiOSタブレットはライセンスが必要です。タブレット用ライセンスはメインのNetSupport School製品とは独立して購入することができ、新しいライセンスファイル(NSW.LIC)をロードすることでNetSupport Schoolに登録されます。このファイルは接続できるタブレット生徒の数を制御します。このファイルが存在しない場合、通常のライセンスファイル(NSM.LIC)がタブレットの生徒の接続を許可しますが、これはNetSupport School生徒用の利用可能ライセンス数を減らすことになります。

例えば

NSM.LIC(10ユーザー)とNSW.LIC(10ユーザ)の両方では、ソフトウェアは独立して各種の10台の接続に制限します。10台のNetSupport School生徒を接続した状態では、11台目のタブレット生徒は拒否されます。

NSM.LIC(20ユーザー)だけの場合では、ソフトウェアはタブレット生徒または標準のNetSupport School生徒からに関係なく最大20台の接続に制限します。

アクティブディレクトリとの融合

Microsoft社のActive Directory ストラクチャーと連携可能なNetSupport Schoolは生徒機及び先生機の設定を一元管理することができます。

この作業を少し簡単にするために、NetSupportでは、設定可能なオプションを含む4種類のテンプレートを用意しています。(NSS_Student_machine.adm, NSS_Student_User.adm, NSS_Tutor_Machine.adm, NSS_Tutor_User.adm) NetSupportをインストール時に、NetSupport School プログラムフォルダにテンプレートがコピーされます。その次に既存のADM テンプレートがあるフォルダのこれをコピーしてください。

アクティブディレクトリ経由でクライアント設定の変更を適用するには

1. ドメインコントローラにて、アクティブディレクトリユーザとコンピューターツールを選択します。
 2. ドメインまたは組織、どのレベルにポリシーを適用するか決めます。右クリックをして、グループポリシータブを選択します。
 3. NetSupport テンプレートに追加するポリシーを選択して編集をクリックします。
- または
- 追加を選択して新しいポリシーを作成します。
4. コンピューター設定のグループポリシーエディタで、アドミニストレーティブテンプレートを選択します。
 5. 右クリックをして、テンプレートの追加/削除を選択します。
 6. 追加をクリックして、NetSupportのADM ファイルの場所を指定して開きます。新しいNetSupport ポリシーが追加されます。
 7. 閉じるをクリックします。
 8. デフォルトでは、それぞれのNetSupport ポリシーは無効になっています。

NetSupport ADMテンプレートファイルを使って生徒機または先生機に特定の設定を有効にするには、暗号化された値を入力する必要があります。例えば、セキュリティポリシーは暗号化されたセキュリティキーが必要になります。ADM テンプレートファイルでこれを設定するには、クライアントが確認できないようにするためにプレーンテキストでセキュリティキーを入力できません。ポリシーに暗号化されたセキュリティキーの値を入力しなくてはなりません。

注意:Active Directory経由でのインストール、Active Directoryポリシーファイル、以前のバージョンからのアップグレード、およびActive Directory内のNetSupport Studentプロファイルの適用の説明や最新情報については、NetSupportのウェブサイトのサポートエリア(www.netsupportsoftware.com/support)を参照してください。

無線の教室でNetSupport Schoolを使用する

無線ネットワークはデータを送信するために無線周波数を使用し、干渉を受けやすいので、有線ネットワーク程の信頼性が高くないことが一般的に認識されています。加えて、無線アクセスポイントに多数のデバイスを同時接続するとそれに割り当てられた帯域に悪影響を及ぼします。

最適化されていない無線環境でNetSupport Schoolを使用する場合、パフォーマンスの低下や先生コンソールから生徒デバイスが頻繁に切断する可能性があります。

NetSupport Schoolは、信頼できない無線ネットワークの影響を制限するために高度な技術を使用しています。無線環境でのNetSupport Schoolのインストール計画の詳細については、[こちらをクリックしてください](#)。

無線環境で使用するためにNetSupport Schoolを最適化する

お使いの教室内のデバイス間で信頼性の高い無線接続を確立したら、先生コンソール内に無線ネットワークのパフォーマンスを最適化するために変更できるいくつかの設定があります。

学校が利用可能なネットワーク帯域の量は限られています；生徒の画面を表示する、ファイルを配布する、または先生の画面を同時に配信することは、この帯域を消費します。

NetSupport Schoolは、パフォーマンスが向上するようにネットワーク上で送信されるデータ量を減らすために設計された複数の構成設定オプションを提供します。これらのオプションは、先生コンソール内のそれぞれの構成設定セクションで見つけることができます。

注意: アクセスポイントの再設定に関する一般的なアドバイスについて。[当社のナレッジベースに訪問し](#)、製品記事「ワイヤレスネットワークでのNetSupport Schoolの最適化」を参照してください。(英文)

無線環境において、次のように先生の設定のパフォーマンスセクション内のオプションが設定されていることをお勧めします：

減色: 生徒の画面受信や画面送信時に最大色数を設定することができます。デフォルトでは、256色(高)に設定されています。

低帯域モード: 転送される映像フレーム数が毎秒約5フレームに減少されます。これを設定すると、無線の生徒が検出されると、無線が自動的に低帯域モードがオンになります。

さらに、無線ネットワークでNetSupport Schoolを使用する場合、先生コンソールのネットワークと無線設定セクション内で次のオプションが有効になっていることが推奨されます：

一斉画面送信とファイル配布を有効にする: 複数の生徒に先生の画面を一斉送信またはファイルを配布するときに、このオプションを有効にすると画面データやファイルがすべてのマシンに同時に送信されるようになります。

最後に、無線アクセスポイントがデータを配信する速度と一致するように先生コンソールがネットワーク上でデータを送信する速度を減少させることでパフォーマンスを向上させることができます。ネットワーク上のデータ送信が速すぎると、パケットが失われることになり、生徒がデータを再要求し追加のトラフィックがネットワークに発生する原因になります。

無線環境の場合、次のオプションが設定されていることを推奨します：

無線ネットワーク: 無線環境で最高のパフォーマンスを得るためにNetSupport Schoolを最適化するには、このオプションを選択します。

最大スループット: トこのオプションは、先生コンソールが接続した生徒のデバイスにデータを送信する速度を微調整する機能を提供します。

NetSupport 接続サーバーを使用して生徒PCを検索する

NetSupport 接続サーバーまたは「名前と接続/ゲートウェイ」は、オプションのインストールコンポーネントとして提供されます。その目的は、LAN /無線ネットワーク環境で生徒PCを見つけて接続するための簡単で信頼性の高い方法を提供することです。従来の接続方法では難しい教室間をノートパソコンで移動する生徒を検索するときに役立ちます。

設定が完了すると、生徒PCは起動時に接続サーバーに接続し、可用性と現在のIPアドレスをサーバーに登録します。先生側では、生徒を検索する際、ネットワーク上でUDP検索をするのではなく、接続サーバーの検索が実行されます。先生プログラムは接続サーバーに登録されているIPアドレスを使用します。

接続サーバーは、すべての開始モードで使用できます。

従来の検索オプションよりも接続サーバーを使用する利点は:

- 生徒PCの場所をネットワーク検索する必要がなくなる。
- 生徒の検索時間を短縮。
- 先生コンソールの設定でのブロードキャスト範囲の設定や管理を軽減。
- ワイヤレスLAN環境でのより信頼性の高い接続。先生は、接続にを確立するためにIPアドレスを使用します。生徒のノートパソコンがアクセスポイントを変更したり、新しいIPアドレスを取得した時などのワイヤレス環境の問題を回避。
- OneRosterまたはGoogle Classroomを使用してSIS環境に接続します。

接続サーバーを使用するための基本的な条件は次のとおりです:

- 先生と生徒PC全てでアクセス可能にするためにPCにインストールする必要があります。
- スタティックなIPアドレスを持たせる必要があります。
- 先生と生徒のPCが接続サーバーを使用するように設定されている必要があります。
- 接続サーバー、先生PCと生徒PCは、一致する接続サーバーのセキュリティキーが設定されている必要があります。

NetSupport 接続サーバのインストールと設定

「NetSupport接続サーバー」または「ゲートウェイ」は、先生と生徒PCの両方からアクセス可能なマシンで動作するように設計されています。したがって、固定または静的IPアドレスを持つ必要があります。接続サーバーは使用したいマシンにスタンダードアローンのコンポーネントとして、または他のNetSupportコンポーネントと一緒にインストールできます。

NetSupport Schoolのインストールを実行したら、カスタムセットアップ画面から名前と接続サーバーコンポーネントを選択します。サーバー(ゲートウェイ)のプロパティも設定する必要があります。インストールの最後に「NetSupport 接続サーバーの構成」ダイアログボックスが表示されます。またはインストール後に、システムトレイの接続サーバーのアイコンを右クリックする、またはまたはNetSupport 接続サーバーコンソールの「ファイル」メニューからダイアログを起動することができ、

注意: システムトレイに接続サーバーのアイコンを表示するには、{スタート} {プログラム} {スタートアップ} {接続サーバー}を選択します。Windows 8のマシンでは、スタート画面で右クリックして画面の下部のすべてのアプリを選択します。NetSupport Schoolネームサーバーコンソールアイコンをクリックします。

接続サーバーは、接続サーバー機のIPアドレスとセキュリティキーで構成されます。この内容は、先生と生徒双方でも同じ内容を入力する必要があります。これにより、様々なコンポーネント間での接続が可能となります。

先生と生徒の接続オプションが指定した接続サーバーを使用するように設定されると、生徒機が起動する度に現在のIPアドレスがサーバーに登録されます。順番に、先生は開始時に現在定義されている生徒の検索方法を確認しますが、ネットワークのUDP参照を実行せずに、接続サーバーをポーリングして基準に一致する生徒を見つけます。

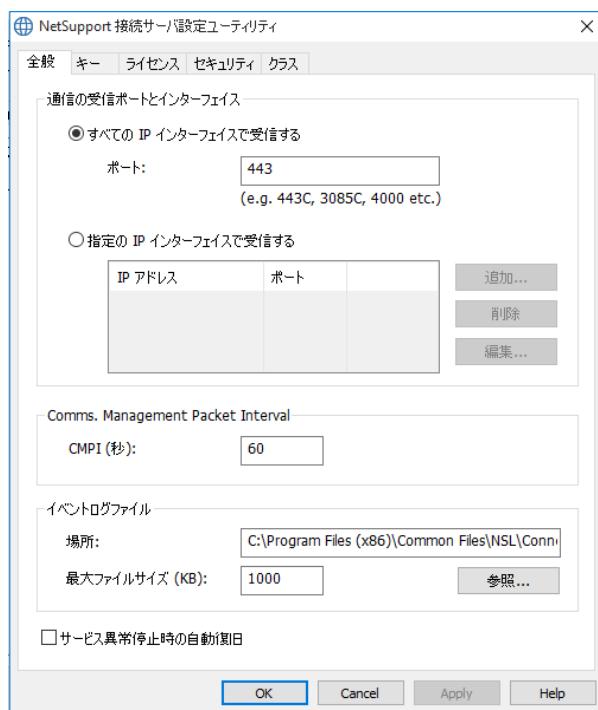
注意: 部屋モードのネームサーバ経由で生徒に接続する場合は、先生の環境設定とクライアント設定の両方でネームサーバ設定を設定する必要があります。

NetSupport 接続サーバー構成ユーティリティ - 全般タブ

NetSupport 接続サーバー(ゲートウェイ)のプロパティを構成するには、このダイアログを使用します。

インストールの最後にダイアログが自動的に表示される、またはシステムトレイに表示される**NetSupport 接続サーバー**アイコンからダイアログにアクセスできます。アイコンを右クリックして、**接続サーバーの構成**を選択します。このダイアログは、NetSupport 接続サーバーコンソールからもアクセスできます。ドロップダウンメニューから{ファイル} {接続サーバーの構成}を選択します。またはNetSupport School のプログラムフォルダ内のPcigwcfg.exe を実行することも可能です。

注意: システムトレイにNetSupport 接続サーバーのアイコンを表示するには、スタート画面をクリックし、[すべてのアプリ]、[NetSupport School] を選択して、[NetSupport School 接続サーバーコンソール] をクリックします。



通信の受信ポートとインターフェース

全てのIPインターフェイスでリッスン: デフォルトでは、インストールされている接続サーバーコンポーネントは、ローカルIPアドレスを使用し、ポート「443」を介して通信します。

特定のIPインターフェースで受信する: 接続サーバー機に複数のネットワークカードがインストールされている場合は、使用する特定のIPアドレスを追加できます。追加をクリックしてアドレスを入力します。

注意: 接続サーバー機のIPアドレスとキーも先生と生徒のワークステーションの両方で設定する必要があります。

CMPI (secs) Comms. Management Packet Interval

CMPI(秒): 接続サーバー接続用に構成されている場合、クライアント機は、接続サーバーを定期的にポーリングすることで、その有効性を確認します。デフォルトでは60秒ごとにネットワークパケットが送信されていますが任意に設定変更可

能です。

イベントログファイル

アクティブセッション中の接続サーバーの動作は、テキストファイル、デフォルトのGW001.LOGに記録されます。どのクライアントとコントロールが接続サーバーを介して接続しているかを確認するのに便利です。

場所: デフォルトでは、ログファイルは¥¥program files¥Common Files¥SSL¥Connectivity Server¥GW001.logに格納されます。参照を選択してパスを指定します。

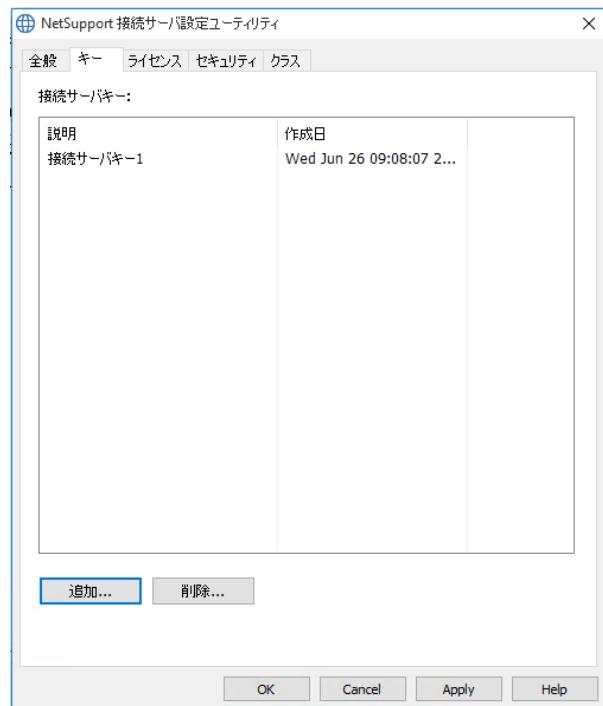
最大ファイルサイズ: 一定の期間を過ぎるとログファイルの容量が大きくなります。最大ファイルサイズを指定することで是を管理することができます。もし限度に達し東会いは既存のファイル情報は新しい記録に上書きされます。

注意: ログファイルの変更をすぐに有効にするには、Gateway32サービスを再起動する必要があります。

サービス異常停止後の自動復旧

デフォルトでは、異常なシャットダウンが発生した場合、ゲートウェイサービスは自動的に回復します。

NetSupport 接続サーバー構成ユーティリティ - キータブ



接続サーバーキー

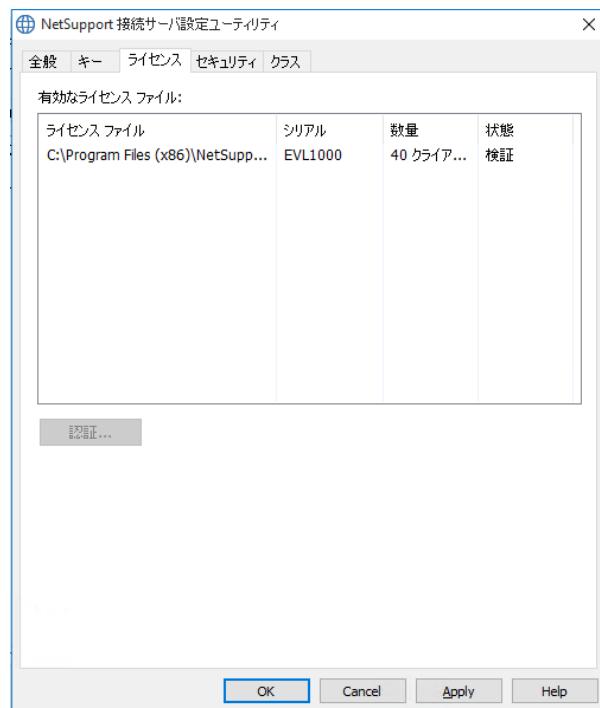
NetSupport 接続サーバーへのアクセスは、セキュリティキーの使用によって保護されています。

接続サーバーは、「接続サーバーキー」が指定されていて、先生と生徒の両方でそれと同じキーが構成されていない限り、先生または生徒からの接続を受け付けません。接続サーバーは、少なくとも1つのキーを指定する必要があり、複数のキーをサポートすることができます。

追加を選択してキーを指定してください。キーは8文字以上です

NetSupport 接続サーバー構成ユーティリティ – ライセンスタブ

NetSupport School フォルダに保存されているすべてのライセンスを表示します。インターネット接続がない場合は、ここでお使いの NetSupport School ライセンスを手動で認証することができます。

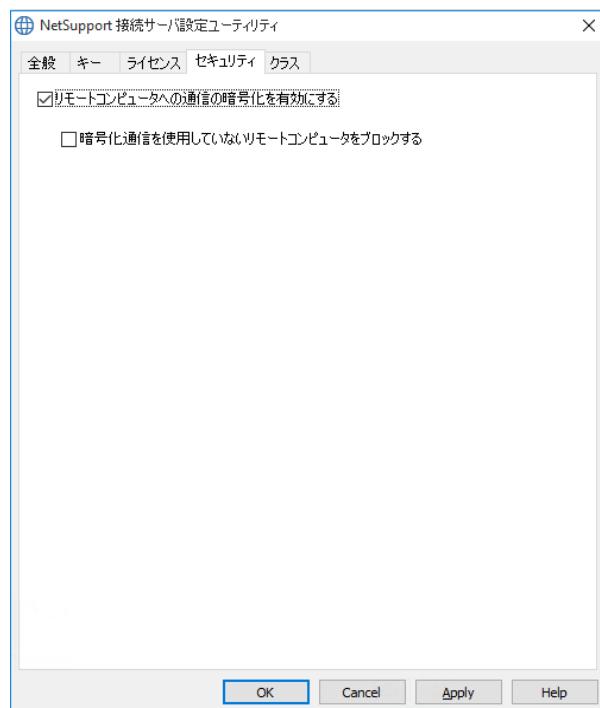


アクティベーションコードが必要です。NetSupport または販売元にご連絡ください。「有効化」をクリックし、コードを入力します。その後、NetSupport 接続サーバーを再起動する必要があります。.

注意: インターネット接続が利用可能な場合、ライセンスは自動的に有効になり、NetSupport 接続サーバーを再起動する必要はありません。

NetSupport 接続サーバー構成ユーティリティ - セキュリティタブ

NetSupport 接続サーバーは、リモートコンピュータからの通信を開始する際に使用する暗号化の強化レベルのサポートを提供します。



リモートコンピュータと暗号化通信を有効にする

有効にすると、接続処理のすべての通信が暗号化されます。

注意: リモートコンピュータ(コントロールおよびクライアント)は、バージョン10.61またはそれ以降が動作している必要があります。

暗号化通信を使用していないリモートコンピュータをブロックする: 古いバージョンのコントロールおよびクライアントプログラムは、暗号化の強化レベルをサポートしていません。このオプションを選択すると、これをサポートしていないコントロールまたはクライアントのバージョンが動作しているリモートコンピュータからの接続をブロックします。

NetSupport 接続サーバー構成ユーティリティ - クラスタブ

NetSupport 接続サーバーはOneRosterまたはGoogle Classroomと直接の統合を提供し、オンラインSIS(生徒情報システム)クラスルームと生徒アカウントへのアクセスを提供します。



クラスデータソース

なし: このオプションを選択すると、以前に保存されたSIS情報がすべて削除されます。

ClassLink OneRoster: ClassLink One Rosterにリンクするには、このオプションを選択し、学校のテナントIDを入力します。追加の確認として、Rosterサーバーポータルで提供されているNetSupport School セキュリティ/APIキーを入力します。(キーは、アプリケーション > NetSupport School > APIキーとシークレットを選択してOneRosterサーバーポータルで見つけることができます。) ClassLink OneRosterとの統合に関する情報については、次のテクニカルドキュメントを参照してください: [NetSupport School SISとClassLink OneRosterの統合](#)。

OneRosterのzip形式のCSVファイル: また、圧縮されたCSVファイルを使用することもできます。[...]をクリックし必要なファイルを参照します。

注意:

- CSVファイルの作成、およびこれらのファイルを使用したバルクインポートとデルタインポートの実行の詳細については、次のテクニカルドキュメントを参照してください [CSVファイルを使用してSIS/MISデータをインポートする](#)。
- CSVファイルはOneRoster規格に準拠している必要があります。
- OneRoster zipファイルを使用するように接続サーバーを初めて構成するときは、SISデータの一括エクスポートを行う必要があります。

Google Classroom: このオプションを選択してGoogle Classroomにリンクします。参照するには  をクリックし、マシンにコピーしたJSONファイルの1つを選択します(両方のファイルが存在している必要がありますが、どちらのファイルも選択できます)。Google Classroom Projectをセットアップして必要なJSONファイルを作成する方法については、[こちらをクリックしてください](#)。

「適用」をクリックすると、管理者の資格情報でGoogle G Suiteにサインインし、NetSupport Schoolへのアクセスを許可するように求められます。

1日の同期数

デフォルトでは、接続サーバーは1日1回OneRosterまたはGoogle Classroomと同期します。別の値をここに入力することで修正でき、同期が行われる時間を指定することもできます。

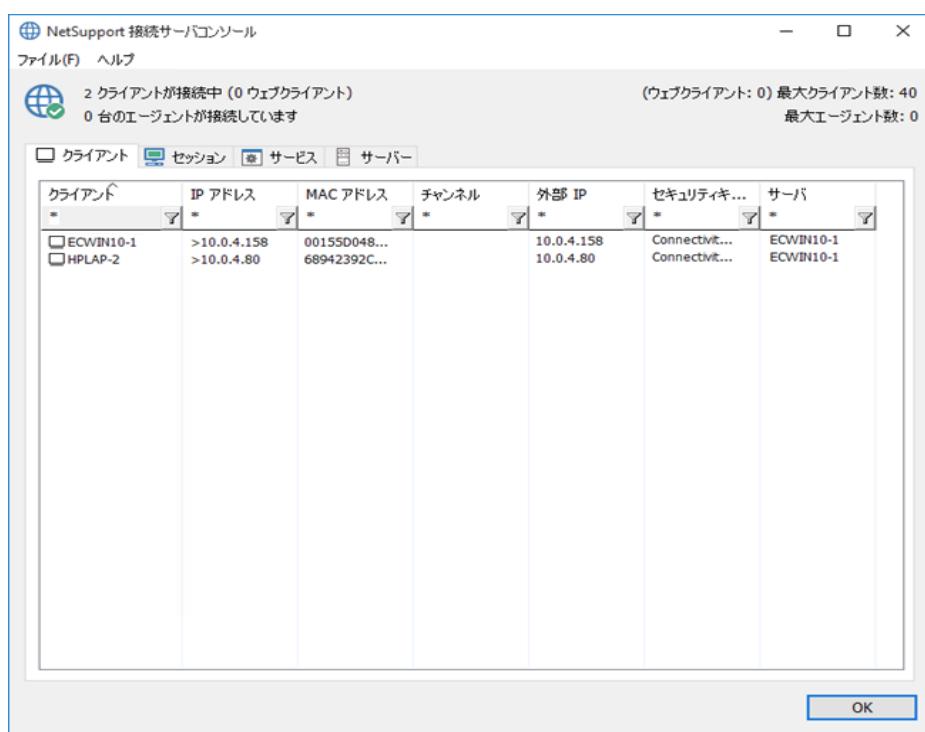
接続サーバーを同期するには、「今すぐ同期する」をクリックします。「データをリセットする」をクリックすると、保存されている以前のデータがすべて消去されます。ダウンロードするデータが多い場合は、しばらく時間がかかる場合があります。

NetSupport 接続サーバ

リモートサポートソリューションの成功のカギは、デバイスがどこにあっても場所を特定し接続できる能力です。NetSupport School 豊富な接続方法を標準で提供します。

NetSupport 接続サーバ接続サーバは、インターネット上のすべてのNetSupport School 接続を管理するセントラルハブです。コンソールから、どのNetSupport School 接続コンポーネントがインストール済みで使用中か確認できます。

NetSupport 接続サーバを開くには、システムトレイ内の **NetSupport 接続サーバ**アイコンを右クリックして開くを選ぶかアイコンをダブルクリックします。



現在接続しているクライアント数の概要が表示されます。詳細情報はそれぞれのタブで確認できます：

- クライアント:** NetSupport 接続サーバに現在接続しているすべてのNetSupport School クライアントの一覧を表示します。.
- アクティブセッション:** 接続が開始した日付と時間と一緒に、NetSupport School コントロールとNetSupport School クライアント間の現在の接続の一覧を表示します。
- サービス:** 部屋モードでアクティブ状態のNetSupport School先生の一覧を表示します。ネームサーバを通して NetSupport Schoolクライアントが部屋に接続することができます。

注意: クライアント、アクティブセッション、サービスタブのコンテンツをフィルター処理して、特定の条件を満たすアイテムのみを表示することができます。必要な列見出しの下の[フィルター]フィールドに検索語を入力すると、一致する項目が表示されます。▽をクリックしてフィルターをクリアします。

データのエクスポート

データは.CSVファイルにエクスポートできるため、さらに分析できます。データをエクスポートするタブを選択し、ドロップダウンメニューから{ファイル}{エクスポート}を選択します。

NetSupport 接続サーバの設定を設定するには、ドロップダウンメニューから {ファイル}{接続サーバを設定}を選択します。

グループに対する操作

NetSupport Schoolでは、生徒をグループにまとめて管理できます。グループに所属する生徒全員に対して、以下の各操作を一度にまとめて行うことができます：

- 画面送信
- ファイル配布
- 巡回
- アプリケーション実行
- メッセージ送信
- キーボードとマウスのロック/解除
- マルチメディア機能
- 教材の配布/回収
- チヤット
- 質疑応答チーム

グループを作成する

1. リボンのグループタブを選択し、**追加**をクリックします。
または
グループバーの**グループ オプション** ≡ アイコンをクリックし、**追加**を選択します。
2. **グループの追加** ウィザードが表示され指示に従いグループ名や説明を入力するだけで簡単に作成できます。

作成したグループはグループバーに表示されます。

生徒をランダムにグループ化する

1. リボンのグループタブを選択し、**ランダムにグループ化**をクリックします。
2. ランダムでグループ化 ダイアログが表示されます。

ランダムで割り当てる: 生徒はランダムでグループに割り当てられます。必要なグループ名を入力します。

生徒が選択する: 生徒は参加するグループを選択することができます。グループ名を入力し、カンマで各値を区切ります。

3. チームをグループ化する方法を選びます。
4. OKをクリックします。
5. 新しく作成されたチームがグループバーにタブとして表示されます。

グループのメンバーを変更する

1. グループバーで必要なグループを選択します。
2. リボンのグループタブを選択し、**プロパティ**をクリックします。

または

グループバーの**グループ オプション** ≡ アイコンをクリックし、**プロパティ**を選択します。

または

必要なグループタブのドロップダウンアイコンをクリックし（グループタブの右側にマウスを置くと表示されます）、**プロパティ**をクリックします。

3. [メンバー]タブより生徒の追加/削除を行います。
4. グループメンバーの変更が完了したら、**OK**をクリックします。

または

選択したクライアントを右クリックして**[グループから削除]**を選択します。

グループを削除する

編成したグループが必要なくなった場合は、そのグループを削除できます。この操作によって、そのグループの生徒が削除されることはありません。

グループを削除する

- 削除したいグループを選択します。
- リボンのグループタブを選択し、**削除**をクリックします。

または

グループバーのグループ オプションアイコンをクリックし、**削除**を選択します。

または

必要なグループタブのドロップダウンアイコンをクリックし（グループタブの右側にマウスを置くと表示されます）、**削除**をクリックします。

- はいをクリックして、グループの削除を確認します。

注意: 今後、このメッセージを表示したくない場合は、[今後は表示しない] をクリックします。先生のユーザーインターフェイス設定でオンに戻すことができます。

グループリーダーを指定する

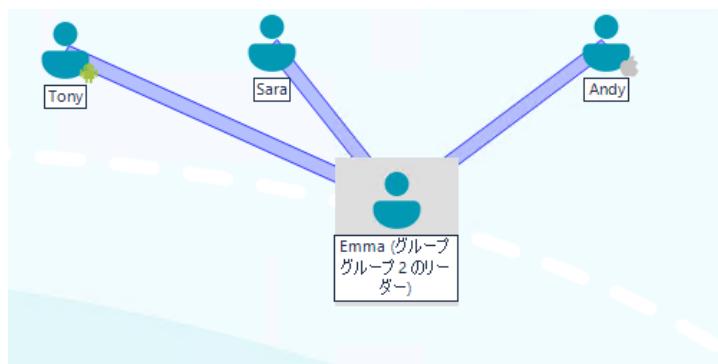
生徒のグループと作業するときに、先生はグループ内から生徒を選んで「グループリーダー」に指定することができます。グループリーダーに指定された生徒はグループを制御でき、先生に代わって多くの作業を実行できるようになります。グループリーダーが先生の作業を代行中も、全責任は先生が保持し、先生はグループリーダーをいつでも解任できます。

グループリーダーが実行する機能を選択するには、先生コンソールでオプションをクリックし、ドロップダウンメニューから設定を選択して、グループリーダーを選択します。

グループリーダーを指名する

1. グループバーでグループを選択します。
2. グループリーダーとする生徒を選択します。
3. 必要な生徒を右クリックし、グループリーダーに任命を選択します。

先生コンソールの生徒アイコンがハイライトされ、その生徒がグループリーダーであることを示します。グループリーダーから生徒へのリンクを示す接続バーが表示されます。無効にするには、先生コンソールでオプションをクリックし、ドロップダウンメニューから設定を選択し、グループリーダーを選択して、**視覚的グループリーダーの接続を表示**オプションをオフにします。コントロールウインドウのドロップダウンメニューから {表示} 現在の設定 - グループリーダー}を選択し、[グループリーダーの接続を表示する]を有効にします。



生徒はグループリーダーに指定されたメッセージを受け取ります。今すぐ実行をクリックしてグループリーダー機能をすぐに実行するか、生徒ツールバーのグループリーダーの実行 アイコンまたはシステムトレイのグループリーダーの実行 アイコンをクリックして後で実行するかを選択できます。先生コンソールの簡易版が開き、選択した機能にアクセスできるようになります。

注意:

- 生徒は複数のグループに所属できますが、グループリーダーになれるのは1グループのみです。
- メンバーが既に別グループのリーダーであっても各グループでグループリーダーを設定することができます。
- 先生にはグループリーダーを含む生徒全員の画面が表示されます。

グループリーダーを停止する

グループリーダーがいるときに、グループリーダーの操作と競合することなく、先生がタスクを実行したい場合があります。そのような場合は、グループリーダーをいちいち解任したり復帰させたりしなくても、必要に応じてグループリーダーを停止したり、復帰させたりできます。

グループリーダーを停止する

1. リボンのグループタブを選択し、**すべて一時停止**をクリックします。
2. 全グループリーダーが停止状態になります

グループリーダーを復帰させる

1. リボンのグループタブを選択し、**すべて一時停止**をクリックします。
2. 全グループリーダーの停止が解除されます。

グループリーダーを解任する

先生はいつでもグループリーダーを解任できます。

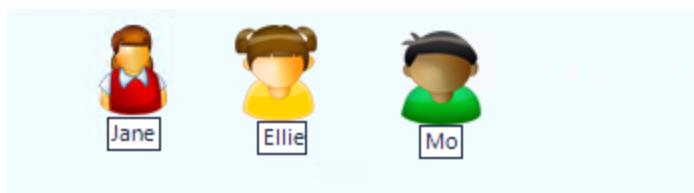
グループリーダーを解任する

1. グループリーダーを解任するグループを選択します。
 2. 生徒アイコンを右クリックし、**グループリーダーの削除**を選択します。
- または
3. 必要なグループタブのドロップダウンアイコンをクリックし (グループタブの右側にマウスを置くと表示されます)、**リーダーの削除**をクリックします。

「グループリーダー権は解除されました。」というメッセージを生徒は受け取ります。

生徒またはグループアイコンをカスタマイズする

コントロールウィンドウに表示される生徒とグループアイコンは必要に応じてそれぞれカスタマイズ可能です。一覧から画像の選択が可能です。マシン名またはログオンユーザーに適用できます。



クライアントとグループアイコンのカスタマイズ

1. グループバーから必要な生徒またはグループを選択します。
2. 生徒を右クリックし、**カスタマイズ**アイコンをクリックします。
または
リボンのグループタブを選択し、**カスタマイズ**をクリックします。
3. 画像のカスタマイズダイアログが表示されます。3つのタブの1つを選択します:

クライアント	選択した画像をマシン名に適用します。
ログオンユーザー名	ユーザー名に画像を適用します。したがって生徒がどのマシンにログオンしても読み込まれます。このオプションはマシン名を優先します。
グループ	設定した各生徒のグループに画像を適用できます。

4. リストからクライアント名やグループを選択して変更をクリックします。ログオンユーザー名オプションを使用する場合、追加をクリックして、生徒のログオン名を入力します。
5. アイコン画像を参照します。プログラムフォルダ内にデフォルトライブラリ (*.ncl) がいくつか存在します。もしくはご自身で好きな画像を選択することもできます。画像を反転させてOKをクリックします。他のクライアントまたはグループにも同じ手順を繰り返します。
6. 終了したら完了をクリックします。

注意:個々のクライアントやグループのアイコンは選択したアイコンのプロパティを編集すれば変更できます。生徒を右クリックしてプロパティ  アイコンをクリックし、詳細タブを選択して外観セクションのカスタマイズをクリックするか、必要なグループタブのドロップダウンアイコンをクリックします(グループタブの右側にマウスを置くと表示されます)。プロパティをクリックし、全般タブを選択して、外観セクションのカスタマイズをクリックします。

NetSupport School の使い方

ここでは、NetSupport School の起動方法と、先生の画面を生徒に見せる(ショー)、生徒の画面を先生コンソールで画面受信する、メッセージを送信するといった基本的な機能について説明します。

NetSupport Schoolをお使いいただくにあたって、次のことを覚えておいてください。NetSupport School 先生のプログラムが起動しているパソコンを、「先生コンソール」または「コントロール」といいます。また、NetSupport School 生徒のプログラムが起動しているパソコンを、「生徒機」または「クライアント」といいます。先生コンソールでは、自分の画面を生徒機のユーザ(すなわち生徒)に見せたり、生徒機をリモートコントロールすることができます。一方生徒機では、先生コンソールから送られてきた画面を見ることができ、先生コンソールのユーザ(すなわち先生)にリモートコントロールされます。

注意: ここでは、先生がコントロールしようとする生徒のパソコンに、NetSupport School生徒のプログラムが既にインストールされていることを前提に説明しています。まだ生徒のプログラムをインストールしていない場合は、インストールしてからお読みください。インストール方法の詳細は、「インストール」を参照してください。

生徒のマウスとキーボードをロック/解除する

画面送信中には、生徒機のマウスとキーボードは自動的に画面ロックされますが、それ以外の場合にも、マウスとキーボードを画面ロックすることができます。ただし接続中の生徒機だけ有効です。

生徒機のキーボードとマウスをロックする

1. ロックしたい生徒またはグループを選択します。
2. リボンの[クラス]タブを選択して、[ロック]をクリックします。

または

ツールバーの[ロック]アイコンをクリックします。

または

すべての生徒をロックするには、キャッシュバーの[すべてロック]をクリックします（どのウィンドウからでも実行できます）。表示されていない場合は、キャッシュバーの[クイックアクセスリストの構成]アイコンをクリックし、ドロップダウンリストから[すべての生徒をロック/ロック解除]を選択します。

注意: デフォルトでは、すべての生徒をロックすると、生徒のサウンドはミュートされます。このオプションは、生徒のユーザーインターフェイス設定で無効にすることができます。

3. デフォルトではマウスとキーボードがロックされると生徒の画面にロック中の画像が表示されます。



生徒のキーボードとマウスのロックを解除する

1. リボンの[クラス]タブを選択し、[ロック解除]をクリックします。

または

ツールバーの [ロック解除] アイコンをクリックします。

または

すべての生徒をロックしている場合は、キャッシュバーで[すべてロック解除]をクリックします。

生徒をロックする際の画像を変更する

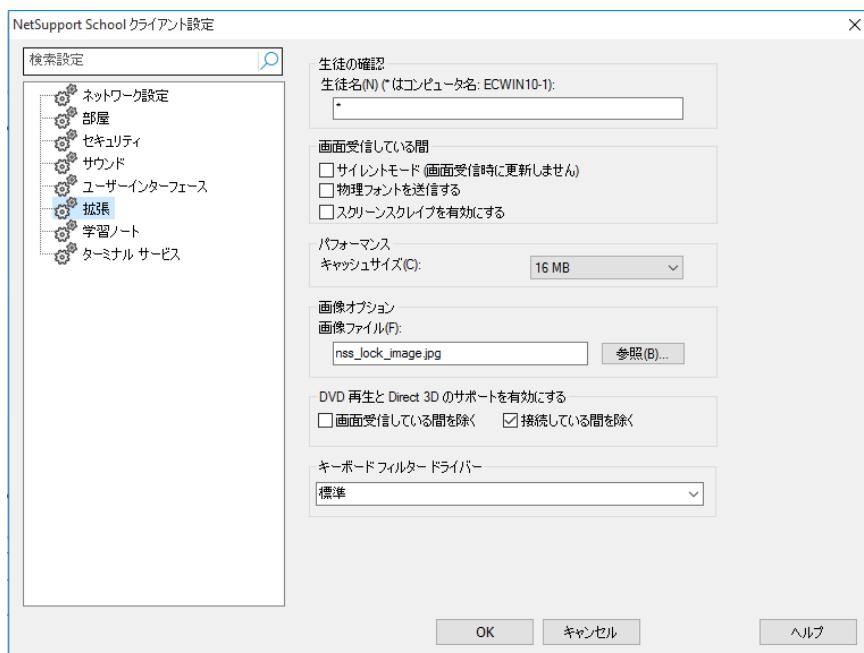
生徒のキーボードとマウスをロックすると、生徒の画面にデフォルトの画像が表示されます。この画像は必要に応じて変更できます。

ロック画像は生徒のコンピュータの C:\Program Files\NetSupport\NetSupport School に保存されます。nss_lock_image ファイルを独自のファイルに置き換えることで、画像を変更することができます。または、生徒用設定ツールで別の画像ファイルを選択し、NetSupport School 展開機能を使用して、接続されているすべての生徒のコンピュータに新しい設定を展開することもできます。

注意: カスタムグラフィックは生徒のコンピュータに配布する必要があります。これはファイル配布を使用して行うことができます。

グラフィックを変更するには

1. クライアント設定の { 拡張 } から画像オプションを選択します。



2. 画像ファイルにデフォルトファイル名が表示されます。
3. 参照をクリックして関連ファイルを選択して開きます。
4. 画像ファイルは新しいファイルを表示します。
5. OK をクリックします。

注意:

- 画像ファイルが生徒側にない場合、「先生によってロックされています」というメッセージが生徒側にフラッシュ表示されます。
- 画像ファイルが見つからない場合、生徒の画面に黒い画面が表示されます。

生徒の画面を受信する

生徒に接続すると、その生徒の画面を先生コンソールで見ながらリモートコントロールできるようになります。この状態を画面受信といい、生徒の画面が表示されるウインドウを画面受信ウインドウといいます。複数の生徒の画面受信ウインドウを同時に表示することができます。

注意: 必要に応じて、先生から見られていることを知らせるメッセージを生徒機に表示できます。

クライアントを画面受信するには

1. クライアントアイコンをダブルクリックします。

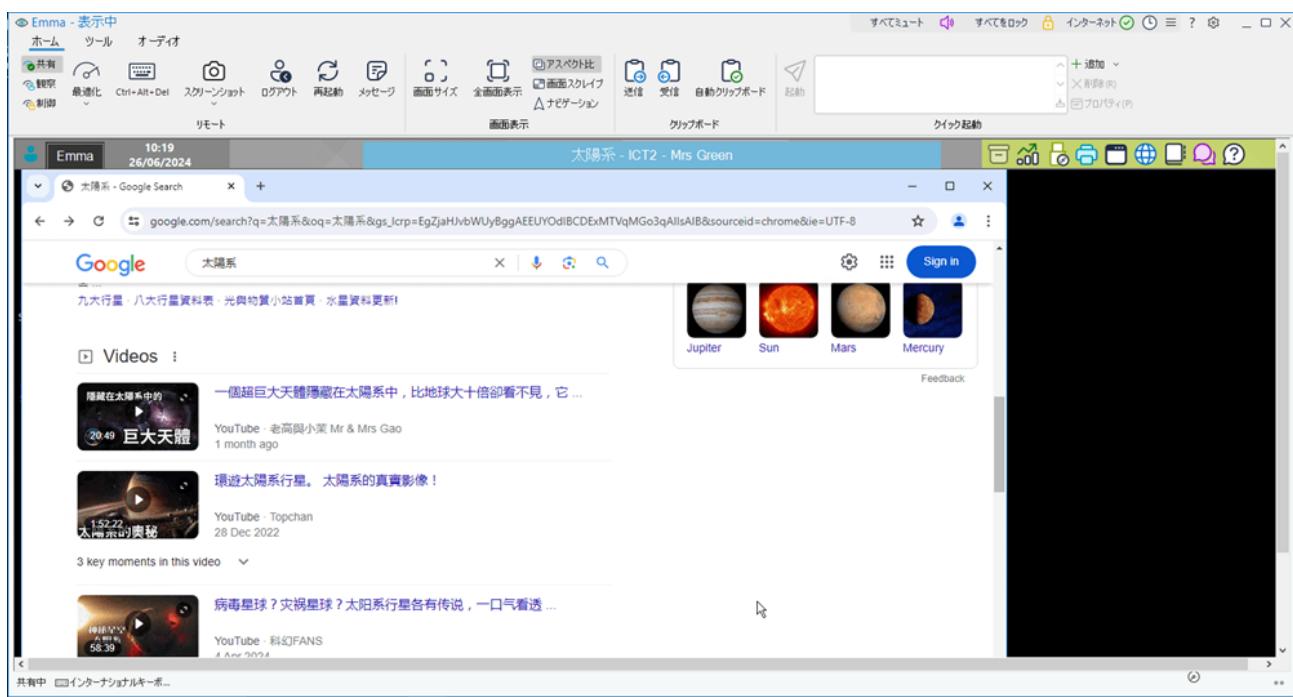
または

必要な生徒アイコンを選択した状態で、リボンの[クラス]タブを選択し、[クライアントの表示]をクリックします。

または

クライアントアイコンを右クリックして、[画面受信]を選択します。

2. コントロールにクライアント画面受信ウインドウが表示されます。



生徒画面のナビゲーションを支援するために、画面のサムネイルが表示され（生徒が複数のモニターを実行している場合はすべて表示されます）、生徒のデスクトップをより簡単にスクロールできます。サムネイル内をクリックしてドラッグすると、特定の領域が表示されます。ナビゲーション ウィンドウは、[ビュー] ウィンドウリボンの[ナビゲーション]アイコンをクリックして有効または無効にできます。

注意:

- 画面受信のパフォーマンスを確保するために、生徒機ではアクティブデスクトップをオフにしておいてください。
- 生徒が複数のモニターを使用している場合、リボンの[モニター]タブをクリックして、モニターを切り替えたり、デスクトップ全体を表示したりできます。
- 先生と生徒の両方がタッチ対応デバイスを使用している場合、先生はタッチコマンドを使用して生徒のコンピュータを制御することができます。

画面受信を停止してコントロールウィンドウに戻ります

1. キャプションバーで、[閉じる]  アイコンをクリックします。

画面受信モード

画面受信には3つのモードがあります:

共有	生徒の画面を先生と生徒でキーボード入力とマウス操作を共有することができます。
観察	生徒だけキーボード入力とマウス操作をする事ができます。先生画面には生徒の画面が表示されますが、一切の操作が行えません。
コントロール	先生だけがキーボード入力とマウス操作をする事ができます。生徒は一切の操作を行えません。

画面受信モードを変更するには

1. 生徒を画面受信中に、表示ウィンドウのリボンでホームタブを選択し、**共有**、**監視**、または**制御**を選択します。

その他の画面受信 ウィンドウオプション:

モニター

生徒が複数のモニターを実行している場合に、画面受信するモニターを選択できます。デスクトップ全体または特定のモニターを画面受信できます。特定のモニターを画面受信している場合は、モニタ番号が画面受信アイコン画像に表示されます。リボンの [モニター] タブをクリックすると、モニターに関する詳細情報を表示できます。

注意: このオプションは、画面受信している生徒に複数のモニターがある場合にのみ表示されます。

画面サイズ

生徒の画面全体が画面受信 ウィンドウ内に収まるように表示します。

全画面表示

先生の利用可能な画面領域全体を使用して生徒の画面を表示します。全画面モードではフローティングツールバーが提供され、選択したツールにアクセスできます。

注意: ウィンドウモードに戻るには、Ctrl+左 Shift+右 Shift を選択するか (ショートカット キーは先生の構成 - キーボード/マウス設定でカスタマイズできます)、またはフローティングツールバーのウィンドウ  アイコンをクリックします。

タッチボーダー

タッチ対応デバイスで生徒の画面を受信しているとき(先生もタッチ対応デバイスを使用している必要があります)、タッチボーダーを有効にすることができます。このボーダーは、ドラッグ・タッチ・ジェスチャーを使用時にの特定の機能へのアクセスを簡単にします。

アスペクト比

リモート画面の正しいアスペクト比を維持する。

クリック表示バー

接続中の生徒の画面受信ウィンドウを、クリック表示バーを使って切り替えることができます。生徒機に接続されると、そのクライアント名のアイコンがクリック画面受信バーに表示されます。画面を見たい生徒のアイコンをクリックするだけで、その生徒の画面受信ウィンドウが表示されます。また、画面受信ウィンドウが表示されているときにその生徒のアイコンをクリックすると、画面受信ウィンドウが閉じます。

コントロールウィンドウにクリック表示バーが表示されていないときは、[表示]メニューの {ツールバー} クリック表示}をクリックすると表示されます。

ナビゲーション

生徒画面のナビゲーションを支援するために、画面のサムネイルイメージを示すナビゲーションウィンドウが表示されます（生徒が複数のモニターを実行している場合は、すべてのモニターが表示されます）。これにより、生徒のデスクトップをより簡単にスクロールできます。サムネイル内をクリックしてドラッグすると、特定の領域が表示されます。

最適化

生徒の画面を受信時、デフォルトでは色数は256色（高）に設定されています。このオプションは、生徒の画面を受信時に画質を変更することができます。

ビュー中に生徒機で画面を非表示にする

リモートコントロール中に、セキュリティの理由から作業状況を生徒に見せたくない場合は、次の手順で生徒機の画面を非表示にすることができます。

注意: この機能は、Windows 10 v2004以降を実行している生徒でのみ利用できます(Windows 8 以前を実行している生徒にはレガシー サポートが提供されます)。

生徒機で画面を非表示にする

1. ビューウィンドウリボンの[ホーム]タブを選択し、[空白の画面]をクリックします。
2. 生徒の画面が非表示になります。
3. 画面を戻すにはビューウィンドウのメニューから[ホーム]タブを選択し、[空白の画面]をクリックします。

Ctrl+Alt+Del を送信する

画面受信中の生徒機に Ctrl+Alt+Del を送信することができます。

画面受信中に Ctrl+Alt+Del を送信する

1. Ctrl+Alt+Esc を同時に押します。

または

1. 表示ウィンドウリボンのホームタブを選択し、Ctrl+Alt+Deleteをクリックします。
2. [はい]をクリックして確認後 Ctrl+Alt+Delete を送信します。

全生徒機で画面を非表示にする

ビュー中に個々の生徒機の画面を非表示にするだけでなく全生徒機の画面を一斉に非表示にすることができます。

全生徒機で画面を非表示にする

1. リボンの[クラス] タブを選択し、[すべて空白]をクリックします。
2. 生徒の画面は空白になります。

注意: デフォルトでは、すべての画面を空白にすると、生徒のサウンドはミュートされます。このオプションは、生徒のユーザーインターフェイス設定で無効にすることができます。

3. 画面を元に戻すに上記の手順を繰り返します。

注意: 生徒を右クリックして [空白] を選択すると、個々の生徒画面を空白にすることができます。この機能は、Windows 10 v2004以降を実行している生徒でのみ利用できます(Windows 8 以前を実行している生徒にはレガシーサポートが提供されます)。

リモートクリップボード

リモートクリップボードは先生と生徒間のアプリケーションで切り取り/貼り付けが可能です。

画面表示 ウィンドウのリボンのホームタブにあるクリップボードセクションには、次のオプションがあります：

ド送信：コントロールからクライアントにコピーする時に使用し、メニュー オプションで{編集}{切り取り/コピー}を使用します。

ド受信：クライアントからコントロールにコピーする時に使用し、メニュー オプションで{編集}{切り取り/コピー}を使用します。

自動クリップボード：有効時は、速い方法でデータコピーを行ないます。Use ショートカットキー(Ctrl+C & Ctrl+V)を使ってコントロールとクライアントパソコン間で切り取り、貼り付けを自動的に行ないます。

先生から生徒に切り取り/貼り付けを行う

1. 先生と生徒PCでアプリケーションを開きます。
2. 先生側のアプリケーションでデータをコピーします。
3. オートが有効になっている場合、Ctrl+C を使って職説クリップボードにデータをコピーします。
または
{編集}{切り取り/コピー}を使用した場合は、クライアントの画面表示 ウィンドウに戻り、リボンの[送信]アイコンをクリックします。
4. 生徒側のアプリケーションのメニューから {編集}を選んで[貼り付け]を実行します。

クライアントからコントロールパソコンへクリップボードの内容を送信するには

1. クライアントをビューします。
2. コントロールとクライアントでアプリケーションを開きます。
3. 上記のようにクライアントのアプリケーションから必要なデータをコピーしますが、ショートカットキーではなくメニュー オプションを使用する場合は、リボンの[取得]アイコンをクリックします。
4. コントロールのアプリケーションに戻り、メニュー オプションかショートカットキー(Ctrl+V)を使ってデータを貼り付けます。

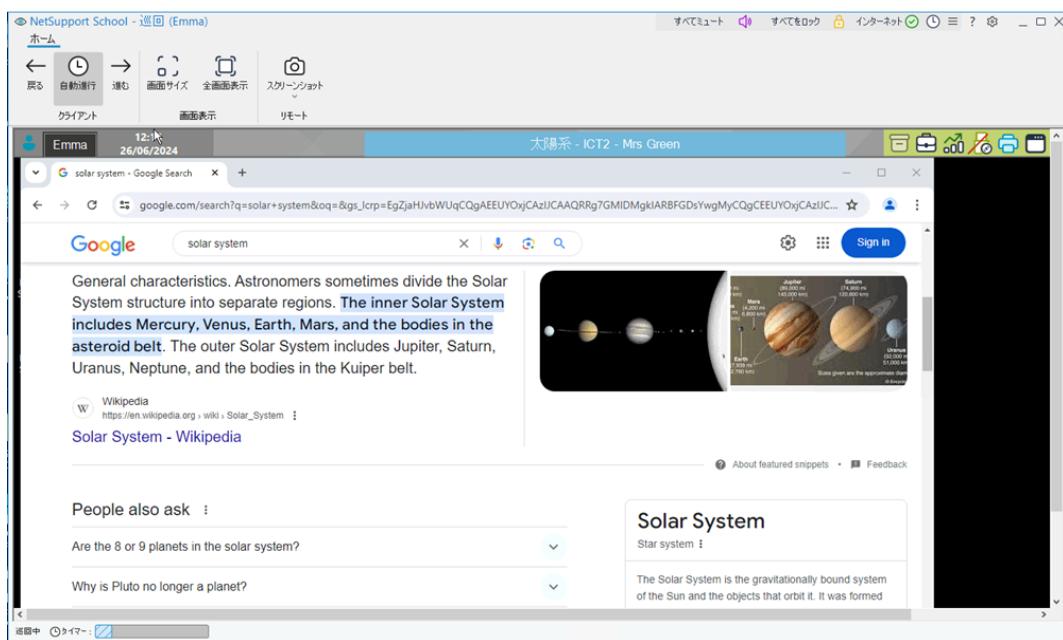
生徒の画面を巡回する

巡回機能を使って、接続中の生徒を巡回し、先生の巡回ウィンドウに順番に画面を表示できます。

1つの巡回ウィンドウで複数の生徒画面を表示することができます。

生徒の画面を巡回する

1. リボンのグループタブを選択し。
2. 1度に1クライアント アイコンを選択します。
3. リストビューで、巡回に含める生徒を選択します (グループを選択すると、すべての生徒が含まれます)。
4. スライダーを使用して、巡回が次の生徒に進むまでの間隔を指定します。巡回間隔は5秒から2分の範囲で設定できます。
5. **開始**をクリックします。
6. 巡回ウィンドウが表示され、最初の生徒の画面から順に表示されます。巡回を終了するまで、選択した生徒の画面を巡回表示します。



巡回を終了する

1. キャプションバーで、[閉じる]  アイコンをクリックします。

生徒の画面を一度に複数表示して巡回する

1画面で同時に複数の生徒画面を巡回できます。

注意: 1つの巡回ウィンドウに一度に最大16台の生徒画面を表示できます。

生徒の画面を一度に複数表示して巡回する

1. リボンのグループタブを選択し。
2. リストビューで、巡回に含める生徒を選択します (グループを選択すると、すべての生徒が含まれます)。
3. 関連するアイコンをクリックして、巡回ウィンドウに表示する生徒画面の数を選択します:



生徒は 2x2 に配置されます。

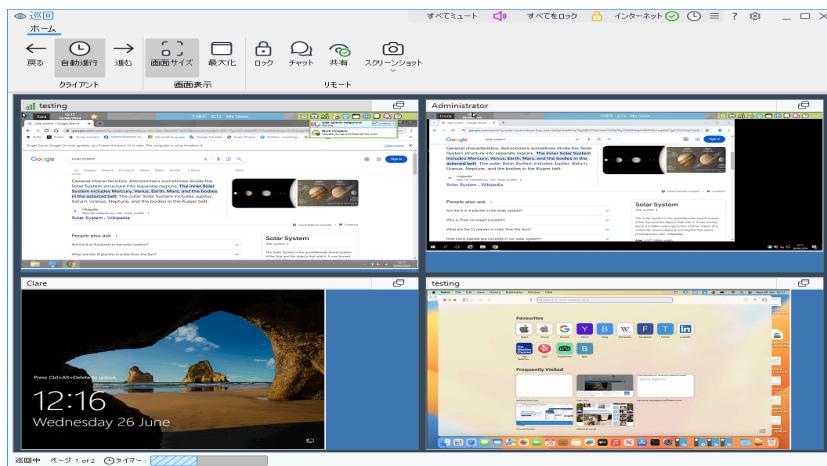


生徒は 3x3 で配置されます。



生徒は 4x4 に配置されます。

4. 4つを超える生徒画面をスキャンする場合は、スライダーを使用してスキャン間隔を選択します。巡回間隔は5秒から2分の範囲で設定できます。
5. 開始をクリックします。
6. 巡回ウィンドウが表示されます。

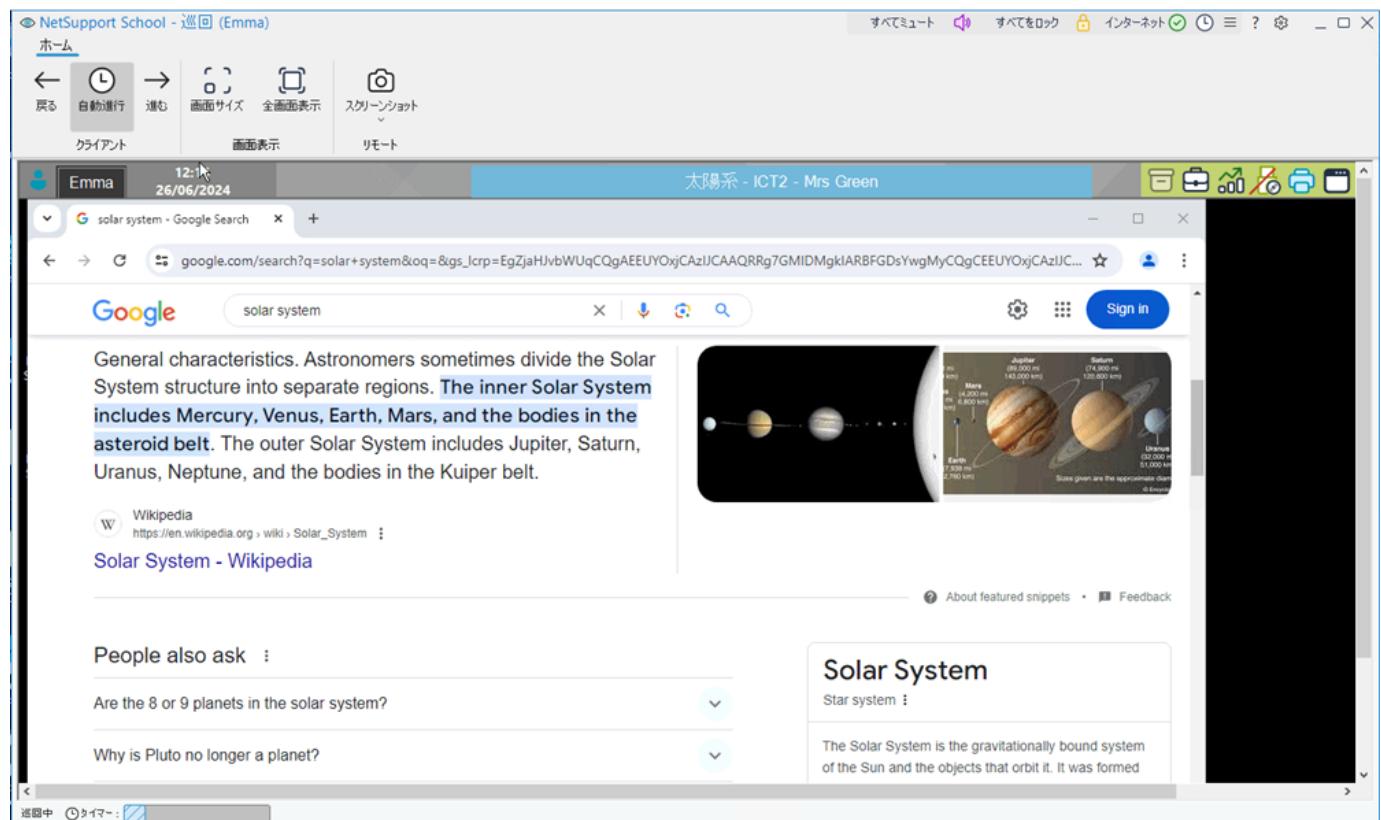


巡回を終了する

1. キャプションバーで、[閉じる] アイコンをクリックします。

巡回ウィンドウ

巡回ウィンドウは画面受信ウィンドウの特殊なもので、選択した複数の生徒の画面がひとつのウィンドウに、あらかじめ定義してある時間間隔で、順番に表示されます。特定の生徒から巡回を開始する場合は、巡回開始前にそのアイコンを強調表示します。



キャッシュバー

キャッシュバーには、現在巡回している生徒の名前が表示されます（複数の生徒を同時にスキャンしている場合は表示されません）。テックコンソールで先生のサポート機能が有効になっている場合、ここにサポートアイコンが表示され、技術者とチャットまたはメッセージを送信できるようになります。

右側では次のオプションが利用可能です：

- ☰ クイックアクセスリストを開き、よく使用される機能をキャッシュバーに追加できます。デフォルトでは、すべてミュート、すべてロック、インターネット、レッスンタイマーが表示されます。
- ? オンラインヘルプ、バージョン番号、ライセンシー、テクニカルサポート、および圧縮情報にアクセスします。
- ⚙ 現行の巡回セッションの設定にアクセスします。
- ウィンドウを最小化します。



ウィンドウを最大化します。



ウィンドウを閉じます。

リボン

次のアイコンは、単一の生徒巡回で使用できます

[前]、**[自動進行]**、**[次]**: ひとつ前の画面や次の画面に移動したり、自動モードに設定して、画面が一定の時間間隔で切り替わって表示されるようにします。

画面サイズ: 生徒機の画面が先生コンソールの画面より高解像度で表示されているとき、生徒の画面全体が巡回ウィンドウ内に収まるように表示します。

全画面表示: 生徒の画面を先生コンソールの画面いっぱいに表示して巡回します。全画面表示中は、フローティングツールバーを使って画面を操作できます。

[スクリーンショット]: 巡回中のクライアントの画面受信ウィンドウのスナップショットを撮影します。

次の追加アイコンは、複数の生徒の巡回で使用できます:

最大化: 選択した生徒のウィンドウを最大化します。生徒ウィンドウの右上隅にある最大化  アイコンをクリックすることもできます。

[ロック]: 生徒機のキーボードとマウスをロックします。

チャット: 生徒と先生との間でチャットを開始します。

共有: 生徒画面を共有モードで操作します。

生徒画面エリア

巡回実行時に生徒の画面または複数の生徒の画面を表示します。

ステータスバー

ステータスバーには巡回タイマーが表示され、巡回間隔がどれだけ進んでいるかを示します。

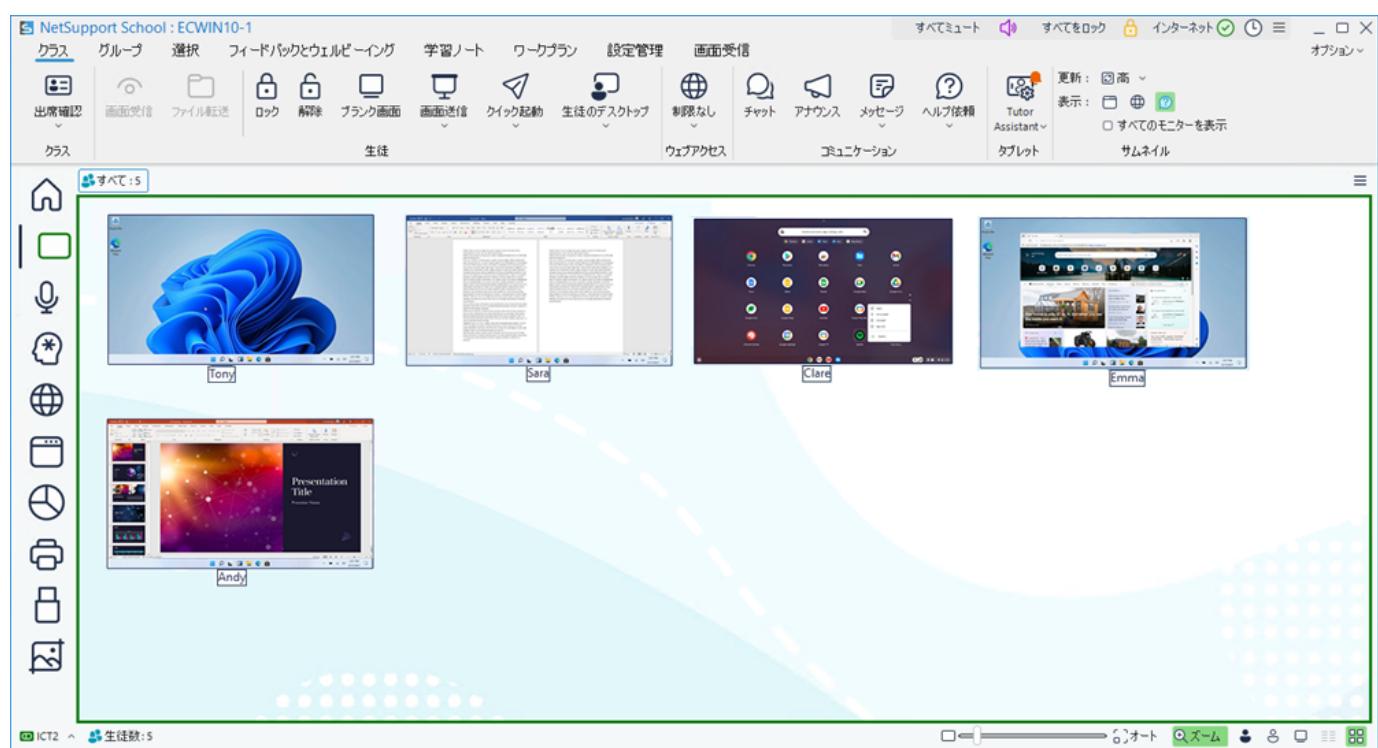
モニタモード

巡回に似ているモニタモードでは先生は同時に複数の生徒画面の受信が可能です。接続中の各生徒の画面を便利な縮小画面で先生コンソールに表示するので素早く簡単な方法で生徒の行動をモニタできます。モニタモード中でも先生は、そのまま画面受信、チャット、ファイル転送といった機能にアクセスできます。

1. 先生コンソールの左側にある **モニタビュー**  アイコンをクリックします。

または

リボンの表示タブを選択し、モードセクションのドロップダウン矢印をクリックして、**モニタビュー**を選択します。



リストビューは各生徒の縮小画面を表示します。マウスを縮小画面に重ねるとその画面を拡大することができます。縮小画面をダブルクリックすると選択した生徒画面を受信します。右クリックで利用できる機能から選択することができます。例:複数の縮小画面を選択して生徒達をチャットに招待する。

サムネイルを拡大表示している場合、ロック  アイコンをクリックすると生徒をロック、スクリーンショットのキャプチャ  アイコンをクリックするとサムネイルのスナップショットをキャプチャ(スクリーンショットは、ローカルのドキュメント フォルダーの NetSupport School\Screenshots に .png として保存されます。スクリーンショットの撮影中にエラーが発生した場合は通知されます)、表示  アイコンをクリックすると表示 ウィンドウを開くことができます。

注意:

- ステータスバーのズームインをクリックすると、ズーム機能のオン/オフを切り替えることができます。
- デフォルトでは、バッテリーレベルとワイヤレス強度（該当する場合）が生徒のサムネイルに表示されます。先生構成 - 先生ユーザーインターフェイス設定でオフにできます。

縮小画面のサイズのカスタマイズ

縮小画面は好みに合わせてサイズ変更が可能です。大量の生徒PCに接続時は特に便利です。

- ステータスバーのスライダー アイコンを使用して、必要なサイズを選択します。

縮小画面の自動サイズ調整

このオプションは表示中の縮小画面のサイズをウィンドウに合うように自動調節します。

- ステータスバーの [自動] をクリックします。

縮小画面の更新間隔を変更する

生徒の行動をモニタする頻度によって縮小画面の更新間隔を調節することができます。

- リボンのクラスタブを選択し、更新ドロップダウンリストから必要なオプション(リアルタイム、高、中、または低)を選択します。

アクティブアプリケーションの表示

有効時は、生徒PCでどのアプリケーションが現在稼動中かわかるようにそれぞれのサムネイルの左上にアイコンが表示されます。

- リボンのクラスタブを選択し、現在のアプリケーションを表示  アイコンをクリックします。

アクティブウェブサイトの表示

各縮小画面の右上に現在生徒がどのサイトを閲覧しているかがわかるアイコンを表示します。

- リボンのクラスタブを選択し、現在のWebサイトを表示  アイコンをクリックします。

ヘルプ依頼の表示

このオプションは、生徒に未処理のヘルプ依頼がある場合にハイライト表示されます（デフォルトで有効になっています）。生徒のサムネイルがハイライト表示され、生徒がヘルプを依頼したときに表示されます（色は選択したアラートのタイプと一致します。ワークが完了した場合は緑色、ヘルプが必要な場合はオレンジ色、緊急のヘルプが必要な場合は赤色）。

- リボンのクラスタブを選択し、生徒のヘルプ依頼を表示  アイコンをクリックします。

マルチモニター

生徒が複数のモニターを実行している場合は、サムネイルにアイコンが表示され、各モニターを切り替えたり、デスクトップ全体を表示したりできます。マルチモニターメニュー  アイコンをクリックしてデスクトップ全体を表示するか、表示するモニターを選択します。デスクトップ全体を表示するには、デスクトップ全体  アイコンをクリックします。個々のモニターを表示するには、番号  アイコンをクリックします。

注意: リボンのクラスタブを選択し、**すべてのモニターを表示**をクリックすることで、生徒のすべてのモニターを自動的に表示するようにサムネイルを設定できます。

画面キャプチャ

先生コンソールは画面受信中または巡回中に生徒機の画面のスナップショットを撮ることができます。また画面をファイルに保存することもできます。保存時にキャプチャした画面に生徒機名、日付、時間、製品名が記録されます

クライアントの画面をキャプチャーする

1. クライアントを画面受信または巡回している時は、リボンの[ホーム]タブを選択します。
 2. スクリーンショットをクリックします。
 3. 現在の生徒の画面がキャプチャされ、ローカルのドキュメントフォルダのNetSupport School\Screenshotsに.pngとして自動的に保存されます。
- 注意:** 撮影されたスクリーンショットの数を示すインジケーターがスクリーンショットアイコンに表示されます。
4. [スクリーンショット]ドロップダウン矢印をクリックすると、最後に撮影した9つのスクリーンショットが一覧表示され、画像が保存されているフォルダーを開くことができます。

注意:

- 複数の生徒機を巡回中の場合、アクティブ状態の生徒画面が画面キャプチャされます。
- 一台ずつ巡回中にキャプチャを行う場合、画面キャプチャ操作が完了するまでオート巡回は一時的に停止します。完了すると自動的にオート巡回に戻り次の生徒画面を巡回します。
- 監視モードで生徒のサムネイルのスクリーンショットを撮ることができます。必要な生徒のサムネイルを拡大し、[スクリーンショットをキャプチャ]  アイコンをクリックします。

生徒に先生の画面を送信する

画面送信機能を使用すると、先生は選択した生徒、すべての生徒、または生徒のグループに情報を画面に表示することで、重要な学習ポイントを強調できます。また保存してあるリプレイファイルや動画、コントロールで実行中のアプリケーションなどを画面送信することもできます。

画面送信中に先生は生徒を画面送信リーダーに指定してデモンストレーションの引継ぎが可能です。

注意: 先生側でインターネット制限を適用し、画面送信中に不適切なWebサイトが生徒に表示されないようにすることができます (これは画面送信メニューで設定できます)。

画面の「スナップショット」を学習ノートに含めるには、画面送信実行中にPrint Screenボタンをクリックするか、タスクバーの画面送信アイコンを右クリックします。画像にコメントを添えることも可能です。

先生の画面を生徒に見せるには

- 1 人の生徒またはグループに画面を表示する場合は、その生徒が選択されていることを確認してください。
- リボンのクラスタブを選択し、**画面送信**アイコンをクリックします。
- 画面送信オプションは、画面送信メニューで関連するオプションをクリックして設定できます。さらに表示プロパティを設定するには、**詳細**アイコン  をクリックします。

注意: 複数のモニターを実行している場合は、関連するアイコンをクリックして、生徒に画面送信するモニターを選択できます。

- 4 **クリック画面送信**をクリックします。

注意: 1 人の生徒に表示する場合は、選択した生徒に表示する**クリック画面送信オプション**がメニューに表示されます。リスト ビューで生徒を右クリックして、**クリック画面送信**をクリックすることもできます。

- 5 あなたのデスクトップが生徒に表示されます。

注意:

多数のマシンに画面送信する際のパフォーマンスを向上させるために、NetSupport School のブロードキャスト画面送信機能がデフォルトで有効になっています。その結果、画面情報がすべてのマシンに同時に送信されるため、転送速度が向上します。この機能をオフにすると、画面情報が各生徒機に順番に送信されます。

NetSupport Schoolで発生するネットワークトラフィック量は減りますが、ネットワークに追加ブロードキャストパケットが発生します。そのため、この機能を使用する前にネットワーク管理者とご相談することをお薦めいたします。

画面送信は、マルチキャストを使用して生徒に送信することができます。指定されたIPのマルチキャストアドレスに含まれるマシンに一斉送信されます。

ショーを終了する

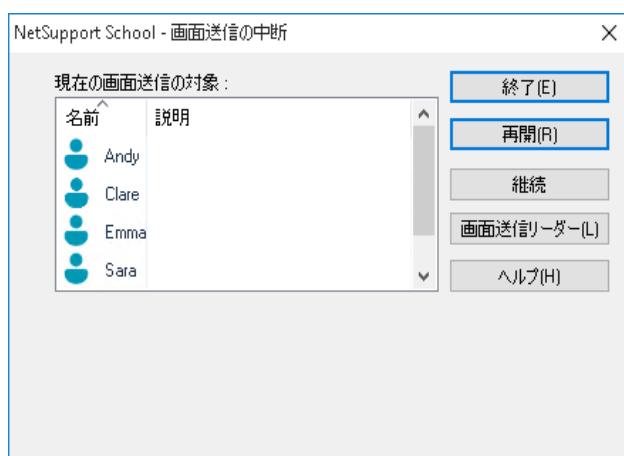
ショーを終了する

1. 画面送信 ボタンをクリックするかタスクバーのアイコンをダブルクリックします。

または、

デスクトップのNetSupport School先生アイコンをダブルクリックします。

2. [ショー] ダイアログが表示されます。



3. [ショー終了]をクリックします。

または、

1. タスクバーのアイコンを右クリックします。
2. [ショーの終了]をクリックします。

または、

1. CTRL+ALT+ENDのホットキーを使います。

一時停止(サスPEND)状態のショーを終了する

1. リボンの[クラス]タブを選択し、[画面送信]アイコンをクリックして、[画面送信の終了]を選択します。

または、

ステータスバーの一時停止アイコンをクリックし、画面送信の終了をクリックします。

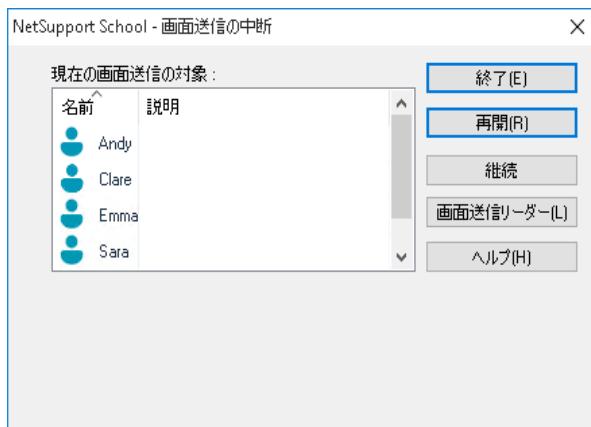
2. 生徒の画面は元に戻ります。

ショー中にバックグラウンドで別の作業を行う

画面送信中にバックグラウンドで作業する必要がある場合があります。画面送信を一時停止して、生徒に作業内容を見られずに作業を続けることができます。

画面送信中に先生の作業を許可する

1. 画面送信 ボタンをクリックするかタスクバーのアイコンをダブルクリックします。
2. [ショー] ダイアログボックスが表示されます。



3. [サスPEND 継続] ボタンをクリックします。
4. 先生コンソールが表示され、キャプションバーは画面送信が中断されていることを示します。生徒には分からないように作業を続行できます。生徒には直前のショー画面が表示されたままになります。

一時停止(サスPEND)状態のショーを再開する

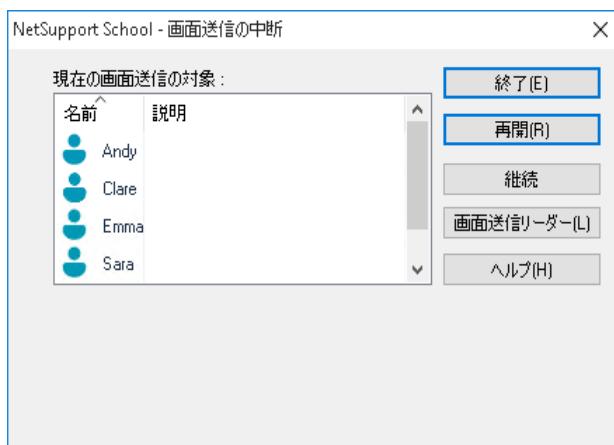
中断した画面送信を再開する

1. リボンの [クラス] タブを選択し、[画面送信] アイコンをクリックして [再開] を選択します。

または

ステータスバーの一時停止 アイコンをクリックし、再開をクリックします。

2. 先生の画面に、表示中断ダイアログが表示され、表示の終了または再開を選択できます。



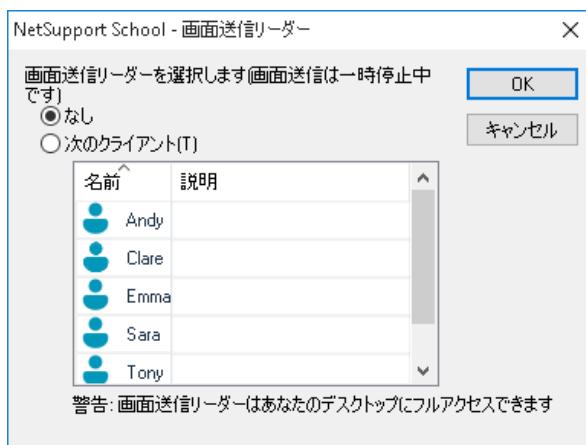
画面送信リーダー

画面送信機能を使って先生の画面をクラス全員に見せることができます。生徒にデモンストレーションを引き継いでほしい場合があります。そのため、先生は生徒を選択して、画面送信リーダーに任命することができます。画面送信リーダーのパソコンのマウスとキーボードはロックが解除され、先生に代わってプレゼンテーションを継続できるようになります。

先生は、画面送信リーダーと同時に操作できるほか、状況に応じて画面送信を一時中断や終了もできます。

画面送信リーダーを指定する

- 通常どおり、先生の画面を生徒に画面送信します。
- 画面送信リーダーを選ぶ準備が整ったら、タスクバーのNetSupport Schoolボタンをクリックします。.
- 「画面送信」ダイアログが表示され、画面送信が一時停止します。生徒機には先生の画面が表示されたままになります。
- 「画面送信リーダー」をクリックします。
- 「画面送信リーダー」ダイアログが表示されます。



注意: タスクバーまたはシステムトレイのNetSupport School画面送信のアイコンを右クリックし、コンテキストメニューの「画面送信リーダー」をクリックしても画面送信リーダーを作成できます。

- 「クライアント」をクリックし、画面送信リーダーにする生徒を選択します。

注意: 画面送信リーダーは先生のデスクトップの全機能を使用できるようになります。

- 「OK」をクリックします。
- 「画面送信リーダー中です。」というメッセージが生徒機に表示されます。
- 「画面送信再開」をクリックして画面送信を再開します。
- 画面送信リーダーと先生は協力しながら画面送信を進められるようになります。

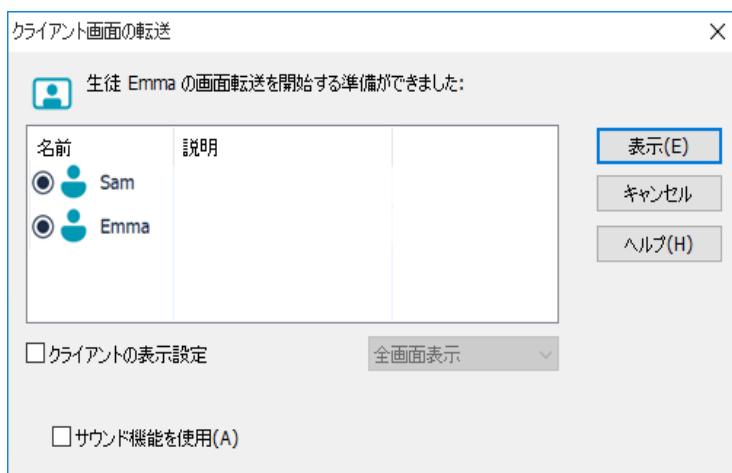
注意: 表示リーダーを削除するには、表示中断ダイアログでリーダーをクリックし、なしを選択します。

特定の生徒画面を他の生徒に転送する

NetSupport Schoolでは、接続中の複数の生徒に先生の画面を送信できるだけでなく、特定の生徒の画面を他の複数の生徒に送信することもできます。この機能を生徒画面転送と呼びます。例えば、一人の生徒の作業の出来栄えがすばらしかったときなどに、それをクラス全員で見ることができます。

生徒の画面を転送する

- 他の生徒に送信したい生徒の画面を選択します。
 - リボンの「クラス」タブを選択し、「表示」をクリックして、メニューから「展示」を選択します。
- または
- 生徒アイコンを右クリックし、**画面転送**を選択します。
- 画面転送ダイアログが表示されます。



- 画面を転送する生徒をチェックします。
- 生徒画面(フルスクリーン、ウインドウまたはウインドウ最大化)で使用する表示モードを設定し、オーディオのサポートを有効にするかどうか選択します。
- 転送をクリックすると、画面転送を開始します。
- 生徒画面を選択して先生と他の生徒に表示させます。先生コンソールと画面転送中の生徒だけが画面、キーボード入力、マウス操作ができます。

先生コンソールの画面送信モードを切り替える

- 画面転送ウィンドウのリボンで「ホーム」タブを選択し、**全画面表示**をクリックします。

参照:

- ・ 全画面表示モードでは、フローティングツールバーが表示されます。
- ・ ウィンドウ表示モードに戻るにはツールバーにある {画面表示} ボタンをクリックするかショートカットキー <CTRL>+<左 SHIFT>+<右 SHIFT>を使います。

生徒画面転送の一時停止、終了

先生は終了、一時停止することができます。一時停止中は、先生または生徒画面転送の生徒がバックグラウンドで次の画面送信の準備をすることができます。画面送信が再開されるまでは、直前まで生徒画面転送で表示した画面が他の生徒には表示されます。

生徒画面転送を一時停止する

1. 画面転送ウィンドウのリボンでホームタブを選択し、**一時停止**をクリックします。
2. 一時停止中は先生と生徒画面転送の生徒はバックグラウンドで作業を行うことができます。他の生徒の画面は停止しています。
3. 画面送信を再開するには、[再開]を選択します。

生徒画面転送を終了する

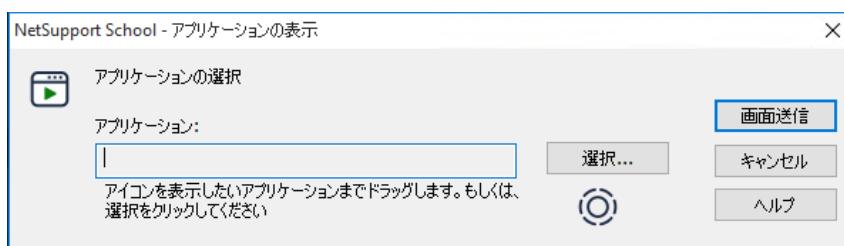
1. 画面転送ウィンドウのリボンでホームタブを選択し、**停止**をクリックします。

ショーアプリケーション

ショー機能は生徒に先生の画面を表示することができます。しかし、コントロールでプログラムがいくつか開いている場合、特定のアプリケーションだけをショーしたい時があります。

アプリケーションをショーするには

1. リボンの [クラス] タブを選択し、[画面送信] アイコンをクリックします。
2. 表示オプションは、[表示] メニューで関連するオプションをクリックして設定できます。表示プロパティをさらに設定するには、[詳細]  アイコンをクリックします。
3. [アプリケーションを表示] をクリックします。
4. ショーアプリケーションダイアログが表示されます。



5. コントロールデスクトップ上のアプリケーションにアイコンをドラッグして放します。（デスクトップ上にマウスを動かすと選択したアプリケーションの周りにピンク色の枠線が表示されます。）
- または
- 選択をクリックして、表示リストからアプリケーションを選択します。
6. ショーをクリックします。

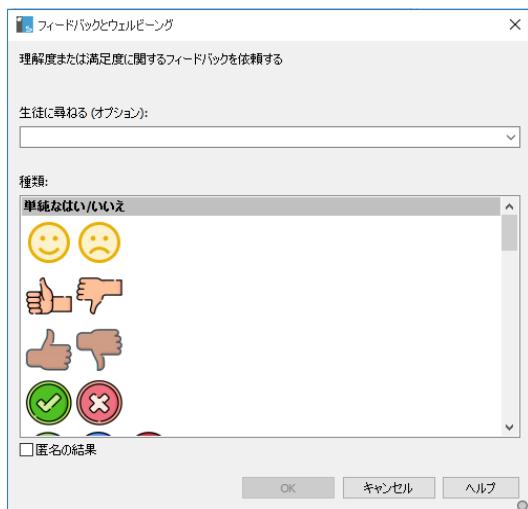
生徒のフィードバックとウェルビング

NetSupport Schoolは、生徒からのフィードバックを受け取るためのシンプルで迅速な方法を提供します。生徒がどうのようを感じているか、トピックに対する自信、そして追加の補助が必要かどうかを把握することができます。先生はいくつかの視覚的なオプションから選択して生徒に送信できます。そして生徒は適切なアイコンをクリックし、フィードバックの結果が簡単な一覧または棒グラフで先生に報告されます。

注意: NetSupport Schoolは、生徒に質問したり協力したりするためのより包括的な方法も提供します。アンケートモードまたは質疑応答モジュールを参照してください。

フィードバックのリクエストする

1. リボンの[フィードバックとウェルビーイング]タブを選択し、[フィードバックとウェルビング]をクリックします。
2. フィードバックとウェルビングダイアログが表示されます。



3. [生徒に質問する]フィールドに生徒に尋ねたい質問を入力するか(前の10エントリのドロップダウンリストが表示されるか、新しいエントリを入力できます。128文字の制限があります)、口頭で質問することもできます。生徒に送信する視覚的インジケータを選択します。結果を匿名にしたい場合は、[結果を匿名化]をクリックします。
4. 「OK」をクリックします。
5. 生徒側では、生徒ツールバーがフィードバックモードに切り替わり、ダイアログ(質問が入力されている場合)および選択するアイコンの選択肢が表示されます。生徒は必要なアイコンをクリックするだけです。
6. 先生側は、「フィードバックとウェルビングの結果」ダイアログが表示され、結果が表示されます。結果はリストまたは棒グラフで表示できます。表示を切り替えるには、「リスト」または「チャート」ボタンを使用します。適切なアイコンをクリックして結果を保存または印刷できます。
7. 終了したら、「閉じる」をクリックします。

インタラクティブホワイトボード

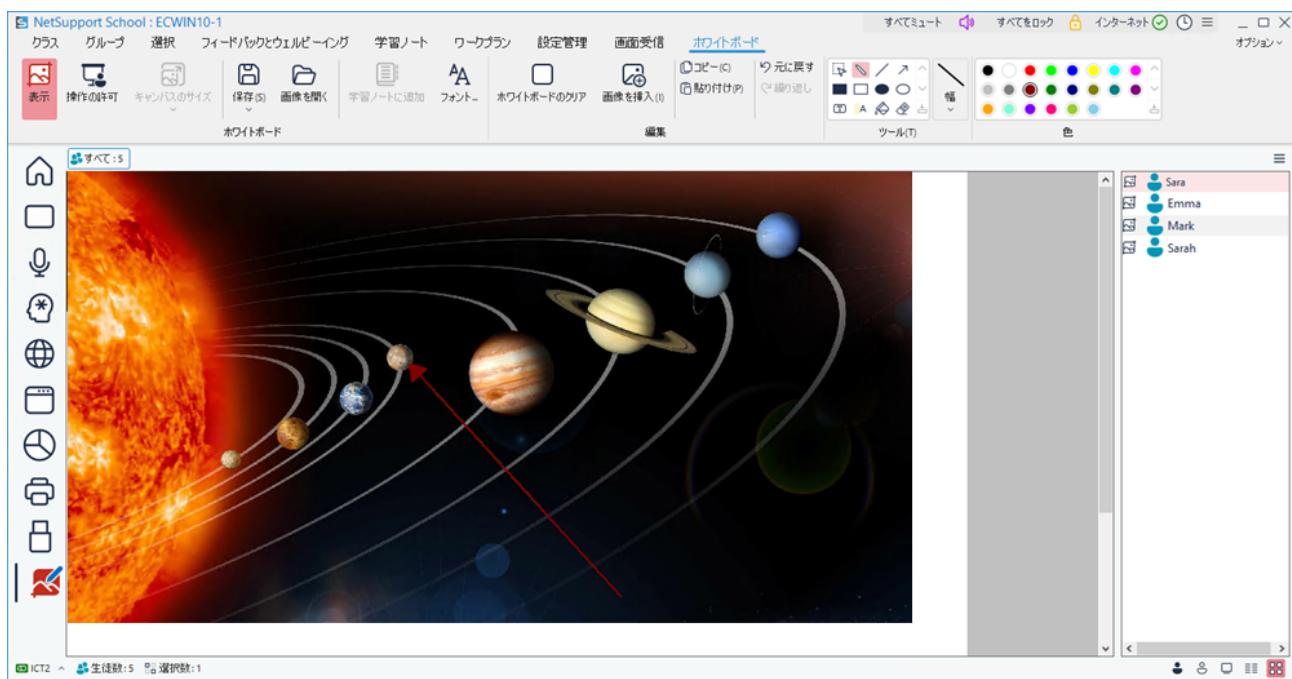
フルスクリーン・インタラクティブ・ホワイトボードはマーカーツールを使って画面を強調したり、選択した生徒のグループに結果を見せることができます。

注意: ホワイトボードの画像を生徒の学習ノートに含めるには、リボンのホワイトボードタブを選択し、**学習ノートに追加**をクリックします。

1. 先生コンソールの左側にあるホワイトボード ビュー  アイコンを選択します。

または

リボンの表示タブを選択し、モードセクションのドロップダウン矢印をクリックして、**ホワイトボード ビュー**を選択します。



リボンのホワイトボードタブにある様々な描画ツールを使用して、画面をハイライトし、保存されているグラフィックを追加します。

2. ホワイトボードの内容を保存することもできます。リボンのホワイトボードタブを選択し、**保存**をクリックします。

注意: 保存ドロップダウン矢印をクリックし、選択内容を保存を選択すると、ホワイトボードで現在選択されている領域を保存できます。

ホワイトボードを生徒に見せるには

1. 保存されているホワイトボード画像を表示する場合は、リボンのホワイトボードタブを選択し、**画像の読み込み**をクリックします。
2. グループバーで必要なグループタブを選択すると、生徒のグループにホワイトボードを表示できます。先生コンソールの右側にある生徒リストには、どの生徒が含まれているかが表示されます。

注意: 生徒画面に表示するホワイトボードのサイズを設定できます。リボンのホワイトボードタブを選択し、キャンバスのサイズをクリックして、ドロップダウンメニューからサイズを選択します。

3. リボンのホワイトボードタブを選択し、表示をクリックします。
 4. ホワイトボードの内容が選択した生徒の画面に表示されます。先生は引き続きリアルタイムでホワイトボードに書き込みできます。
- 注意:** 表示とホワイトボードの表示アイコンが赤色に変わり、ホワイトボード  アイコンが生徒リストの生徒アイコンの横に表示され、ホワイトボードが生徒に表示されていることを示します。
5. 生徒の画面からホワイトボードを削除するには、表示をもう一度クリックします。

ホワイトボーダーリーダー

生徒はホワイトボードを見ている時は、自分たちで画面に描き込みすることはできませんが先が生徒を「ホワイトボーダーリーダー」に指定することにより選択したマシンでマーカーオプションが使用可能になります。先生は生徒リスト内の生徒アイコンを選択することで他の生徒に操作を切り替えることができます。

1. 生徒リストから生徒を選択します。
2. リボンのホワイトボードタブを選択し、**操作権の付与**をクリックします。

または

生徒リスト内の必要なアイコンを右クリックし、**操作権を付与**を選択します。

3. 生徒はツールを使ってホワイトボードに内容を追加できるようになります。

注意: 生徒リストのホワイトボードアイコンが赤に変わり、生徒が操作できるようになったことが示されます。ホワイトボードツールバーには、点滅するリーダーアイコンも表示されます。

4. コントロールは生徒リストで他の生徒のアイコンを選択して手順2を繰り返せば別の生徒に切り替えることができます。

注意: ホワイトボードのツールバーから **オプション} 学習ノートに追加する}**を選択すれば、ホワイトボーダーリーダーはホワイトボードの画像を自分達の学習ノートに送信することができます。

画面をマーキングする

画面送信、画面転送、そして画面受信機能には、重要な学習ポイントを強調するために先生や生徒の画面領域を強調するために使用できる便利なマーカーツールを用意されています。

画面送信の画面をマーキングするには

コントロールの画面を送信しているときは、先生は画面の特定の箇所に生徒の注目を集めたい場合もあります。マーカーツールは、画面の該当する部分を強調するために使用することができます。

1. 画面送信中に、システムトレイの[画面送信]□アイコンを右クリックし、[画面に注釈を付ける]を選択します。
- または
- マーカーアイコンをダブルクリックします。
2. マーカーツールバーが表示されます。
3. ツール、色などを選び、マウスを使ってコントロール画面の該当する部分をマーキングします。

注意: 生徒にマーキング中の画面をリアルタイムで見せたくない場合は、「一時停止」をクリックします。先生がバックグラウンドで作業を続けることができるよう画面送信を一時停止します。画面送信を再開するには、再度「一時停止」をクリックします。生徒の画面上の表示内容が更新されます。

画面受信中に画面をマーキングするには

画面受信中に、コントロールは、クライアント画面の特定の箇所を強調表示するためにマーカーツールを使用することができます。共有、観察モードでは、クライアントがマーカーツールバーのオプションを使用することもできます。コントロールは、マーキング、チャット、ファイル転送中などでも、その他の画面受信ウィンドウのオプションを使用することができます。

1. 必要なクライアントの画面を受信します。
2. ビューウィンドウリボンの[ツール]タブを選択し、[注釈]をクリックします。
3. マーカーツールバーが表示されます。

画面転送中に画面をマーキングするには

特定の学習ポイントに生徒の注目を求めるために画面転送されている生徒の画面をマーキングすることができます。使用モードに応じて、コントロールと(または)画面転送されているクライアントは、マーカーオプションを使用することができます。

1. 必要なクライアントの画面を転送します。
2. 画面転送ウィンドウのリボンで[ホーム]タブを選択し、[注釈]をクリックします。
3. マーカーツールバーが表示されます。

マーカーツールバー



次のオプションを使用できます:

ファイル

画面を保存	マーキング(描画)した画面をファイルに保存します。
選択範囲を保存	「選択範囲」ツールがアクティブのときは、画面の一部を強調表示してファイルに保存することができます。
終了	マーキングを終了し、画面送信、画面転送または画面受信に戻ります。

編集

マーカーをクリア	マーキングをクリアします。
元に戻す	直前のマーキングに戻します。
繰り返し	取り消したマーキングを再度実行します。

ツール

色	ペンの色を設定します。
太さ	線の幅を設定します。
フォント	テキストフォントを設定します。
画面送信の一時停止	コントロールの表示ウィンドウに戻れるように画面受信を停止します。(画面受信や画面転送では利用できません)
画面送信の終了	画面転送を中断します。(画面受信や画面転送では利用できません)

オーディオ監視

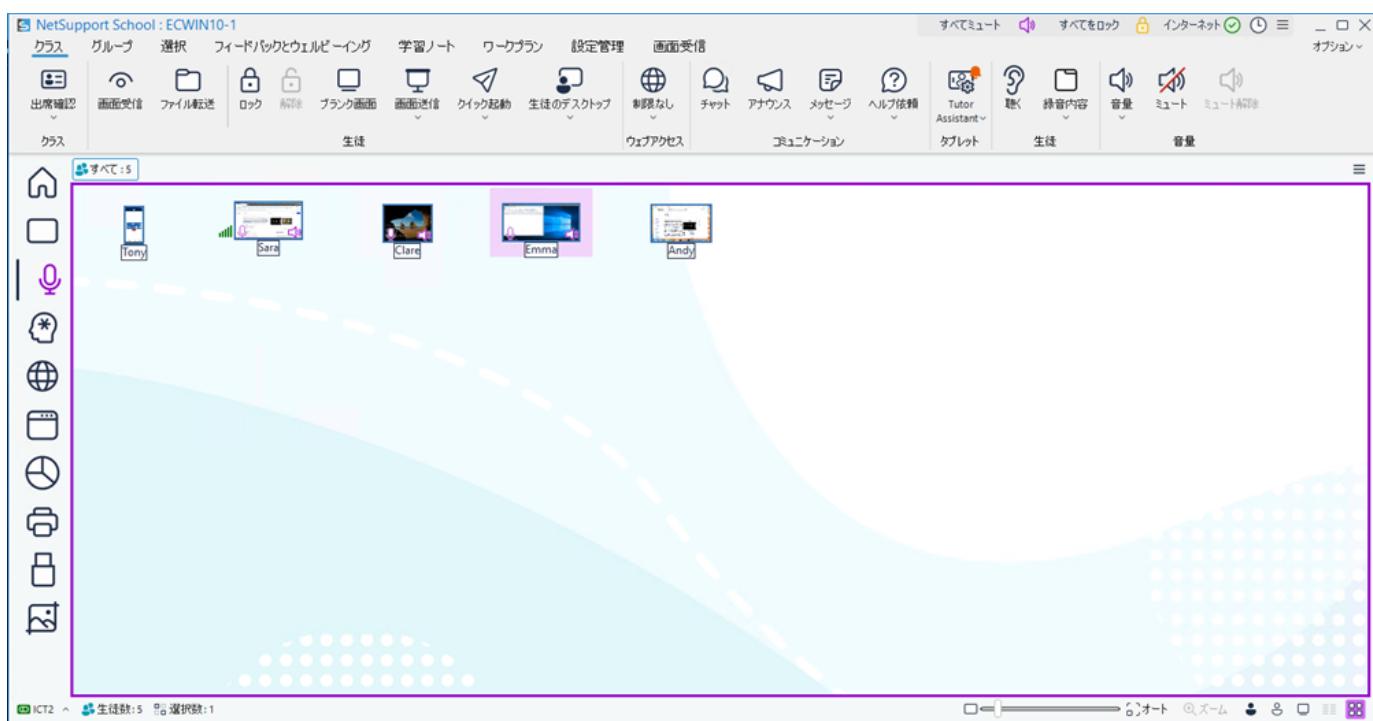
オーディオ監視は先生がすべての生徒のコンピュータのオーディオ内容を監視できるようにします。インスタントに先生は、生徒側のマイクまたはスピーカー/ヘッドホンの内容を警告されます。そして表示されている生徒の縮小画面の1つを選んで、そのPCで再生されているオーディオを聴取できます。オーディオ内容は録音したり、生徒に再生したりできます。

注意: 生徒用ツールバーが有効になっている場合は、生徒のオーディオ内容が聴取されているか、または録音されているときには、生徒は通知されます。

- 先生コンソールの左側にあるオーディオ ビュー  アイコンを選択します。

もしくは

リボンの表示タブを選択し、モードセクションのドロップダウン矢印をクリックして、オーディオ ビューを選択します。



接続されている各生徒機の画面のサムネイルが表示されます。マイクまたはヘッドホンのアイコンは生徒機でオーディオアクティビティがあることを示します。

注意: 起動時にオーディオ監視を有効にすることができます。先生コンソールの [オプション] をクリックし、ドロップダウンメニューから [ネットワーク設定] を選択し、[スタートオプション - アクセス] を選択します。

生徒のオーディオを聴く

- リスト表示内の対象の生徒を選びます。
- リボンのクラスタブを選択し、**聞く**をクリックします。
- 生徒を右クリックし、**聞く**をクリックします。

4. 聞いている生徒の詳細と聞いている時間がステータスバーに表示されます。
5. 聞くのを停止するには、もう一度聞くをクリックします。

オーディオ内容を録音する

1. オーディオアクティビティを聞きながら、リボンのクラスタブを選択し、録音をクリックします。
2. ステータスバーに赤く点滅するアイコンが表示され、オーディオが録音されていることを示します。
3. 録音を停止してオーディオを聞き続けるには、停止をクリックします。

注意: 録音を停止すると、リボンの録音アイコンのインジケーターに、録音が保存されたことが示されます。保存された録音にアクセスするには、録音アイコンをクリックします。

音量を調節する

先生側と生徒側の音量を調節できます。

1. リボンのクラスタブを選択し、音量アイコンをクリックします。
2. 先生の音量の調整とミュート、すべての生徒の音量の調整、生徒の音量のロック、生徒の最大音量の設定を行うことができます(生徒はこれ以上音量を上げることはできません)。

もしくは

1. オーディオを聞いている間、リボンに音量スライダーが表示され、先生と生徒の音量を調整できます。

生徒側のサウンドをミュートする

すべての生徒コンピュータ側のサウンドをミュートできます。

1. リスト表示内の対象の生徒を選びます。
2. リボンのクラスタブを選択し、サウンドをミュートをクリックします。
3. 選択した生徒のサムネイルにアイコンが表示され、サウンドがミュートされていることを示します。
4. サウンドを元に戻すには、サウンドのミュートを解除をクリックします。

注意:

- デフォルトでは、マウス/キーボードをロックしたときやブランク画面のときに生徒側のサウンドはミュートされます。このオプションは、生徒のユーザーインターフェイス設定で無効にすることができます。
- キャプショバーの[すべてミュート]をクリックすると、すべての生徒のマシンをすばやくミュートできます。これが表示されない場合は、[クリックアクセスリストの設定]≡アイコンをクリックし、[生徒の音声をミュート/ミュート解除]を選択して追加できます。

先生のサウンドをミュートする

先生機のサウンドをミュートすることができます。

1. リボンのクラスタブを選択し、音量アイコンをクリックします。
2. 音量スライダーの横にあるミュートをクリックします。

縮小画面の大きさを変更する

縮小画面はお好みに合わせてサイズ変更が可能です。多数の生徒PCに接続時は特に便利です。

1. ステータスバーのスライダー アイコンを使用して、必要なサイズを選択します。

オート

このオプションは表示中の縮小画面の大きさをウィンドウに合うように自動調節します。

1. ステータスバーの [自動] をクリックします。

注意: オーディオアナウンスを生徒のヘッドホンやスピーカーに送信できます。リボンの[クラス]タブを選択し、[アナウンス]をクリックします。

サウンド機能を使用する

NetSupport Schoolは、画面受信中や画面送信中にマイク、ヘッドホン、スピーカーを介して接続中のクライアントへのサウンド通信を使用することができます。パソコンがサウンドハードウェアとソフトウェアをインストールしていれば、NetSupport Schoolは、サウンドを管理します。

注意:

- NetSupport Schoolは、すべての生徒のオーディオのアクティビティを監視することもできます。詳細についてはオーディオの監視を参照してください。
- キャプショバーの [すべてミュート] をクリックすると、すべての生徒のマシンをすばやくミュートできます。これが表示されない場合は、[クイックアクセスリストの設定]アイコンをクリックし、[生徒の音声をミュート/ミュート解除]を選択して追加できます。

アナウンス機能を使用する

この機能は、選択したすべてのクライアントのヘッドホンやスピーカーに音声アナウンスを送信します。先生を聞くことができますが、生徒達は話返すことはできません。

アナウンスをするには

1. リボンの[クラス]タブを選択し、[アナウンス]をクリックします。
2. アナウンスダイアログボックスが表示され、アナウンス対象のクライアントを含めるか、除外し、それから「アナウンス」ボタンをクリックします。
3. アナウンスできる状態を合図するダイアログボックスが表示されます。話終えたら、「OK」をクリックします。

画面受信中や画面送信中にサウンド機能を使用する

NetSupport Schoolは、画面受信、画面送信中にマイク、ヘッドホン、スピーカーを介してクライアントへのサウンド通信を使用することができます。パソコンがサウンドハードウェアとソフトウェアをインストールしていれば、NetSupport Schoolは、サウンドを管理します。

注意: キャプショバーの [すべてミュート] をクリックすると、すべての生徒のマシンをすばやくミュートできます。これが表示されない場合は、[クリックアクセスリストの設定] アイコンをクリックし、[生徒の音声をミュート/ミュート解除] を選択して追加できます。

画面受信中にサウンド機能を使用するには

1. オーディオオプションは、[表示] ウィンドウリボンの[オーディオ]タブに表示されます。
2. 音声オプションが表示され、次のことが選択できます:
 - オーディオを有効または無効に切り替える、
 - コントロールまたはクライアントだけが話せるようにする、
 - クライアントが話す。

注意: [設定]  をクリックして、オーディオ設定にアクセスします。ここから、マイクの感度を設定し、音質を選択することもできます。

画面送信中にサウンド機能を使用するには

1. リボンの [クラス] タブを選択し、[画面送信] アイコンをクリックして、[画面送信中にオーディオを有効にする] オプションを選択します。
2. 画面送信中はコントロールだけアナウンス機能があります。1台に対してショーを行った場合、線Sネイと生徒双方で話すことができます。多数にショーを行った場合は先生のみが話すことができます。(アナウンス)

コントロール設定の「サウンド」オプションで設定したサウンド設定がこれらのセッション中に適用されます。

マイクとスピーカーの音量を調節する

マルチメディア対応パソコンの性能に合わせたり、パフォーマンスを微調整するようにNetSupport School内でサウンド設定を調節することができます。ただし、音の高品質を選択すると、データの送信量が増加するので注意してください。これは、処理速度の遅いパソコンでの画面更新のパフォーマンスに影響します。

ボリュームコントロールにアクセスするには

- タスクバー内の「スピーカー」アイコンを右クリックします。

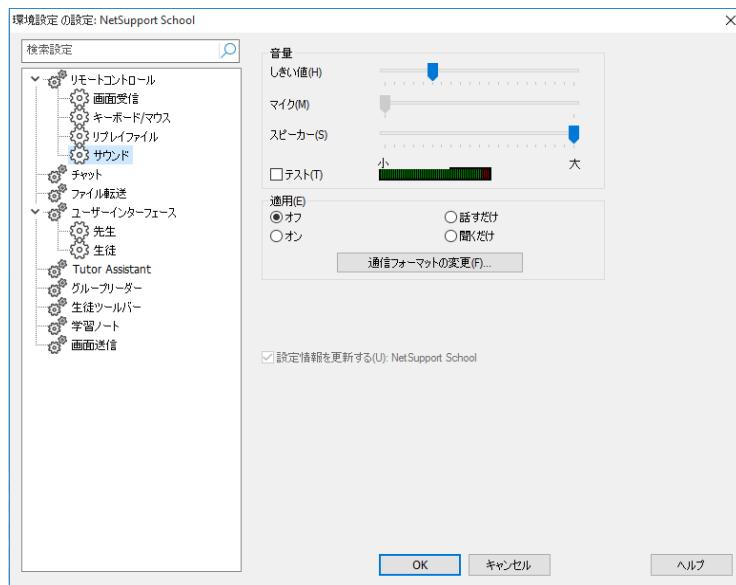
音質などの他のオプションを変更するには、次のいずれかを行います：

全体の方法(すべてのクライアントのデフォルト設定を変更する)：

- 先生コンソールのオプションをクリックし、ドロップダウンメニューから設定を選択します。
- リモートコントロール-オーディオを選択します。

各クライアントでの設定(ビュー中)：

- [ビュー] ウィンドウリボンの [オーディオ] タブに移動し、[オーディオ設定] をクリックします。



どちらの場合も、オーディオ設定が表示され、次のプロパティを設定できます：

音量設定の調節

しきい値：マイクの感度

マイク：マイクの音量

スピーカー：スピーカーの音量

テスト: 上記のすべての設定をテストします (これは、すべての生徒セッションに設定を適用する場合にのみ使用できます)。

適用オプション

オン: サウンドをオンにします

オフ: サウンドをオフにします

話す: コントロールのオーディオを話す機能だけに設定します。

聞く: コントロールのオーディオを聞く機能だけに設定します。

NetSupport Schoolビデオプレイヤー

NetSupport Schoolは、オーディオ、ビデオそしてリモートコントロール機能を備えた優れたマルチメディアサポートを用意しています。このセクションでは、ビデオプレイヤーの使用を具体的に取り扱っています。詳細については、「サウンド機能の使い方」および「画面送信」を参照してください。

ビデオプレイヤーは、ローカルのパソコンでビデオファイルを実行するために使用しますが、オーディオサポートとNetSupport Schoolのリモートコントロール機能を組み合わせると、複数のPCで講習会や実演を向上するためにこのツールを同時に使用することができます。

すべての標準ビデオファイル、例えばaviやmpgをサポートしています。ビデオプレイヤーは各クライアントパソコンのローカルで実行され、ビデオファイルは、ローカルもしくはネットワークドライブからアクセスすることができます。ビデオファイルがローカルに保存されている場合は、再生、停止、一時停止、同期パケットなどのプレイヤーを操作するためのデータだけが送信されるので、ネットワークへの影響が軽減されます。各クライアントパソコンがネットワークドライブからビデオファイルを取得する場合は、ネットワークに追加の負荷が発生します。

最適なパフォーマンスを得るには、各パソコンのローカルにビデオファイルを保存してください。そのためにファイル配布機能を使用することをお勧めします。

影響を及ぼす他の要因：

- ファイルにアクセスしているクライアントのパソコンの台数；
- ネットワークの速度(例: 10/100 MB)；
- ビデオファイルのサイズ；
- クライアントパソコンのメモリ/性能スペック；
- ネットワーク上の他の通信量。

注意:

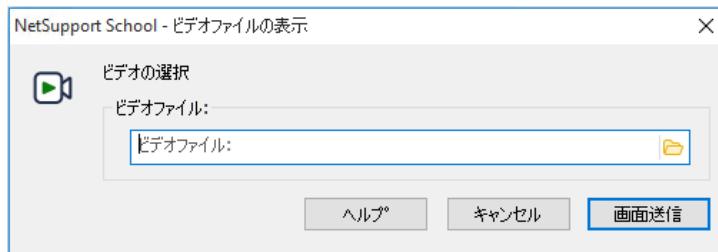
- 再生するビデオファイルが生徒のマシン上に存在しない場合、NetSupport Schoolが自動的に生徒に送信します。
- クライアントパソコンがサーバからファイルを取得する必要がある場合は、円滑な操作のため、クライアントパソコンに関連ドライブやファイルへのアクセス権があることを確認してください。
- パソコンのグラフィックカードと画面解像度の設定方法が表示画質に影響します。

パソコンでビデオファイルを再生するには

生徒にビデオファイルを見せることができます。

生徒にビデオを再生する

1. リボンの [クラス] タブを選択し、[画面送信] アイコンをクリックして、[ビデオの表示] を選択します。
2. ビデオ表示ダイアログが表示されます。



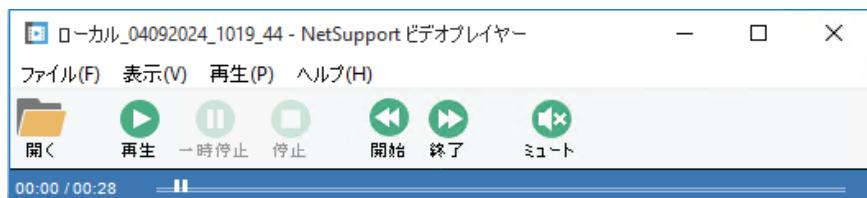
ビデオファイル欄には、保存場所と必要なファイル名を入力します。ファイルを参照するには「開く」を選ぶこともできます。

3. 「送信」をクリックします。
4. ビデオファイルが生徒側に存在するか確認します。存在しない場合は、ビデオファイルが自動的に生徒のコンピュータにコピーされます。
5. ビデオファイルが起動すると、ビデオプレイヤー操作パネルが表示されます。再生、停止、一時停止などの基本操作を使用することができます。

注意: ビデオの実行中は、クライアントのパソコンはロックされます。

ビデオプレイヤー操作パネル

ビデオプレイヤーの操作パネルは、すべてのAV機器と同様の作法で動作します。ツールバー上のコマンドは、その通りに同じアクションを実行しますが、詳細な説明は以下を参照してください。



ファイルメニュー

ファイルのドロップダウンメニューには、次のオプションが収録されています：

開く: 適切なビデオファイルを選択し、読み込むことができます。

閉じる: 開いているビデオファイルを閉じます。

終了: ビデオプレイヤーを終了します。

表示メニュー

表示のドロップダウンメニューには、次のオプションが収録されています：

ツールバー: ビデオプレイヤーのツールバーを表示/非表示します。

ステータスバー: ビデオプレイヤーのステータスを表示/非表示します。

ズーム: ビデオ画面のサイズを変更します。

再生メニュー

再生のドロップダウンメニューには次のオプションが収録されています：

再生: 読み込んだビデオファイルを開始します。

停止: 読み込んだビデオファイルの始めに戻ります。

一時停止: クライアントのビデオ画面を真っ黒にし、コントロールのパソコンでビデオファイルを一時停止します。

繰り返し: 先生が停止するまでビデオファイルが連続再生されます。

最初: ビデオファイルの始めに戻ります。

最後: ビデオファイルの終わりまで早送りします。

ミュート: 生徒がビデオを見ているときにヘッドホンを使用していない場合、各パソコンからの音で気が散ることがあります。このオプションはクライアントのパソコンでオーディオを停止しますが、先生のパソコンではそのままになります。

ヘルプメニュー

オンラインヘルプと一般的なバージョン情報へのアクセスを提供します。

リプレイファイルを使用する

先生が生徒のパソコンをリモートコントロールすると、行われた画面、キーボード、マウスの操作内容を録画することができます。加えて、PCIにオーディオの構成を設定されている場合、行った任意のナレーションを録音することもできます。

情報は、先生のパソコンで再生したり、必要な場合、他の生徒に見せられるようにファイルに保存されます。

リプレイ機能は、すべてまたは個々の生徒のパソコンで録画するように構成を設定することができます。先生のパソコンでのローカルの操作も録画することができます。

有効にすると、画面受信セッションが開くと、すぐに操作内容が録画されます。画面受信セッションを閉じると録画を停止し、その時点で保存されたリプレイファイルを再生できるようになります。

生徒たちが自分達の都合でデモ容を再生できるように画面送信セッションも録画することができます。

デフォルトでは、リプレイファイルは、.rpfファイルとして保存されます。AVIまたはWMVビデオファイルに変換することができます。プリセットオプションがリプレイファイルをビデオファイルに変換するために提供されます。さらに高度なユーザーは、ビデオ解像度、音声品質、ビデオの開始終了点などを操作できるリプレイファイル変換ユーティリティにアクセスすることができます。リプレイ変換ユーティリティを起動するには、スタート} プログラム} NetSupport School} NetSupport Schoolリプレイ} を選びます。

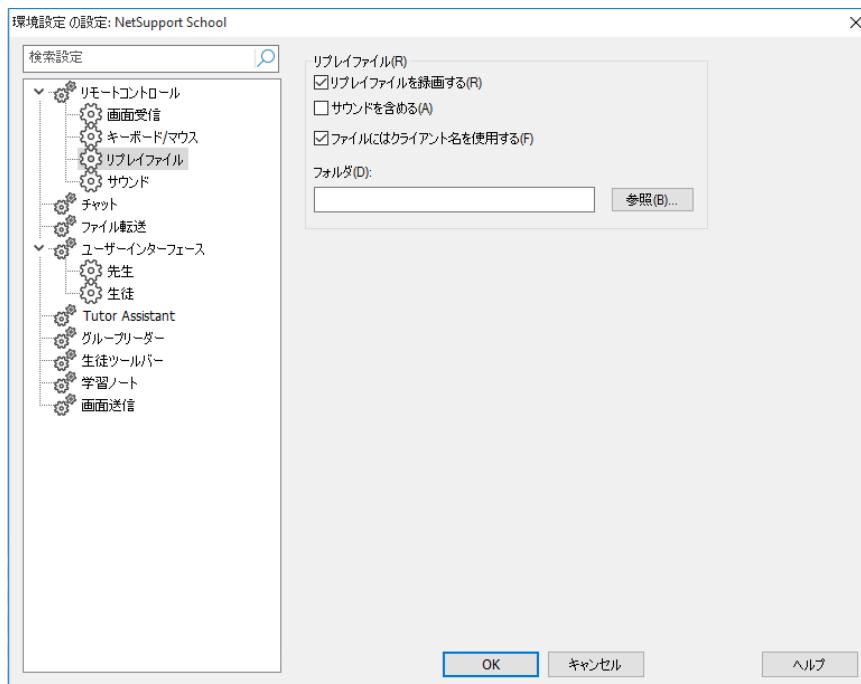
注意: リプレイファイルは画面イメージを保存するため、非常にファイルサイズが大きくなります。整理整頓は、このような性質のファイルを管理する上で重要な役割を担います。定期的に古いファイルを削除することをお勧めします。Windows 8のマシンでは、スタート画面で右クリックして画面の下部のすべてのアプリを選択します。NetSupport Schoolリプレイアイコンをクリックします。

それぞれの生徒のリプレイファイルを記録する

リモートコントロールを行う全生徒のPCに大してリプレイファイルを作成する手順です。

リプレイファイルを記録する

- 先生コンソールの[オプション]をクリックし、ドロップダウンメニューから[設定]を選択し、[リプレイファイル]を選択します。



- リプレイファイルを記録を有効にします。どの生徒PCでもビューを開始するとリプレイファイルを作成します。

音声付き

画面、マウスそしてキーボードのアクティビティに加え、ワークステーションがオーディオを設定している場合、先生からのマイクナレーションを録音することができます。有効にするには、このボックスにチェックをします。

注意: デスクトップのサウンド、音楽などは録音できません。

ファイル名にクライアント名を使用する

各リプレイファイルを区別するために、クライアント名と記録した日時がファイル名になります。またボックスのチェックをしない場合は00000001.rpfのようなフォーマットで連続したファイル名になります。

フォルダ

リプレイファイルの保存先を指定します。

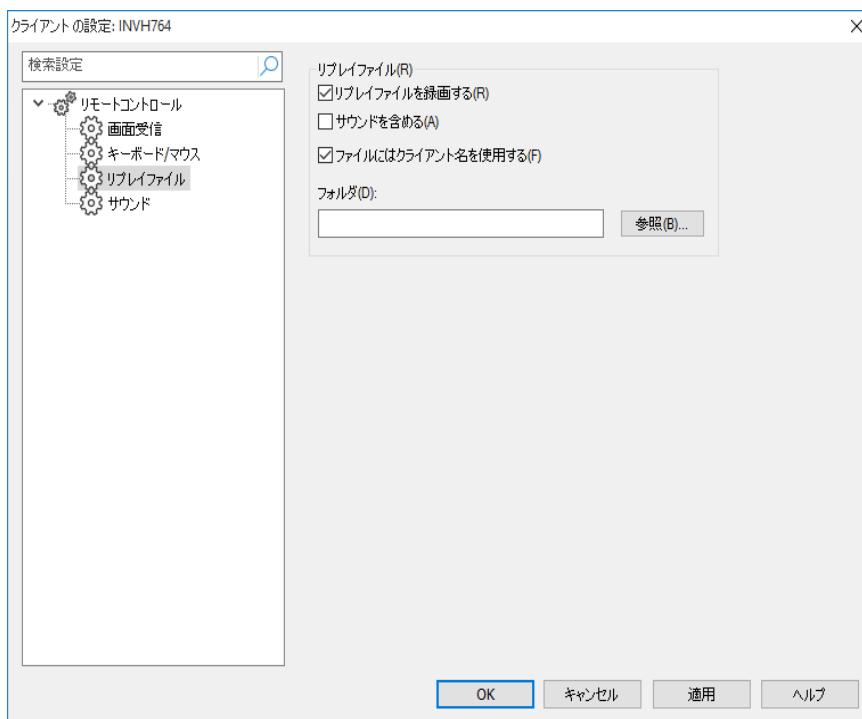
- {OK}をクリックします。

それぞれ生徒のリプレイファイルを記録する

これは選択した生徒機でリプレイファイルを作成する手順です。

リプレイファイルを記録する

- 対象となる生徒機をビューします。
- キャッシュバーの設定  アイコンをクリックし、リプレイファイルを選択します。



- リプレイファイルを記録 にチェックして有効にします。先生がこの生徒PCをビューするたびにリプレイファイルが作成されます。

4. 音声付き

画面、マウスそしてキーボードのアクティビティに加え、ワークステーションがオーディオを設定している場合、先生からのマイクナレーションを録音することができます。有効にするには、このボックスにチェックをします。

注意: デスクトップのサウンド、音楽などは録音できません。

5. ファイル名にクライアント名を使用する

それぞれのリプレイファイルを識別するためにクライアント名と記録日時がファイル名となります。チェックを外すとのような連続したファイル名となります。

6. フォルダ

リプレイファイルの保存先を指定します。生徒ごとに分割したフォルダを指定できます。

7. { OK } をクリックします。ただちに記録を開始します、ビューを閉じると記録を停止します。
8. 他の生徒 PC でもステップ 1-7 を繰り返します。

先生機でリプレイファイルを記録する

ローカル PC の操作を記録して生徒に見せることも可能です。

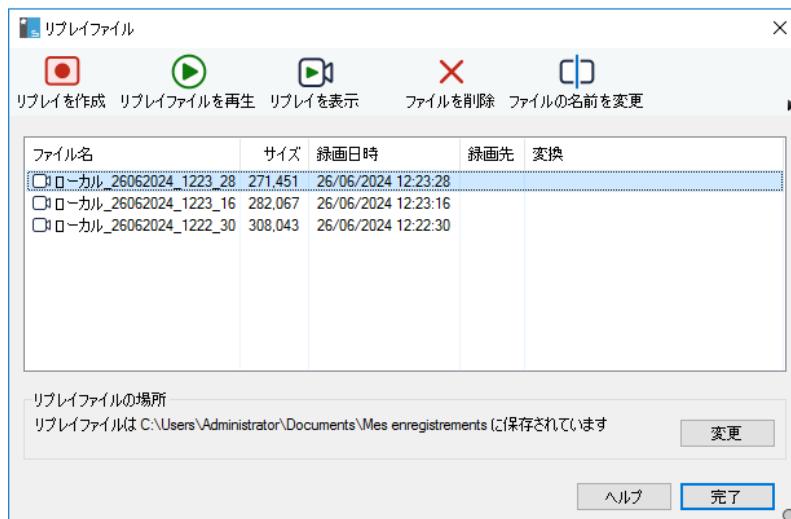
リプレイファイルを記録する

1. リボンの管理タブを選択し、リプレイファイルをクリックします。

または

リボンのクラスタブを選択し、画面転送アイコンをクリックして、リプレイファイルを選択します。

2. リプレイファイルダイアログが表示されます。



既存のリプレイファイルが一覧表示されます。

3. リプレイファイルの保存場所を指定するには変更をクリックします。
4. 録画を開始するにはリプレイ作成をクリックします。
5. ダイアログが表示され、コンピュータのオーディオが設定されている場合、「オーディオを含める」を選択できます。「OK」をクリックします。
6. 録画 アイコンがシステムトレイに表示されます（録画を停止するにはダブルクリックします）。
7. デフォルトでは、ファイル名は「ローカル」と録画日時が先頭に付けられます。デフォルト名を上書きすることでファイル名を変更することができます。
8. リプレイファイルが一覧に表示されます。

リプレイファイルを見る

先生は、保存されているリプレイファイルを見ることができ、必要な場合は、生徒たちに見せることもできます。NetSupport School クライアントプログラムは、クライアントがローカルレベルでファイルを起動できる再生オプションも用意しています。

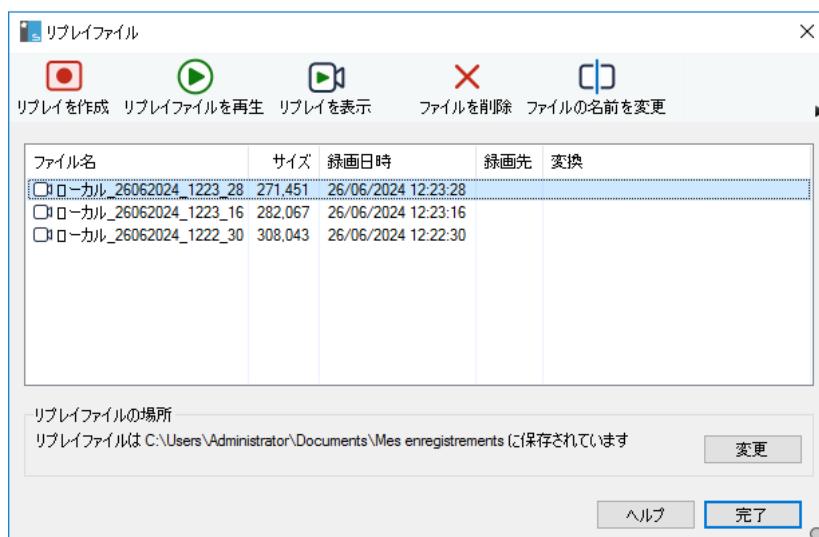
コントロール側にて

1. リボンの管理タブを選択し、リプレイファイルをクリックします。

または

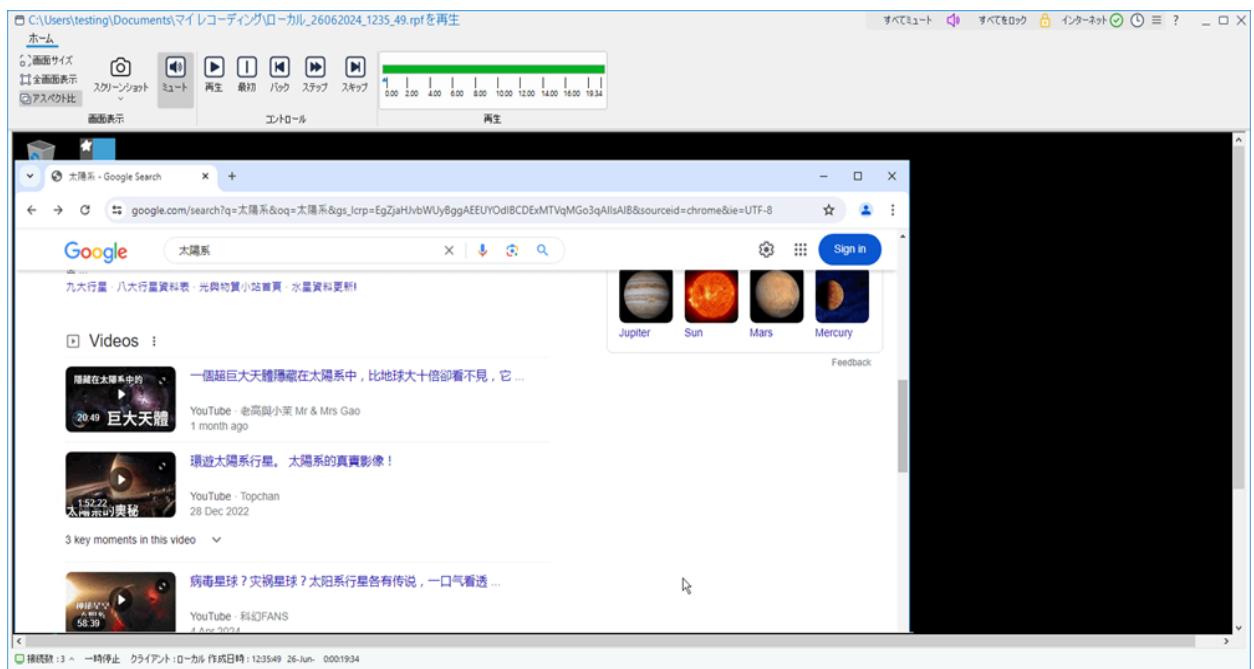
リボンのクラスタブを選択し、画面転送アイコンをクリックして、リプレイファイルを選択します。

2. リプレイファイルダイアログが表示されます。



既存のリプレイファイルが一覧表示されます。

3. 必要なリプレイファイルを選び、リプレイ再生をクリックします。
4. リプレイウィンドウが開き、ファイルの再生を開始します。



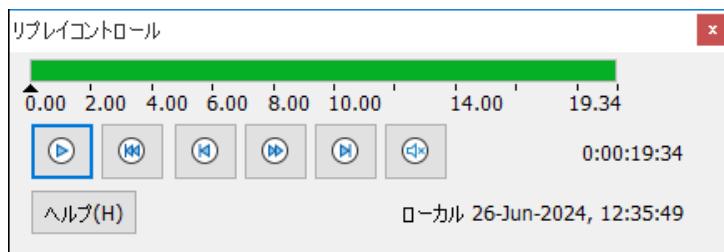
5. ファイルを再生/停止するにはリプレイ操作パネルを使用します。

クライアント側にて

1. システムトレイにあるNetSupport School クライアントアイコンを右クリックして、「再生」を選択します。
または
クライアントアイコンをダブルクリックして、ドロップダウンメニューから {マウンド} 再生 }を選択します。
2. リプレイファイルが保存されているフォルダまで移動します。
3. 再生するファイルを選びます。
4. 「開く」をクリックします。リプレイウィンドウが表示されます。ファイルを再生/停止するにはリプレイ操作パネルを使用します。

リプレイウィンドウ - 操作パネル

全画面表示モードでリプレイファイルを表示する場合、コントロールパネルが表示されます。これは記録した情報を再生するための操作を提供します。コントロールパネルには、リプレイファイルの現在位置を示す再生時間インデックスが含まれ、再生しているファイルの情報を表示します。



次の個々のサブメニューと利用できる機能：

停止と再生

リプレイファイルを再生しているときは、「停止」ボタンが表示され、ファイルを停止すると「再生」ボタンが表示されます。どちらかのボタンだけが一度に表示されます。最後まで到達するか、一時停止目印が検出されるまでファイルを再生します。

巻き戻し

ファイルを既に再生している場合は、始めからファイルの再生を開始し、それ以外は、ファイルの始めまでリプレイ目印を移動します。

前の目印へスキップ

前のアクティビティ目印まで、または1つもない場合は、ファイルの始めまでリプレイインデックスを移動します。沢山の操作がクライアントで記録されたときに、これらの目印が追加されます。

コマ送り

リプレイポイントを次のフレームまで進めます。リプレイファイルを早送りするにはこのボタンを押したままにします。

次の目印へスキップ

次のアクティビティ目印まで、または何もない場合は、ファイルの最後までリプレイインデックスを移動します。

ミュート

リプレイファイル内のサウンドのオン/オフを切り替えます。

その他情報

hh:mm:ss:ms形式で、これらの装置の右側に現在の時間インデックスが表示されます。リプレイファイルが録画されたクライアント名、日付そして時間がウィンドウ下部に表示されます。

リプレイ目印

この目印はリプレイファイルのタイムフレーム内の任意の場所に配置することができます。目印は、時間インデックス装置の下にある小さな黒い三角形です。ファイルの再生を停止したい位置に、これをクリックしてドラッグします。目印まで到達すると、リプレイが停止します。その続きを再生するには、「再生」を押すことができます。

ヘルプ

オンラインヘルプや一般的なライセンス、バージョン、テクニカルサポートおよび圧縮情報にアクセスします。

リプレイファイルを生徒たちに見せる

NetSupport Schoolの画面送信機能を使用すれば、先生は、保存されているリプレイファイルを接続している任意の数の生徒に表示することができます。

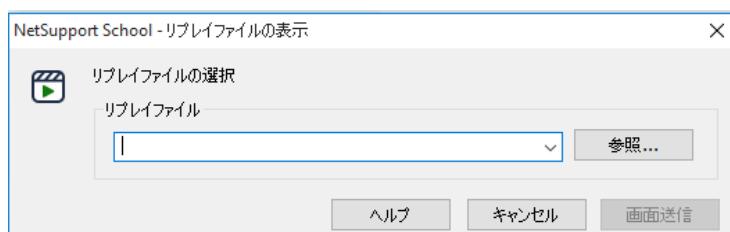
リプレイファイルを表示するには

1. リボンのクラスタブを選択し、画面転送アイコンをクリックして、リプレイの転送を選択します。

または

リボンの管理タブを選択し、リプレイファイルをクリックし、リプレイファイルを選択して、リプレイの転送をクリックします。

2. リプレイ表示ダイアログが表示されます。



3. 必要なリプレイファイルを参照し、選びます。
4. 「表示」をクリックします。
5. 先生コンソールでリプレイウィンドウが開いて、開き、選択した生徒にリプレイファイルの再生を開始します。
6. キャプションバーで閉じる X アイコンをクリックして、リプレイファイルの画面送信を終了します。

リプレイファイルをビデオファイルに変換する

NetSupport School リプレイファイルは、NetSupport School以外の様々なメディアプレイヤーで再生できるようにビデオファイルに変換することができます。リプレイファイルはWMVやAVI形式に変換することができます。

リプレイファイルを変換する

1. リボンの管理タブを選択し、リプレイファイルをクリックします。
または
リボンのクラスタブを選択し、画面転送アイコンをクリックして、リプレイファイルを選択します。
2. リプレイファイルダイアログが表示されます。
3. 変換するリプレイファイルを選び、ファイルの変換をクリックします。
4. ウィザードが変換プロセスを案内します。

リプレイ変換ユーティリティを使用する

リプレイファイルを変換するときに、ビデオ解像度、音声品質、ビデオの開始終了点などの操作ができるさらに高度なオプションがリプレイファイル変換ユーティリティで提供されます。

注意: NetSupport先生またはテックコンソールをインストールすると、リプレイ変換ユーティリティはデフォルトでインストールされます。単独のコンポーネントとしてユーティリティをインストールすることもできます。

1. スタート} プログラム} NetSupport School} NetSupport School リプレイ}を選びます。

注意: Windows 8のマシンでは、スタート画面で右クリックして画面の下部のすべてのアプリを選択します。
NetSupport Schoolリプレイアイコンをクリックします。

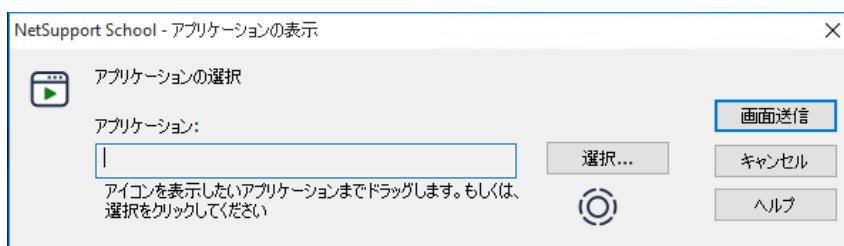
2. リプレイ変換ユーティリティが開きます。
3. 必要なリプレイファイルを参照し、必要なプロパティを設定します。
4. エンコード開始をクリックします。

ショーアプリケーション

ショー機能は生徒に先生の画面を表示することができます。しかし、コントロールでプログラムがいくつか開いている場合、特定のアプリケーションだけをショーしたい時があります。

アプリケーションをショーするには

1. リボンの [クラス] タブを選択し、[画面送信] アイコンをクリックします。
2. 表示オプションは、[表示] メニューで関連するオプションをクリックして設定できます。表示プロパティをさらに設定するには、[詳細]  アイコンをクリックします。
3. [アプリケーションを表示] をクリックします。
4. ショーアプリケーションダイアログが表示されます。



5. コントロールデスクトップ上のアプリケーションにアイコンをドラッグして放します。（デスクトップ上にマウスを動かすと選択したアプリケーションの周りにピンク色の枠線が表示されます。）
- または
- 選択をクリックして、表示リストからアプリケーションを選択します。
6. ショーをクリックします。

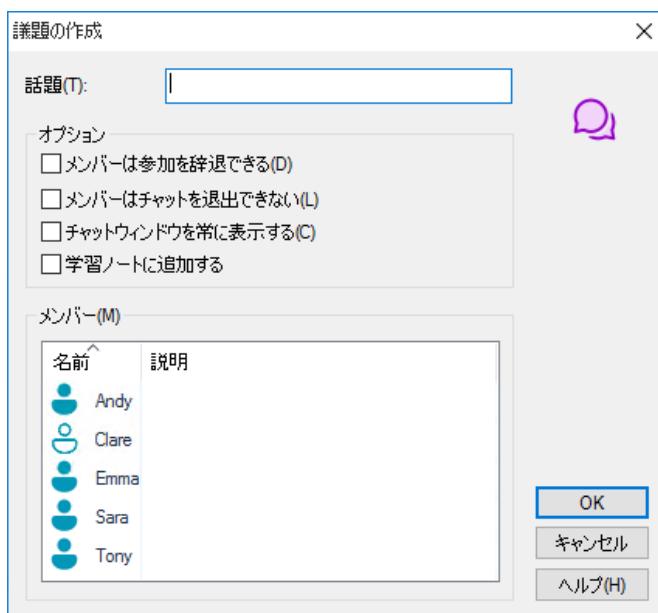
生徒とチャットをする

NetSupport Schoolはテキスト ウィンドウ形式で接続中の生徒と一緒にチャットが可能です。

注意: すべてのチャット セッションの履歴を .txt ファイルに保存できます。先生のチャット設定で有効にすることができます。

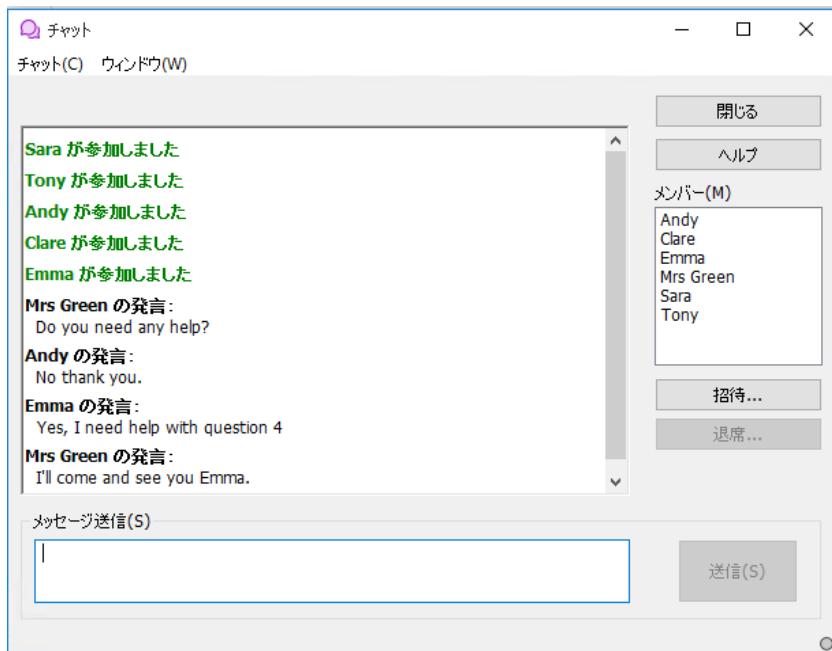
生徒とチャットをする

1. チャットしたい生徒またはグループをビューリストより選択します。選択しなかった場合は、接続中の全生徒が対象となります。
2. リボンの [クラス] タブを選択し、[チャット] をクリックします。
または
生徒アイコンを右クリックして[チャット]を選びます。
3. チャットプロパティダイアログが表示されます。



チャットセッションに適用するプロパティを選択します。[OK] をクリックするとチャットが開始されます

- チャット ウィンドウ が先生と生徒に表示されます。



注意:

- 生徒は、生徒のメイン ウィンドウを開き（システムトレイの生徒アイコンをクリック）、{コマンド}{チャット}を選択するか、生徒ツールバーのチャット アイコンをクリックして、チャット セッションを開始することもできます。
- デフォルトでは、生徒機は先生コンソールのみとチャット 可能ですが、ただし、生徒のユーザー インターフェイス設定で [生徒同士のチャット] オプションを選択すると、生徒同士でチャットできるようになります。

画面受信中に生徒とチャットをする

- ビュー ウィンドウ リボンの [ツール] タブを選択し、[チャット] をクリックします。
- チャット ウィンドウ が先生と生徒に表示されます。

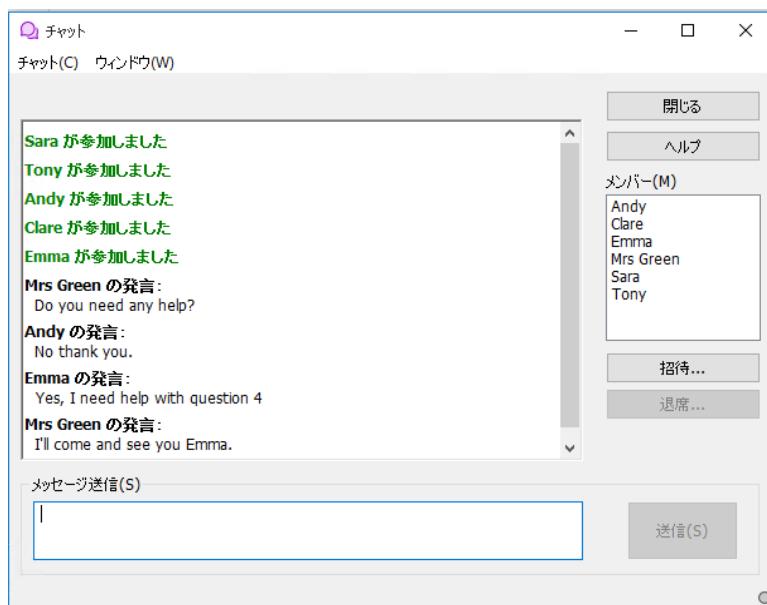
チャットを終了するには

- チャット ウィンドウの閉じるアイコンをクリックします。
または
チャット ウィンドウのドロップダウン メニューから{チャット}{閉じる}を選択します。

チャット ウィンドウ

このウィンドウはチャットに参加するメンバー全員の画面に表示され、チャットの進行状況が表示されます。

注意: 先生がチャットを開始する際に [チャット] ダイアログボックスで [メンバーはチャットからの退出は出来ません。] のボックスをチェックしていないければ、生徒は [退出] ボタンをクリックしていつでもチャットから抜けることができます。



チャット ウィンドウには、以下のようなメニュー やペインがあります:

【チャット】メニュー

[保存] をクリックすると、チャットの内容をテキストファイルに保存でき、将来 参照できます。テキストを含むファイルを作成するには名前を付けて保存を選択するか、別のアプリケーションかファイル内にチャットの内容を貼り付けるにはコピーを選択します。

各メッセージの文字数は、128 文字以内に制限されます。文字数のリミット 到達したら自動的にメッセージを送信するには自動送信メッセージにチェックをしてください。

日誌に追加を選択すると、チャットの内容を生徒日誌に追加することができます。

【ウィンドウ】メニュー

【ウィンドウ】メニューがあるのは、先生のチャット ウィンドウだけです。このメニューを使って、開いている他の NetSupport の ウィンドウに切り替えたり、並べて表示することができます。

チャットの状況

チャットの進行状況が記録されます。各 メンバーが送信したメッセージだけでなく、チャットに参加したり抜けたりしたメンバーの状況も記録されます。

メッセージ送信

ここにメッセージを入力し、<Enter>キーを押すか、[送信]ボタンをクリックします。各メッセージの文字数は、128文字以内に制限されます。文字数のリミットに到達するとメッセージを自動的に送信できます。チャットウィンドウのドロップダウンメニューから{チャット}{自動送信メッセージ}を選択します。

注意: メッセージにエモコン(顔アイコン)を含めることができます。

閉じる

チャットを終了します。

メンバー

現在チャットに参加しているメンバーが表示されます。先生は必要に応じて生徒をチャットに招待したり、除外したりできます。また、生徒のチャットウィンドウで[退出]ボタンが無効になっていなければ、生徒はこれをクリックしてチャットから抜けることもできます。

招待

[メンバー追加]ダイアログボックスが表示されるので、参加させる生徒を選択し、[追加]をクリックします。[履歴の送信]ボックスをチェックしておくと、[チャットの状況]のコピーが新規に参加したメンバーに送信されます。

注意: いったんチャットから除外した生徒やチャットから抜けた生徒も、再度参加させることができます。

退出

生徒をチャットから除外するには、除外する生徒を[メンバー]リストから選択し、このボタンをクリックします。一度除外したメンバーも、再度チャットに参加させることができます。

生徒にメッセージを送信する

NetSupport Schoolで、すべての接続されている生徒または現在選択されている生徒にメッセージを送信できます。定期的に決まったメッセージを送信する場合、最大5件までメッセージを事前に保存することができます。

新しいメッセージを入力して送信するには

1. メッセージを送信したい生徒を選択します。
2. リボンのクラスタブを選択し、メッセージをクリックします。

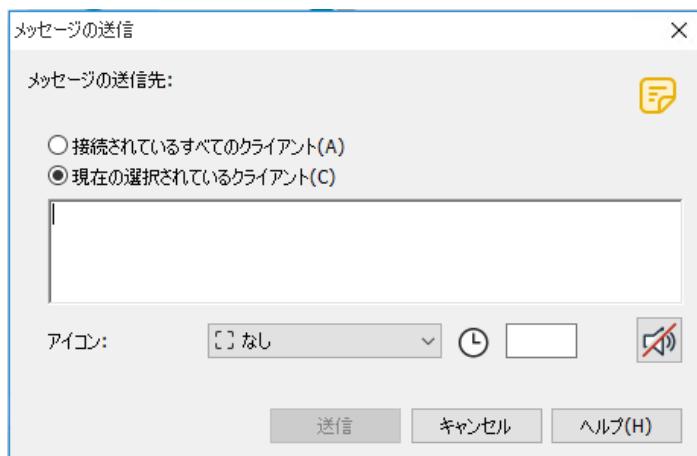
または

右クリックしてメッセージを選択します。

または

グループにメッセージを送信するには、リボンのグループタブを選択するか(必要なグループが選択されていることを確認してください)、必要なグループタブのドロップダウンアイコンをクリックし(グループタブの右側にマウスを移動すると表示されます)、メッセージをクリックします。

3. メッセージダイアログが表示されます。



接続しているすべての生徒、現在選択されている生徒、またはグループにメッセージを送信するかどうかを選択します。メッセージを入力します。生徒の画面にメッセージを表示する時間を入力できます。空欄にした場合は、消さない限り残り続けます。[OK]をクリックします。生徒機でサウンドを再生して、メッセージをさらに強調することができます。[サウンドを再生]  アイコンをクリックします。

注意: 学習ノートがすでに開始している場合は、メッセージを学習ノートに追加するオプションがあります。

4. [送信]をクリックします。このボタンは送信するメッセージを入力するまで無効になっています。生徒の画面にメッセージはダイアログボックスで表示されます。

事前に設定したメッセージを送信するには

1. 生徒アイコンを選択します。
2. リボンのクラスタブを選択し、メッセージアイコンのドロップダウン矢印をクリックします。

または

右クリックして、メッセージアイコンのドロップダウン矢印を選択します。

または

事前に定義されたメッセージをグループに送信するには、リボンのグループタブを選択するか(必要なグループが選択されていることを確認してください)、グループタブのドロップダウンアイコン(グループタブの右側にマウスを置くと表示されます)をクリックし、メッセージのドロップダウン矢印をクリックします。

3. 事前に設定したメッセージが表示されます。生徒にメッセージを送信する項目をクリックします。

注意: 事前に定義されたメッセージを作成していない場合は、「プリセットメッセージ」を選択して実行できます。

生徒全員に簡単なメッセージを送信するには

1. リボンのクラスタブを選択し、メッセージアイコンのドロップダウン矢印をクリックします。
2. クイックメッセージ欄にメッセージを入力し、メッセージ  アイコンをクリックします。
3. メッセージは接続しているすべての生徒に送信されます。

画面受信中にメッセージを送信するには

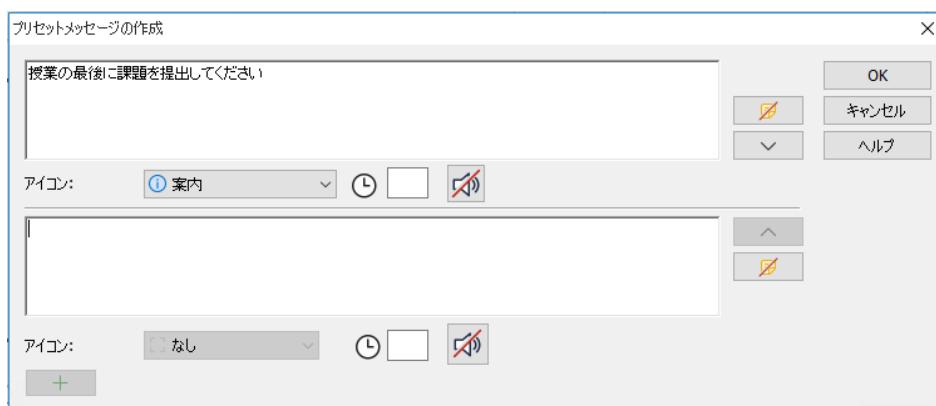
1. 表示ウィンドウで、リボンのホームタブを選択し、メッセージをクリックします。
2. クライアントにメッセージを送信ダイアログが表示されます。
3. メッセージを入力します。指定した時間、生徒のマシンにメッセージを表示するかどうかを決定します。生徒ジャーナルが開始されている場合は、これにメッセージを追加できます。
4. 送信をクリックします。
5. 現在閲覧中の生徒画面にメッセージが表示されます。

プリセットメッセージを作成する

よく使うテキストメッセージを最大5件登録してメッセージ機能を使って生徒に素早く配信可能です。

プリセットメッセージの作成

1. リボンの[クラス]タブを選択し、[メッセージ]ドロップダウン矢印をクリックして、[プリセット メッセージ]を選択します。
または
生徒アイコンを右クリックし、[メッセージ]ドロップダウン矢印をクリックして、[プリセット メッセージ]を選択します。



2. テキストメッセージを入力します。
3. それぞれのメッセージに追加プロパティを設定します。
 - 生徒の画面でメッセージが表示される長さを設定します。
 - メッセージと一緒に表示するアイコンを選択します。案内・質問・警告・禁止のメッセージの種類を素早く認識できます。
 - 生徒のマシンでサウンドを再生してメッセージを強調することも可能です。[サウンドを再生]  アイコンをクリックします。
4. 新しいメッセージを追加するには、[新しいメッセージを追加]  アイコンをクリックします。リスト内のメッセージの順序を変更するには、矢印を使用します。メッセージを削除するには、[このメッセージを削除]  アイコンをクリックします。
5. 準備が整ったらOKをクリックします。
6. メッセージはリボンの[メッセージ]アイコンドロップダウンリストに表示され、生徒にすばやく送信できます。

ヘルプ依頼を送信する

NetSupport Schoolでは、生徒から先生にヘルプ要求を出して支援を求めるすることができます。生徒機を「クライアントアイコン非表示」に設定していなければ、生徒機のタスクバーにあるNetSupport Schoolのアイコンを右クリックし、コンテキストメニューの [ヘルプ依頼]をクリックします。ホットキーを使用することもできます。

注意: 生徒ツールバーが有効の場合、生徒は[ヘルプ依頼]アイコンをクリックしてヘルプを求められます。

ヘルプ依頼を送信する

1. ホットキー<ALT>+<左SHIFT>+<右SHIFT>を押します。

または

生徒ツールバーのヘルプ依頼アイコンをクリックします。

または

タスクバーの生徒アイコンを右クリックして、「ヘルプ依頼」を選びます。

2. メッセージを入力するダイアログボックスが開きます。
3. [OK]ボタンをクリックします。
4. 接続中の先生にヘルプ要求が送信されます。

注意: 課題が終了したとき、緊急のヘルプが必要なときに、生徒は先生にアラートを送信することができます。生徒ツールバーのヘルプ依頼をクリックし、先生にアラートドロップダウンリストからオプションを選び、アラートをクリックすることでこれを行うことができます。生徒ツールバーは選択したアラートによって色が変化します。先生側の生徒アイコンはどのアラートか先生に通知するために色が変化します；

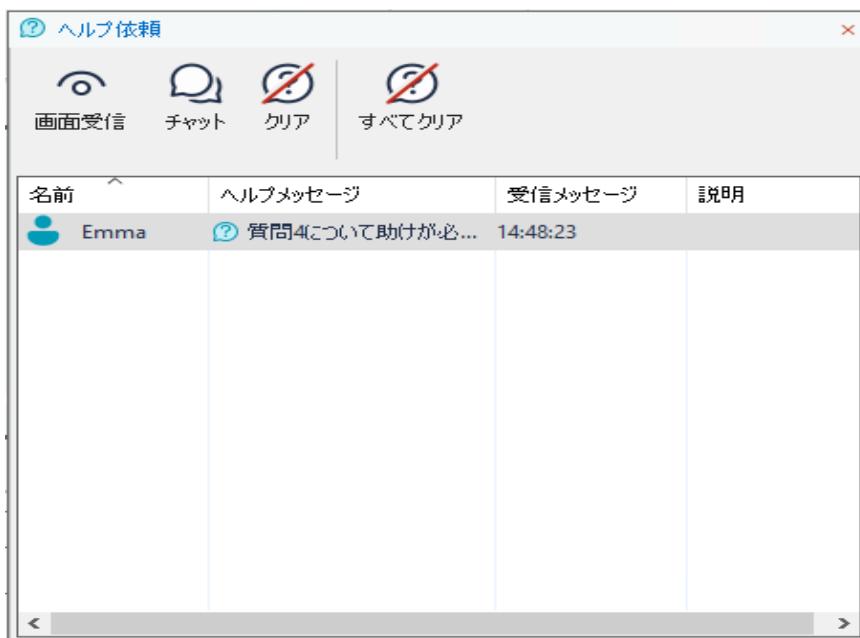
先生は技術者に直接サポートを依頼できます。サポートアイコンは先生コンソールのキャプションバーに表示され、先生は技術者とチャットや直接メッセージを送信できるようになります。テックコンソールでこの機能が有効になっている必要があります。

ヘルプ依頼に対応する

生徒がヘルプ依頼を送信すると、接続中の先生コンソールに警告メッセージが表示されます。未処理のヘルプ依頼は、生徒の横にヘルプ依頼アイコンが表示され、リボン上に未処理のヘルプ依頼数を示すバッジが表示され、先生に表示されます。

ヘルプ依頼の内容を確認する

1. リボンのクラスタブを選択し、ヘルプ依頼をクリックします。
2. ヘルプ依頼ウィンドウが開き、ヘルプの一覧が表示されます。



3. [画面受信]または[チャット]ボタンをクリックして生徒のヘルプ依頼に対応することができます。
注意: 生徒が先生にアラートを発信した場合、先生側の生徒アイコンはどのあらアラートか先生に通知するために色が変化します；課題完了は緑、ヘルプ依頼はオレンジ、緊急のヘルプは赤。先生の環境設定でこれらのアラートをオフにすることができます
4. ヘルプ依頼の処理が完了したら、ヘルプ依頼ウィンドウで必要な生徒の依頼をクリックしてクリアをクリックするか、必要な生徒のアイコンを右クリックしてクリアをクリックします。すべてのヘルプ依頼をクリアするには、ヘルプ依頼ウィンドウですべてクリアをクリックします。生徒がヘルプ依頼ダイアログから以前のヘルプ依頼をクリアすることもできます。

ファイルを転送する

NetSupport Schoolには、コントロールとクライアントパソコン間でファイルを転送できる高度なファイル転送機能が含まれています。

ファイル転送機能は、先生コンソールでオプションをクリックし、ドロップダウンメニューから設定を選択し、ファイル転送を選択することで構成できます。

注意: 生徒画面を受信中に、先生の Windows エクスプローラーから生徒のデスクトップにファイルを直接ドラッグアンドドロップできます。

先生と生徒の間でファイルやフォルダーを転送するには

1. ビューリストで生徒機を選択します。
2. リボンのクラスタブを選択し、**ファイル転送**をクリックします。

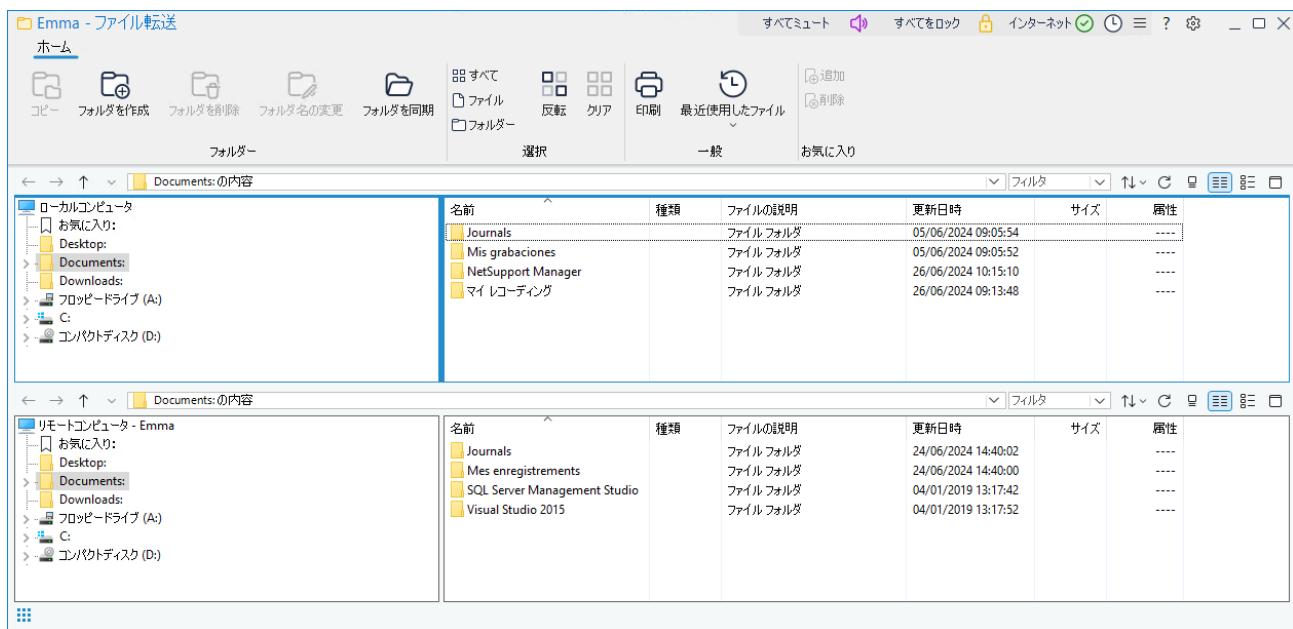
または

選択したクライアントアイコンを右クリックしてファイル転送を選択します。

または

ク生徒の画面を受信している場合は、表示 ウィンドウのツールタブを選択し、**ファイル転送**アイコンをクリックします。

3. ファイル転送ウィンドウが表示されます。



4. ローカルまたはリモートペインから、項目のコピー先のドライブまたはフォルダーを選択します。

注意: 生徒のデスクトップ上で開いているフォルダー（エクスプローラー ウィンドウ）へのパスがリモートペインの上部に表示され、素早い選択が可能になります。

5. ローカルまたはリモートのリストビューから、生徒にコピーする項目を選択します。すべてのファイルを選択するには、リボンのファイルアイコンをクリックします。すべてのフォルダーを選択するには、フォルダーアイコンをクリックします。すべてのファイルとフォルダーを転送する場合は、すべてアイコンをクリックします。

注意: NetSupport School は、先生が最近作業したファイルのうち、生徒に送信できるファイルのリストを提供します。最近使用したファイル(最新の 20 個のファイルが表示されます)をクリックし、リストからファイルを選択します。ファイルは生徒の現在のフォルダーにコピーされます。

6. ファイルをコピーをクリックします。

注意: 選択した項目は、リストビューからドラッグしたり、目的のドライブまたはフォルダーにドロップしたりすることもできます。

7. 確認画面が表示されたら、[はい]をクリックします。

8. 転送の進行状況を表示するコピー進捗ダイアログが表示されます。操作が完了するまでエラーメッセージを無視し、プロンプトを上書きするか選択できます。操作の終了時に概要ウィンドウに表示されます。

注意: Androidの生徒にファイルが転送される時は、ファイルがAndroidの生徒に転送されると、アクセスできるように生徒のファイルエクスプローラ経由でコピーされます。

生徒機間でファイルを転送する

2 人の生徒間でファイルやフォルダーをコピーすることも可能です。

1. 各生徒のファイル転送ウィンドウを表示します。
2. ファイル転送画面を見やすいように配置し、クライアント間のファイルとフォルダをドラッグ & ドロップします。

注意: リモートペインの上にあるウインドウ□をクリックすると、生徒のファイルとフォルダをさらに表示できます。

ファイルとフォルダーを管理する

ファイル転送操作中に操作したいファイルとフォルダーを簡単に管理できます。

フォルダを作成する

1. ローカルまたはリモートのツリービューを選択します。
2. フォルダを表示させたいドライブやフォルダを選択します。
3. リボンの[フォルダーの作成]アイコンをクリックします。
4. フォルダ作成ダイアログが表示されます。
5. フォルダ名を入力してOKをクリックします。

お気に入りにフォルダを追加する

定期的にアクセスする必要のあるフォルダーは、ツリービューのお気に入りフォルダーに追加できます。

1. ローカルまたはリモートペインで必要なフォルダーを選択します。
2. リボンの[追加]アイコンをクリックします。
3. ツリービューの[お気に入り]の下にフォルダーが表示されます。

ファイル名を変更する

1. ローカルペインまたはリモートペインのリストビューを選択します。
2. 名前を変更するファイルを選択します。
3. リボンの[ファイル名の変更]アイコンをクリックするか、**F2**キーを押します。
4. ファイルアイコン隣の黒い境界線に新しいファイル名を入力します。
5. **Enter**キーを押します。

ファイル属性を変更する

ファイルの属性を変更した場合があるかもしれません。例えば読み取り専用などにする。

1. ビューまたは変更したいファイル属性を選択します。
2. リボンの[プロパティ]アイコンをクリックします。
または
右クリックし、プロパティを選択します。
または
リボン内のファイル名が表示されているタブを選択し、[変更]をクリックします。

3. ファイルプロパティダイアログが表示されます。
4. 設定する属性を確認またはクリアします。

リモートファイルの編集

コントロールマシン上でクライアントマシンのファイルを編集し、更新されたバージョンをクライアントに送り返すことができます。

1. リモートペインで必要なファイルをダブルクリックします。

または

リモートペインで必要なファイルを選択します。リボンのアイテムを開くアイコンをクリックして、既定のアプリケーションを使用してファイルを開くか、ドロップダウン矢印をクリックして、ファイルを開くアプリケーションを選択します。

2. ファイルをアップロードして開くことを確認するダイアログが表示されます。開くをクリックします。
3. ファイルに関連する変更を加え、保存して閉じます。
4. メッセージが表示されます。[はい]をクリックして、更新したファイルをクライアントに送信します。[名前を付けて保存]フィールドに新しい名前を入力すると、ファイルの名前を変更できます。[いいえ]をクリックすると、ファイルはクライアントにコピーされず、加えた変更は失われます。
5. **注意:** 編集中にファイルが変更された場合は通知されます。ファイルのコピーを別の名前で保存するか、クライアントでリモートファイルを上書きするか、キャンセルし何も変更しないかを選択できます。

注意: 必要なファイルを右クリックしてクイック編集を選択すると、NetSupport School の内部テキストエディタを使用してファイルをすばやく編集できます。

ファイルやフォルダを削除する

コントロールまたはクライアントマシンからファイルとフォルダーを削除できます。

ファイルを削除するには

1. 削除したいファイルを選択します。
2. リボンの[ファイルを削除]アイコンをクリックします。
3. 確認ダイアログが表示されたらはいをクリックします。

フォルダを削除するには

1. 削除したいフォルダを選択します。
2. リボンの[フォルダを削除]アイコンをクリックします。
3. 「フォルダの削除」ダイアログが表示されます。
4. [内容も含む]チェックボックスを選択します。
5. はいをクリックします。

注意:

- 1度に複数のフォルダを削除することはできません。「削除」操作を実行時に一覧表示で複数のフォルダを選択した場合、最後に選んだフォルダだけが削除されます。
- デフォルトでは、ローカル側から削除されたすべてのファイルはゴミ箱へ送られます。ファイル転送設定でこれを作りることができます。

ファイルを配布する

個々のクライアントとファイルを転送できるだけでなく、NetSupport Schoolは、複数のクライアントにファイルを同時に配布することもできます。

注意:

ファイルを配布する際のパフォーマンスを向上させるために、NetSupport School のブロードキャストファイル配布機能がデフォルトで有効になっています。これにより、ファイルがすべてのマシンに同時に送信されるため、転送速度が向上します。この機能がオフになっている場合、ファイルは各クライアントマシンに順番に送信されます。

NetSupport Schoolで作成されたネットワークトラフィックは減りますがあらたにブロードキャストパケットを作成します。この機能を使用する場合は、必ずネットワーク管理所に確認することをオススメします。

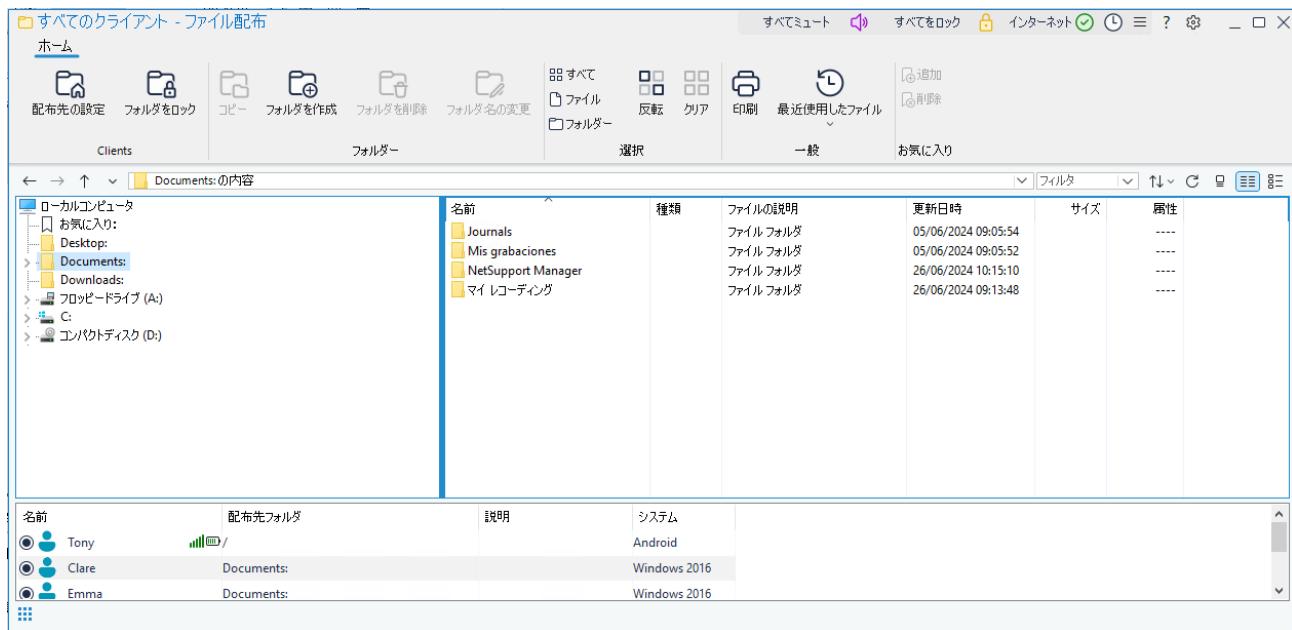
ファイル配布は、マルチキャストを使用して生徒に送信することができます。指定されたIPのマルチキャストアドレスに含まれるマシンに一斉送信されます。

生徒にファイルを配布するには

1. リボンのグループタブを選択し、**ファイルの配布**をクリックします。

注意: ファイルをグループに配布するには、グループバーから目的のグループを選択します。

2. ファイル配布ウィンドウが表示されます。



3. 生徒機のファイルやフォルダがコピーされる場所を配布先フォルダと言います。
4. 先生機のツリービューから配布するファイルを選択します。すべてのファイルを選択するには、リボンのファイルアイコンをクリックします。すべてのフォルダーを選択するには、**フォルダーアイコン**をクリックします。すべてのファイルとフォルダーを転送する場合は、**すべてアイコン**をクリックします。

注意: NetSupport School は、先生が最近作業したファイルのうち、生徒に送信できるファイルのリストを提供します。最近使用したファイル(最新の 20 個のファイルが表示されます)をクリックし、リストからファイルを選択します。ファイルは生徒の現在のフォルダーにコピーされます。

5. 生徒機のファイルやフォルダがコピーされる場所を配布先フォルダと言います。指定がない限り、生徒機の配布先フォルダは先生機と同じ場所になります。生徒機に同じフォルダがない場合は、デフォルトでC ドライブにコピーしてフォルダを自動で作成します。

または

クライアントPCの特定の配布先フォルダを設定するには、リモートペインのクライアントアイコンを右クリックして配布先設定を選択します。配布先を指定したらOKをクリックします。

注意: グループ内のすべてのクライアントの保存先フォルダーを設定するには、リボンの保存先の設定アイコンをクリックします。フォルダーのロックをクリックすると、クライアント側での保存先フォルダーをロックできます。

6. ファイルのコピーをクリックします。
7. 確認画面が表示されたら、[はい]をクリックします。
8. 転送の進行状況を表示するコピー進捗ダイアログが表示されます。操作が完了するまでエラーメッセージを無視し、プロンプトを上書きするか選択できます。

注意: ファイルは、Androidの生徒に配布されると、アクセスできるように生徒のファイルエクスプローラを経由してコピーされます。

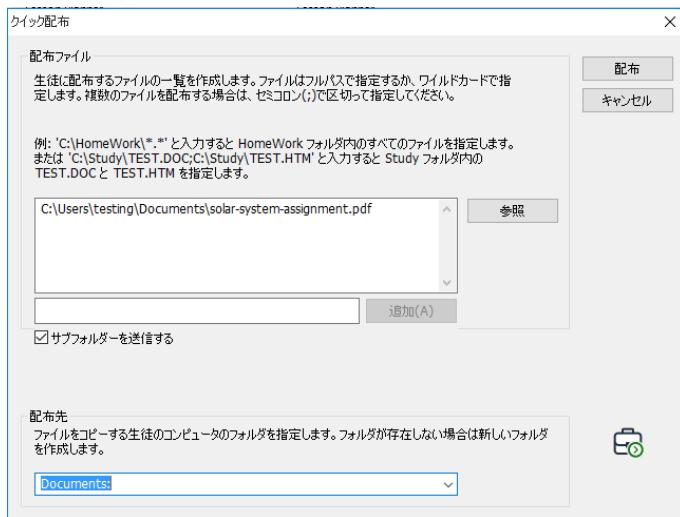
教材を配布する

生徒に準備した教材を配布するには、2通りの方法があります。

- **クリック配布:** 接続中の生徒全員または特定のグループの生徒に教材を配布する一回限りの操作には便利です。
- **拡張配布:** 教材配布の操作情報を保存できるため、同じ操作を定期的に行う場合に便利です。配布する生徒などもより柔軟に設定できます。

教材をクリック配布する

1. グループもしくは全生徒に配布するか決めます。クリック配布では任意に生徒を指定できません。
2. リボンのワークプランタブを選択し、**ワークの送信**をクリックします。
3. クリック配布画面が表示されます。

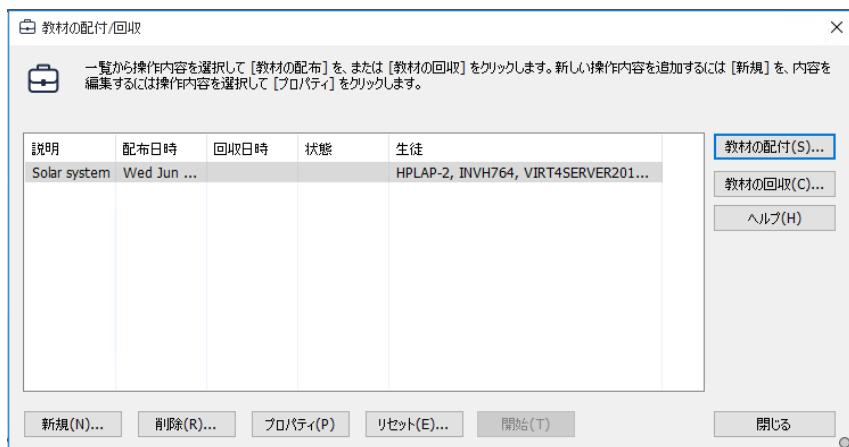


4. 生徒に送信するファイルをリストするか、フォルダーを指定します。ファイルはフルパスが必要になります。ワイルドカードも使用できます。セミコロン(;)で区切り複数のファイルを指定する事もできます。
- または
- 【参照】ボタンをクリックしてファイルの場所を指定します。
- または
- ファイルまたはフォルダのパスを入力して追加をクリックします。
5. 生徒にフォルダーを送信する場合は、サブフォルダーも送信できます。サブフォルダーを含めるをクリックします。
 6. 生徒機の教材のコピー先フォルダを指定します。ドロップダウンリストからデスクトップまたはドキュメントを選択できます。存在しなければ、新規のフォルダが作成されます。
 7. [配布]をクリックします。

8. 操作の結果が表示され、教材が正しく配布されたか確認できます。
9. [OK]をクリックします。

拡張配布で教材を配布する

1. リボンのワークプランタブを選択し、**ワークの送信 / 回収**をクリックします。
2. **教材の配布 / 回収**ダイアログボックスが表示されます。



3. 既存のワークの送信/回収操作が一覧表示されます。
4. 新しい操作を追加するには、**新規**をクリックします。ワークの送信/回収 ウィザードが表示されます。ウィザードの指示に従います。
5. 一覧から操作を選択し「教材の配布」ボタンをクリックします。
6. 「生徒を選択」ダイアログが表示されます。
7. すべての生徒にワークを送信することも、これらのクライアントをクリックして必要な生徒を選択することもできます（生徒を削除するには、生徒アイコンの横にあるチェックマークを外します）。
8. [OK]をクリックします。
9. 操作の結果が表示され、教材が正しく配布されたか確認できます。
10. [OK]をクリックします。

ワークが生徒に送信されると、リボンにワークの送信ステータス ウィンドウが表示され、現在のステータスが表示されます。



適切なオプションをクリックすると、作業を完了した生徒や項目が残っている生徒を表示できます。全体的な進捗状況により、ワークを完了した生徒の数を追跡できます。

生徒は生徒ツールバーからワーク項目を開き、ワーク項目が完了したらクリックすることができます。これにより、ワークの送信ステータスが更新されます。

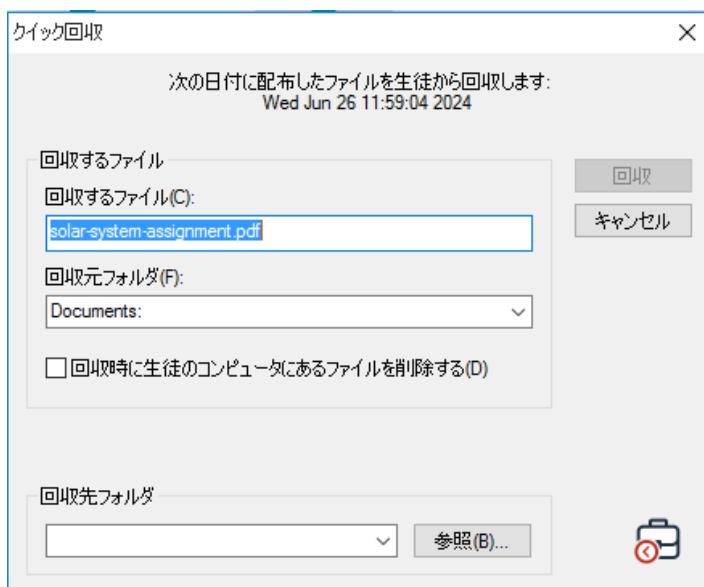
教材を回収する

作業済みの教材を回収するには2通りの方法があります。

- **クイック回収:** クイック配布した教材が記憶されており、授業の最後などに素早く簡単に教材を回収できます。
- **拡張回収:** あらかじめ定義してある教材の配布/回収操作から回収操作を選択でき、回収する生徒などもより柔軟に設定できます。

教材をクイック回収する

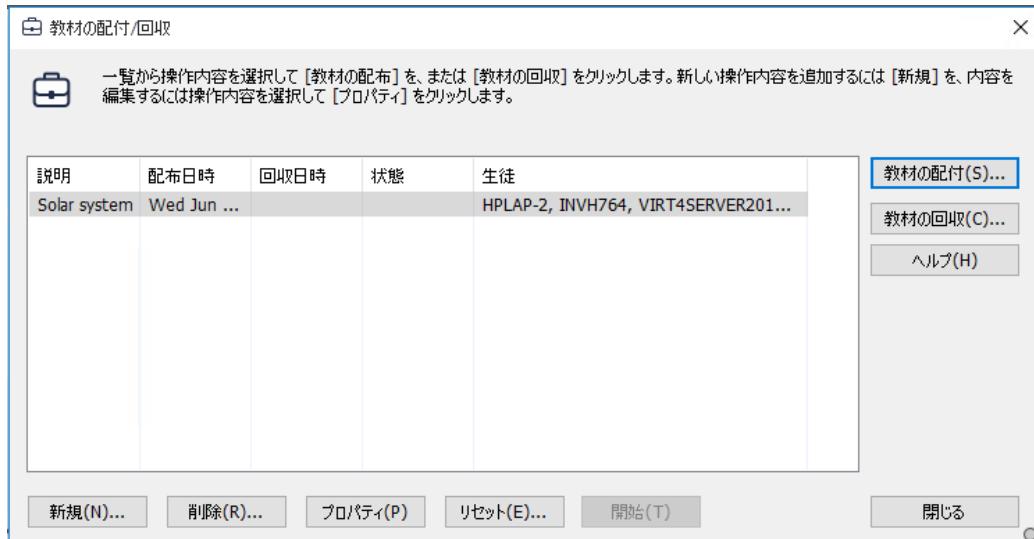
1. リボンの[ワークプラン] タブを選択し、[作業の回収]をクリックします。
2. [クイック回収] ダイアログボックスが表示されます。



3. 回収するファイル名を入力します。例: *.* または Test1.TXT;Test2.TXT
 4. ファイルが保存されているフォルダを指定します。例: C:\TEMPや回収後に生徒機からフォルダの削除も行えます。
- 注意:** [ファイルを回収]欄と[生徒のフォルダから回収]欄には、クイック送信を使用して最後に送信されたファイルが事前に入力されています。
5. ファイルを収集する先生機のフォルダーを指定します。ドロップダウンリストから[デスクトップ]または[ドキュメント]を選択する、または[参照]をクリックして別のフォルダーを指定できます。
 6. [回収]ボタンをクリックします。
 7. 操作の結果が表示され、教材が正しく回収されたか確認できます。
 8. [OK]をクリックします。

拡張回収で教材を回収する

1. リボンの[ワークプラン]タブを選択し、[ワークの送信 / 回収]をクリックします。
2. 教材の配布 / 回収]ダイアログボックスが表示されます。



3. リストから選択して、[教材の回収]をクリックします。
4. 生徒機の選択画面が表示されます。



ファイルを回収したい生徒機を選択します。

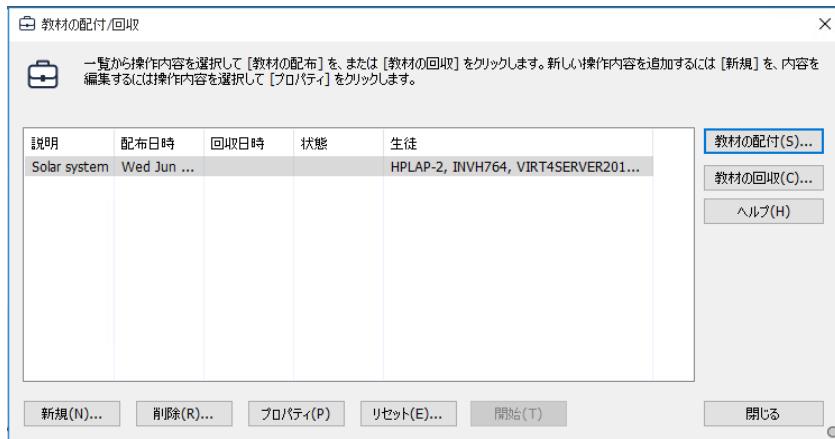
5. [OK]をクリックします。
6. 操作の結果が表示され、教材が正しく回収されたか確認できます。
7. [OK]をクリックします。

配布/回収操作の作業を変更する

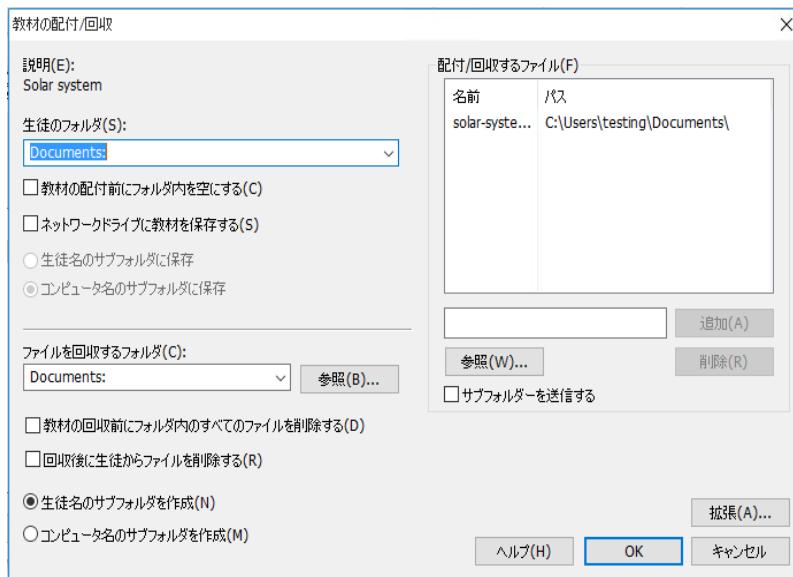
教材の配布/回収作業の情報(説明やファイルの場所など)を、ダイアログボックスで管理できます。

配布/回収作業の情報を変更する

1. リボンの[ワークプラン]タブを選択し、[ワークの送信/回収]をクリックします。
2. [教材の配布/回収]ダイアログボックスが表示されます。



3. 一覧から作業を選択して、[プロパティ]ボタンをクリックします。
4. [プロパティ]ダイアログが表示されます。



5. 変更したら [OK] をクリックします。
6. [OK] をクリックします。

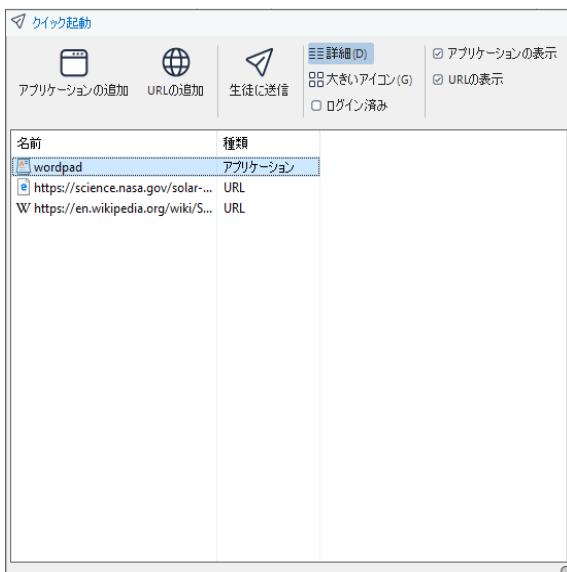
生徒側のアプリケーションと Webサイトをリモートで起動する

この機能を使用すると、リモート コントロールすることなく、個々の生徒機または生徒機のグループでアプリケーションや Webサイトを起動（実行）できます。たとえば、アプリケーションの使用方法を生徒に示した後、そのアプリケーションを生徒のマシン上で起動したいと思うかもしれません。

注意：アプリケーションは生徒のコンピューターにインストールされているか、生徒のコンピューターで使用できる必要があります。

先生コンソールから生徒のアプリケーションまたは Webサイトを起動する

1. 生徒を選択します。
2. リボンのクラスタブを選択し、**クイック起動**をクリックします。
3. クイック起動ペインが表示されます。



4. **アプリケーションを追加またはURLを追加**をクリックします。
5. アプリケーションを追加する場合は、生徒側で起動するアプリケーションの名前とパスを入力します。

または

参照ボタンをクリックして、先生のワークステーションで実行できるアプリケーションを選びます。

注意：

- Windows Microsoft StoreがあるWindowsマシンにアプリケーションを追加すると「アプリケーションのプロパティ」ダイアログに2つのタブが表示されます。「デスクトップアプリケーション」タブは、上記で説明したように標準的なWindowsアプリケーションを追加することができます。「Windowsストアアプリケーション」タブは、Windows Storeのアプリケーションが一覧表示されます。

- アプリケーションの起動と同時に特定のファイルを開きたい場合は、アプリケーションの実行ファイル名と開くファイル名をそれぞれクオーテーションマークで囲み、分けて指定してください。【例】C: ¥ Program Files ¥ Microsoft Office ¥ Excel.exe C: ¥ My Documents ¥ Accounts.xls>

6. [OK] ボタンをクリックします。
7. Web サイトを追加する場合は、URL を入力して OK をクリックします。
8. アプリケーションまたは Web サイトのアイコンがクイック起動ペインに表示され、今後使用できるように保存されます。

注意:

- ログオンしている生徒に対してのみアプリケーションまたは Web サイトを起動する場合は、ログイン済みオプションを選択します。
- アプリケーションを表示または URL を表示オプションをクリックすると、アプリケーションまたは Web サイトのみを表示するように選択できます。

9. 必要なアプリケーションまたは Web サイトを選択し、生徒に送信をクリックします。

テックコンソール から生徒側のアプリケーションを起動します

1. 生徒を選択します。
 2. リボンでホームタブを選択し、**アプリケーションの起動**をクリックします。
- または
- 生徒を右クリックし、**アプリケーションの起動**を選択します。
3. クライアントでアプリケーションを実行ダイアログが表示されます。
 4. 実行タブを選択します。
 5. クライアントで実行するアプリケーション名とパスを入力します。

または

ローカル参照をクリックして、テックコンソール マシン上のアプリケーションを参照します。

注意: 実行を成功させるにはクライアントのアプリケーションがコントロールと同じ場所に保存されているかどうかチェックしてください。

6. リストに追加ボックスにチェックをして保存リストタブに今後使用できるように保存します。
- 注意:** アプリケーションは、リボンの**アプリケーションの起動**ドロップダウンリストに追加されます。
7. ログオンされているクライアントにアプリケーションを実行したい場合は、[クライアントがログオンしている場合は実行する]を選択します。
 8. 操作の結果を表示しない場合は、**結果不要**をクリックします。
 9. [実行]をクリックします。
 10. 選択した全てのクライアントでアプリケーションが実行されます。操作結果が結果ボックス内に表示されます。

または

1. アプリケーションの一覧を保存してある場合は、**アプリケーションの起動**ドロップダウンリストから必要なアプリケーションを選択します。
2. ログオンしているクライアントでアプリケーションを起動するには、**クライアントはログオンが必要**をクリックします。操作の結果を表示したくない場合は、**結果不要**をクリックします。
3. クライアントでアプリケーションが起動され、クライアントでアプリケーションを実行ダイアログが表示され、結果が表示されます。

注意: リボンの**アプリケーションの起動**アイコンをクリックし、ドロップダウンメニューから**アプリケーションの追加**を選択すると、保存済みリストにアプリケーションをすぐに追加できます。

画面受信中に生徒のワークステーションでアプリケーションを起動する

アプリケーションのリストは表示ウィンドウに保存できるので、生徒側ですぐに起動できるようになります。

1. 表示ウィンドウのリボンでホームタブを選択します。
2. **追加**をクリックします。
3. アプリケーションの名前とパスを入力します。

または

フォルダーアイコンをクリックして、先生機上のアプリケーションを参照します。

4. OKをクリックします。
5. アプリケーションがクイック起動ペインにリストされます。

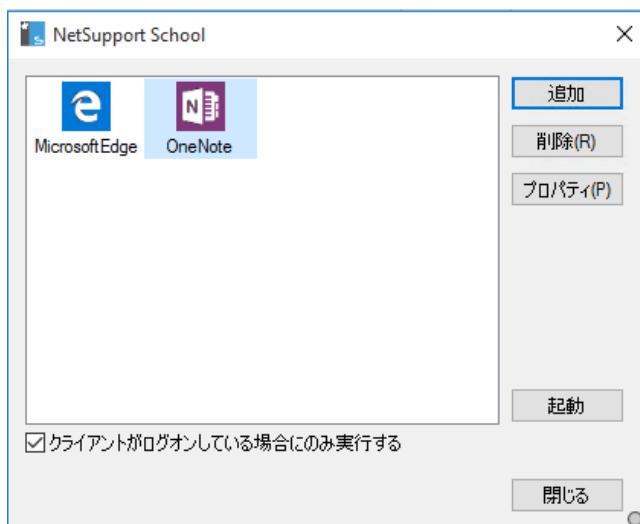
注意: 管理をクリックして、リストされたアプリケーションを編集または削除します。

6. 生徒側でアプリケーションを起動できるようになります。リスト内のアプリケーションを選択し、**起動**をクリックするか、アプリケーションをダブルクリックします。
7. アプリケーションは生徒側で実行されます。

注意: 先生コンソールのクイック起動ペインに保存されたアプリケーションをリモートで起動することもできます。アプリケーションの**起動**を選択し、必要なアプリケーションを選択し（または**追加**をクリックして新しいアプリケーションを追加）、**起動**をクリックします。

グループの生徒にアプリケーションを起動するには

- 必要なグループタブのドロップダウン アイコンをクリックし (グループタブの右側にマウスを置くと表示されます)、クリック起動をクリックします。
- 「アプリケーションを起動」ダイアログボックス が表示されます



- 追加をクリックします。
- 生徒側で起動するアプリケーションの名前とパスを入力します。

または

参照ボタンをクリックして、先生のワークステーションで実行できるアプリケーションを選びます。

注意:

- Windows Microsoft StoreがあるWindowsマシンにアプリケーションを追加すると「アプリケーションのパーティ」ダイアログに2つのタブが表示されます。「デスクトップアプリケーション」タブは、上記で説明したように標準的なWindowsアプリケーションを追加することができます。「Windowsストアアプリケーション」タブは、Windows Storeのアプリケーションが一覧表示されます。
- アプリケーションの実行ファイルが生徒機でも先生機と同じディレクトリにある場合のみ有効です。

- OKをクリックします。
- アプリケーション起動ダイアログにアプリケーションアイコンが表示され、将来使用できるように保存されます。

注意: ログオンしているクライアントに対してのみアプリケーションを実行したい場合は、「クライアントがログオンしている場合のみ実行」オプションを選択してください。

- 必要なアプリケーションを選び、起動をクリックします。

保存したアプリケーションまたは Web サイトを編集するには

クリック起動の使用時に保存されたアプリケーションや Web サイトを編集できます。

保存したアプリケーションまたは Web サイトを編集する

1. リボンのクラスタブを選択し、**クリック起動**をクリックします。
2. 編集するアプリケーションまたは Web サイトを右クリックし、**プロパティ**を選択します。
3. 必要な詳細情報を編集して**OK**をクリックします。
4. **閉じる**]をクリックします。

保存したアプリケーションまたは Web サイトを削除するには

クリック起動の使用時に保存されたアプリケーションや Web サイトを削除できます。

アプリケーションまたは Web サイトを削除する

1. リボンのクラスタブを選択し、**クリック起動**をクリックします。
2. 削除するアプリケーションまたは Web サイトを右クリックし、**削除**を選択します。
3. **閉じる**をクリックします。

ユーザー定義ツール

生徒機でアプリケーションを実行するのと同じように、定義ツールを使って先生コンソールでタスクを自動的に実行することができます。



ツールを追加するには

1. 先生コンソールから、リボンの管理タブを選択します。
または
テックコンソールから、リボンのツールタブを選択します。
2. [追加]ボタンをクリックします。
3. ツール追加ダイアログが表示されます。
4. 必要な情報を入力します。
5. [OK]をクリックします。ツールメニューに新しいツールが追加されます。
6. [閉じる]をクリックします。

ツールを実行するには

1. 先生コンソールから、リボンの管理タブを選択します。
または
テックコンソールから、リボンのツールタブを選択します。
2. ユーザー定義ペインで必要なツールを選択します。
3. 実行したいツールを選択します。ツールが自動的に実行されます。

ツールを編集するには

1. 先生コンソールから、リボンの管理タブを選択します。
または
テックコンソールから、リボンのツールタブを選択します。
2. ユーザー定義ペインで必要なツールを選択します。
3. 情報を編集して[OK]をクリックします。

ツールを削除するには

1. 先生コンソールから、リボンの管理タブを選択します。

または

ティックコンソールから、リボンのツールタブを選択します。

2. ユーザー定義ペインで必要なツールを選択します。

3. [削除]ボタンをクリックします。

確認ダイアログが表示されたら、[はい]クリックします。ツールが削除されます。

生徒機をリブート / ログアウトする

授業の終了時などに、接続していた生徒機やグループの生徒機をリモートログオフすることができます。次の授業の開始前に、多数のパソコンを一斉にログオフできるので、便利です。

クライアントを再起動またはログアウトするには

1. 生徒またはグループを選択します。
または
ログインしているすべての生徒を選択するには、ステータスバーの [ログインしている生徒を選択]  アイコンをクリックします。
2. リボンの [管理] タブを選択し、[再起動] または[ログアウト] をクリックします。
または
生徒を右クリックし、[再起動]  または[ログアウト]  アイコンをクリックします。
3. 再起動/ログアウトに含まれる生徒を確認するメッセージが表示されます。
注意: 今後、このメッセージを表示したくない場合は、[今後は表示しない] をクリックします。先生のユーザーインターフェイス設定でオンに戻すことができます。
4. [はい] ボタンをクリックします。

画面受信中にクライアントを再起動 / ログアウトするには

1. クライアントを表示しているときに、表示 ウィンドウリボンのホームタブを選択し、[再起動またはログアウト] をクリックします。
2. [はい]をクリックしてリブート/ログアウト送信の確認をします。

ユーザー アカウント の 管理

NetSupport Schoolでは、Active Directoryの一部であるユーザー(パスワードのリセットと解除)を管理でき、必要であれば、授業終了時に生徒のパスワードを簡単にリセットできます。ロックされているユーザー アカウントを確認し、アカウントのロックを解除したり新しいパスワードを割り当てることができます。

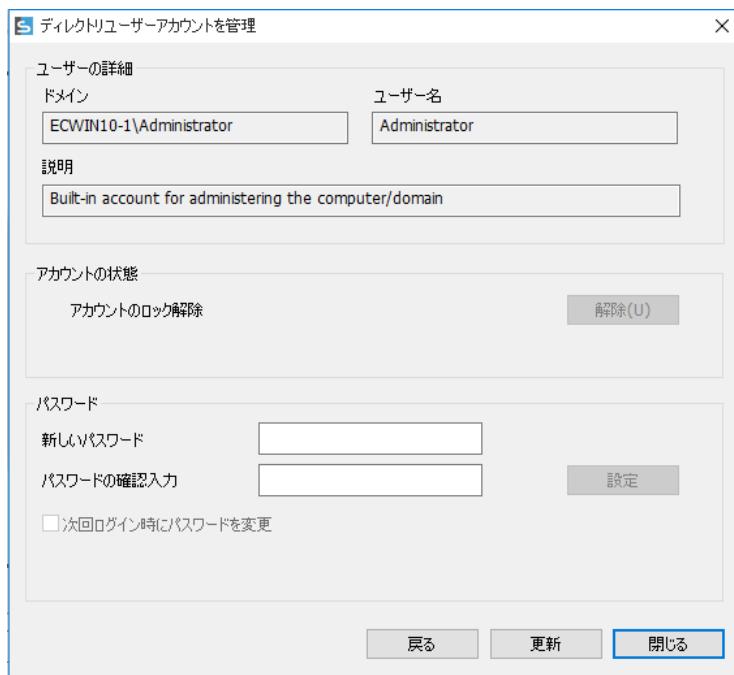
ドメイン管理者以外の人間がこの機能を使用する場合は、適切な権限を適用する必要があります。この方法の詳細は、サポートチームにお問い合わせください(英語)。

生徒のパスワードをリセットするには

1. パスワードをリセットする生徒を選択します。

注意: パスワードをリセットする生徒全員またはグループを選択できます。

2. リボンの管理タブを選択し、アカウントの管理をクリックします。
3. Active Directoryユーザー アカウント ダイアログが表示されます。選択した生徒のログオンユーザー名が表示されたら、「変更」をクリックします。
4. ディレクトリユーザー アカウントの管理 ダイアログが表示されます。



現在のユーザーの詳細を表示したり、アカウントのロックを解除したり、新しいパスワードを設定することができます。新しいパスワードを設定するときは、次回のログイン時にユーザにこれを変更させることができます。

注意: 複数の生徒を選択した場合は、新しいパスワードを設定し、アカウントのロックを解除したり、パスワードを変更したりすることはできません。

ウェブ管理モジュール

インターネット管理モジュールは接続中の生徒が閲覧したホームページをモニタし管理するために使用します。セッション中に訪問したサイトの内容を保存します。必要に応じて先生は URL を許可/制限することができます。

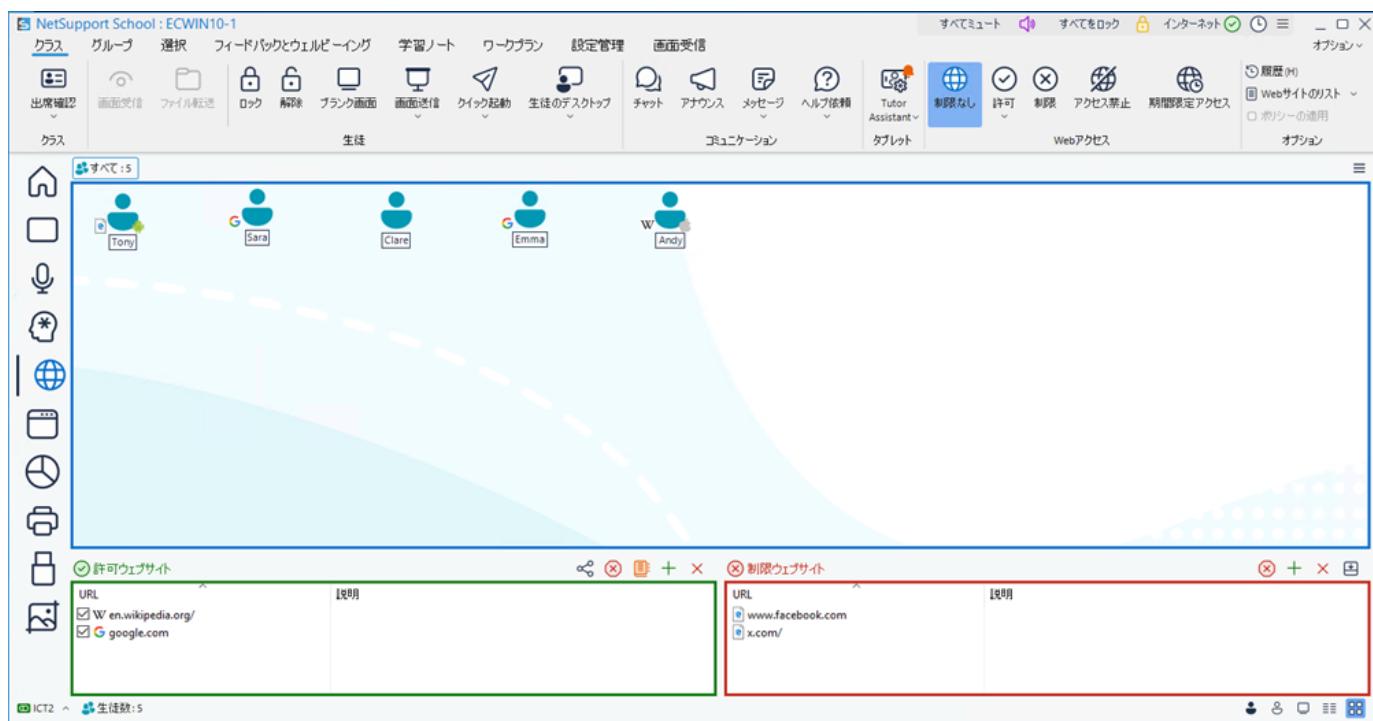
注意e:インターネットの調整と制限でサポートされているインターネット ブラウザは、Microsoft Edge、Firefox、Google Chrome です。次のブラウザはインターネット制限だけ対応しています： Opera 9 およびそれ以上。.

Web ビューに切り替えます

1. 先生コンソールの左側にある**Webビュー**  アイコンをクリックします。

または

リボンの表示タブを選択し、モードセクションのドロップダウン矢印をクリックして、Webビューを選択します。



Web モードでは、承認または制限された Web サイトの詳細を表示し、リボン内の利用可能なアイコンを使用して次のことを行うことができます：

- 制限が有効の場合は、無制限アクセスに戻す
- 許可ウェブサイトリストを有効にする
- 生徒は許可リスト内のURLだけ閲覧することができます。他のURLはブロックされます。このオプションが有効時は、緑のチェックマークが表示されます。生徒がインターネットにアクセスする場合、勝手にネットサーフィンするのではなく許可サイトを選ぶことを強制します。
- インターネットへのアクセスを制限
- 一定時間ウェブアクセスを許可する

注意:

- グローバルポリシー制限が実施されると、ウェブ制御アイコンの隣に施錠マークが表示されます。テックコンソールで作成した中央ポリシーのオン/オフを切り替えるには、リボンの**ポリシーの適用オプション**をクリックします。先生の環境設定で制限を上書きすることができます。
- すべての生徒のWebアクセスを一時的にブロックするには、キャッシュバーで**インターネット**を選択します（これはどのウィンドウからでも実行できます）。これが表示されない場合は、**クリックアクセスリストの設定**アイコンをクリックし、リストから**Webアクセス**を選択します。インターネットの使用が一時停止されていることを示すインジケータが生徒アイコンの横に表示されます。

生徒機で現在閲覧中の URL を特定する

生徒のマシンで現在実行中の Web サイトを監視できます。

生徒機で現在閲覧中の URL を特定する

- 先生コンソールの左側にある **Webビュー**  アイコンをクリックします。

または

リボンの [表示] タブを選択し、[モード] セクションのドロップダウン矢印をクリックして、[Webビュー] を選択します。

リストビューでは、生徒アイコンを大きなアイコンまたは詳細表示の2つの異なる方法で表示できます。ステータスバーの [大きいアイコン]  アイコンまたは [詳細]  アイコンをクリックします。

下部ペインを最小化して、生徒アイコン用のスペースを増やすことができます。[ビューの最小化]  アイコンをクリックします。

[大きいアイコン] もしくは [詳細] 表示した場合、生徒が現在閲覧中のウェブサイトのアイコンが生徒アイコンの隣に表示されます。このアイコンはデフォルトのインターネットエクスプローラアイコンもしくはオリジナルな URL アイコンです。リストビューが詳細表示の場合は、生徒機で稼動中のその他のウェブサイトのリストも表示されます。

4つのオプションのどれか1つで表示している場合は、生徒とアプリケーションアイコンの順番をアレンジすることができます。リストビューを右クリックして、[アレンジ] を選択します。次のオプションを使用できます：

名前順 生徒アイコンはクライアント名 / 表示名 / 取得名によってアルファベット順にアレンジできます。

現在のウェブサイト順 生徒アイコンは現在閲覧中のウェブサイトのアルファベット順でアレンジされます。

全ウェブサイト順 生徒アイコンは生徒機で稼動中のウェブサイトのアルファベット順でアレンジされます。

ポリシーごと 生徒アイコンがテックコンソールで設定された現在のポリシーセットに応じてアルファベット順に配置されます。ポリシーが実施されている場合にだけ、このオプションは表示されます。

チェックマークは、上記のオプションのいずれかが選択されていることを示します。

昇順 このオプションを選択した場合、上記オプションで選択した内容によって昇順でアレンジします。このオプションを解除するには [昇順] を再度クリックします。するとチェックが消えます。

画像を中央に揃える 背景画像が並べて表示するように設定されている場合にのみ、このオプションを利用することができます。これは、画像の中央に生徒アイコンを整列します。

オートアレンジ

新しい生徒がリストに追加された場合または生徒機で新しいアプリケーションが起動した場合、このオプションは上記オプションで選択した内容に自動的にアレンジします。このオプションを解除するには再度 [オートアレンジ] をクリックします。するとチェックが消えます。

生徒機のWebサイトを管理する

生徒のマシンで実行されている Web サイトを特定できるだけでなく、生徒の Web サイトを変更、閉じ、起動することもできます。

生徒のマシンで実行中の現在の Web サイトを変更する

この方法を使用すると、生徒のマシンで現在実行されている Web サイトを生徒が開いている別の Web サイトに変更できます。

1. ステータスバーの[詳細表示]  アイコンをクリックして、詳細レイアウトに切り替えます。
または
リストビューで右クリックし、[詳細]を選択します。
2. 「全ウェブサイト」内の URL アイコンを右クリックします。
3. 有効もしくは最大化(生徒機でインターネットエクスプローラが最大化表示されます)を選択します
4. 新しく起動した URL が現在閲覧中の URL と置き換わります。

生徒機で現在/閲覧中のURLを閉じる

1. ステータスバーの[詳細表示]  アイコンをクリックして、詳細レイアウトに切り替えます。
または
リストビューで右クリックし、[詳細]を選択します。
2. 「現在のウェブサイト」または「全ウェブサイト」の URL アイコンを右クリックします。
3. ブラウザを閉じるを選択します。
4. 生徒機の URL が閉じてリストビューから URL アイコンが消えます。

注意: 接続されているすべての生徒で Web サイトを閉じるには、[承認済みまたは制限付きの Web サイト]ペインの上にある[生徒側を閉じる]  アイコンをクリックするか、ペインを右クリックして[生徒側を閉じる]を選択します。

接続中の全生徒にURLを送信する

1. 承認された Web サイトリストで Web サイトを選択します。
 2. リストの上にある[生徒に送信]  アイコンをクリックします。
または
右クリックして[生徒に送信]を選択します。
 3. 接続中の全生徒機で URL が起動します。
 4. リストビューでは、起動した Web サイトのアイコンが[現在の Web サイト]列または生徒アイコンに表示されます。
- または

1. [承認サイトリスト]内のURLを反転します
2. そのURLをリストビューにドラッグ&ドロップします。
3. 接続中の全生徒機でURLが起動します。
4. リストビューでは、起動したWebサイトのアイコンが[現在のWebサイト]列または生徒アイコンに表示されます。

許可 / 制限 ウェブサイトを設定する

承認サイト: 有効時、生徒はこのリストに指定された URL だけしか閲覧できません。承認された Web サイトのリストが生徒ツールバーに表示されます。これが無効の場合、生徒機にページが表示されます。

制限サイト: 有効時、このリストに指定された URL は閲覧できません。しかしそ他のサイト、承認リスト以外のサイトも閲覧できます。

注意:

- 生徒がウェブサイトで適切なページだけを確実に閲覧するように、特定のウェブページやサブURLの許可/制限が可能です。つまりwww.bbc.co.uk/learning を禁止して、www.bbc.co.uk/history を許可するといった同じウェブサイトでも異なるページの許可/制限ができます。生徒は、歴史に関連するページのみ閲覧できます。しかし、科学や英語などに関連するページは閲覧できません。
- 起動時にウェブ制限を適用することができます。先生コンソールの [オプション] をクリックし、ドロップダウン メニューから [ネットワーク設定] を選択し、[スタートオプション - アクセス] を選択します。

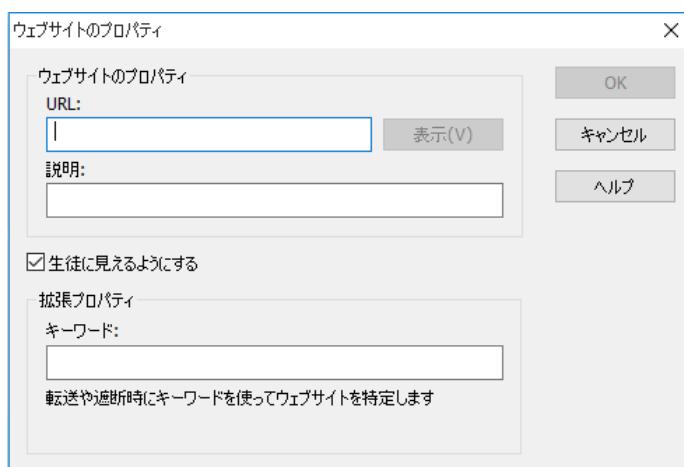
承認 / 制限 サイトに URL を追加するには

- [追加]  アイコンをクリックします。

または

リストボックス内を右クリックして、「サイトに追加」を選択します。

- ウェブサイト追加リストが表示されます。



- URL欄にウェブサイトのアドレスを入力します。
- 説明を入力します。
- デフォルトでは、承認済み Web サイトリストに追加された Web サイトは、生徒用ツールバーに表示されます。生徒にこの Web サイトを見せたくない場合は、[生徒に表示] オプションをオフにして非表示にすることができます。

6. [OK]をクリックします。
7. 承認 / 制限リストに URL アイコンと説明が表示されます。

または

1. ステータスバーの[詳細表示]≡アイコンをクリックして、詳細レイアウトに切り替えます。
2. 「現在のウェブサイト」または「全ウェブサイト」のURLアイコンを右クリックします。
3. [承認リストに追加]を選択します。

または

[制限リストに追加]を選択します。

4. Web サイトの詳細が事前入力された [Web サイトのプロパティ] ダイアログが表示されます。
5. [OK]をクリックします。
6. 承認 / 制限リストに URL アイコンと説明が表示されます。

承認 / 制限リストから URL を削除するには

1. 選択した Web サイトを強調表示し、[削除] ✖ アイコンをクリックします。
- または
- リストボックス内で右クリックして [サイトの削除] を選択します。

URL リストを新規作成するには

たとえば、さまざまなクラスに対してさまざまな Web サイトを承認または制限する場合など、複数の Web サイトリストを作成する必要があります。デフォルト URL リストは NetSupport School.web です。

1. リボンの [クラス] タブを選択し、[Webサイトリスト] ドロップダウンメニューから [新しいWebサイトリストの作成] をクリックします。
2. ダイアログが表示されるのでファイル名を入力して [保存] をクリックします。
3. 新しいブランク URL リストが表示されます。

既存の URL ファイルを開くには

1. リボンの [クラス] タブを選択し、[Webサイトリスト] ドロップダウンメニューから [既存のWebサイトリストの読み込み] をクリックします。
2. 該当するファイルを反転して [開く] をクリックします。
3. 既存の URL リストが表示されます。

URL リストを保存

1. リボンの [クラス] タブを選択し、[Webサイトリスト] ドロップダウンメニューから [Webサイトリストに名前を付けて保存] をクリックします。
2. ダイアログが表示されるのでファイル名を入力して[保存]をクリックします。
3. URLリストが保存されます。

注意:

- 新規 / 既存 ウェブリストでおこなった変更は新しくサイトを作成した時または NetSupport School プログラムが終了したときに自動的に保存されます。
- 承認された Web サイトのリストは、[承認された Web サイト] ペインの上にある [学習ノート]  アイコンをクリックして、生徒の学習ノートに追加できます。

インターネットへのアクセスを制限 / 禁止

NetSupport Schoolは、生徒がアクセスできるウェブサイトを制御することができます。個別またはすべての接続している生徒に適用できる許可または制限リストを作成することで可能になります。生徒は、生徒ツールバーで現在の制限サイトを表示することができます。必要に応じて、すべての生徒にすべてのウェブアクセスをブロックすることもできます。

注意:

- 起動時にウェブの規制を適用できます。先生コンソールの [オプション] をクリックし、ドロップダウン メニューから [ネットワーク設定] を選択し、[スタートオプション - アクセス] を選択します。
- すべてのビュー モードで、リボンの [クラス] タブから Web アクセスを設定できます。

許可 / 制限ウェブサイトを適用する には

- 生徒ごとに制限を適用したい場合は、リストビュー内の生徒アイコンを選択します。
- リボンの [クラス] タブを選択し、[承認済みのみ] または [制限をブロック] をクリックします。
- どちらの制限を有効にしたかわかるように、生徒アイコンの隣にインジケーターが表示されます。(大きいアイコンで表示した場合のみ) インジケーターは緑(許可サイト)または赤(禁止サイト)です。
- 生徒が有効にした制限リストに含まれるウェブサイトを閲覧していた場合は、URLは先生によって制限されたことを通知するメッセージが画面に表示されます。

注意:

- 制限されたウェブサイトが転送されるURLを修正できます。先生コンソールの [オプション] をクリックし、ドロップダウン メニューから [ネットワーク設定] を選択し、[管理] - [セキュリティ] を選択して、[制限された Web サイトがリダイレクトされる URL] フィールドに必要な URL を入力します。
- インターネットリダイレクトは、Edge、Firefox、Chrome でサポートされています。それ以外のブラウザの場合は、ブラウザウィンドウが閉じます。
- 特定のインターネット許可が適用される制限時間を指定できます。リボンの [クラス] タブを選択し、[時間制限付きアクセス] をクリックします。

許可 / 制限サイトを終了するには

- リボンの [クラス] タブを選択し、[無制限] をクリックします。
- 緑のチェック(許可サイト)または赤のバツ(制限サイト)がステータスバーとウェブアイコンからなくなります。

注意: インターネットブラウザはキャッシュメモリーに最近のウェブアクセスの結果を保持するので、インターネットの制限を解除してもすぐに有効にならない場合があります。この問題が発生した場合は、ブラウザを再起動する必要があります。ブロックされているサイトにインターネットアクセスを必要とするアプリケーションを使用している場合、同じ状況が発生する可能性があります。制限を解除した場合、変更を認識するためにアプリケーションを再起動する必要があります。

全インターネットアクセスを禁止する

生徒のインターネットへのすべてのアクセスをブロックすることができます。インターネットの使用が一時停止されていることが確認できるように生徒アイコンの横にインジケータが表示されます。

1. 生徒 1人 1人に対してインターネットアクセスを禁止したい場合は、リスト表示内の生徒アイコンを選択します。
2. リボンの [クラス] タブを選択し、[すべて制限] をクリックします。
3. 選択した生徒に対してインターネットアクセスが禁止となります。

注意:

- キャプションバーの [インターネット] をクリックすると、すべての生徒のすべての Web アクセスを即座にブロックできます (これはどのウィンドウからでも実行できます)。これは [ブロック済み] に変わり、Web アクセスがブロックされていることを示します。これが表示されない場合は、[クリック アクセス リストの構成] アイコンをクリックし、リストから [Web アクセス] を選択して追加できます。
- ツールバーから接続している全生徒のインターネットへのアクセスを禁止することもできます。

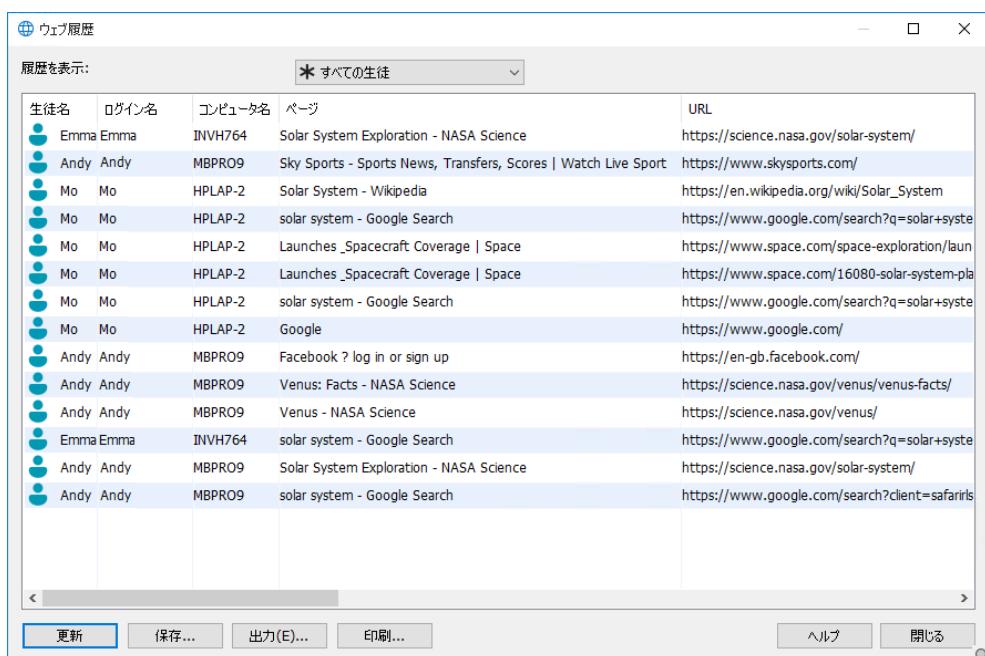
ウェブ履歴を表示する

インターネット管理モジュールのこの機能は接続中の生徒が閲覧しているホームページをモニタできます。必要に応じて、履歴を保存して印刷できます。

注意: 先生コンソールをシャットダウンすると、生徒のWeb履歴が先生のノートに自動的に保存されます。この設定を有効にするには、先生コンソールの[オプション]をクリックし、ドロップダウンメニューから[設定]を選択し、[ユーザーインターフェイス] - [先生]を選択して、[生徒のWeb履歴を先生のノートに保存]オプションをクリックします。

ウェブ履歴を表示する

1. ウェブビューでメニューから、リボンの[クラス]タブを選択し、[履歴]をクリックします。
2. インターネット履歴ダイアログが表示されます。



接続中に生徒が訪問したホームページの内容を表示します。

使用可能なオプション:

アプリケーション履歴表示:

すべての生徒、現在選択されている生徒の履歴を表示する、またはリストから必要な生徒を選択できます。

リフレッシュ

リストを表示中に更新をクリックするといつでも表示内容を更新します。

保存

切断前にテキストファイルに表示した項目の記録を保存します。

印刷

表示した項目の詳細を印刷します。

エクスポート

必要に応じてインポートされるデータをCSVファイルにデータをエクスポートします。

閉じる

履歴ダイアログを閉じますがコントロールが接続している間は詳細を記録し続けます。

アプリケーション管理モジュール

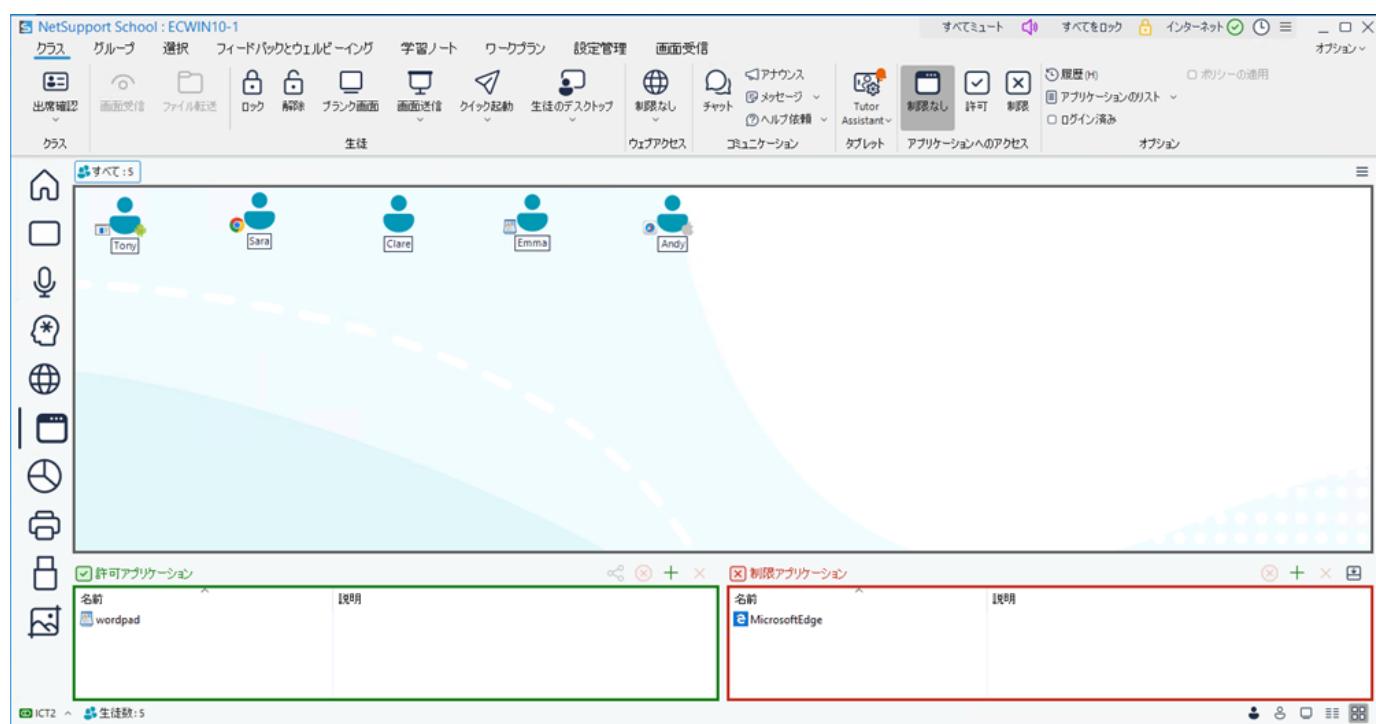
アプリケーション管理モジュールは接続中の生徒が使用するアプリケーションのモニタと管理を行います。セッション中に使用されたアプリケーションを記録し保存します、場合によって先生はアプリケーションの使用を許可/制限できます。

アプリケーションビューに切り替える

1. 先生コンソールの左側にあるアプリケーションビュー  アイコンをクリックします。

または

リボンの表示タブを選択し、モードセクションのドロップダウン矢印をクリックして、アプリケーションビューを選択します。



アプリケーションモードでは、承認または制限されたアプリケーションの詳細を表示し、リボン内の利用可能なアイコンを使用して次のことができます：

- 制限が有効の場合は、無制限アクセスに戻す
- 許可アプリケーションリストを有効にする 許可リスト内のアプリケーションだけ使用できます。それ以外は禁止となります。有効時は緑のチェックマークが表示されます。
- 制限アプリケーションリストを有効にする 制限リスト内のアプリケーションは実行できません。それ以外のアプリケーションは使用できます。有効時は赤のクロスマークが表示されます。

注意：グローバルポリシー制限が実施されると、アプリケーション制御アイコンの隣に施錠マークが表示されます。テックコンソールで作成した中央ポリシーのオン/オフを切り替えるには、リボンのポリシーの適用オプションをクリックします。先生の環境設定で制限を上書きすることができます。

生徒機で現在稼動中のアプリケーションを特定する

生徒機で現在実行中のアプリケーションを監視できます。

生徒機で現在稼動中のアプリケーションを特定する

- 先生コンソールの左側にあるアプリケーション ビュー  アイコンをクリックします。

または

リボンの[表示]タブを選択し、[モード]セクションのドロップダウン矢印をクリックして、[アプリケーションビュー]を選択します。

リストビューでは、生徒アイコンを大きなアイコンまたは詳細表示の2つの異なる方法で表示できます。ステータスバーの[大きいアイコン]  アイコンまたは[詳細]  アイコンをクリックします。

下部ペインを最小化して、生徒アイコン用のスペースを増やすことができます。[ビューの最小化]  アイコンをクリックします。

[大きいアイコン] もしくは [詳細] 表示した場合、生徒が現在使用中のアプリケーションのアイコンが生徒アイコンの隣に表示されます。リストビューが詳細表示の場合は、生徒機で稼動中の別アプリケーションのリストも表示されます。

4つのオプションのどれか1つで表示している場合は、生徒とアプリケーションアイコンの順番をアレンジすることができます。リストビューを右クリックして、[アレンジ]を選択します。次のオプションを使用できます：

名前順

生徒アイコンはクライアント名 / 表示名 / 取得名によってアルファベット順にアレンジできます。

現在のアプリケーション順

生徒アイコンは現在のアプリケーションのアルファベット順でアレンジされます。

稼動中のアプリケーション順

生徒アイコンは生徒機で稼動中のアプリケーションのアルファベット順でアレンジされます。

ポリシーごと

生徒アイコンがテックコンソールで設定された現在のポリシー設定に応じてアルファベット順に配置されます。ポリシーが実施されている場合にだけ、このオプションは表示されます。

チェックマークは、上記のオプションのいずれかが選択されていることを示します。

昇順

このオプションを選択した場合、上記オプションで選択した内容によって昇順でアレンジします。このオプションを解除するには [昇順] を再度クリックします。するとチェックが消えます。

画像を中央に揃える

背景画像が並べて表示するように設定されている場合にのみ、このオプションを利用することができます。これは、画像の中央に生徒アイコンを整列します。

オートアレンジ

新しい生徒がリストに追加された場合 または生徒機で新しいアプリケーションが起動した場合、このオプションは上記オプションで選択した内容に自動的にアレンジします。このオプションを解除するには再度 [オートアレンジ] をクリックします。するとチェックが消えます。

生徒機のアプリケーションを管理する

生徒機で実行されているアプリケーションを特定できるだけでなく、生徒側のアプリケーションを変更、終了、起動することもできます。

生徒機で現在稼動中のアプリケーションを変更する

1. ステータスバーの[詳細表示]≡アイコンをクリックして、詳細レイアウトに切り替えます。
または
リストビューで右クリックし、[詳細]を選択します。
2. 「稼動中のアプリケーション」にリストされているアプリケーションアイコンを右クリックします。
3. [起動]を選択します。
4. 新しくアクティビ化されたアプリケーションと生徒機で実行されている現在のアプリケーションを置き換えます。

注意: 生徒側のすべてのアプリケーションを最小化することができます。リボンのクラスタブを選択し、**生徒のデスクトップ**アイコンをクリックして、**デスクトップの表示**を選択します。

生徒機で現在 / 稼動中のアプリケーションを終了する

生徒機のアプリケーションを終了するオプションが2つあります。

アプリケーションを閉じる: 終了前にファイルの保存などの確認を行い、アプリケーションを終了します。

プロセスを停止: 確認画面はなく強制的にアプリケーションを終了します。

生徒機で実行中のアプリケーションを閉じるには

1. ステータスバーの[詳細表示]≡アイコンをクリックして、詳細レイアウトに切り替えます。
または
リストビューで右クリックし、[詳細]を選択します。
2. リストビュー内の「現在のアプリケーション」または「稼動中のアプリケーション」にリストされているアプリケーションアイコンを右クリックします。
3. [閉じる]または[強制終了]を選択します。
4. 生徒機のアプリケーションは終了し、リストからアイコンが消えます。

注意: 承認されたアプリケーションまたは制限されたアプリケーションペインの上にある**生徒側で閉じる** アイコンをクリックするか、ペイン内で右クリックして**生徒側で閉じる**を選択すると、接続しているすべての生徒のアプリケーションを閉じることができます。

生徒側のすべてのアプリケーションを閉じるには

生徒側で動作しているすべてのアプリケーションを強制的に閉じます。

注意: この機能は、Windowsストアのアプリケーションに対応していません。標準のWindowsデスクトップアプリケーションのみが閉じられます。

1. アプリケーションを閉じたい生徒を選びます。
2. リボンのクラスタブを選択し、**生徒のデスクトップアイコン**をクリックして、**デスクトップのクリア**をクリックします。

または

現在のアプリケーションまたは実行中のアプリケーション列にリストされているアプリケーションアイコンを右クリックし、**すべてのアプリケーションを閉じる**を選択します。

注意: Windows 8の生徒をデスクトップまたはスタート画面に切り替えるには、リボンのクラスタブを選択し、**生徒デスクトップアイコン**をクリックして、**デスクトップに切り替える**または**スタート画面に切り替える**を選択します。

接続中の全生徒にアプリケーションを起動する

1. 承認されたWebサイトリストでアプリケーションを選択します。
 2. リストの上にある**生徒に送信**  アイコンをクリックします。
- または
- 承認済みまたは制限されたアプリケーションリストでアプリケーションのアイコンを右クリックし、**生徒に送信**を選択します。
3. 接続中の全生徒機でアプリケーションが起動します。
 4. リストビューの現在のアプリケーションリストには起動したアプリケーションのアイコンが表示されます。

または

1. [承認アプリケーション] リストのアプリケーションを反転します。
2. 反転させたアプリケーションをリストビュー内にドラッグ & ドロップします。
3. 接続中の全生徒機でアプリケーションが起動します。
4. リストビューの現在のアプリケーションリスト内に起動したアプリケーションアイコンが表示されます。

承認 / 制限 アプリケーションを設定する

承認 アプリケーション: 生徒はこのリストに指定されたアプリケーションのみ実行できます。

制限 アプリケーション: 生徒はこのリストに指定されたアプリケーションは実行できません。

注意: 起動時にアプリケーション制限を適用することができます。先生コンソールの [オプション] をクリックし、ドロップダウンメニューから [ネットワーク設定] を選択し、[スタートオプション - アクセス] を選択します。

承認 / 制限リストにアプリケーションを追加するには

- [追加]  アイコンをクリックします。

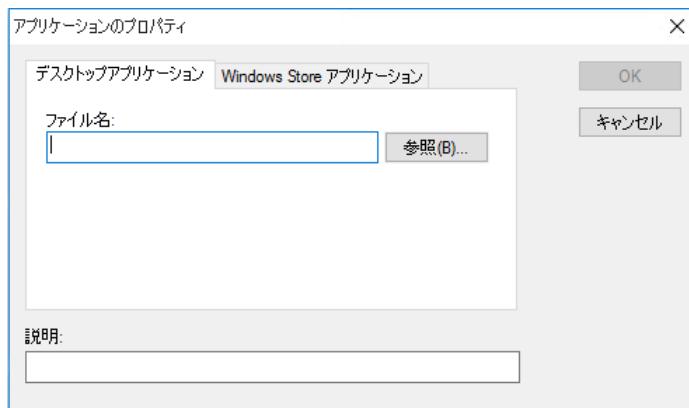
または

リストボックス内で右クリックして「アプリケーション追加」を選択します。

または

デスクトップもしくはスタートメニューから承認 / 制限リストボックス内にアプリケーションをドラッグ & ドロップします。

- アプリケーション追加ダイアログが表示されます。



- 実行ファイル名(例:winword.exe)をアプリケーション欄に入力します、または参照してアプリケーションを選択します。
- 説明を入力します。例:マイクロソフトワード

注意: Windows Microsoft StoreがあるWindowsマシンにアプリケーションを追加すると「アプリケーションのプロパティ」ダイアログに2つのタブが表示されます。「デスクトップアプリケーション」タブは、上記で説明したように標準的なWindowsアプリケーションを追加することができます。「Windowsストアアプリケーション」タブは、Windows Storeのアプリケーションが一覧表示されます。必要なアプリケーションを選択して許可または制限リストに追加するにはOKをクリックします。

- [OK] をクリックします
- 承認 / 制限リストボックス内にアプリケーションアイコン名と説明が表示されます。

または

1. ステータスバーの[詳細表示]  アイコンをクリックして、詳細レイアウトに切り替えます。
2. 現在または稼動中のアプリケーションのアプリケーションアイコンを右クリックします
3. [承認リストに追加] を選択します。

もしくは

- [制限リスト] に追加を選択します。
4. 承認または制限リストにアプリケーションアイコンと説明が表示されます。

承認 / 制限リストからアプリケーションを削除するには

1. 選択したアプリケーションを強調表示し、[削除]  アイコンをクリックします。

または

リストボックス内を右クリックして [アプリケーションの削除] を選択します。

承認 / 制限アプリケーションを適用するには

制限は生徒単位または接続中の全生徒に対して適用することができます。生徒は、生徒バーで現在禁止となっているウェブサイトを確認することができます。

1. 生徒単位で制限を適用したい場合は、リストビューで生徒のアイコンを選択します。
2. これらの制限を適用するには、リボンの [クラス] タブを選択し、[承認済みのみ] または [制限をブロック] をクリックします。
3. どの制限が有効か確認するには、生徒アイコンの隣にインジケーターが表示されます。(ただし大きいアイコンで表示した場合のみ) 赤が制限、緑が許可です。
4. もし生徒が現在使用しているアプリケーションが有効にしたせ制限リストに含まれている場合、「アプリケーション禁止」ダイアログが画面上に表示されます。生徒が制限リストに含まれているアプリケーションを起動しようとするとこのダイアログは表示されます。

承認 / 制限アプリケーションを終了するには

1. 生徒単位の制限を解除するには、リストビューでそのアイコンを選択します。
2. リボンの [クラス] タブを選択し、[すべて許可] をクリックします。
3. 選択した生徒アイコンから緑または赤のインジケーターが削除されます。

注意: 制限を解除してもすぐに有効にならない場合があります。変更を認識するにはアプリケーションを再起動する必要があります。

アプリケーションリストを新規作成するには

たとえば、クラスごとに異なる承認または制限が必要な場合は、複数のアプリケーションリストを作成する必要があります。デフォルトアプリケーションリストは NetSupport School.app です。

1. 新しいアプリケーションリストを作成するには、リボンの [クラス] タブを選択し、[アプリケーションリスト] ドロップダウンメニューから [新しいアプリケーションリストの作成] をクリックします。
2. ダイアログが表示されたらファイル名を入力して、[保存] をクリックします。
3. 新しいブランクアプリケーションリストが表示されます。

注意: 先生プロファイルを設定すれば、異なるコントロールユーザーがアプリケーションリストにアクセスできます。

既存のアプリケーションリストを開くには

1. 既存のアプリケーションリストを開くには、リボンの [クラス] タブを選択し、[アプリケーションリスト] ドロップダウンメニューから [既存のアプリケーションリストの読み込み] をクリックします。
2. 該当するファイルを反転して [開く] をクリックします。
3. 既存のアプリケーションリストが表示されます。

アプリケーションリストの保存

1. 現在のアプリケーションリストを保存するには、リボンの [クラス] タブを選択し、[アプリケーションリスト] ドロップダウンメニューから [アプリケーションリストに名前を付けて保存] をクリックします。
2. ダイアログが表示されたらファイル名を入力して、[保存] をクリックします。
3. 使用中のアプリケーションリストを保存します。

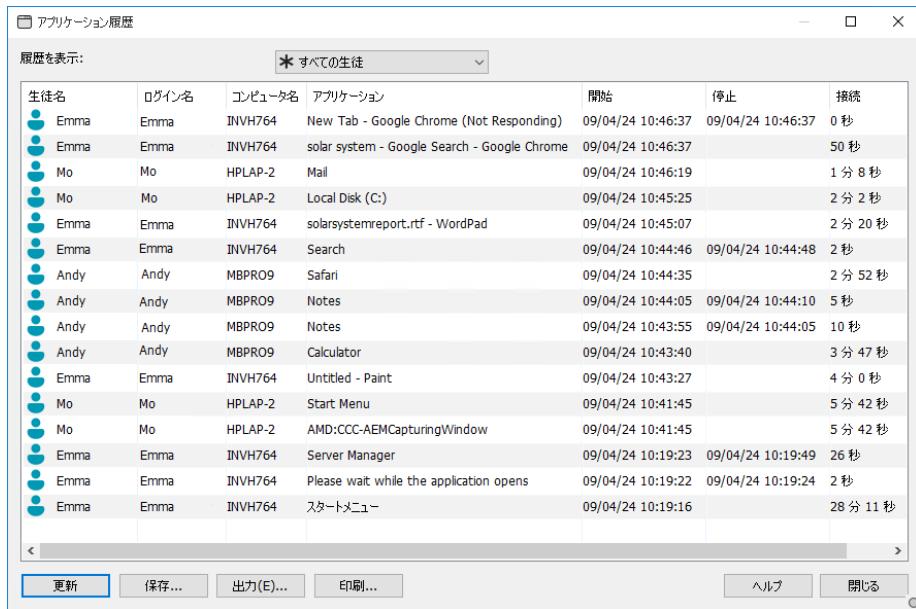
注意: 新規 / 既存アプリケーションリストを変更した場合は、新規作成時もしくは NetSupport School プログラム終了時に自動的に保存されます。

アプリケーション履歴を表示する

アプリケーション管理のこの機能は接続している生徒が使用しているアプリケーションをモニタできます。必要に応じて記録の保存や印刷が可能です。

アプリケーション履歴を表示する

1. アプリケーションビューで、リボンの[クラス]タブを選択し、[履歴]をクリックします。
2. アプリケーション履歴ダイアログが表示されます。



ここに接続中の生徒が使用しているアプリケーション詳細を表示します。

使用可能なオプション:

アプリケーション履歴表示:

すべての生徒、現在選択されている生徒の履歴を表示する、またはリストから必要な生徒を選択できます。

リフレッシュ

リストを表示中に更新をクリックするといつでも表示内容を更新します。

保存

切断前にテキストファイルに表示した項目の記録を保存します。

印刷

表示した項目の詳細を印刷します。

エクスポート

必要に応じてインポートされるデータをCSVファイルにデータをエクスポートします。

閉じる

履歴ダイアログを閉じますがコントロールが接続している間は詳細を記録し続けます。

アンケート

アンケートツールは授業中もしくは終了時に生徒から簡単なフィードバックを得ることができます。先生は簡単な質問を接続している生徒に送信します。生徒の回答を回収して全体のパーセンテージまたは生徒ごとの結果を表示します。

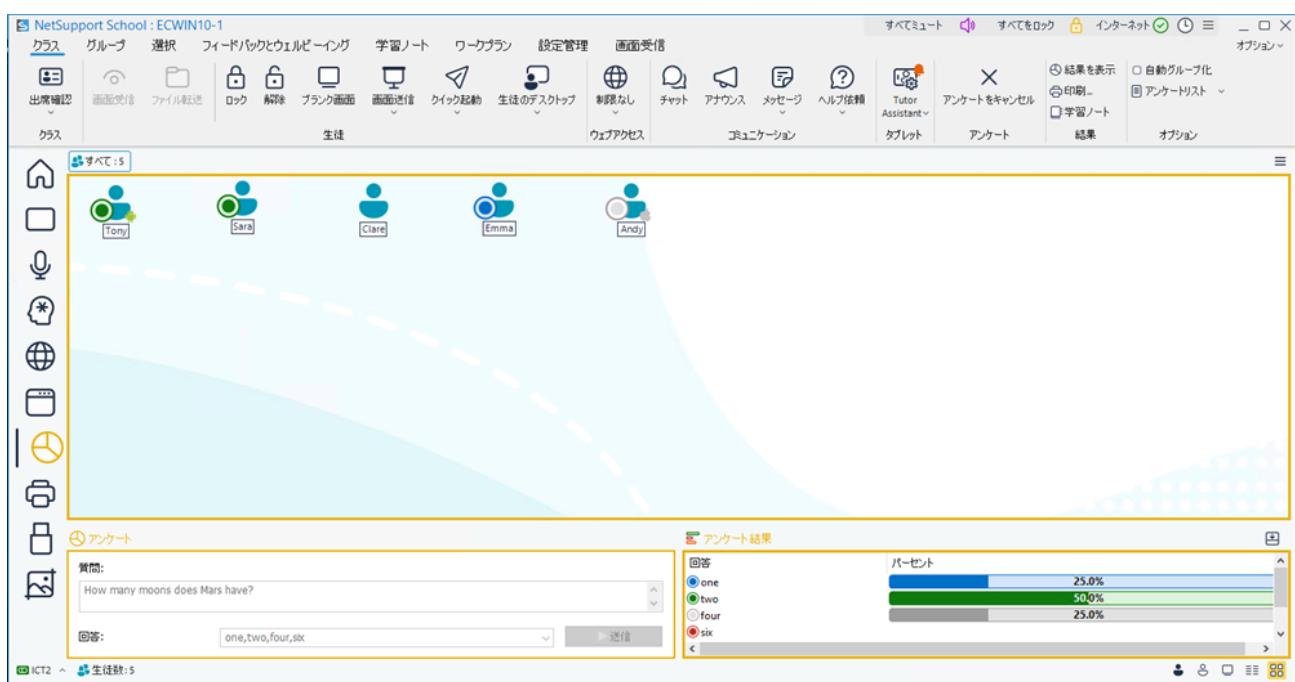
回答別に生徒を一時的に「グループ化」することもできます。一目で誰が同じ答えを選択したかわかります。補足問題や特定の生徒にメッセージが必要な時に便利です。生徒には結果が円グラフで表示されます。結果を表示する前に、必ず回答している必要があります。

生徒にアンケートを送信する

- 先生コンソールの左側にある [アンケート ビュー]  アイコンを選択します。

または

リボンの [表示] タブを選択し、[モード] セクションのドロップダウン矢印をクリックして、[アンケートビュー] を選択します。



- [アンケート] ウィンドウの [質問] フィールドに質問を入力します。
 - 質問の回答を選択します。デフォルトのリストから選択するかあなたのオプションをカンマで区切って入力できます。最大6択まで入力できます。
- 注意:** リボンの [クラス] タブを選択し、[質問] アイコンをクリックして、必要なアンケートを選択することにより、アンケートリストから定義済みのアンケートを選択できます。リボンの [質問] ドロップダウン矢印から、事前に定義されたアンケートを選択できます。
- [アンケート] ウィンドウで [送信] をクリックするか、リボンの [クラス] タブを選択して [送信] をクリックして、生徒にアンケートを送信します。

5. 生徒 PC でダイアログが開き、質問と回答が表示されます。
6. 生徒が回答を提出すると、アンケート結果が各オプションのパーセンテージの回答を表示します。クライアントアイコンは各生徒がどのように答えたかを表示します。リスト ビューを詳細ビューに切り替える (ステータス バーの [詳細] ≡ アイコンをクリック) と、生徒を結果別に並べ替えることができます。また、回答別に生徒を一時的にグループに分けることができます。リボンの [クラス] タブから [自動グループ化] をクリックします。
7. アンケートが完了したら、リボンの [アンケートのキャンセル] をクリックして、画面から削除します。

注意:

- 生徒が回答したしないに関らず全てのPCからアンケートが消去されます。
- 質問が生徒に送信されると、アンケート リストに追加され、これを再利用できるようになります。

アンケート結果を生徒に表示する

1. リボンの [クラス] タブを選択し、[結果を表示] をクリックします。
2. 生徒の画面には結果が円グラフで表示されます。

注意: 生徒ツールバーが起動していて生徒が回答を提出した場合だけ、アンケート結果が表示されます。

アンケート結果を保存する

アンケートは、CSVファイルに保存できます。

1. リボンの [クラス] タブを選択し、[アンケートリスト] をクリックして、ドロップダウン メニューから [保存] を選択します。

アンケート結果を印刷する

アンケートを消去する前に結果の内容を印刷することができます。

1. リボンの [クラス] タブを選択し、[印刷] をクリックします。

注意: 生徒の結果は、生徒の学習ノートに追加できます。リボンの [クラス] タブを選択し、[学習ノート] をクリックします。

アンケートリスト

アンケートリストに追加すれば、アンケートを再利用できます。異なる問題のタイプでカテゴリー別けしたい場合はカスタムリストを作成します。デフォルトリスト NetSupport School.sull に質問と回答を自動的に保存します。

アンケートリストを作成する

1. アンケート ビューで、リボンの [クラス] タブを選択し、[アンケートリスト] をクリックして、ドロップダウン メニューから [新規] を選択します。
2. ファイル名を入力して [作成] をクリックします。
3. 入力した新しいアンケートがこのリストに追加されます。

アンケートリストを開く

1. アンケート ビューで、リボンの [クラス] タブを選択し、[アンケートリスト] をクリックして、ドロップダウン メニューから [読み込み] を選択します。
2. リストを選択して [開く] をクリックします。

アンケートリストを使用する

開いたアンケートリストに新しい質問を入力したり以前保存した質問や回答の使用/管理できます。

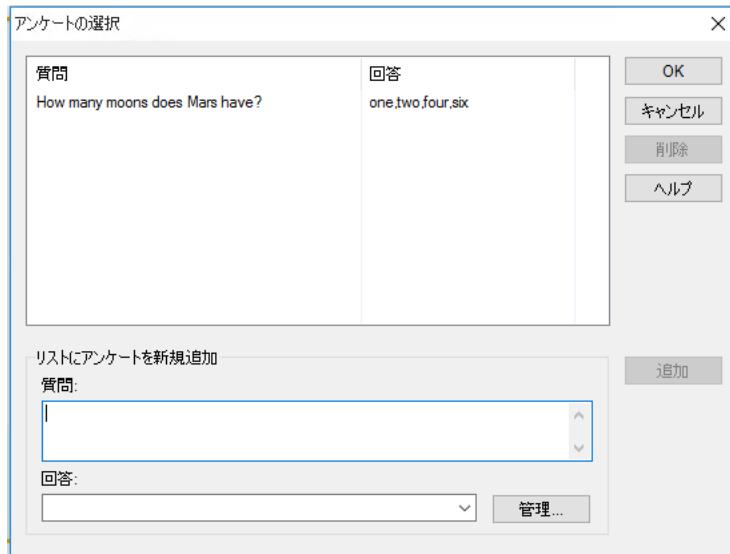
アンケートリストに新しい質問を追加するには

1. アンケート画面で質問を入力してドロップダウンリストから必要な回答を選ぶか、デフォルト回答が適切でなければ、新たに選択肢を追加します。.
2. [送信] をクリックします。アンケートは自動的に現在開いているリストに保存されます。

注意: [アンケートの選択] ダイアログで質問を追加することもできます。

既存のアンケートを使用するには

1. リボンの [クラス] タブを選択し、[質問] をクリックします。
2. 質問選択ダイアログが表示されます。



3. リストから質問を選択して[OK]をクリックします。
4. アンケート画面に生徒に送信できる質問が表示されます。

注意: 最近の質問は、リボンの [質問] ドロップダウン矢印をクリックして選択することもできます。[送信]  アイコンをクリックすると、生徒に質問を直接送信できます。

質問と回答を管理するには

既存のアンケートを選択できるだけでなく、質問選択ダイアログは新しい質問/回答を追加、またはそれらを編集することができます。

1. リボンの [クラス] タブを選択し、[質問] をクリックします。
 2. 質問選択ダイアログが表示されます。
 3. アンケートリストに該当する質問が現在ない場合は、回答と一緒に新しい質問を入力して追加をクリックします。
- または

既存の質問を編集するには、リストから選択して質問または回答を変更して[追加]をクリックします。

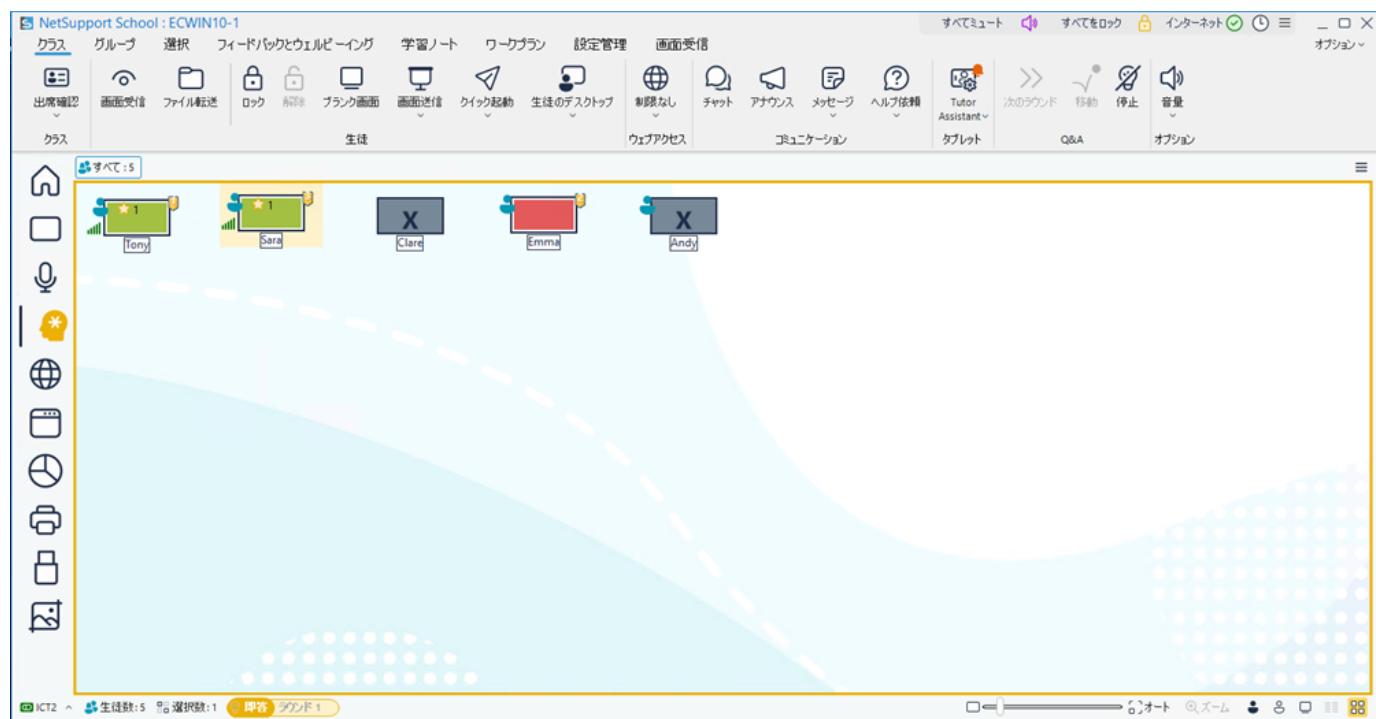
注意: 質問を変更した場合、オリジナルの追加としてリストに追加されます。回答だけを変更した場合はオリジナルを上書きします。

4. アンケートで質問を使用するには、リストから選択して[OK]をクリックします。
5. アンケート画面に生徒に送信できる質問が表示されます。

注意: アンケートでカスタム回答を使用する場合は質問にのみ添付されます。他のアンケートでも回答を使用したい場合はリストに追加する必要があります。[管理]をクリックすると、回答管理ダイアログが表示されます。必要な回答を入力して[追加]をクリックします。

質疑応答モード

NetSupport Schoolの質疑応答モジュールは、先生が学習ポイントを強化し、授業中に生徒の理解を即座に把握できるユニークなコラボレーションツールです。口頭でクラス全体に質問し、生徒の回答と理解を測定する、クラスで質問を移動する、個人や必要に応じてチームに対する評価の追跡だけでなく相互評価の機会の構築ことができます。



注意: 生徒ツールバーが有効になり、先生側でツールバーがオフになっている場合でも生徒側に表示されます。

1. 先生コンソールの左側にある Q&A  ビュー アイコンをクリックします。

または、

リボンの [表示] タブを選択し、[モード] セクションのドロップダウン矢印をクリックして、[Q&A ビュー] を選択します。

2. 先生コンソールは生徒の縮小画面を表示します。質疑応答セッションが開始されると、誰が回答したかを確認し、回答をマークすることができます。

質疑応答セッションの開始

1. リボンの [クラス] タブを選択し、[質問の種類] をクリックします。

2. 5種類の質問から選択できます:

即答

回答入力

抽選

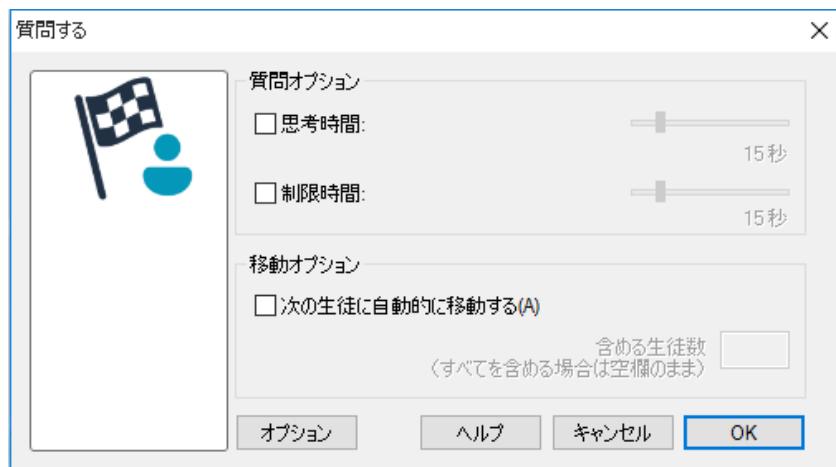
チーム即答

チーム回答入力

3. 続けるには質問の種類を選びます。
4. 質問の必要なプロパティを設定してOKをクリックします。
5. 質疑応答セッションを開始するにはGoをクリックします。
6. ダイアログが生徒に表示され、質問に答えることができます。
7. 生徒のサムネイルには誰が回答したかが表示され、その回答をマークできます。
8. 生徒側に現在の質問の種類と付与された評価を表示する質疑応答ダイアログが表示されます。生徒は、各質問のすべての生徒の状態を確認することができます。生徒に結果を表示することを選択することもできます。これは質疑応答オプションダイアログで設定することができます。

質疑応答モジュール - 即答タイプ

先生が口頭で質問し、生徒は答えをクリックします。最初の上位何人かの回答者が表示され、一番早かった生徒に回答権があります。正解か不正解か決定し、報酬を増減することができます。



思考時間制限を適用することができます。この間は回答ボタンが表示され、生徒はクリックする前に答えを考える機会が与えられます。回答の制限時間を設定することもできます。

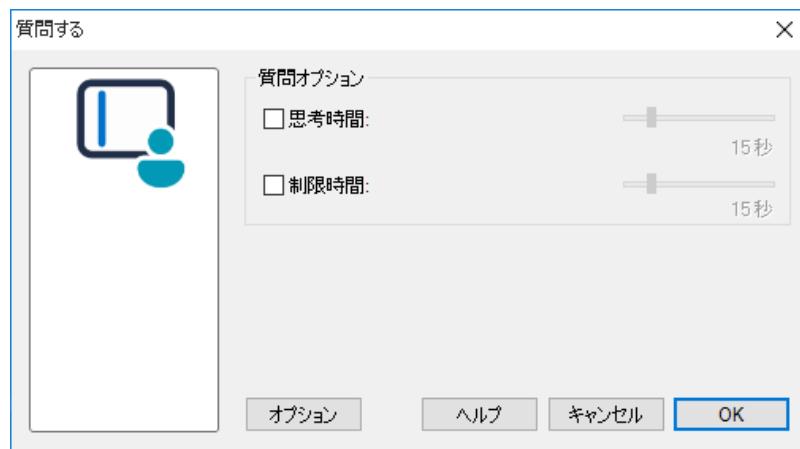
注意: 複数の生徒が選択されている場合、質問を次に早かった生徒に移すことができます。これは、[質問をする] ダイアログで [次の生徒に自動的に移動] オプションを選択して自動的に実行するか、リボンの [クラス] タブを選択して [移動] をクリックして手動で実行できます。

すべての生徒が回答するために公平な機会があるように、生徒がすでに回答している場合、次のラウンドからその生徒を除外するように選択することもできます。

質疑応答モード - 回答入力タイプ

先生は事前に次の質問の答えを入力して、口頭で質問します。生徒にはその答えを入力するプロンプトが表示されます。結果は即座にクラスに表示され、報酬が増減されます。

注意: 答えが大文字と小文字を区別するかどうかを判断できます。



思考時間制限を適用することができます。この間は回答ボタンが表示され、生徒はクリックする前に答えを考える機会が与えられます。回答の制限時間を設定することもできます。

すべての生徒が回答するために公平な機会があるように、生徒がすでに回答している場合、次のラウンドからその生徒を除外するように選択することもできます。

質疑応答モード - 抽選質問タイプ

先生はランダムで選択する生徒数を決定し、NetSupport Schoolが抽選し並べます。そこから1人の生徒がランダムで選ばれ、口頭で質問し生徒が回答します。それが正解か不正解か決定し、別の生徒にランダムで回答権をオプションがあります。報酬は増減することができます。



注意: :複数の生徒が選択されている場合、質問を次に早かった生徒に移すことができます。これは、[質問をする] ダイアログで [次の生徒に自動的に移動] オプションを選択して自動的に実行するか、リボンの [クラス] タブを選択して [移動] をクリックして手動で実行できます。

生徒が正解を回答した場合、彼らが次の生徒をランダムで選ぶようにすることができます。

注意: :生徒がすでに応答している場合、選択した生徒だけを再選択のオプションが選択されていない限り、このセッション中に再度ランダムで選ばれることはできません。

リボンの選択タブを選択し、**ランダムな生徒**をクリックして、生徒をランダムに選択することもできます。

質疑応答モジュール - 先生インターフェイス

問題の種類を選択しオプションを選ぶと、先生に生徒画面が表示されます。画面はだれが応答したか確認したり、より簡単に答えを採点することができます。

縮小画面のサイズのカスタマイズ

縮小画面は好みに合わせてサイズ変更が可能です。

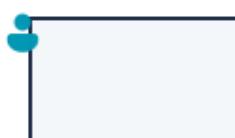
1. ステータスバーのスライダー アイコンを使用して、必要なサイズを選択します。

縮小画面の自動サイズ調整

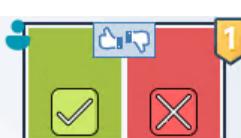
このオプションは表示中の縮小画面のサイズをウィンドウに合うように自動調節します。

1. ステータスバーの [自動] をクリックします。

先生側では次のアイコンが表示されます:



生徒はまだ答えていません。



生徒は答えました。チェックまたはバツをクリックして答えが正解か不正解か採点します。親指アップ/ダウンボタンをクリックすると、クラスの残りが答えを相互評価することができます。黄色の数字は、生徒が回答した位置を示しています。



生徒は正解しました。生徒が現在獲得している星の獲得数も表示されます。



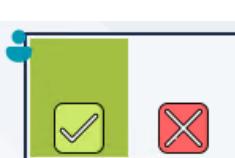
生徒は間違いました。生徒が現在獲得している星の獲得数も表示されます。



生徒はラウンドから除外されています。



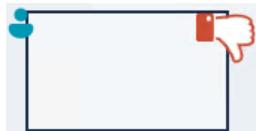
生徒が答える前に回答入力で時間切れになりました。



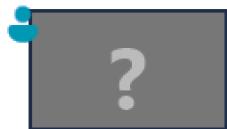
生徒は相互評価中です。緑と赤の領域は、生徒が応答するにつれて棒グラフでいっぱいになります。



生徒は相互評価モードで答えが正しいと思いました。



生徒は相互評価モードで答えが間違っていると思いました。



抽選問題中は生徒が選択される場合を示すこの状態で生徒アイコンが点滅します。
対応する大きな「？」が生徒の画面にも表示されます。

質疑応答モジュールを使用する

質疑応答セッションが始まると、誰が応答しているか確認したり、生徒の縮小画面のチェックボックスをクリックすることで生徒の回答を採点することができるようになります。評価は正しい回答に与えられ、間違った回答には差し引くことができます。質疑応答オプションダイアログでこれらのオプションを設定することができます。生徒は質疑応答ダイアログで、現在の評価を確認することができます

注意: リボンのフィードバックとウェルビーディングタブを選択すると、質疑応答セッション以外でリワードを割り当て/差し引くことができます。

質問は議論を奨励するようにクラスで移動することができます。生徒が回答が正しいかどうか思ったかを調べるために答えを相互評価するように生徒に要求することもできます。

リボンのクラスタブを選択し、**次のラウンド**をクリックすると、次のラウンドに進むことができます。リボンの**停止**をクリックすると、現在の質問の種類を停止し、生徒機上の質疑応答モードウィンドウをクリアできます。

生徒を除外する

すべての生徒がその過程で均等に参加できるように、既に質問に回答している特定の生徒を質問の次のラウンドから除外するように選択することができます。

質疑応答オプションダイアログでどちらかの除外オプションが選択されている場合、生徒はラウンドから自動的に除外されます。生徒を手動で除外することもできます。生徒を右クリックしてラウンドから生徒を除外を選びます。

サウンドエフェクト

先生と生徒側でサウンドエフェクトを再生することができます。生徒が答えると先生側で、回答ダイアログが表示されると生徒側で、ランダムで生徒を選択、思考時間または制限時間が5秒と2.5秒の時には両方でサウンドが再生されます。サウンドエフェクトはデフォルトでオンになっています。

1. リボンのクラスタブを選択し、**音量**をクリックします。
2. 先生または生徒側でサウンドエフェクトをオン/オフする関連オプションを選びます。
3. 音量を調整するためにスライドバーを使用します。

質問を移動する

クラス全体で議論を奨励するため、回答や前の回答に関して意見がある場合、次の生徒に質問を移動することができます。

注意: 複数の生徒が選択されているときに、即答と抽選質問の種類の質問だけ移動することができます。

質問は、チェックマークまたはバツをクリックしてすぐに反応した次の生徒に自動的に移動することができます。質問するダイアログで次の生徒に自動的に移動するオプションを選びます。質問は、指定した回数だけ生徒に移動します。

手動で質問を移動する

自動的に移動オプションを選択していない場合でも、次の使用可能な生徒に質問を移動することができます。

1. リボンのクラスタブを選択し、移動をクリックします。

または、

生徒を右クリックして、質問の移動を選びます

質問が移動されると、ディスプレイは誰に回答権がありどこから来たか表示するように変化します。次の生徒が回答して、回答しているすべての生徒が含まれるまで生徒クラス全体で続けることができます。

相互評価

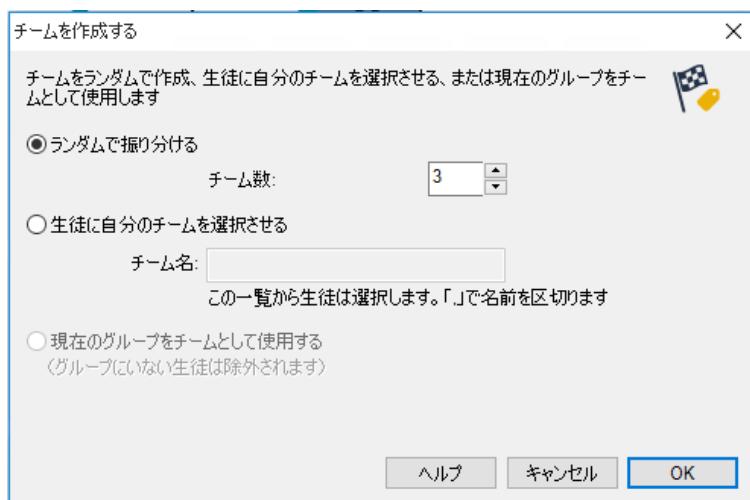
相互評価は、生徒がクラスメイトの1人の回答に対してフィードバックすることができます。質問が回答された後に、ボタンをクリックすることで回答を評価するようにクラスの残りの生徒に要求することができます。回答が正しいか間違っているか決定するように求めるダイアログが生徒の画面に表示されます。生徒が答えると、先生側の生徒の縮小画面は、その回答が正しいか間違っていると思う生徒の数を反映するように変更されます。

質疑応答チームモード

生徒はチームに参加してグループとして報酬を競うことができます。チーム即答またはチーム回答入力のタイプを選ぶ場合は、チームモードを使用することができます。チームはランダムで作成するか生徒が参加するチームを選ぶことができます。カスタムチーム名を作成し、チームに割り当てる色をカスタマイズすることができます。

チームモードを使用する

1. リボンの [クラス] タブを選択し、[質問の種類] をクリックして、[最初のチームが回答] または [チームがメニューから回答を入力] を選択します。
2. 質問するダイアログの必要な質問のプロパティを選びます。OKをクリックします。
3. チーム作成ダイアログが表示されます。



4. チームをグループ化する方法を選びます。ランダムの場合は、チーム数を入力します。生徒にチームの選択を許可する場合は、チーム名を入力してください。生徒はドロップダウンリストからチームを選択できます。OKをクリックします。
5. 各チームに何人の生徒がいるか表示するチーム概要ダイアログが表示されます。NetSupportはランダムにチームに色を割り当てます；色をクリックして新しい色を選ぶことでこれを変更することができます。
6. OKをクリックします。質疑応答セッションが通常どおり開始されます。

先生の画面は、各生徒がどのチームにいるか表示します。グループバーにチームが表示されます。グループバーのチームアイコンをクリックして、これらを非表示/表示できます。チームの統計情報が質疑応答ダイアログの生徒に表示されます。報酬は個々の生徒とチームの両方に授与されます。

注意: 設定されたチームを削除するには、リボンの [クラス] タブを選択し、[質問の種類] アイコンをクリックして、[チームの削除] を選択します。

プリント管理

印刷管理機能により先生は、教室内の印刷利用を総合的に管理できるようになります。先生は、接続している生徒またはプリンタによる印刷の監視と管理ができます。先生は接続している生徒の印刷状況の監視と制御が可能になります。授業ごとにページの制限、印刷時の先生の許可

注意:

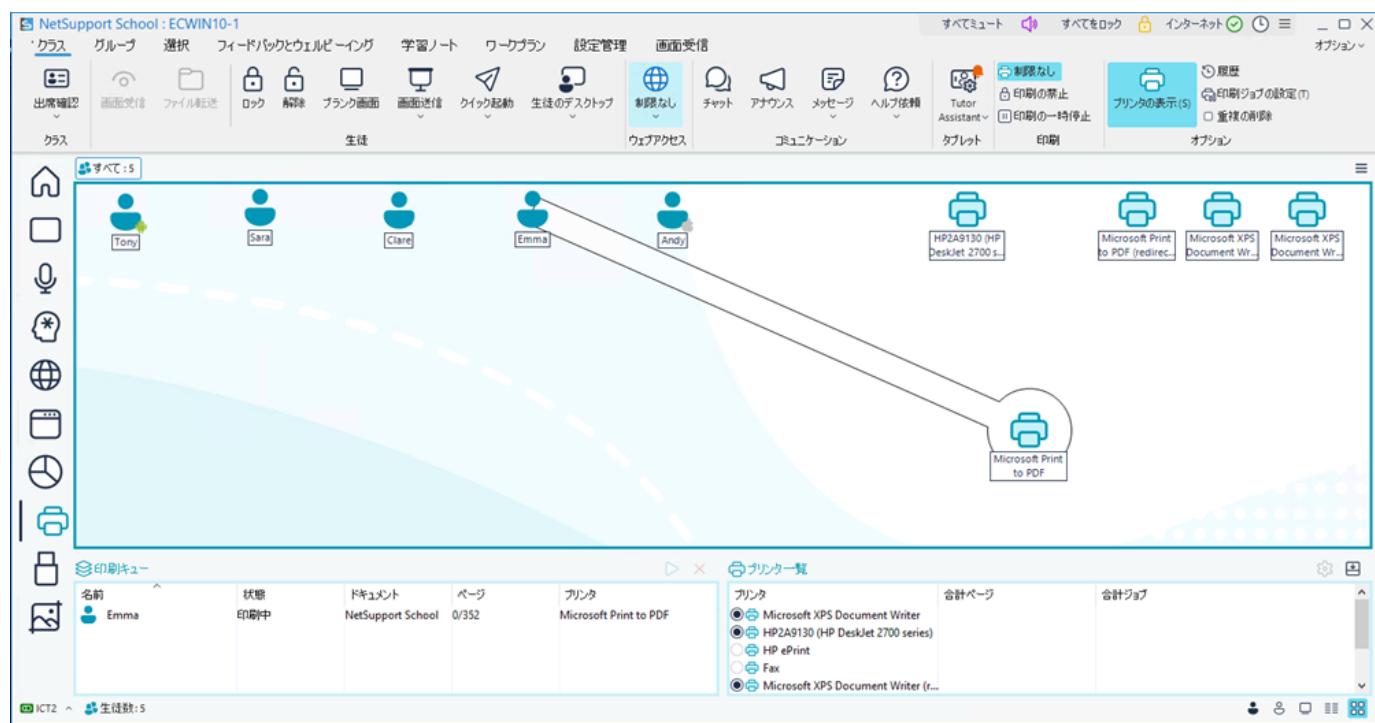
- 先生コンソールが接続する前に生徒のパソコンにプリンタを追加する必要があります。
- グローバルポリシー制限が実施されると、印刷アイコンの隣に施錠マークが表示されます。先生の環境設定で制限を上書きすることができます。

印刷ビューに切り替える

1. 先生コンソールの左側にある印刷ビュー  アイコンをクリックします。

または

リボンの表示タブを選択し、モードセクションのドロップダウン矢印をクリックして、印刷ビューを選択します。



The screenshot shows the NetSupport School interface in Printer View. The top navigation bar includes icons for mute, lock, internet, and options. The main area displays student icons (Tony, Sara, Clare, Emma, Andy) with lines connecting them to a central printer icon. Below this are two panes: 'Print Queue' (showing a job for Emma) and 'Printer List' (listing available printers: Microsoft XPS Document Writer, HP A9130, HP ePrint, Fax, Microsoft XPS Document Writer (r...)).

リストビューでは、生徒アイコンを大きなアイコンまたは詳細表示の2つの異なる方法で表示できます。ステータスバーの[大きいアイコン]  アイコンまたは[詳細]  アイコンをクリックします。

大きいアイコンのレイアウトで表示している場合、リストビューが詳細レイアウトの場合、各生徒の印刷内容の概要が表示されます。

下部ペインは、生徒の縮小画面のために多くのスペースを確保するために最小化することができます。[ビューの最小化]  アイコンをクリックします。

先生コンソールの他の領域で印刷の使用状況を追跡するには、リボンのクラスタブを選択し、**プリンタの表示**をクリックします。プリンタアイコンがどの表示モードでも表示されるようになり印刷の一時停止、削除、保留が可能になります。

注意:

- プリンタの表示を選択すると、全プリンタが表示されます。プリンタの一覧でプリンタの選択を解除すると、プリンタを削除できます。
- 生徒が印刷をしていると、プリンタから印刷している生徒までの接続バーが表示されます。接続バーは、ローカルプリンタだけを表示します。

印刷管理を使用する

プリンターは先生が接続する前に生徒のパソコンに追加されていなければなりません。生徒に接続すると、プリンターは追加、削除、変更ができません。生徒のパソコンに接続されている全プリンターがプリンターリストに表示されます。生徒のプリンターショップはプリンターキューに表示されます。印刷者の概要、印刷内容、ページ数、現在の印刷ステータスが表示されます。ここで生徒の印刷を削除または一時停止を行えます。

注意:

- プリンタの表示が有効になっている場合、どの表示モードのプリンタアイコンから印刷ジョブの一時停止、削除、保留が可能です。
- 起動時に印刷制限を適用することができます。先生コンソールの [オプション] をクリックし、ドロップダウンメニューから [ネットワーク設定] を選択し、[スタートオプション - アクセス] を選択します。

生徒ツールバーが有効な場合、生徒は現在の印刷ステータスを確認することができます。

印刷設定を設定する

印刷設定を適用すると、生徒が印刷可能な最大ページ数を指定することができます。この制限を越えて印刷しようとすると、印刷ジョブは自動的に停止するか削除します。

1. リボンのクラスタブを選択し、**印刷しきい値の設定**をクリックします。
2. 印刷設定ダイアログが表示されるので、関連する設定を適用することができます。

印刷を停止する

1. リストビューで対象の生徒を選択します。
2. リボンのクラスタブを選択し、**印刷の一時停止**をクリックします。
3. 選択した生徒の印刷状況は、停止に表示されます。

または

1. プリンタリストで対象のプリンタを選択します。
2. 右クリックで一時停止を選択します。
3. 選択したプリンタでの印刷を一時停止します。

全ての印刷をブロック

1. リストビューで対象の生徒を選択します。
2. リボンのクラスタブを選択し、**印刷を禁止**をクリックします。
3. 選択した生徒の印刷状況はブロックに表示されます。

または

1. プリンタリストで対象のプリンタを選択します。
2. 右クリックで禁止を選択します。
3. 選択したプリンタでの印刷を禁止します。

印刷ジョブを削除する

全ての印刷ジョブ、選択した印刷、特定の生徒の全印刷を削除することができます。

1. 印刷キューで印刷ジョブを選択します。
2. 印刷キューインの上にある削除  アイコンをクリックします。

または

右クリックして削除/全て削除/Test20の全て削除を選択します。

3. 選択した印刷ジョブが削除されます。

重複した印刷ジョブを削除する

1. リボンのクラスタブを選択し、重複の削除オプションをクリックします。
2. 重複する印刷ジョブも削除されます。

印刷を再開する

停止またはブロック後に印刷を再開することができます。

1. リストビューで対象の生徒を選択します。
2. 印刷キューインの上にある再開  アイコンをクリックします。
3. または
4. リボンの [クラス] タブを選択し、[無制限] をクリックします。
5. 印刷が再開されます。

または

1. プリンタリストで対象のプリンタを選択します。
2. 右クリックで保留を選択します。
3. 選択したプリンタでの印刷を保留します。

注意: 印刷キューで生徒の印刷を一時停止することもできます。印刷ジョブを選択し、右クリックで一時停止を選択します。

プリンタのプロパティ

プリンタの表示名、画像やトータルページ数やジョブ数をリセットできます。

1. リスト表示モードでプリンタアイコンを選択します。

または

プリンタリストで対象のプリンタを選択します。

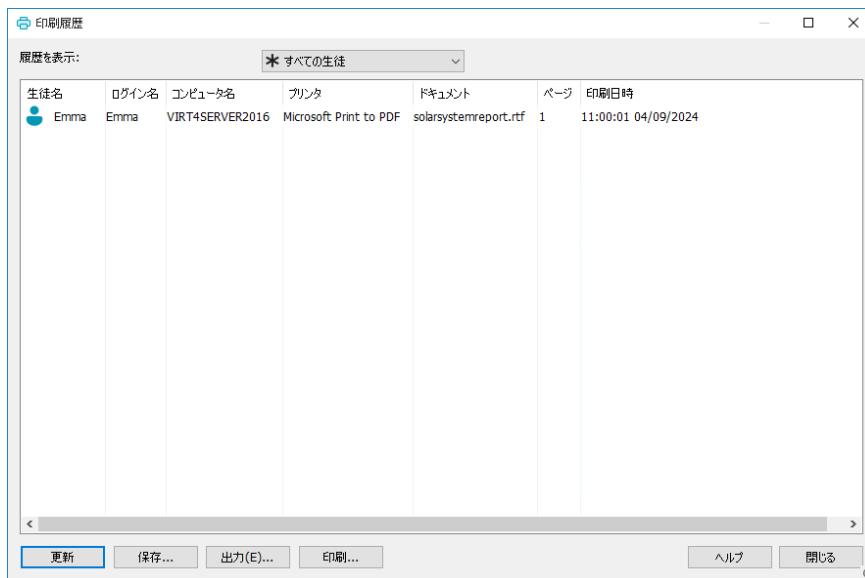
2. 右クリックでプロパティを選択します。
3. 該当するプロパティを訂正します。

印刷履歴を表示する

この印刷管理の機能は、接続している生徒の印刷の使用を監視できます。また必要に応じて、記録として保存もしくは印刷できます。

印刷履歴を表示する

1. 印刷ビューでコン、リボンの[クラス]タブを選択し、[履歴]をクリックします。
2. 印刷履歴ダイアログが表示されます。



接続している生徒の印刷内容の詳細を確認可能です。

使用可能なオプション:

アプリケーション履歴表示:

すべての生徒、現在選択されている生徒の履歴を表示する、またはリストから必要な生徒を選択できます。

リフレッシュ

リストを表示中に更新をクリックするといつでも表示内容を更新します。

保存

切断前にテキストファイルに表示した項目の記録を保存します。

印刷

表示した項目の詳細を印刷します。

エクスポート

必要に応じてインポートされるデータをCSVファイルにデータをエクスポートします。

閉じる

履歴ダイアログを閉じますがコントロールが接続している間は詳細を記録し続けます。

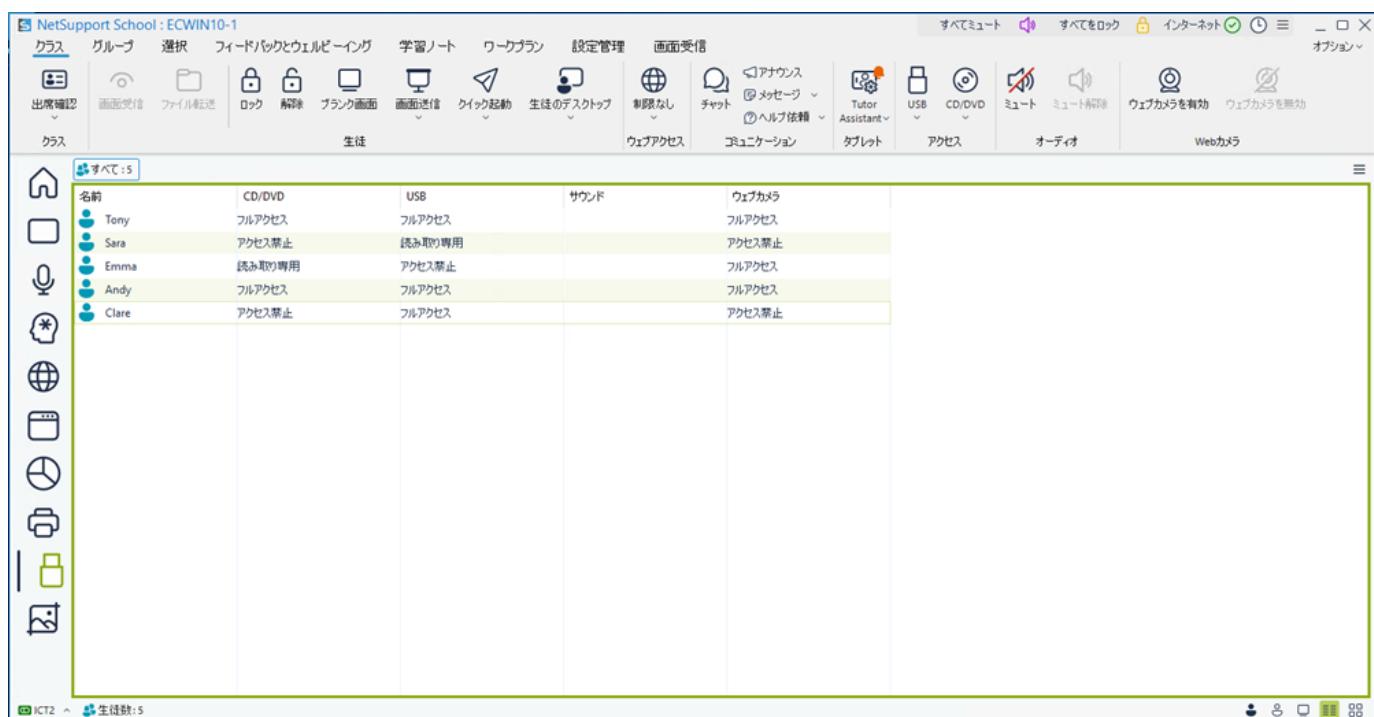
デバイス制御

デバイス制御機能は先生が授業中に外部ソースに対してデータを守ることができます。先生は、USB デバイス、CD/DVD ドライブにデータをコピーや、その逆を防止することができます。さらに先生は読み取り専用アクセスを提供でき、生徒はデバイスからファイルを表示できますが、ファイルをコピーすることはできません。先生は生徒が自分のデバイスでウェブカメラを使用することを禁止できます。

- 先生コンソールの左側にある [デバイス ビュー]  アイコンを選択します。

または

リボンの [表示] タブを選択し、[モード] セクションのドロップダウン矢印をクリックして、[デバイス ビュー] を選択します。



名前	CD/DVD	USB	サウンド	ウェブカメラ
Tony	フルアクセス	フルアクセス	フルアクセス	フルアクセス
Sara	アクセス禁止	読み取り専用	アクセス禁止	アクセス禁止
Emma	読み取り専用	アクセス禁止	フルアクセス	フルアクセス
Andy	フルアクセス	フルアクセス	フルアクセス	フルアクセス
Clare	アクセス禁止	フルアクセス		アクセス禁止

注意: グローバルポリシー制限が実施されると、デバイス制御アイコンの隣に施錠マークが表示されます。先生の環境設定で制限を上書きすることができます。

リストビューでは、生徒アイコンを大きなアイコンまたは詳細表示の2つの異なる方法で表示できます。ステータスバーの [大きいアイコン]  アイコンまたは[詳細]  アイコンをクリックします。

「大きいアイコン」レイアウトで表示している時は、先生に現在のデバイス制限の状況を知らせるアイコンが生徒アイコンの隣に表示されます。リストビューが「詳細」レイアウトの場合、各生徒のデバイス制限の概要が表示されます。

注意: 開始時にデバイス制限を適用することができます。先生コンソールの [オプション] をクリックし、ドロップダウンメニューから [ネットワーク設定] を選択し、[スタートオプション - アクセス] を選択します。

CD/DVD または USB デバイスへのアクセスを禁止する

1. リストビューで対象の生徒を選択します。
2. リボンの [クラス] タブを選択し、USB または CD/DVD アイコンをクリックして、ドロップダウン メニューから [アクセスをブロック] を選択します。

CD/DVD または USB デバイスへのアクセスを読み取り専用にする

生徒のCD/DVDまたはUSBデバイスへのアクセスを読み取り専用にします。

1. リストビューで対象の生徒を選択します。
2. リボンの [クラス] タブを選択し、USB または CD/DVD アイコンをクリックして、ドロップダウン メニューから [読み取り専用] を選択します。

フルアクセス

生徒はCD/DVDまたはUSB デバイスにフルアクセスできるようになります。

1. リストビューで対象の生徒を選択します。
2. リボンの [クラス] タブを選択し、USB または CD/DVD アイコンをクリックして、ドロップダウン メニューから [無制限] を選択します。

生徒のパソコンのサウンドをミュートする

1. リボンの [クラス] タブを選択し、[サウンドをミュート] をクリックします。
2. 生徒機のサウンドがミュートされます。
3. 生徒のサウンドを有効にするには、[サウンドのミュートを解除] をクリックします。

生徒機のウェブカメラを無効にする

生徒がウェブカメラを使用するのを禁止します。

1. リストビューで対象の生徒を選択します。
2. リボンの [クラス] タブを選択し、[Web カメラを無効にする] をクリックします。
3. 選択した生徒のウェブカメラが無効になります。

注意: Web カメラへのアクセスを許可するには、リボンの [Web カメラを有効にする] をクリックします。

先生コンソールのプロファイル

NetSupport Schoolは異なるコントロールユーザーに対して先生コンソールのプロファイルを設定することができます。先生コンソールの起動時に複数のプロファイルがある場合はプロファイル選択画面が表示されます。

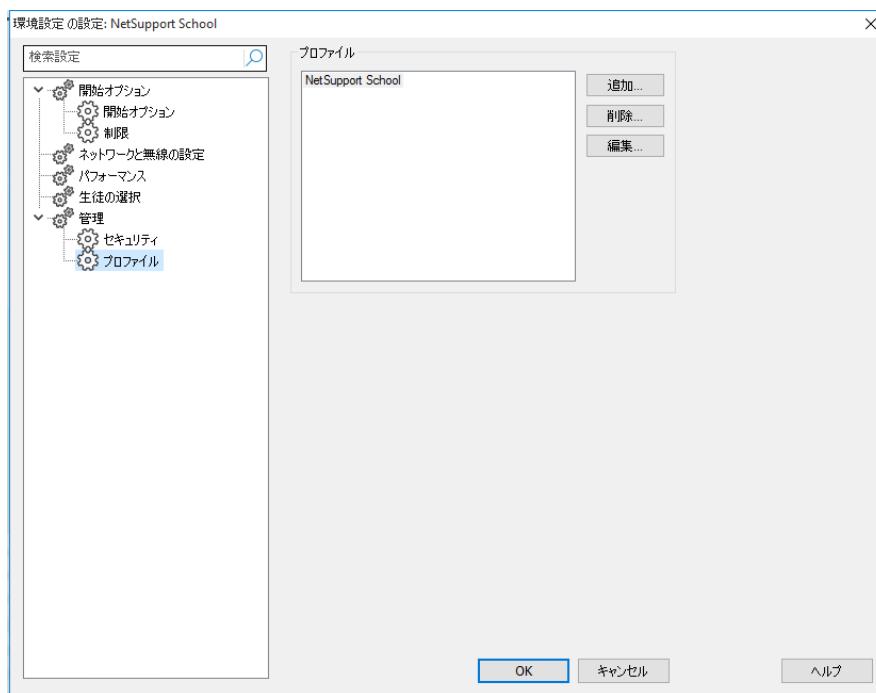
プロファイルを作成する主なメリットは、アプリケーション、ウェブサイトの許可/制限リストを保存しておけるので、授業開始時にいちいち作成する必要がないという点です。

ウェブ管理、アプリケーション管理のセクションで詳細な許可/制限リストを作成したら、先生プロファイルを追加します。

注意: ウェブサイト、アプリケーションと同様に、レイアウト、アンケート、クライアントリスト、グループリスト、テスト結果、試験の保存場所、教室リストもプロファイルに含めることができます。

先生コンソールのプロファイルを作成する

1. 許可/制限 ウェブリスト やアプリケーションなどの情報が含まれるファイルを作成します。
2. 先生コンソールの [オプション] をクリックし、ドロップダウン メニューから [ネットワーク設定] を選択し、[管理] - [プロファイル] を選択します。



デフォルトはNetSupport School です。

3. プロファイルを作成するには[追加]を選択します。新規プロファイル設定画面が表示されます。
4. プロファイル名を入力します。既存の先生コンソールの設定(デフォルトプロファイル名 NetSupport Schoolもしくはユーザー定義したプロファイル)からコピーすることができます。[OK]をクリックします。プロファイル一覧に名前が追加されます。
5. プロファイルの内容を変更するには、[編集]をクリックします。ファイル保存場所ダイアログが表示されます。
6. プロファイルで使用するファイルをカテゴリーごとに選びます。そして[OK]をクリックします。

先生コンソールを起動するたびに、ローカルに保存されている選択できるプロファイルの一覧が表示されます。ネットワークを介してプロファイルを共有したい場合は /R コマンドラインを使って使用できるプロファイルを先生コンソールで起動することができます。

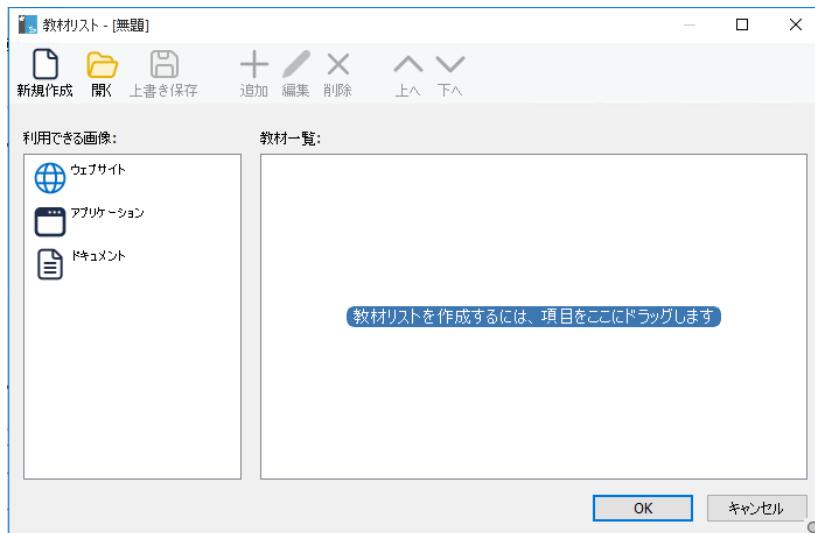
例えば、NetSupport Schoolプログラムフォルダから **pcinssui/rN:\SampleProfile.cfg** というコマンドを実行します。この例では、もし SampleProfile.cfg というプロファイルが存在しない場合、デフォルトが読み込まれて自分で値を追加することができます。一度、先生コンソールを閉じるとプロファイルは指定した場所に保存されます。

生徒の教材を管理する

今回から、生徒は授業中に必要な教材に簡単にアクセスできます。先生は教材リストを作成し、ウェブサイト、アプリケーション、ドキュメントへのリンクを追加できます。このリストは生徒用ツールバーに表示され、生徒に必要な教材へアクセスするための素早く簡単な方法を提供します。

教材リストを作成するには

1. リボンの[ワークプラン]タブを選択し、[生徒用リソース]をクリックします。
2. 教材リストウィンドウが表示されます。



3. 利用できる画像から対象の教材を選び、教材一覧にドラッグアンドドロップするか、またはツールバーの[追加]アイコンをクリックします。教材の説明と場所を入力します。
4. リストの順番は該当する矢印を使って並べ替えることができます。
5. [保存]をクリックしてリストのファイル名を指定します。保存されると教材が生徒用ツールバーに表示されます。

学習ノート

NetSupport Schoolは学習ノート機能を提供します。これにより、重要なレッスンのリソースをキャプチャし、各生徒の復習用に、または先生用の内容の記録として自動的にPDFファイルに含まれます。先生は、授業中に使用したメモやリソースを各生徒の学習ノートに直接追加できるだけでなく、生徒は自分の目もを追加して自分自身の文面にすることができます。

先生

図: 授業の詳細: 04/09/2024 10:27

先生: Ms Brown
授業: 太陽系
部屋: ICT2

許可ウェブサイト 04/09/2024 10:28

URL: https://en.wikipedia.org/wiki/Solar_System [?]

<https://science.nasa.gov/solar-system/planets/>

図: ホワイトボード 04/09/2024 10:30



先生

1 / 1

NetSupport School

注意: 学習ノートを閲覧するにはPDF readerが必要になります。

デフォルトでは、学習ノートは次の場所にあります。

C: ¥Users¥"Logged on User"¥Documents¥Journal

学習ノートの設定

学習ノートの設定を(生徒と先生の両方で)カスタマイズし、学習ノートの保存場所を変更できます。

先生の学習ノート

- 先生コンソールの [オプション] をクリックし、ドロップダウン メニューから [設定] を選択し、[学習ノート] を選択します。

生徒の学習ノート

1. 生徒の設定で、[学習ノート] を選択します。

学習ノートに含めることができる内容は:

- 出席確認
- 承認済みWebサイトのリスト
- 授業の内容と学習目標
- 先生のコメントの挿入
- 各生徒のコメントの挿入
- スクリーンショット (および補足説明)
- アンケート結果
- バーチャルホワイトボード画面
- 各生徒のテスト結果
- キーワード
- 授業で使用したウェブサイトのURL
- チャット内容のコピー
- 新しいチャプター

注意:

- 先生コンソールをシャットダウンすると、生徒のWeb履歴が先生のノートに自動的に保存されます。この設定を有効にするには、先生コンソールの [オプション] をクリックし、ドロップダウンメニューから [設定] を選択し、[ユーザーインターフェイス - 先生] を選択し、[生徒の Web 履歴を先生のノートに保存する] オプションを選択します。
- 生徒のリワードとステッカーは、生徒に付与されると自動的に学習ノートに追加されます。

学習ノートを開始する

「学習ノートに送る」オプションが選択されると、学習ノートは自動的に開始します。クラス ウィザードで学習ノートを開始することもできます。

1. リボンの [学習ノート] タブを選択し、[開始] をクリックします。

注意: 先生コンソールが閉じている、または生徒が再起動した場合、現在の学習ノートは閉じられます。既存の学習ノートを開くことができます。リボンの [学習ノート] タブを選択し、[開始] ドロップダウン矢印をクリックして、リストから以前の学習ノートを選択します。

先生のメモを学習ノートに追加する

1. リストビューで対象の生徒を選択します。
2. リボンの [学習ノート] タブを選択し、[メモ] をクリックします。
3. 学習ノートにコメントを追加ダイアログが表示されます。
4. 必要なメモを入力し、スクリーンショットを送信する生徒の学習ノートを送信先ドロップダウンリストから選択します（接続しているすべての生徒、または現在選択している生徒）。
5. [OK] をクリックします。

注意: すべての生徒の学習ノートにメモを追加することもできます。リボンの [学習ノート] タブを選択し、[メモ] セクションに必要なメモを入力して、[追加] をクリックします。または、キャッシュバーの [メモを学習ノートに追加]  アイコンをクリックし、必要なメモを入力して [追加] をクリックします。これが表示されない場合は、[クリック アクセスリストの構成] アイコンをクリックし、リストから [メモを生徒の学習ノートに追加] を選択して追加できます。

スクリーンショットを学習ノートに追加します

1. リストビューで対象の生徒を選択します。
2. リボンの [学習ノート] タブを選択し、[スクリーンショット] をクリックします。
3. [デスクトップ] をクリックして、デスクトップのスクリーンショットを追加します。
4. [アプリケーション] をクリックし、リストから必要なアプリケーションを選択して、選択したアプリケーションのスクリーンショットを追加します。
5. [貼り付け] をクリックして、コピーした画像をクリップボードに追加します。
6. 必要に応じて、スクリーンショットに付随するメモを入力できます。
7. [送信先] ドロップダウンリストから、スクリーンショットを送信する生徒の学習ノートを選択します（接続されているすべての生徒または現在選択されている生徒）。
8. [OK] をクリックします。

生徒の学習ノートにメモまたはスクリーンショットを追加する

生徒は自分のメモやスクリーンショットを学習ノートに追加できます。

1. 生徒ツールバーの [学習ノート]  アイコンをクリックし、[メモを学習ノートに追加] を選択します。
または
システムトレイの NetSupport School 生徒 アイコンを右クリックし、[メモを学習ノートに追加] を選択します。
または
システムトレイの NetSupport School 生徒 アイコンをクリックし、ドロップダウン メニューから {コマンド} {メモを学習ノートに追加} を選択します。
2. 上記の手順 3 ~ 5 に従って、必要なメモやスクリーンショットを入力します。

3. [OK]をクリックします。
4. メモや画像が生徒の学習ノートに追加されます。

注意: 生徒ツールバーと生徒アイコンが表示されていない場合、生徒はメモを追加できません。

生徒名簿を学習ノートに追加する

生徒名簿は先生の学習ノートに追加できます。

1. リボンの [学習ノート] タブを選択し、[生徒名簿] をクリックします。
- または
- リボンの [クラス] タブを選択し、[生徒名簿] アイコンをクリックして、[生徒名簿] を選択します。

承認された Web サイトのリストを学習ノートに追加する

1. リスト ビューで必要な生徒を選択します。
2. リボンの [学習ノート] タブを選択し、[Web サイト] をクリックします。
3. 必要に応じてメモを入力し、接続されているすべての生徒に送信するか、現在選択されている生徒に送信するかを選択します。
4. [OK]をクリックします。

注意: Web 管理モジュールで承認済み Web サイトのリストを設定していない場合は、[Web サイトのプロパティ] ダイアログが表示され、Web サイトをリストに追加できます。

アンケート結果を学習ノートに追加する

生徒アンケートを実施した場合は、結果を学習ノートに追加できます。

1. リボンの [学習ノート] タブを選択し、[アンケート] をクリックします。
2. 結果が追加されたというメッセージが表示されます。
3. [OK]をクリックします。

インタラクティブ ホワイトボードの内容を学習ノートに追加する

1. リボンの [学習ノート] タブを選択し、[ホワイトボード] をクリックします。
- 注意:** このオプションは、ホワイトボードが生徒に表示されている場合にのみ有効です。
2. 必要に応じて、ホワイトボードの画像に追加するメモを入力します。
3. [OK]をクリックします。

学習ノートにチャプターを追加する

チャプターを追加して、学習ノートをセクション別に編成できます。各チャプターは新しいページから始まります。

1. リボンの [学習ノート] タブを選択します。
2. チャプター セクションで、チャプターの名前を入力し、[追加] をクリックします。
3. 新しいチャプターに内容が追加されました。

学習ノートから内容を削除する

学習ノートに最後に追加された内容を削除できます。

1. 先生側で、リボンの [学習ノート] タブを選択し、[最後の追加を元に戻す] をクリックします。

または

1. 生徒側で、システムトレイの NetSupport School 生徒アイコンを右クリックし、[最後の学習ノートの内容を削除] を選択します。

または

システムトレイの NetSupport School 生徒アイコンをクリックし、ドロップダウン メニューから{コマンド}{最後の学習ノートの内容を削除} を選択します。

学習ノートを表示する

1. リボンの [学習ノート] タブを選択し、[学習ノートを表示] をクリックします。

注意: 生徒は、生徒ツールバーの [学習ノート]  アイコンをクリックして [学習ノートの表示] を選択すると、学習ノートのコピーを表示できます。

学習ノートを印刷する

現在の学習ノートのコピーを印刷できます。

1. リボンの [学習ノート] タブを選択し、[印刷] をクリックします。

学習ノートを同期する

生徒の学習ノートが最新あることを確認するために生徒と先生の学習ノートを同期させることができます。不足している項目は生徒の学習ノートに追加され、これは生徒が追加した情報には影響しません。

1. リボンの [学習ノート] タブを選択し、[同期] をクリックします。

現在の学習ノートを終了する

1. リボンの [学習ノート] タブを選択し、[停止] をクリックします。

授業プラン

NetSupport School授業プランは用意された項目を適切なタイミングで実行し、プランの一部としてプロンプトを割当た授業の構築ができます。

テスト、教材の配布回収、巡回、画面送信といったNetSupport Schoolの機能をプランに取り入れることができます。

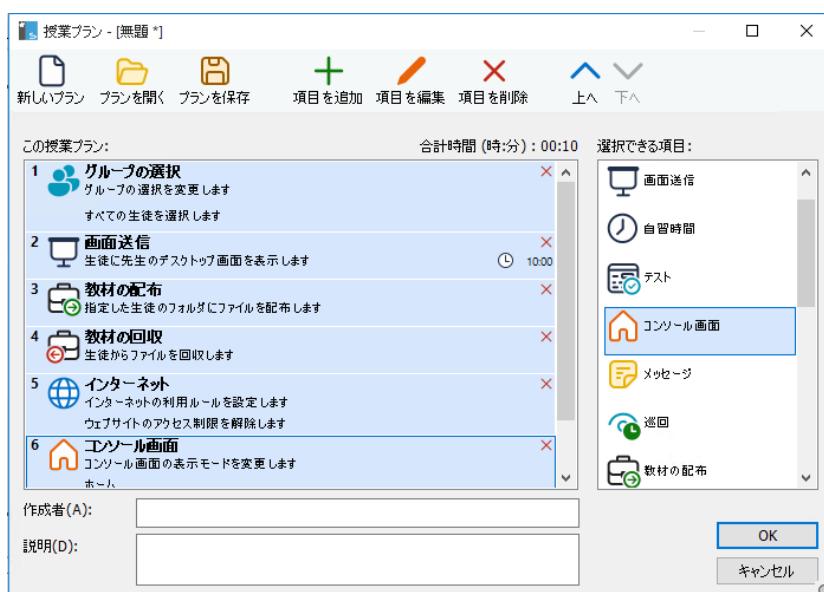
授業プランを作成するには

1. リボンの作業プランタブを選択し、プランの管理をクリックします。

または

表示されている場合は、授業プランバーの授業プランを表示  アイコンをクリックします。

2. 授業プラン ウィンドウが表示されます。



3. 新しい授業を作成するにはツールバーの[新規]をクリックします。保存した授業を再度起動するには、[開く]をクリックします。
4. 一覧から使用できる項目から必要なタスクをドラッグしてウィンドウにドロップします。必要に応じて追加プロパティを入力します。ツールバーの適切なアイコンを使用して授業プランのタスクを編集および移動できます。
5. 必要に応じて、授業プランの作成者と説明を入力します。
6. 「プランを保存」をクリックし、プランの名前を入力します。
7. 「保存」をクリックします。
8. 授業プランウィンドウに授業内容、合計時間、作成者、授業の説明が表示されます。
9. 現在読み込まれている授業を開始するには、OKをクリックしてからはいをクリックまたはキャンセルをクリックしてウィンドウを閉じます。

授業プランの実行

1. リボンの作業プランタブを選択し、**プランの実行**をクリックします。
 2. 必要な授業プランを選択し、**開く**をクリックします。
 3. 授業プランウインドウの縮小版が表示され、プランに含まれるタスクが表示されます。
- 注意:** ここからは授業プランのタスクを編集できません。
4. [OK]をクリックします。

授業プランを管理する

授業を起動すると先生コンソールには進行状況バーが表示されます。各タスクを実行する前に先生は継続するか中止するか選択します。どのポイントでも授業バーのツールを使って一時停止、次の項目に移動、授業の中止を選択できます。

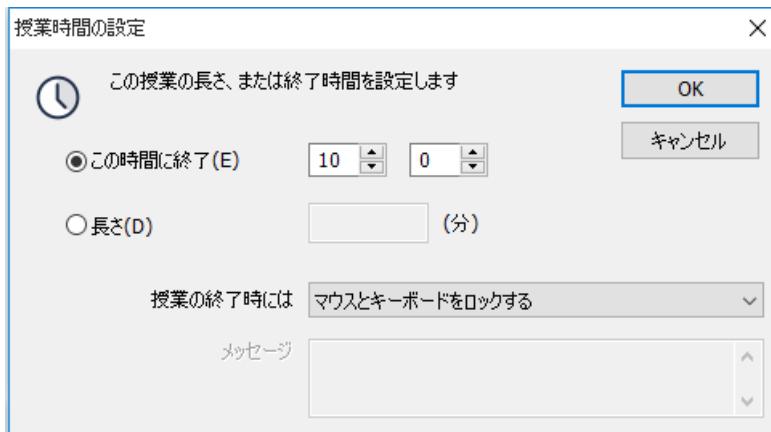
授業タイマー

事前に定義された授業プランを実行せずに時間制限のあるセッションを行うことができます。

注意:

- バージョン15.00より前のバージョンを実行している生徒には、授業タイマーが表示されません。
- クラスウィザードで授業の終了時刻を設定することもできます。

1. リボンのワークプランナータブを選択し、**授業時間の設定**をクリックします。
2. 授業時間の設定ダイアログが表示されます。



3. クラスの終了時間を選択するか、継続時間を入力します。
4. 授業が終了したらどうするかを決めます。何もしない、メッセージを送信する、または生徒のマウスとキーボードをロックすることができます。
5. OKをクリックします。
6. キャプションバーと生徒用ツールバーにタイマーが表示されます。

7. タイマーをクリックすると、さらに 10 分を追加したり、一時停止または停止したりできます。また、授業時間の設定ダイアログで削除をクリックして、時間指定セッションを停止することもできます。

注意: キャッシュバーの授業タイマー  アイコンをクリックすると、時間制限付きセッションをすぐに開始できます（このアイコンが表示されていない場合は、クリックアクセスリストの構成アイコンをクリックし、授業タイマーを表示するを選択して追加できます）。レッスン時間（15 分、30 分、または 45 分）を選択するか、フィールドに独自の時間を入力することもできます。開始をクリックします。

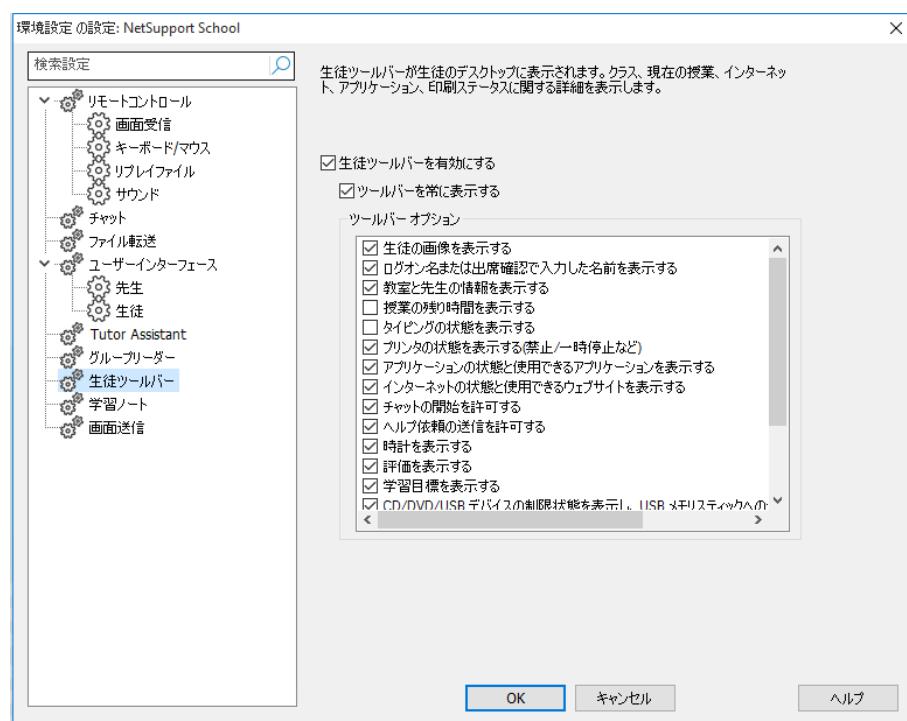
生徒ツールバー

生徒用ツールバーは、現在の授業、残り時間、利用できる現在のウェブサイトとアプリケーション、印刷、オーディオ監視の状態、チャットとヘルプへの簡単アクセスなどの情報を生徒に案内します。生徒はツールバーから自分のメモリスティック、学習ノート、配布された作業項目、リソースにアクセスすることもできます。ツールバーに含まれる全機能は先生がカスタマイズ可能です。

ツールバーで機能を利用できるように選択するには、ツールバーで使用できる機能を選択するには、先生コンソールでオプションをクリックし、ドロップダウンメニューから設定を選択して、**生徒ツールバー**を選択します。

ツールバーはデフォルトで有効になっており、常に表示されるように設定されています。ツールバーが常に表示されるように設定されていない場合、生徒は画面の上部にマウスを置くとツールバーが表示されます。ツールバーオプションに影響する設定を変更した場合、メッセージが表示されます。例：インターネット制限を有効にした時。

注意：リボンの表示タブを選択し、生徒ツールバーオプションを選択すると、生徒ツールバーを簡単に表示/非表示にできます。



次のツールバーオプションが必要に応じて有効または無効にすることができます：

この生徒に関連する画像を表示

生徒のログオン名または生徒登録で入力した名前を表示します。

教室と先生の情報

生徒アイコンの画像を表示します。

生徒のログオン名または生徒登録で入力した名前を表示します。

教室、先生名、科目、部屋の詳細を表示します。

授業の残り時間を表示

プリンターステータス、禁止、一時停止などを表示します。

アプリケーション管理状況を表示し、許可アプリケーションへのアクセスを提示

インターネット管理状況を表示し、許可ウェブサイトへのアクセスを提示。

チャットの開始を許可

ヘルプ要請の送信を許可

時計を表示

報酬を表示

学習目標を表示

生徒は、ツールバーからUSBメモリスティックにアクセスし、デバイスの制限事項を確認できます。

生徒日誌へのアクセスを許可する

先生が設定した素材へのアクセスを生徒に許可します。(アプリケーション、ウェブサイト、書類またはフォルダ)

生徒側のオーディオを聴いている、もしくは録音中を表示する

作業するために送信したファイルの一覧を表示します。

授業時間を計っている場合、残り時間を表示します。

プリンターステータス、禁止、一時停止などを表示します。

アプリケーション管理、制限または無制限アクセスのステータスを生徒に表示します。制限が適用されている場合、許可アプリケーションの一覧が生徒がツールバーアイコンをクリックすると表示されます。

インターネット管理、制限、無制限アクセスのステータスを生徒に表示します。制限が適用されている場合、許可ウェブサイトの一覧が生徒がツールバーをクリックすると表示されます。

生徒がチャットを開始できるようになります。

先生に生徒はヘルプ要請を送信できるようになります。

時間と日付を表示します。

生徒に与えた報酬を表示します

学習目標を設定した場合、表示されます。

ツールバーからUSBメモリスティックへのアクセスを生徒に許可

生徒は、生徒ツールバーから生徒日誌を確認したり、コメントを追加したりできます。

先生が設定した素材ヘツールバーからのアクセスを生徒に許可します。

先生が生徒を聴いているもしくは、彼らのオーディオを録音中の場合は、生徒に通知します。

教材の配布/回収機能を経由して送信されたファイルを表示します。生徒はこれらを通じて作業し、完了したら表示させることができます。

注意: 先生コンソール用のツールバーも利用できます。先生コンソールを最小化してもNetSupport Schoolの主要機能にアクセス可能です。

評価

NetSupport School では、授業態度の良かった生徒に対して評価をあげることができます。授業中、先生は、生徒に星マークで評価をあげることができます。星マークはメインツールバーに反映されます。生徒が獲得した星マークは、ノーマル表示モードで生徒アイコンにマウスを重ねると確認できます。

注意: この機能を使うには、生徒ツールバーが起動している必要があります。

評価を生徒に与える

1. リスト表示で対象となる生徒を選択します。
2. リボンの[フィードバックとウェルビーイング]タブを選択し、[報酬を与える]をクリックします。
または
生徒アイコンを右クリックして[評価 - 評価の追加]を選択します。
3. 生徒用ツールバーに星マークが表示されます。

注意: 生徒の学習ノートがアクティブな場合、リワードは自動的に生徒の学習ノートに追加されます。

評価を削除する

1. リスト表示で対象となる生徒を選択します。
2. リボンの[フィードバックとウェルビーイング]タブを選択し、[削除]をクリックします。
または
生徒アイコンを右クリックして[評価 - 評価の削除]を選択します。
3. 生徒ツールバーから評価が削除されます。

注意:

- 生徒の学習ノートがアクティブな場合、リワードが削除されたことを示すエントリが追加されます。
- リボンの[フィードバックとウェルビーイング]タブを選択し、[すべて削除]をクリックすると、生徒からすべての報酬を削除できます。

生徒ステッカー

NetSupport School を使用すると、生徒の良い行動を表彰するアニメーションステッカーを生徒に送信できます。授業中に、個々の生徒にステッカーを送信でき、生徒のツールバーに反映されます。

注意:

- この機能を使用するには、生徒ツールバーをオンにする必要があります。
- この機能は、v15.00以降を実行しているWindowsの生徒のみで利用できます。

ステッカーを送る

- リストビューで生徒を選択します。
- リボンのフィードバックとウェルビービングタブを選択します。
- ステッカーは数種類の中から選べます。



ギャラリーから必要なステッカーを選択し (ギャラリー内のすべてのステッカーを表示するには、表示ドロップダウンアイコンをクリックします)、**ステッカーの送信**をクリックします。

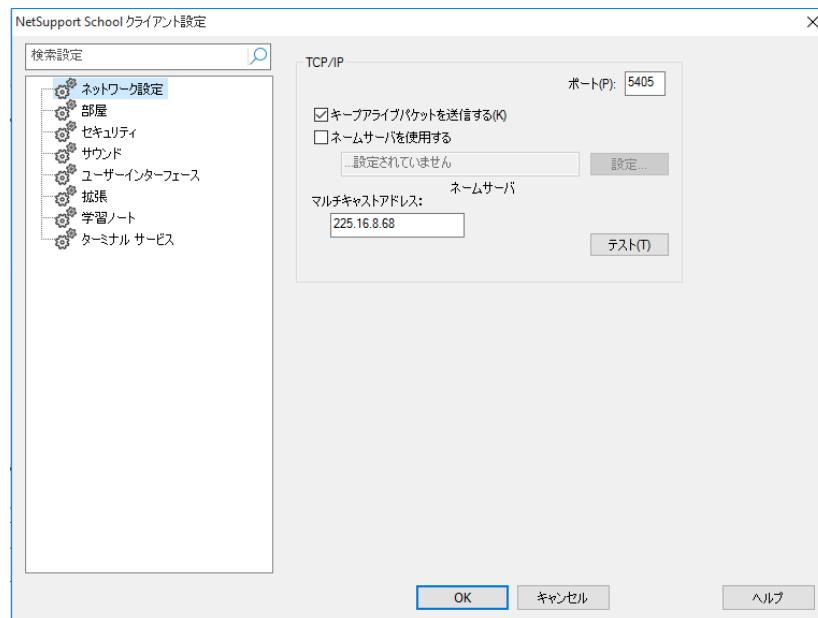
- 生徒ツールバーにアニメーション化される前に、大きなバージョンのステッカーが生徒画面に表示されます。

注意: 生徒の学習ノートがアクティブな場合、ステッカーは自動的に生徒の学習ノートに追加されます。

生徒機を設定する

生徒機を設定するときは、生徒機でNetSupport Schoolプログラムグループの中にあるNetSupport Schoolクライアント設定プログラムを起動します。

注意:検索バーに入力し(用語の全部または一部を入力できます)、検索  アイコンをクリックします。検索語を含むセクションがハイライト表示されます。閉じる  アイコンをクリックして検索を閉じます。



クライアント設定には8つのオプションがあります:

ネットワーク設定

生徒機が先生コンソールと通信をするためのネットワークプロトコルを設定します。先生コンソールと同じプロトコルを選択してください。

部屋

部屋モードを使用時にクライアントの接続先を指定します。

セキュリティ

設定の保護や生徒機に不正アクセス防止用のパスワードを設定します。

音声タブ

生徒機の音声を設定します。音声機能を使用するには先生・生徒機共に必要なハードウェアがインストールされていなければなりません。

ユーザーインターフェイス

生徒機と先生コンソールのインターフェイスをカスタマイズします。

拡張

生徒個人名や特定のリモートコントロール機能の使用を設定します。

学習ノート

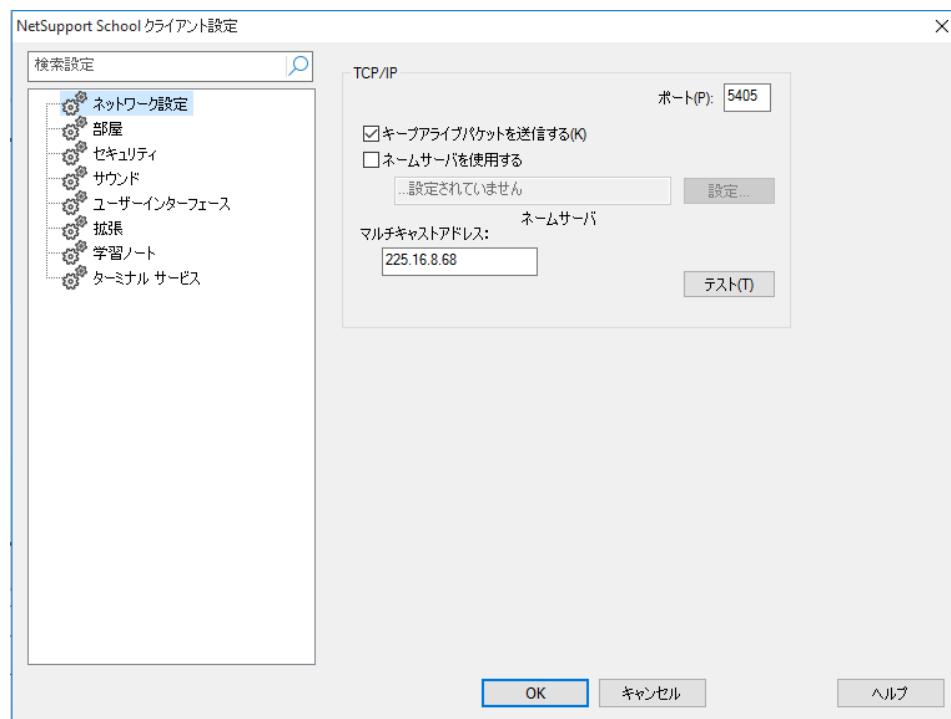
学習ノートの設定をカスタマイズします。

ターミナルサービス

生徒用のターミナルサーバ設定を設定できます。

生徒のネットワーク設定

クライアント用のネットワークプロトコルを設定できます。コントロール側と同じ設定でなくてはなりません。



TCP/IP

ポート: TCP/IP プロトコルでは、通信するアプリケーションにポート番号が割り当てられてはなりません。NetSupport School のデフォルトの登録ポート番号は5405です。

キープアライブパケットを送信する: TCP のスタックには、定期的にチェックパケットを送信して、接続エラーを検出しているものがありますが、ご使用の環境によっては、これを無効にした方がよい場合があります。例えば、生徒機が ISDN 回線を使って接続する場合、チェックパケットが送信されるたびに回線が接続されてしまうと不経済です。そのような場合は、このボックスのチェックを外します。

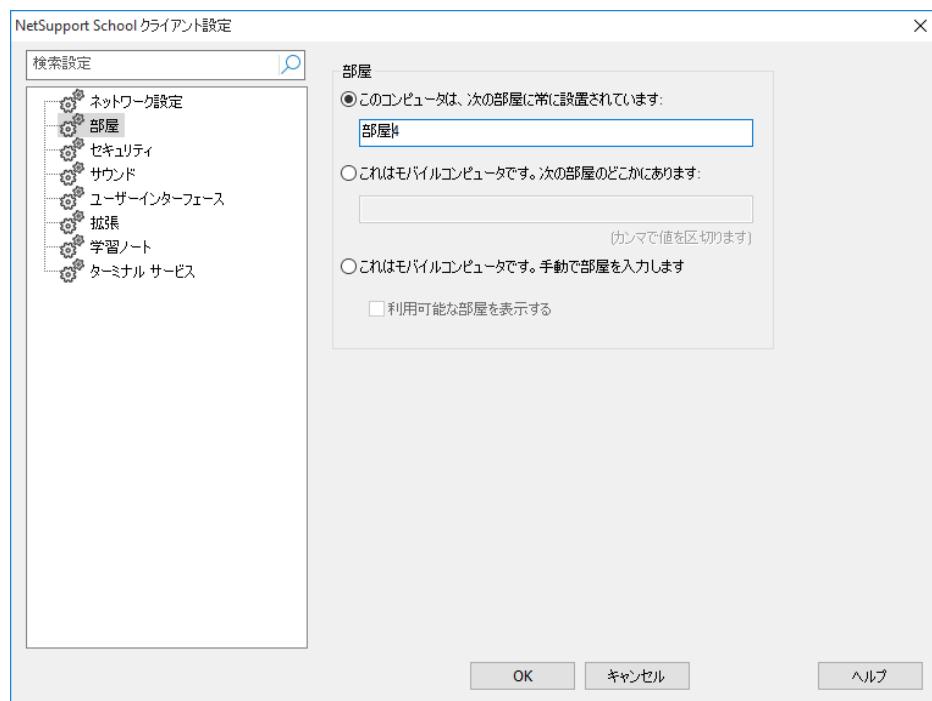
ネームサーバ(ゲートウェイ)を使用する: 開始時に生徒の現在のIPアドレスを「NetSupport接続 サーバー/ゲートウェイ」に登録したい場合は、このオプションを有効にします。「構成」をクリックして、一致するセキュリティキーと一緒に接続するサーバーのIPアドレスを入力してください。

マルチキャストアドレス: これは、生徒が受信するIPマルチキャストアドレスです。

テスト] ボタンをクリックすると、生徒機に TCP/IP プロトコルが正しくインストールされているかどうかをテストできます。

生徒の部屋設定

部屋モードで接続するときの生徒用の部屋の設定を指定できます。



部屋

このコンピュータは次の部屋に常に設置されています: コンピュータが同じ部屋にいつも配置されている場合は、このオプションを選んで部屋の名前を入力します。

これはモバイルコンピュータです。次の部屋のどれかにあります: コンピュータが異なる部屋に配置される場合は、このオプションを選び、部屋の名前を入力し、カンマで各値を区切ります。

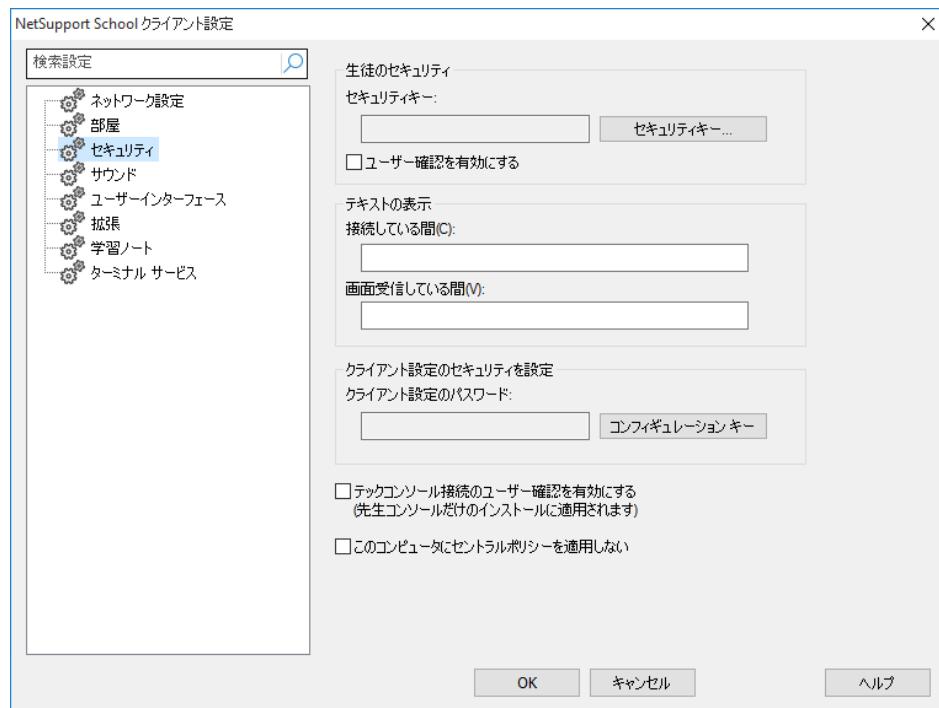
これはモバイルコンピュータです。手動で部屋を入力します: コンピュータがモバイルコンピュータの場合は、このオプションを選びます。生徒はタスクバーの生徒アイコンから手動で部屋の名前を入力するオプションが与えられます。

- 利用可能な部屋を表示する:** 利用可能な部屋のリストが表示され、生徒はどの部屋に接続するかを選択できます。

注意: タスクバーの生徒アイコンが隠れている場合は、生徒は setroom.exe を実行して、手動で部屋の名前を入力することができます。このファイルは、生徒機のNetSupport School プログラムフォルダ内にあります。

生徒機のセキュリティ設定

生徒機のセキュリティ設定を行います。



生徒機セキュリティ

セキュリティキー: 同じセキュリティキーが設定されている先生コンソールだけしか接続できないようになります。この項目はオプションです。ここにセキュリティキーを設定しない場合、コントロールで設定したセキュリティキーに関係なく、どのコントロールも接続できます。

ユーザー確認を有効にする: 有効時は生徒が接続を許可しない限り、先生はリモートコンロールを行うことができません。

カスタムテキストの表示

接続時: 先生コンソールが接続すると、ここで入力したメッセージを生徒機に表示します。

画面受信時: 先生コンソールが画面受信すると、ここで入力したメッセージを生徒機に表示します。

クライアント設定のセキュリティを設定する

クライアント設定パスワード: 設定ファイルをパスワードで保護する事が可能です。クライアント設定を不正な変更から保護します。次に設定画面を起動した時、使用者はパスワード入力を要求されます。[設定]を選んでパスワードを設定します。

テックコンソール接続のユーザー確認を有効にする (先生がインストールされている場合にだけ適用)

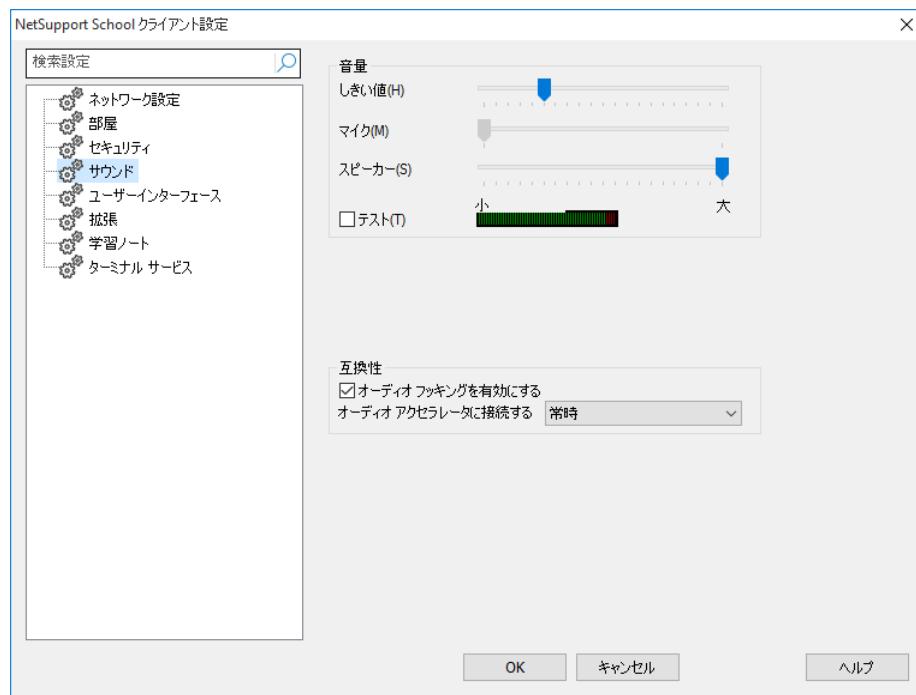
有効にすると、先生が接続を許可しない限りテックコンソールは先生のマシンに接続することができなくなります。

このコンピュータにセントラルポリシーを適用しない

テックコンソールで設定されたポリシー制限が、この生徒機では適用されません。

生徒の設定情報 - [サウンド]タブ

生徒機のサウンド機能を設定します。NetSupport School のサウンド機能を使用するにはハードウェアが先生コンソールと生徒機にインストールされていなければなりません。



音量

しきい値 - マイクの感度

マイク - マイクの音量

スピーカー - スピーカーの音量

互換性

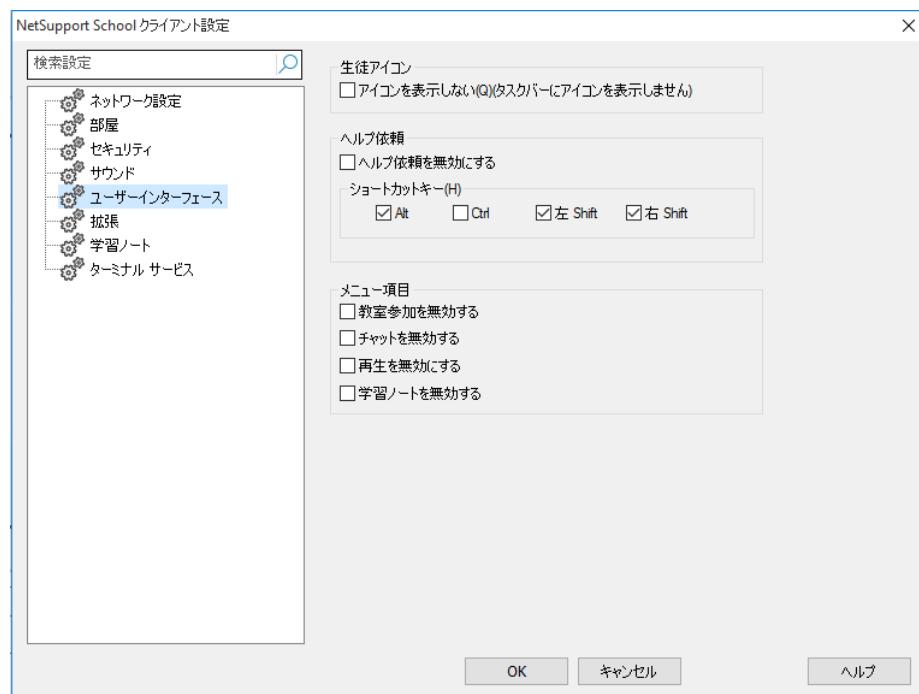
オーディオフッキングを有効にする: 生徒のハードウェアアクセラレーションを設定します。

オーディオ アクセラレータに接続する:

- なし: アクセラレーションレベルをフルのままにします。
- 接続している間: 接続している間は、アクセラレーションレベルが基本になります。
- 常時: アクセラレーションレベルが基本になります。

生徒機インターフェース設定

先生と生徒機間のインターフェースをカスタマイズします。



生徒機アイコン

アイコンを表示しない: チェックをすると生徒プログラムは起動していても生徒のパソコンにはアイコンが全く表示されません。生徒が誤って生徒プログラムを実行したり、手動でプログラムを停止してしまうことを防ぎます。

ヘルプを依頼

ヘルプ要求の禁止: ヘルプ要求機能を使用できないようにします。

ホットキー: ヘルプ要求機能にアクセスするときに、生徒が押すキーを設定します。デフォルトは <ALT>+<左 Shift>+<右 Shift> です。キーボードによっては 3 つのキーの組み合わせを認識しない場合があります。そのような時は 2つのキーの組み合 わせを試してください。

メニュー項目

教室参加を無効にする: ジョインクラス機能を使用できないようにします。

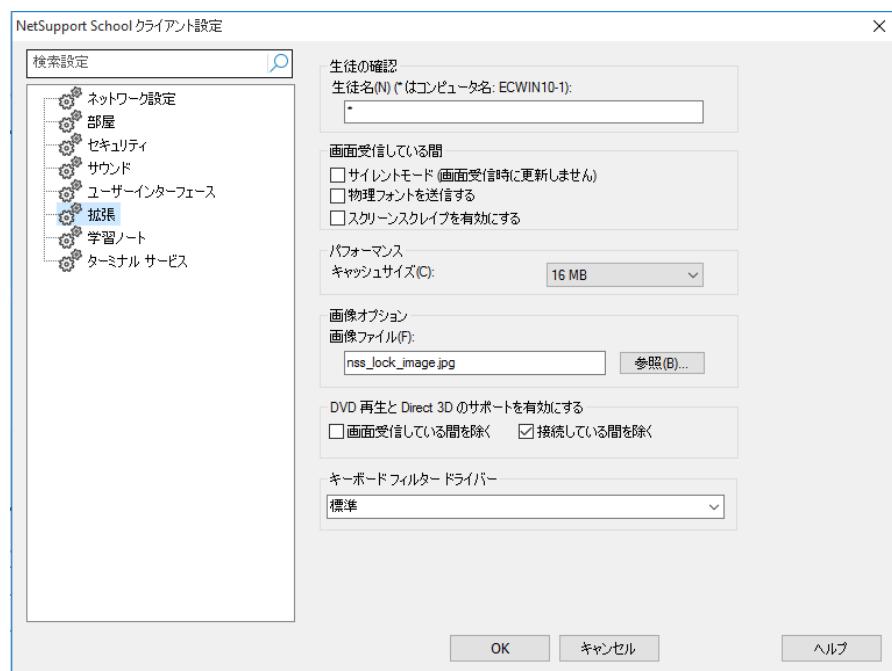
チャットの禁止: 生徒がチャット機能を使用できないようにします。

リプレイ禁止: クライアントはリプレイファイルを開くことができません。

学習ノート無効: タスクバーの [NetSupport School クライアント] アイコンの学習ノートオプションを無効にします。生徒は、生徒ツールバーから学習ノートにアクセスできま

生徒機の拡張設定

クライアント設定でより個性的にすることができます。マシン名だけでなくクライアント名を使用し、クライアントのキーボード / マウスがロック時にデフォルト以外の画像を指定できます。



生徒の確認

生徒名: NetSupport School で使用するネットワーク上で生徒機を識別するための名前を設定します。半角 15 文字以内で、重複しないように設定してください。最初の何文字かを生徒のグループごとに共通の文字列にしておくと、プログラム起動時に特定の文字列で始まる生徒機に自動的に接続します。例えば CLASS1_ から始まるクライアント名を付けておけば、先生プログラムを起動時に CLASS1_ で始まる生徒機に接続するので誤って別のクラスの生徒機に接続するといったことがなくなります。アスタリスク (*) を使用すればクライアント名をデフォルトのマシン名 (コンピュータ名) にすることが出来ます

注意: 先生コンソールから生徒機に接続するときは、内部的にはクライアント名が使われますが、コントロールウィンドウにクライアント名以外の名前で生徒を表示することもできます。

画面受信時

サイレントモード: 生徒機が気付かないように接続して画面受信できます。サイレントモードが選択されていない場合は、画面受信を実行したときにマウスのカーソルと画面が一瞬ぶれるので接続があったことがわかります。

物理フォント送信: Windowsのクライアントが先生コンソールに画面を送信する時は、参照用のフォント情報だけ送信して送信データ量を少なくします。先生コンソールは、内部フォントマップを参照して、生徒機で表示されていたフォントに最も近いものを使用します。ほとんどの場合、生徒機でも先生コンソールでも同じフォントが使用できる場合が多いので、画面は同じ(または類似の)フォントで表示されます。しかし、類似のフォントがない場合に同じフォントで表示するためには、必要な全情報が生徒機から先生コンソールに送信されなくてはなりません。この項目を設定すると、トゥルータイプフォ

ントで書かれた文字は、強制的に文字コードではなくグリフ(文字の形状)で送信されます。その結果、生徒機の画面の文字は先生コンソールの画面で忠実に再現されます。

ただし、ダイヤルアップ接続時のパフォーマンスに大きく影響を及ぼすため、通常はあまり設定しないことをお勧めします。

スクリーンスクレープ有効: NetSupport Schoolの促進している効率的な画面データをキャプチャ方法は、ビューされるパソコンのビデオドライバにフックする仕組みです。しかし特定のアプリケーションがドライバをバイパスしているとこの方法が上手く動作しない場合があります。そのような場合、画面のスナップショットを撮るために'スクリーンスクレープ' モードを有効にします。ネットワークに多大な影響を与えますが、クライアント画面を忠実に再現できます。

パフォーマンス

キャッシュサイズ: 生徒機から先生コンソールに送られた最新の画面データをキャッシュしてパフォーマンスを向上します。生徒機、先生コンソールでより多くのメモリを使用するのでキャッシュサイズが大きいほどパフォーマンスは向上します。このオプションを有効にすれば、最高のパフォーマンスを得るために調整を行えます。このオプションを設定すると最大限の性能を実現するためにキャッシュサイズを調整することができます。クライアントとコントロールは同じサイズのキャッシュを使用し、最少のキャッシュ値が使用されるので効果的であるようにクライアントとコントロール両方でこれを設定する必要があります。

画像オプション

画像ファイル: 生徒機のキーボードとマウスをロック中はデフォルトの画像(NetSupport School_lock_image.jpg)が画面に表示されます。画像ファイルを使用して表示させることができます。

DVD 再生と Direct 3D 対応を有効にする

では Microsoft社 のミラードライバを使って画像データを転送します。NetSupport Schoolがミラードライバに占有している間はDVDを再生できません。したがって、DVD 再生が必要な場合には NetSupport Schoolが提供するミラードライバのロード/アンロードオプションを必要に応じてご使用ください。

画面受信中以外は有効: DVDの再生はできますが、ミラードライバをロードする画面受信中は再生できません。

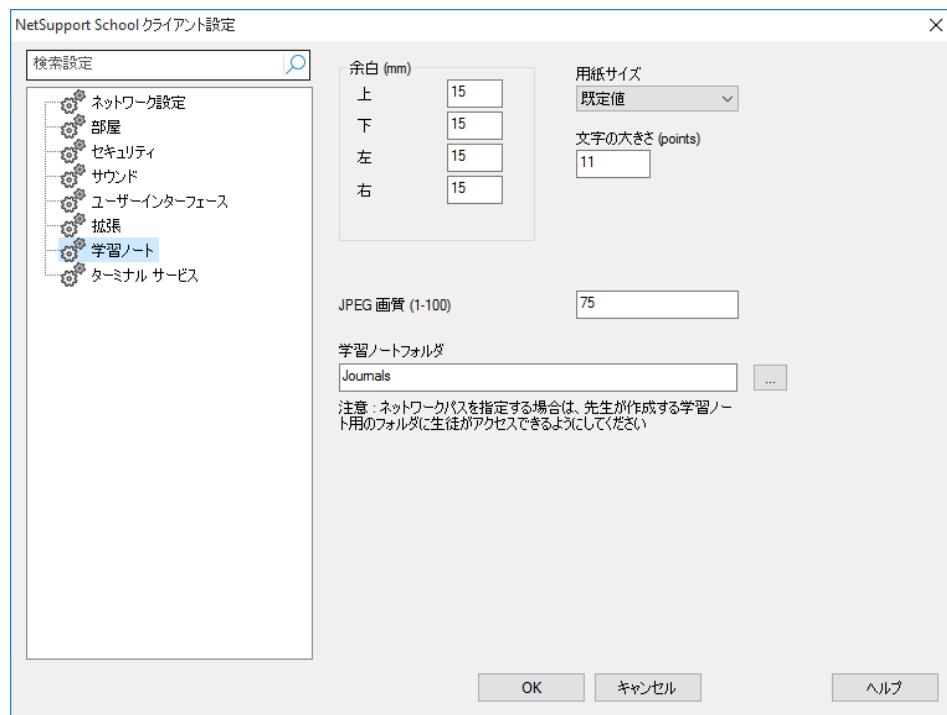
接続中以外は有効: 生徒機と接続している間は、DVDの再生は保留状態になります。

キーボードフィルタードライバー

キーボードフィルタードライバーで問題が発生した場合は、切り替えるドライバーを選択できます。ドロップダウンメニューから必要なドライバーを選択します。

生徒日誌設定

授業の主要情報を携帯用PDFファイルに保存可能な生徒日誌を搭載しています。次のオプションを使って生徒日誌の設定をカスタマイズできます。



余白 (mm)

日誌の上下左右の余白を調整します。

用紙サイズ

生徒日誌用の用紙サイズオプションを選択します

フォントサイズ (points)

日誌で使用するフォントのサイズを設定します。

JPEG 画質 (0-100)

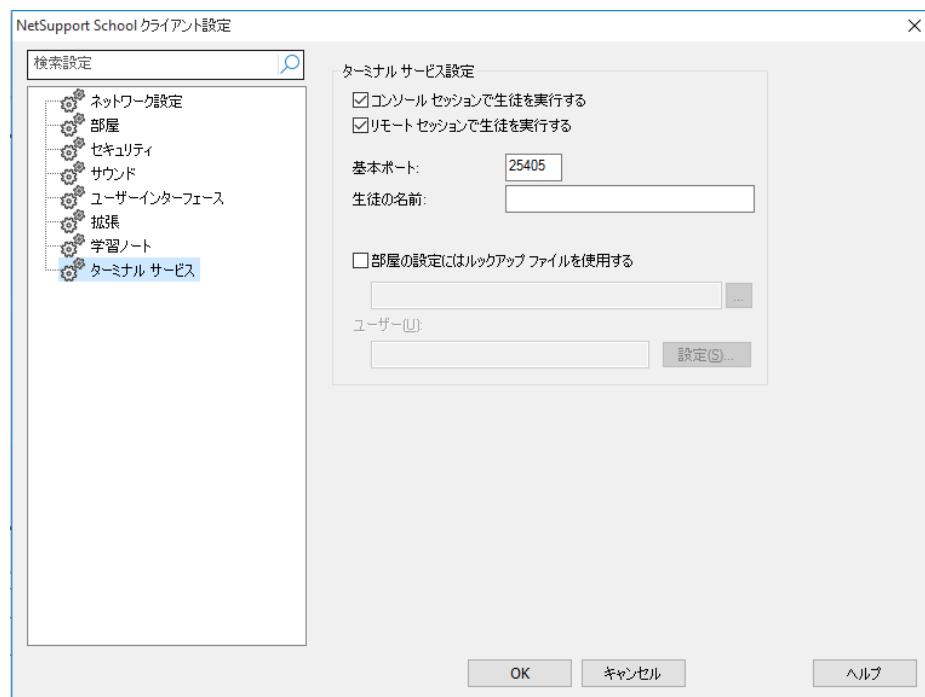
日誌内の画像の画質を設定します。デフォルトは75になっています。

日誌フォルダ

生徒日誌の保存場所を指定します。

生徒のターミナルサービス設定

ここで、生徒のターミナルサーバ用の設定を設定できます。



注意: ターミナルサーバと他のシンクライアントは、NetSupport School ネームサーバを使って設定できません。

ターミナルサービス設定

コンソールセッションで生徒を実行する: このオプションのチェックをオフにすると、コンソールセッションでクライアントを実行しません。

リモートセッションで生徒を実行する: このオプションのチェックをオフにするとリモートセッションでクライアントを実行しません。

基本ポート: 基本ポート番号を入力します。既定値は25405です。

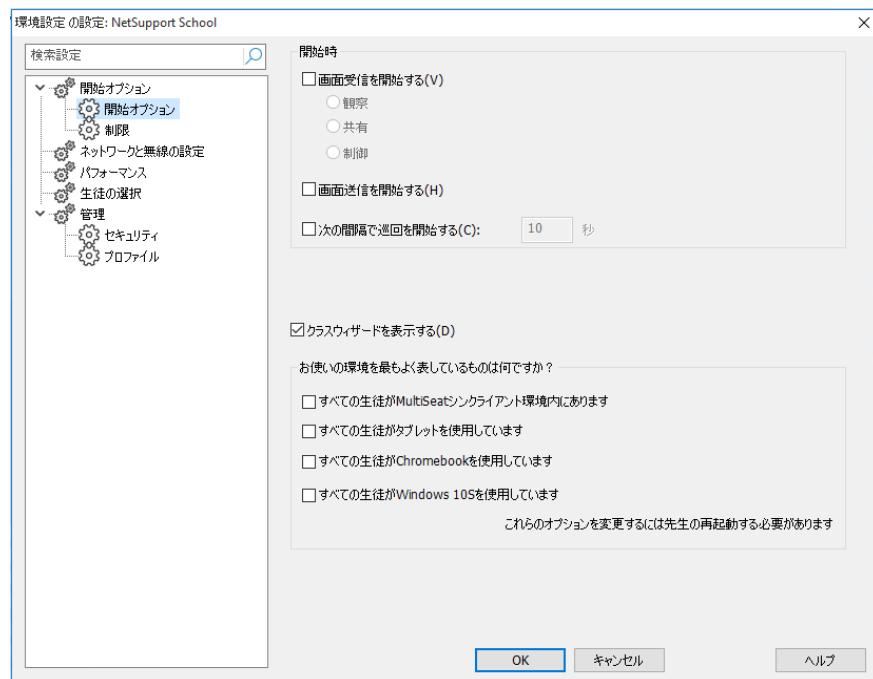
生徒名: 生徒の名前を入力します。空欄の場合は、固有のIDが表示されます。生徒名を入力するときは、最低1つの環境定数を含めてください。例 %computername%

注意: 詳細な手順については、[当社ナレッジベースを訪問し](#)、製品記事「Microsoft Terminal Server環境で実行するためのNetSupport Schoolのセットアップ」を参照してください。(英文)

先生コンソールを設定する

NetSupport School 先生を設定するには、先生コンソールでオプションをクリックし、ドロップダウンメニューからネットワーク設定を選択します。

注意:検索バーに入力し(用語の全部または一部を入力できます)、検索  アイコンをクリックします。検索語を含むセクションがハイライト表示されます。閉じる  アイコンをクリックして検索を閉じます。



先生コンソールの設定は 5 つのオプションがあります:

開始オプション

先生コンソールの開始オプションを指定することができます。また様々なモードのアクセスレベルを設定することもできます。

ネットワークと無線の設定

生徒機との通信に使用するネットワークプロトコルを設定します。生徒機と同じプロトコルを選択してください。先生の名前や説明を設定することもできます。

パフォーマンス

画面受信、画面送信を実行時に、低速データを送信するように低速通信と減色の設定を設定します。

生徒の選択

先生コンソールのプログラム起動時、生徒へ接続する方法を指定するには、これを使用します。

管理

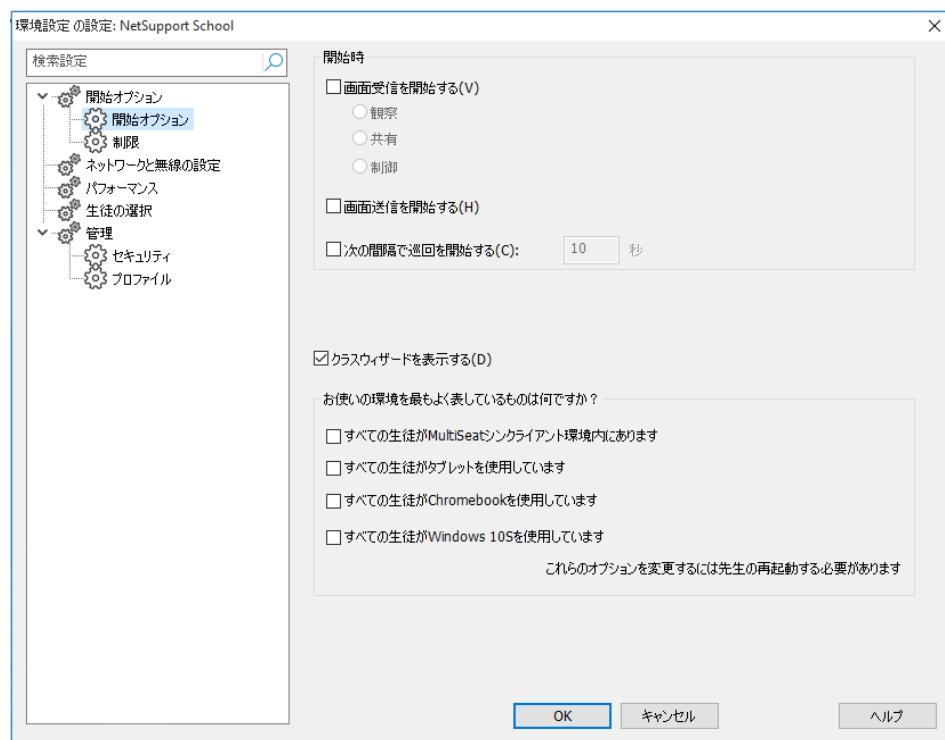
設定を保護する場合にパスワード設定や定義された先生コンソールプロファイルの作成をします。

先生とのセッションの生徒設定を調整する

コントロール中に複数の生徒機と作業をしている時に、生徒ごとに対応方法を変更することができます。また、その設定を画面受信時だけ有効にするか、その後も継続して使用するかを選択できます。

先生コンソールの開始オプション

先生の開始オプションを指定するにはこれらのオプションを使用します。



開始時

画面受信で開始: プログラム起動時に接続している全ての生徒機の画面受信を開始します。生徒の画面を表示するモードを選択できます: 共有、観察、または制御。

画面送信で開始: プログラムを起動時に、接続している全ての生徒機に画面送信を開始します

巡回で開始: プログラムを起動時に、接続しているすべての生徒機の画面巡回を開始します。

クラスウィザードを表示

このボックスにチェックをすると、スタートアップ時にクラスウィザードが表示されます。

お使いの環境を最もよく表しているものは何ですか?

すべての生徒がMultiSeatシンクライアント環境内にあります: MultiSeatシンクライアント環境内の生徒に接続している場合、NetSupport School先生は、これらの生徒がサポートする機能だけを表示することができます。

すべての生徒がタブレットを使用しています: タブレットを使用している生徒に接続している場合、NetSupport School先生はこれらの生徒に対応している機能だけを表示できます。

すべての生徒がChromebookを使用しています: Chromebookを使用している生徒に接続している場合、NetSupport School 先生はChromebookの生徒に対応している機能だけを表示できます。

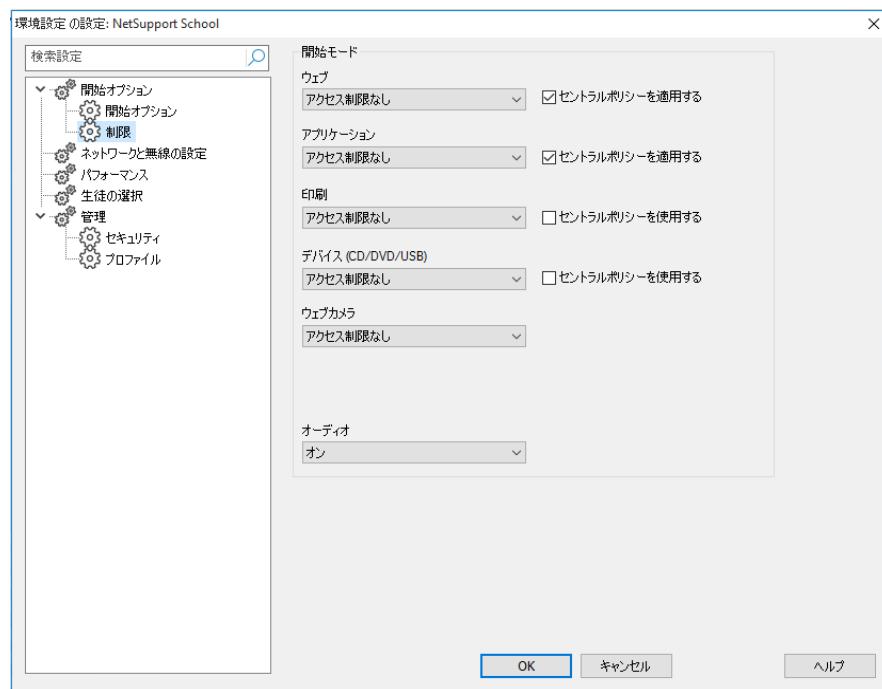
すべての生徒がWindows 10Sを使用しています: すべての生徒がWindows 10Sを使用している場合、NetSupport School先生はWindows 10Sの生徒がサポートする機能だけを表示することができます。

これらのオプションのどちらかを選択すると、NetSupport School先生のカットダウン版が提供されます。

注意: これらのオプションを変更するたびに、NetSupport School先生の再起動が必要になります。

先生の開始制限

開始オプション。今回から開始時のNetSupport Schoolの機能のアクセスレベルと制限を設定できるので、先生コンソールが起動するとすぐに適用されます。



開始モード

ウェブ: ウェブ管理モードのアクセスレベルを設定します。

- セントラルポリシーを適用する: テックコンソールで作成したグローバルポリシー制限を適用します。

アプリケーション: アプリケーション管理モードのアクセスレベルを設定します。

- セントラルポリシーを適用する: テックコンソールで作成したグローバルポリシー制限を適用します。

印刷: プリンタ管理モードのアクセスレベルを選択します。

- セントラルポリシーを使用する: テックコンソールで作成したグローバルポリシー制限を適用します。

デバイス (CD/DVD/USB): デバイス管理モードのアクセスレベルを選択します。

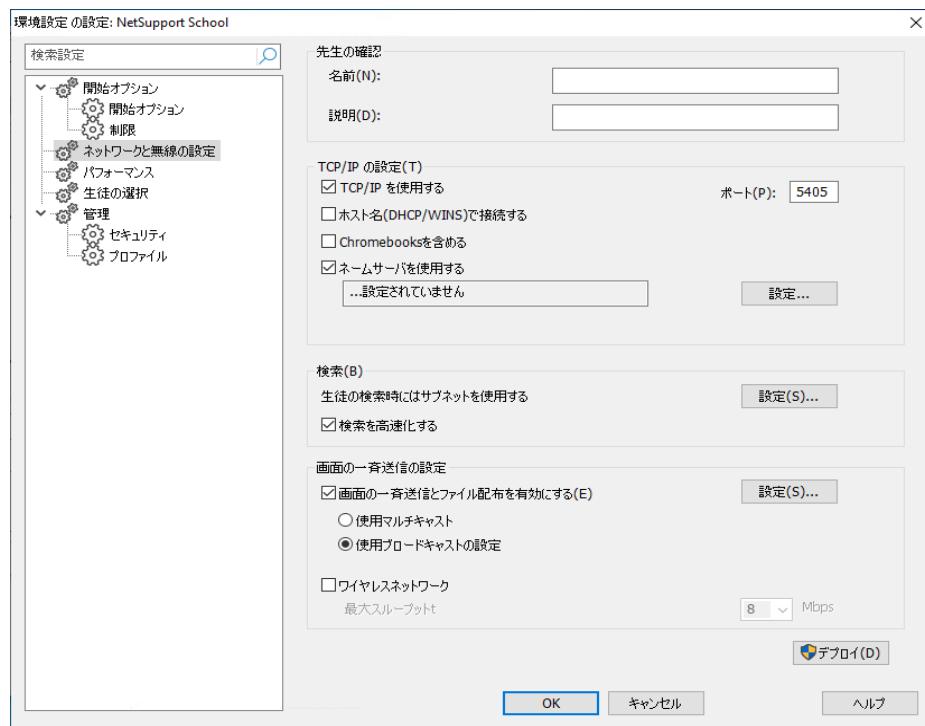
- セントラルポリシーを使用する: テックコンソールで作成したグローバルポリシー制限を適用します。

ウェブカメラ: 生徒機でウェブカメラへのアクセスを許可するかブロックするかを選択します。

オーディオ: オーディオ監視または生徒のコンピュータ側のオーディオをミュートできます。

先生コンソールのネットワークとワイヤレス

先生コンソールが生徒機との通信に使用するネットワークプロトコルを設定します。生徒機と同じプロトコルを選択してください。先生の名前や説明を設定することもできます。



先生の確認

名前: ネットワークで先生コンソールを識別するための名前を設定します。アスタリスク(*)を設定すると、コンピュータ名になります。

説明: 先生コンソールに関する説明を設定します。生徒機のタイトルバーに表示されます。

TCP/IP 設定

TCP/IP の使用: このオプションは、先生が生徒と通信する際に標準の TCP/IP トランスポートを使用するかどうかを制御します。デフォルトで有効になっています。

ホスト名による接続 (DHCP/WINS Networks): 通常、先生コンソールはホスト名ではなく、IP アドレスを使って生徒機に接続します。DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol : 動的ホスト構成プロトコル) が使われている環境では、生徒機が再起動するときにアドレスが変更される場合があるため、IP アドレスで接続できなくなる恐れがあります。このボックスをチェックしておくと、先生コンソールはホスト名を使って生徒機に接続するようになります。

ポート: TCP/IP では、通信を行うアプリケーションにポート番号が割り当てられていないなりません。NetSupport School のデフォルト登録ポート番号は 5405 です。

注意: ルーターをお使いの場合は、このポート番号を使用するデータが送受信されるように、ルーターも設定しておいてください。

Chromebooksを含める: NetSupport SchoolはGoogle Chromebooksに対応しています。このオプションは、検索を実行するとChromebooksを含めます。

注意: 接続サーバー/ゲートウェイのIPアドレスと一致するセキュリティキーを入力する必要があります。「設定」をクリックします。

ネームサーバ (ゲートウェイ)を使用する: 定義済みのNetSupport 接続サーバー/ゲートウェイにIPアドレスが登録されている生徒を検索する場合、このオプションを有効にします。開始時のオプションで現在設定されている検索方法は引き続き適用されますが、ネットワークのUDPを検索せずに指定された条件に一致する生徒の接続サーバーを検索します。「構成」をクリックして、一致するセキュリティキーと一緒に接続するサーバーのIPアドレスを入力してください。

注意: 接続サーバーを使用する場合は、競合を避けるためにホスト名による接続(DHCP/WINS)が無効になっていることを確認してください。

HTTPS の使用: NetSupport 接続サーバ経由で接続する際に、先生が安全な HTTPS 通信を強制するようにしたい場合は、このオプションを選択します。これにより、先生と生徒間の暗号化接続が必要な環境で、セキュリティがさらに強化されます。

注意: このオプションは、「TCP/IP の使用」オプションが無効になっている場合にのみ表示されます。

検索

サブネットを使って生徒機を検索する: 複数のサブネット やアドレスを使用しているネットワーク環境ではブロードキャストアドレスを設定します。検索時にブロードキャストメッセージが全アドレスに送信されます。

検索を高速化する: クライアントの検索と接続スピードが向上します。これはデフォルトで設定されています。

注意: 警告アイコンは、接続できないコンピュータを強調します。接続が失敗した理由を表示するにはマウスをアイコンの上に重ねます。

画面の一斉送信の設定

一斉画面送信とファイル配布を有効にする: 生徒に画面送信やファイル配布を実行する時は、画面情報/ファイルは各生徒マシンに順番に送信されます。画面送信とファイル配布の一斉送信を有効にすると、画面情報とファイルはすべてのマシンに同時に送信されるようになります。ネットワーク帯域限られたネットワーク環境または大多数のマシンに一斉配信するときに、これはパフォーマンスの向上を提供します。

NetSupport Schoolで作成されたネットワークトラフィックは減りますが、あらたにブロードキャストパケットを作成します。この機能を使用する場合は、必ずネットワーク管理所に確認することをオススメします。

注意: 画面送信とファイル配布は、UDP /ブロードキャストの代わりにマルチキャストを使用して送信することができます。マルチパケットだけが、指定したIPのマルチキャストアドレスに含まれるマシンに送信されます。マルチキャストを使用する。

設定: ブロードキャスト画面送信とファイル配布オプションが有効になっている場合、マルチキャストまたはブロードキャストアドレスを設定するためにこのオプションを選択します。ブロードキャストダイアログが表示されます。

ワイヤレスネットワーク: ワイヤレスネットワーク越しのショーパフォーマンスを最適化するには、このオプションをクリックします。

注意: NetSupport Schoolは、自動的にすべての無線の生徒を検出し、パフォーマンスを向上させるために、このオプションを有効にします。

- **最大スループット:** ネットワーク経由でお使いの無線アクセスポイントに送信されるデータのレベルを制御します。デフォルトのデータレートは8Mbpsです。必要であれば、ルータの速度を反映するように変更することができます。

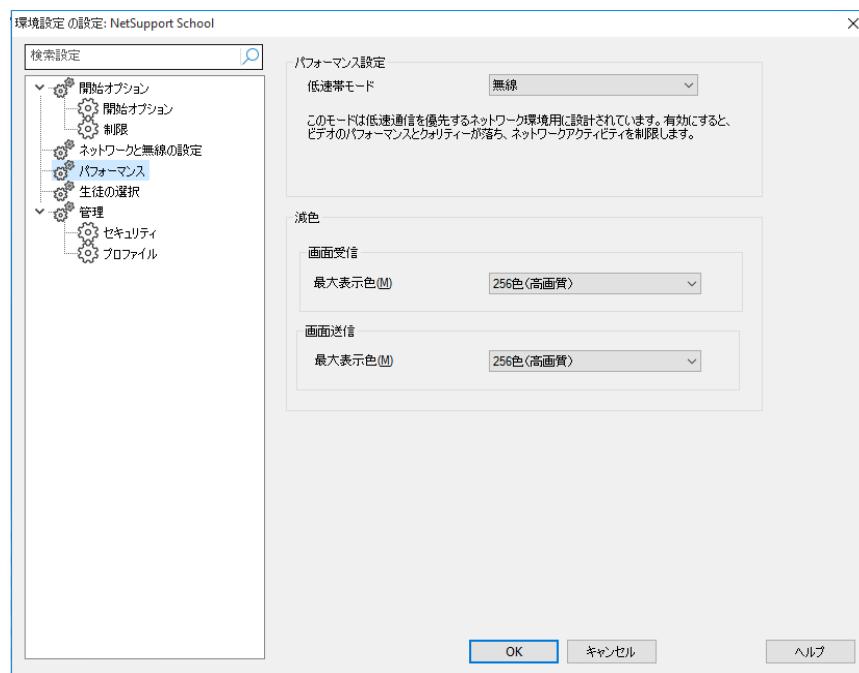
注意: 先生が無線の生徒を検出またはそれ自体が無線で接続されている場合、無線ネットワークのチェックボックスが選択されても、最大スループット設定の設定に関わらず自動的に最大データ出力を低減します。この動作は、オフにすることはできません。

デプロイ

NetSupport Schoolデプロイ画面が開き、特定の部屋のPCに生徒用ソフトウェアを配付することができます。

先生コンソールのパフォーマンス設定ー

ネットワークで低速データを送信するように低速通信と減色を設定します。



パフォーマンス設定

低速帯モード: このモードは低速通信を優先するネットワーク環境用に設計されています。有効にすると、ネットワーク活動を制限するためにビデオのパフォーマンスが低下します。

ドロップダウンリストからモードを選択します:なし、常時、または無線。無線の生徒が検出されると、無線オプションが自動的にオンになります。

減色

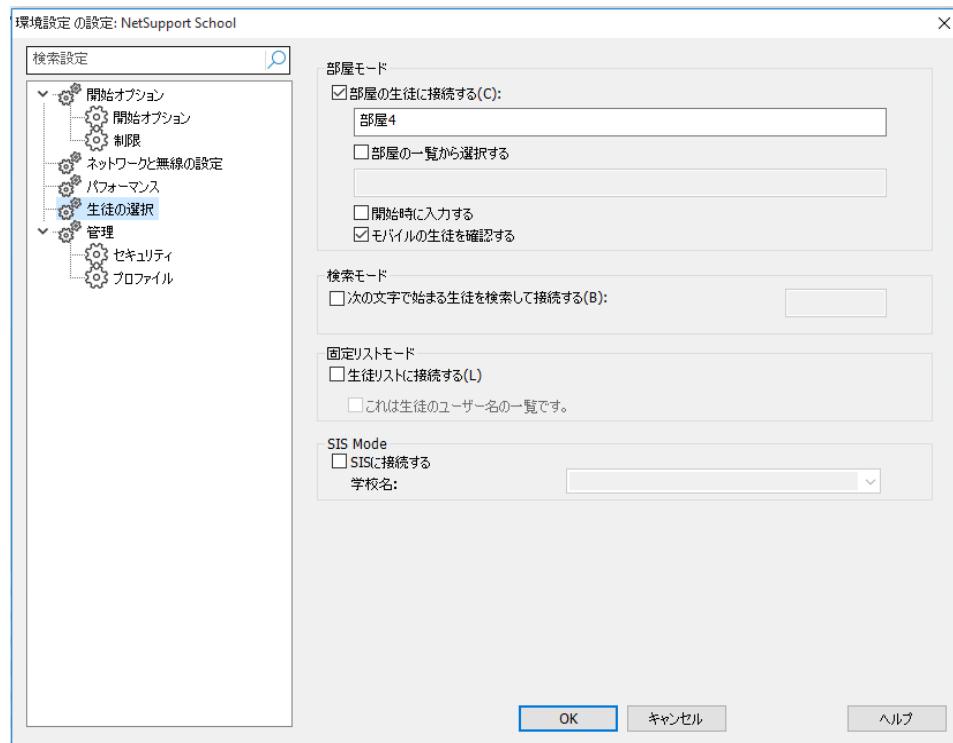
画面受信: 生徒の画面を受信時の最大色数を選択することができます。デフォルトでは、256色(高)に設定されています。

画面送信: 生徒に画面を送信時の最大色数を選択することができます。デフォルトでは、256色(高)に設定されています。

注意: これらのオプションは、リモートでのアプリケーションの画面受信や画面送信時に気にならない程度の視覚的な影響を与えることになります。マルチメディアの画面受信または送信時にみられる可能性があります。通常、ネットワークの利用が優先される場合にのみ、これらのオプションが適用されるべきです。

生徒の選択設定

先生コンソール起動時に生徒が接続する部屋を事前に設定するには、これらのオプションを使用します。



注意: 「NetSupport 接続サーバー/ゲートウェイ」が設定されている場合、先生プログラムはネットワーク経由で検索せずに、ここに登録された詳細を使用します。

部屋モード

部屋内の生徒に接続する: 特定の部屋にあるコンピュータに接続できます。接続したい部屋を指定します。複数の部屋を入力することができます(各値をプラス記号で区切れます)。

注意: クラスウィザードでは複数の部屋に接続できます。

部屋の一覧から選択する: 開始時に接続するための部屋の一覧から選択することができます。必要な部屋を入力し、カンマで各値を区切れます。

開始時に入力する: クラスウィザードで接続するアドホックルームを指定できます。

モバイルの生徒を確認する: モバイル生徒の部屋への接続を許可します。

注意: NetSupport Schoolクライアント設定の生徒の選択項目で部屋を設定できます。

検索モード

次の文字列で始めるクライアントを検索して接続する: 指定した文字列で始まるすべてのクライアントに接続します。

固定リストモード

生徒リストに接続する: マシン名で生徒コンピュータの固定リストに接続します。

- **これは生徒のユーザー名の一覧です:** 生徒のユーザー名の一覧に接続している場合は、このオプションを選びます。

注意: クラスウィザードで生徒機/ユーザー名のリストを設定できます。

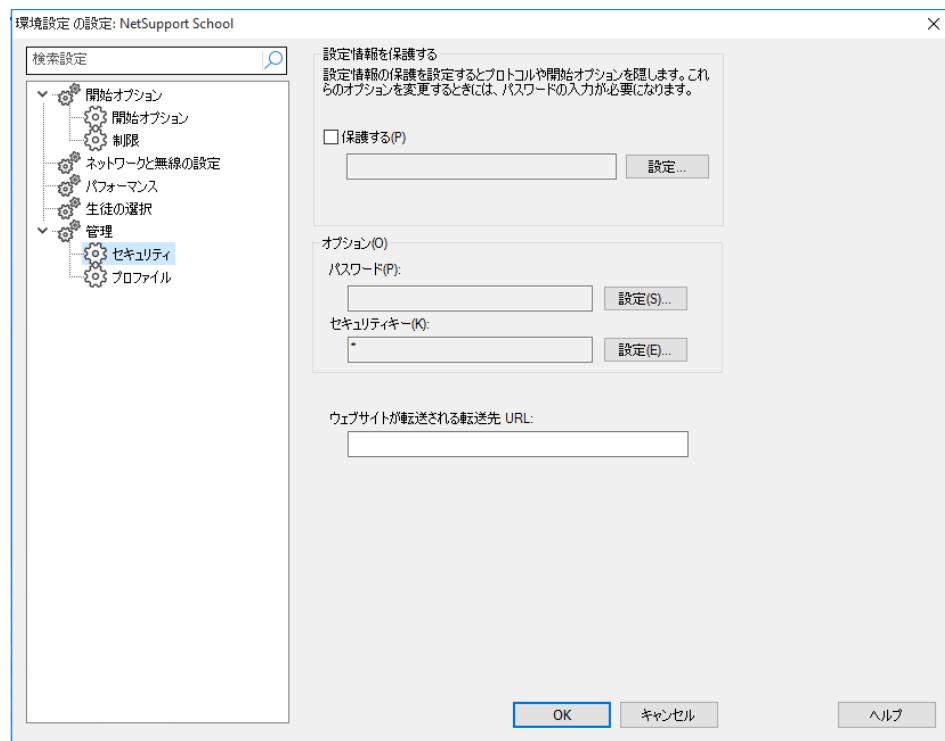
SISモード

SISに接続する: SISデータに接続することができます。この接続方法を使用するには、NetSupport 接続サーバーを OneRoster/Google Classroomと同期させる必要があります。接続すると、ドロップダウンリストから必要な学校名を選択します。

注意:

- クライアントが見つからない場合は、そのネットワークを検索するようにNetSupport Schoolが設定されていない場合があります。詳しくは、本マニュアルの「サブネット検索できるようにする」を参照してください。
- 部屋モードで接続サーバー経由で生徒に接続する場合、先生機で先生の構成と生徒の構成の両方で接続サーバーの設定を設定する必要があります。

管理 - セキュリティ設定



設定情報を保護する

先生コンソールの設定はパスワードを設定することにより保護できます。個々の先生のパスワードとして使用できます。

[保護]にチェックをしてパスワードを設定します。

コントロールユーザーが設定を変更したい場合、その度にパスワード入力を要求されます。

オプション

パスワード: パスワードを設定すると、次回からプログラム起動時に、パスワードの入力を要求されます。正しいパスワードを入力しないと先生コンソールを起動できません。

セキュリティキー: セキュリティキーを設定すると、同じキーが設定されている先生と生徒だけが接続できるようになります。セキュリティキーとしてアスタリスク(*)を設定すると、セキュリティキーはシリアル番号になります。これはコントロールとクライアント両方で設定しなくてはならないのでご注意ください。ここでセキュリティキーを設定した場合は、このコントロールだけが同一のセキュリティキーのクライアントまたはセキュリティキーのないクライアントに接続します。

URLリダイレクト

禁止されたウェブサイトに生徒がアクセスした場合にリダイレクトさせるURLを指定することができます。

共有データ

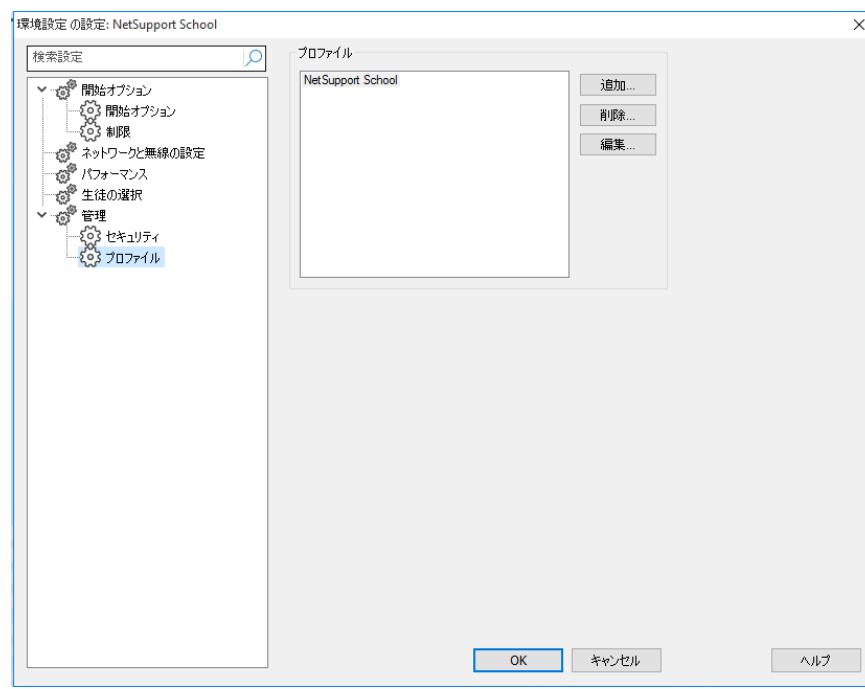
このオプションにチェックをすると、他のユーザーとデータファイルを共有することができます。

新規インストールの場合、デフォルトでこのオプションは無効になっています。

アップグレードの場合、デフォルトでこのオプションが有効になっています。

先生コンソールの管理 - プロファイル

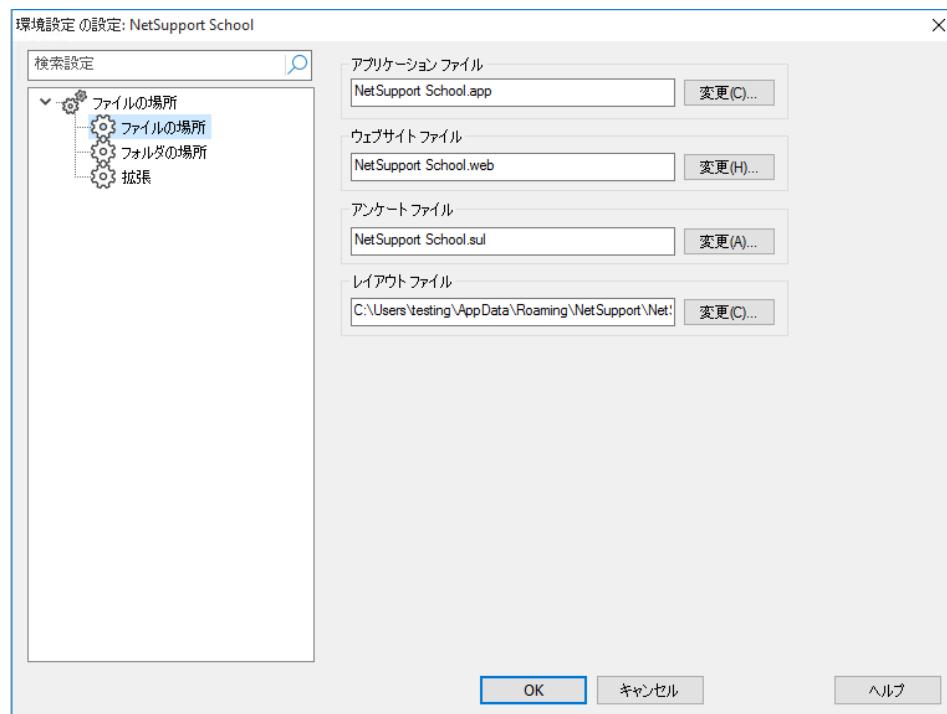
ウェブとアプリケーションの許可 / 制限リストを作成後に先生プロファイルにこのファイルを追加することができます。先生プログラムを起動して、ユーザーはプリ設定されているプロファイルを選択します



先生コンソールのプロファイルの追加、編集、削除が可能です。

- ・ [追加] をクリックして新しい先生コンソールのプロファイルを作成します。
- ・ プロファイルを削除する場合は、プロファイル名を選択して[削除]をクリックします。
- ・ 新規または既存のプロファイルにファイルを追加する場合は、プロファイル名を選択して[編集]をクリックします。

先生プロファイル - ファイル場所



変更をクリックして先生プロファイルに含めるファイルを変更します。

アプリケーションファイル

許可 / 制限 アプリケーションの詳細が保存されています。デフォルトファイル名は NetSupport School.app です。アプリケーションの許可 / 制限の設定方法は アプリケーション管理 モジュールを参照してください。

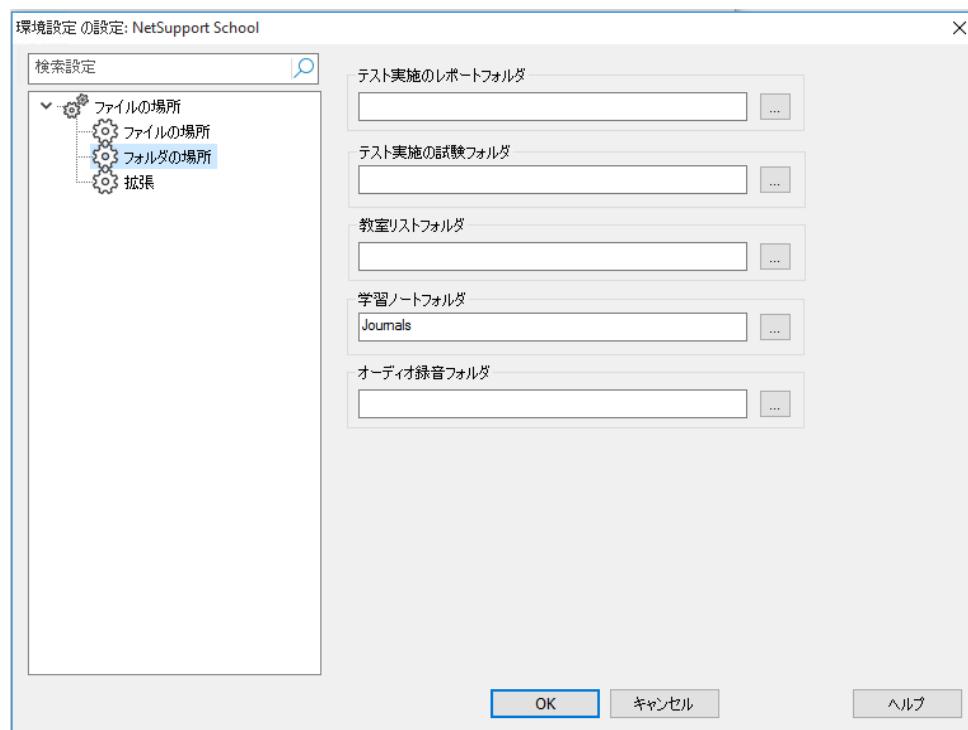
ウェブサイトファイル

許可 / 制限 ウェブサイトの詳細が保存されています。デフォルトファイル名は NetSupport School.web です。ウェブサイトの許可 / 制限の設定方法は ウェブサイト管理 モジュールを参照してください。使用ファイルを指定しない場合はデフォルトファイルが有効となります。

レイアウトファイル

先生機ウィンドウで表示した生徒機の位置 や背景画像を保存します。デオフォルトファイル名は LAYOUT.LYT です。詳しくは クラスのレイアウト を参照してください。

先生プロファイル – ファイルの場所



先生プロファイルの関連ファイルの場所を指定する場合は、参照をクリックします。

テストコンソール報告フォルダ

テスト結果を保存する場所を指定します。空欄の場合、デフォルトの¥ NetSupport School ¥ tests ¥ reports になります。

テストコンソール試験フォルダ

保存してあるファイルの場所を指定します。

クラスリストフォルダ

保存してあるクラスリストの場所を指定します。

学習ノートフォルダ

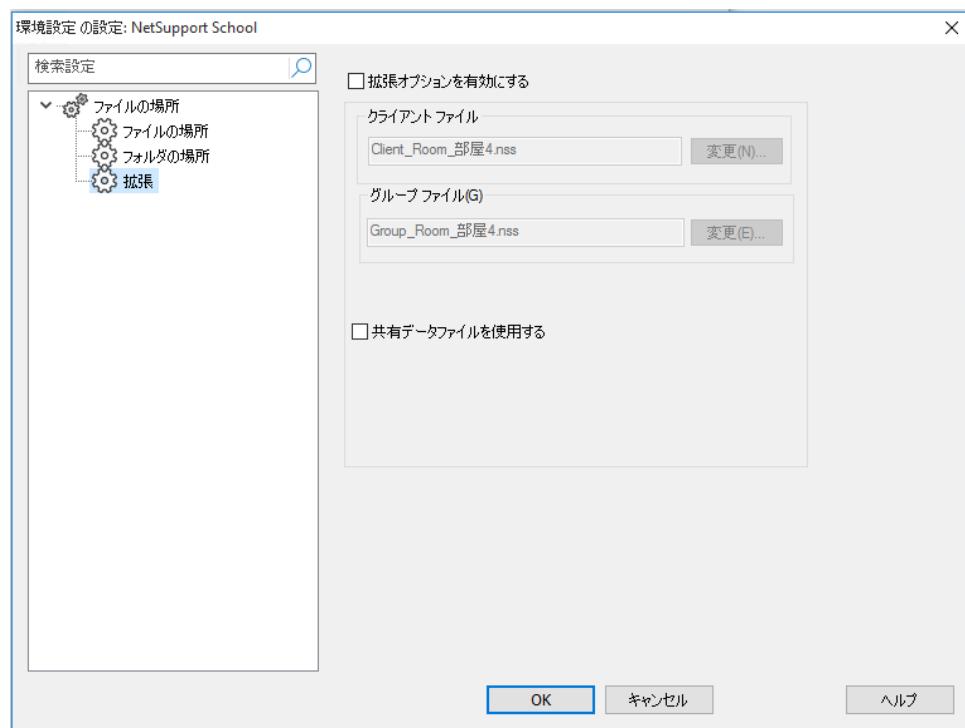
生徒の学習ノートを保管する場所を指定します。

オーディオ録音フォルダ

オーディオ録音を保存する場所を指定します。

先生プロファイル - ファイル場所拡張

先生プロファイルに生徒、グループリストを追加することができます。デフォルトでは出来ません。適用する前にスタートアップ時の現在の接続方法を考えてください。



[変更] をクリックして先生プロファイルにファイルを追加します。

拡張オプションを有効にする

生徒機ファイル: 起動時に先生機が接続する既知の生徒機リストを保存しています。デフォルトファイル名は CLIENT.NSS です。詳細はクラスのリストを参照してください。

グループファイル: 作成した生徒機グループの情報を保存しています。デフォルトファイル名は GROUP.NSS です。詳しくはグループを参照してください。

共有データはファイルする

このオプションにチェックをすると、他のユーザーとデータファイルを共有することができます。

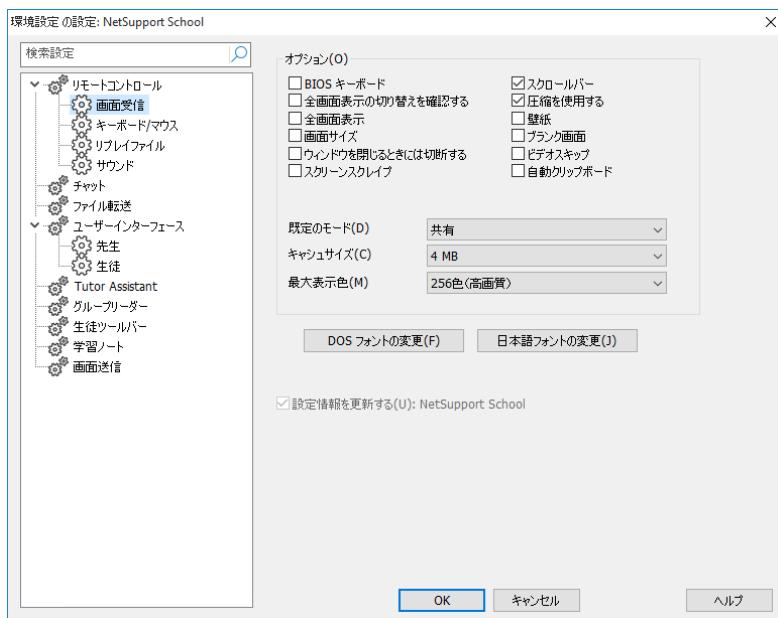
先生コンソールの設定情報を変更する

NetSupport Schoolは特定の条件や環境に合ったリモートコントロールが行えるように様々なカスタマイズ可能なオプションがあります。

先生コンソールには全体もしくは個々の生徒レベルで設定を適用するオプションがあります。

グローバルコンフィグ設定を調整するには

- 先生コンソールのオプションをクリックし、ドロップダウンメニューから設定を選択します。



- 利用可能なオプションは次のとおりです。

リモートコントロール

画面受信

キーボード/マウス

リプレイファイル

サウンド

チャット

ファイル転送

ユーザーインターフェイス

先生

生徒

Tutor Assistant

グループリーダー

生徒ツールバー
学習ノート
画面送信

3. オプションの有効/無効を設定します。

注意:検索バーに入力し(用語の全部または一部を入力できます)、検索  アイコンをクリックします。検索語を含むセクションがハイライト表示されます。閉じる  アイコンをクリックして検索を閉じます。

4. 完了したら、[OK]をクリックします。選択した設定が全クライアントに適用され、次回の接続用に自動的に保存されます。

各クライアントの構成設定の設定

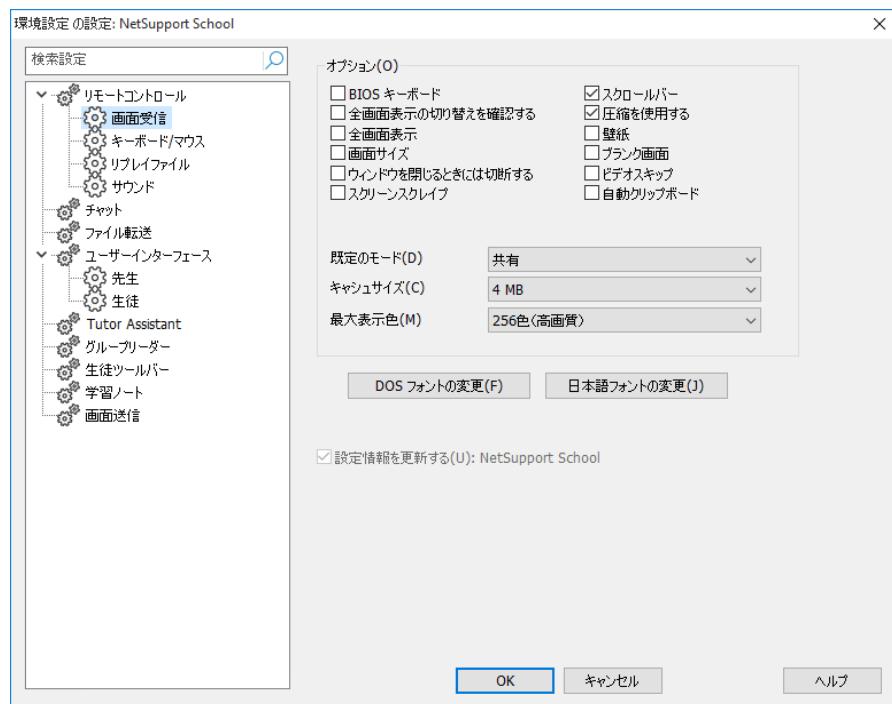
画面表示、キーボード/マウス、リプレイファイル、オーディオ設定は、個々の生徒に合わせてカスタマイズできます。

1. クライアントを画面受信します。
2. キャプションバーの設定アイコンをクリックします。
3. 設定ダイアログが表示されるので関連するオプション、画面受信、キーボード/マウス、リプレイファイル、オーディオを選択します
4. 画面受信中のオプションの有効 / 無効を設定します。

注意: 変更した設定を今後も使用する場合は、「NetSupport School 構成設定の更新」ボックスにチェックをします。

先生コンソールの設定情報 - [画面受信]タブ

このタブでは、生徒の画面を先生コンソールで見るときの各種条件を設定します。生徒の画面を表示する時に使用するフォントや生徒機のマウスとキーボードの制御方法などを設定できます。



[画面受信]タブには、以下のような設定項目があります:

- すべての生徒の画面受信セッションに設定を適用するには、先生コンソールでオプションをクリックし、ドロップダウンメニューから設定を選択して、画面受信を選択します。
- 個々の生徒の画面受信セッションに設定を適用するには、画面受信ウィンドウのキャプションバーにある設定アイコンをクリックし、画面受信を選択します。

オプション

BIOSキーボード: 先生コンソールで生徒機のキーボードがエミュレートする時に、ハードウェアレベルではなくBIOSレベルでエミュレートするようになります。先生のキー入力に生徒のアプリケーションが正しく反応しない場合は、このボックスをチェックしてみてください。この項目は、デフォルトのハードウェアレベルでのエミュレーションで問題がある場合にだけチェックしてください。

全画面表示の切替え確認: 先生コンソールで生徒の画面表示を全画面表示モードに切替えるときに確認のダイアログボックスが表示されるようになります。

全画面表示: 生徒の画面を全画面で表示します。

画面サイズ: 生徒の画面全体が画面受信ウィンドウ内に収るように自動的に縮小または拡大されて表示されるようになります。

画面受信ウィンドウを閉じた時に切断: 画面受信ウィンドウを閉じたときに、その生徒機と切断されるようになります。生徒との作業終了後に切断し忘れる心配がなくなります。

スクロールバー: チェックを外すと、画面受信ウィンドウのスクロールバーが表示されなくなり、画面の表示範囲が少し広くなります。

圧縮を使用: 画面受信の転送データ(画面更新のデータ)が圧縮されます。このチェックボックスの状態は、[設定情報の設定]ダイアログボックスの[一般]タブにも反映されます。

壁紙: 先生コンソールに生徒の画面の壁紙も表示されるようになります。壁紙も表示すると画面更新に時間がかかるため、通常、この項目はチェックしないことをお勧めします。

ブランク画面: チェックすると、画面受信中に、生徒機側の画面が非表示(真っ暗な画面)になります。

注意: この機能は、Windows 10 v2004以降を実行している生徒でのみ利用できます(Windows 8以前を実行している生徒にはレガシーサポートが提供されます)。

ビデオスキッピング: チェックすると、生徒の画面の連続した動きが一部間引かれて送信されるようになり、画面受信のパフォーマンスが向上します。

クリップボード: 有効になっている場合、データのコピーが簡単にできます。Ctrl+CとCtrl+Vのショートカットを使って先生と生徒間のクリップボードでデータのコピーが自動で可能です。

デフォルトモード: 画面受信を開始するとき、デフォルトでは、共有モードになります。別のモードで画面受信を開始したい場合は、一覧から選択してください。

キャッシュサイズ: 画面受信のパフォーマンスを上げるために、先生コンソールではキャッシュが使われています。キャッシュサイズは1MB~16MBの間で設定でき、設定したサイズが生徒機ごとに個別に用意されます。生徒機でサイズの大きいビットマップを多用するアプリケーションを使用している場合は、キャッシュサイズを大きく設定することでパフォーマンスを上げることができます。

この設定項目は、画面受信中に変更することはできません。

最大解像度: 先生コンソールに送信される生徒の画面の色数を制限できます。その結果、通信情報量を少なくでき、ネットワークの負荷を低減できます。

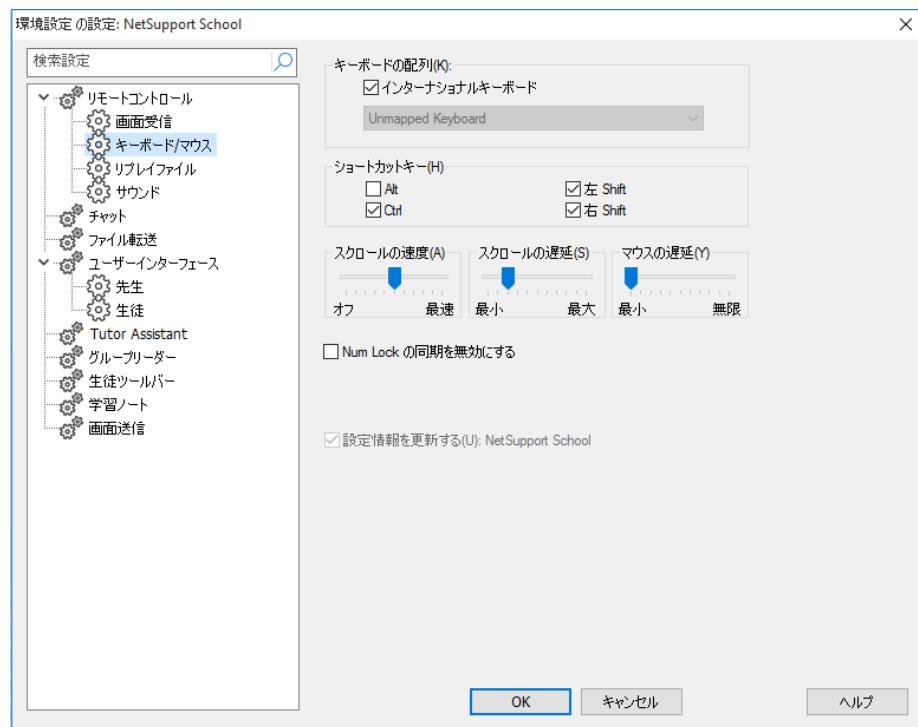
DOSフォントに変更

DOS画面の表示用フォントを変更するときは、このボタンをクリックします。DOS画面の表示用フォントとは、WindowsのMS-DOSプロンプトを全画面表示している生徒の画面が、先生コンソールに表示されるときに使われるフォントの種類とサイズです。Windowsでは、MS-DOSプロンプトの内容はグラフィックフォントを使って表示されます。先生コンソールでWindowsを高解像度で表示している場合は、フォントサイズをかなり大きくしなければ全画面表示のMS-DOSボックスが忠実に再現されません。

日本語フォントに変更

DOS画面の日本語表示用フォントを変更するときは、このボタンをクリックします。

先生コンソールのキーボード/マウスの設定



キーボードの配列

インターナショナルキーボード:インターナショナルキーボードのレイアウトは、ビューセッション中にコントロールで使用されます。

表示中にコントロールで使用する別のキーボードレイアウトを指定するには、ドロップダウンリストから必要なレイアウトを選択します。画面受信中に先生が入力したキーは選択した配列で生徒のキーにマッピングされます。同じ配列のキーボードをお使いの場合は [Unmapped Keyboard] を選択してください。

ショートカットキー

全画面表示モードで画面受信をしている時にウィンドウ表示に戻るために押すキーの組み合わせです。ショートカットキーとして使用したいキーをチェックしてください。3つのキーの組合せを認識できないキーボードをお使いの場合は、2つのキーの組み合わせを設定してください。生徒の画面解像度が先生より低い場合は、ショートカットキーを使わずに画面受信ウィンドウの外側をクリックしてウィンドウ表示に戻れます。

オートスクロール速度

画面受信ウィンドウ内に生徒の画面全体を表示しきれない時は、先生のマウスを画面受信ウィンドウの端に移動することで画面を自動的にスクロールします。このスクロール速度をスライドバーで調整します。

スクロール遅延

自動スクロールが動作するまでの遅延時間を設定します。マウスを画面受信ウィンドウの端に移動するとすぐにスクロールするようにしたい場合は、スライドレバーを最小の方に移動してください。しばらく間隔を置いてからスクロールさせる場合は最大の方に移動させます。

マウス遅延

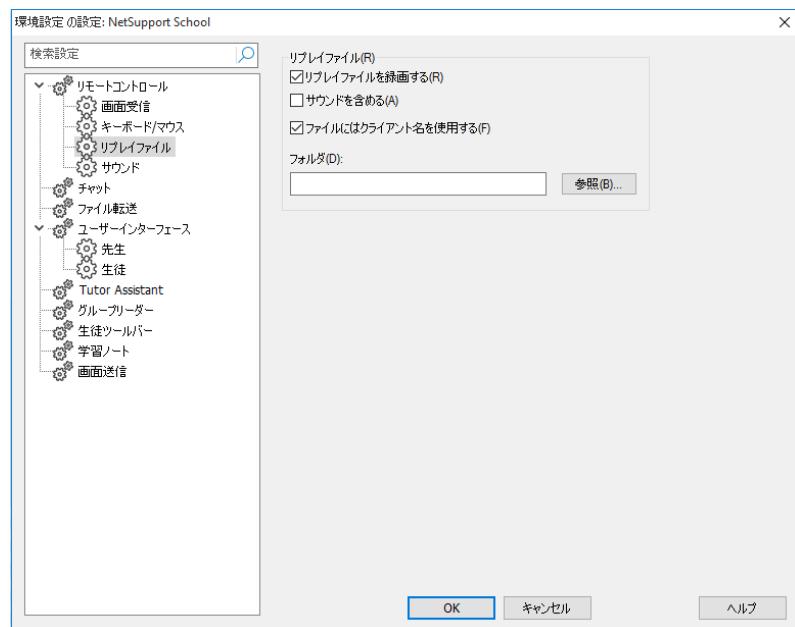
画面受信中にマウス操作をするときに、マウス操作の更新情報が生徒機に送信されるレートを調整できます。無限の方に移動すると帯域幅を節約し、最小に移動するとマウス操作がすぐに反映されます。遅いネットワーク回線をお使いの場合は効果的です。

Num Lock 同期を無効にする

コントロールマシンとしてノートパソコンをお使いの場合は標準のデスクトップパソコンのキーボード操作と同じになります。

リプレイファイルの設定

リプレイファイルの特徴は先生が遠隔操作/画面受信中に生徒で行った画面アクティビティを記録して再生できます。



リプレイファイル

リプレイファイルを記録する: リプレイファイルの記録を有効にする場合は、このオプションをチェックします。

音声付き: 画面、マウスそしてキーボードのアクティビティに加え、ワークステーションがオーディオを設定している場合、先生からのマイクナレーションを録音することができます。有効にするには、このボックスにチェックをします。

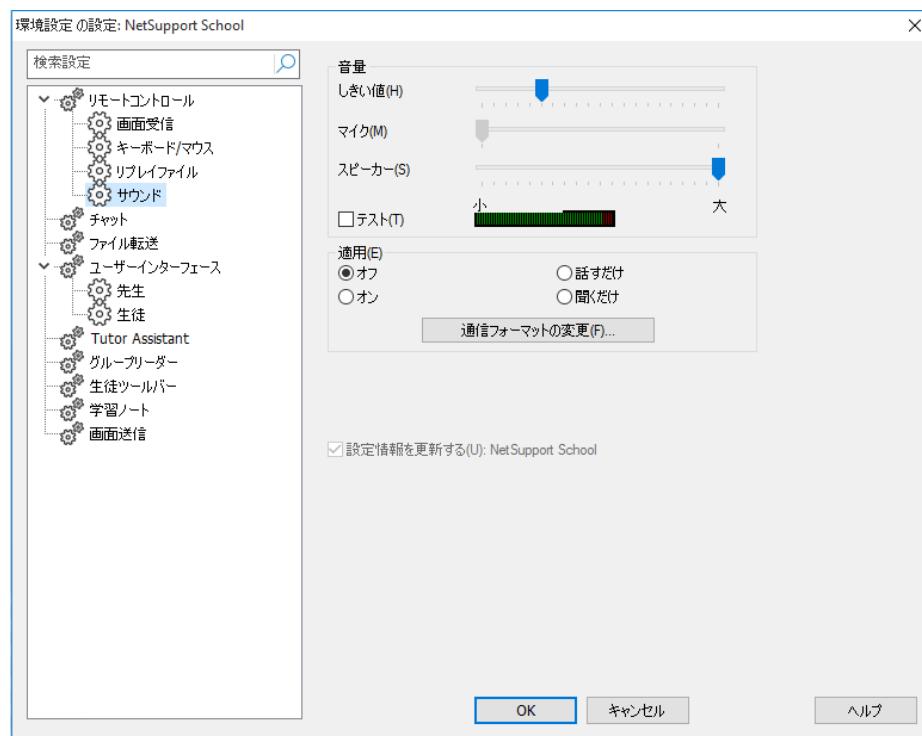
注意: デスクトップのサウンド、音楽などは録音できません。

クライアント名をファイルの接頭にする: 各リプレイファイルを識別するために、ファイル名はクライアント名および録音の日付 / 時間を前部に付けます。またこのボックスをチェックしないことによりファイルは 00000001.rpf などのフォーマットで連続した名前になります。

フォルダ: リプレイファイルの保存先を指定します

先生コンソールの設定情報 - [サウンド] タブ

このプロパティシートは、サウンドサポートを使用するための設定オプションを提供します。



サウンドの設定は、2つの方法で設定することができます：

- すべての生徒セッションに設定を適用するには、先生コンソールで [オプション] をクリックし、ドロップダウンメニューから [設定] を選択して、[リモート コントロール] - [オーディオ] を選択します。
- 個々の生徒セッションに設定を適用するには、[ビュー] ウィンドウリボンの [オーディオ] タブに移動し、[オーディオ設定] をクリックします。

音量

しきい値 - マイクの感度

マイク - マイクの音量

スピーカー - スピーカーの音量

テスト - 上記のすべての設定をテストします（これは、すべての生徒セッションに設定を適用する場合にのみ使用できます）。

適用

オン - サウンドを有効にします。

オフ - サウンドを無効にします。

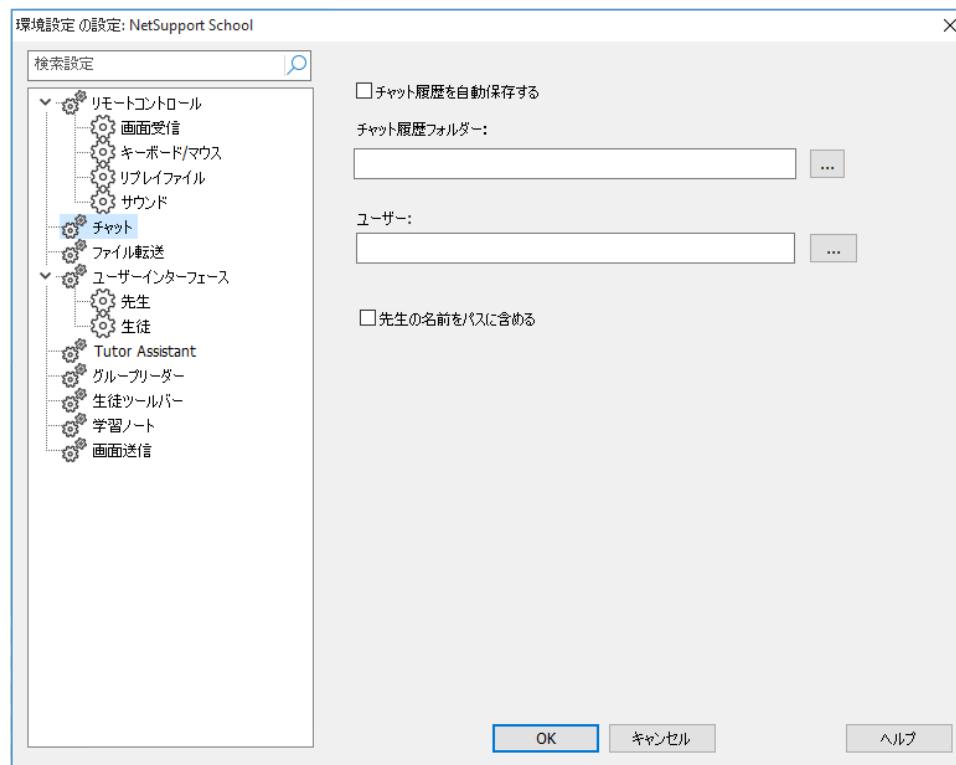
話すだけ - 先生コンソール(コントロール)のサウンドを話すだけの機能に切り替えます。

聞くだけ – 先生コンソール(コントロール)のサウンドを聞くだけの機能に切り替えます。

「通信フォーマットの変更」変更ボタンを選択すると、通信フォーマットを変更することができます。許容範囲の品質レベルのみを使用してください。高品質の設定は、画面更新のパフォーマンスに影響を与えます。

先生のチャット設定

すべてのチャット履歴のコピーは、.txtファイルに保存できます。



チャット履歴を自動保存する

すべてのチャット履歴を自動的に保存するを選択します。

チャット履歴フォルダー

[参照] アイコンをクリックして、チャット履歴を保存するフォルダーを指定します。

ユーザーとして

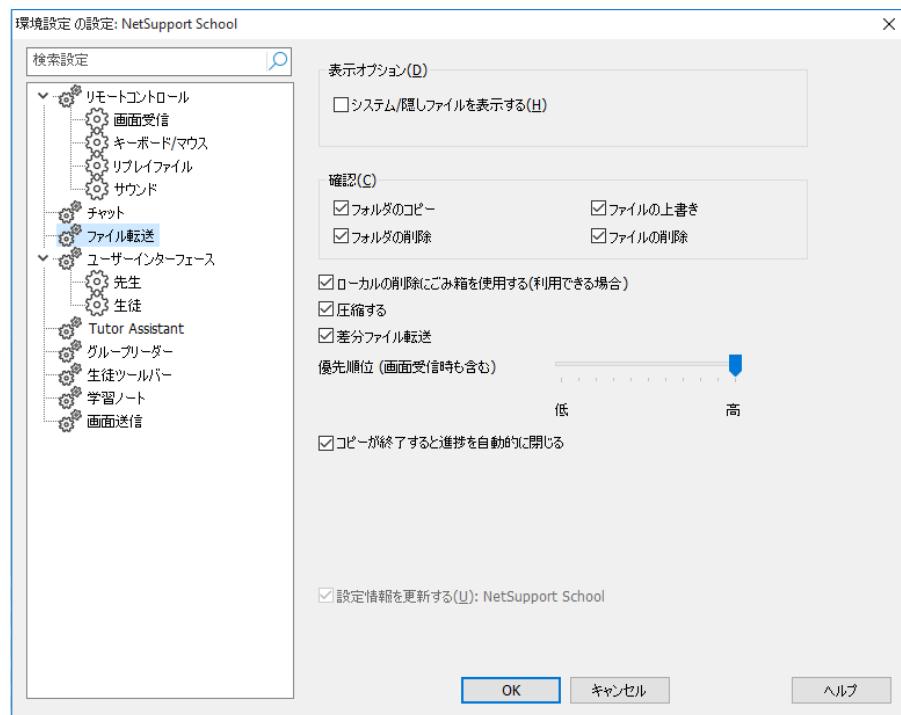
上記で指定したパスがUNCパスである場合は、ユーザー名とパスワードを入力します。

先生の名前をパスに含める

先生の名前をパス名に含めることができます。

先生コンソールのファイル転送設定

NetSupport School内でファイル転送の設定を構成することができます。先生コンソールでオプションをクリックし、ドロップダウンメニューから設定を選択し、ファイル転送を選択します。ここでは、情報の表示方法を変更したり、危険な操作を実行する前に確認するなどの安全機能を設定することができます。



表示オプション

システム/隠しファイルの表示: システムおよび隠し属性を持つすべてのファイルを表示するには、このボックスにチェックを付けてください。デフォルトでは、このオプションはオフになっています。

確認

フォルダやファイルを削除するような危険を伴うファイル操作を実行するときに、コントロールに確認ダイアログボックスを表示させることができます。これによりデータの偶発的な損失を防ぐことができます。ユーザーインターフェイスに精通している場合は、必要に応じて、これらのオプションをオフにすることができます。デフォルトでは、すべての確認設定がオンになっています。

フォルダのコピー: フォルダ構造をコピーする前に、ユーザーに確認します。

フォルダの削除: フォルダ構造を削除する前に、ユーザーに確認します。

ファイルの上書き: チェックが付いている場合、既存のファイルを上書きする前に確認ダイアログが表示されます。チェックが付いていない場合でも、システム/隠しファイルが上書きされる場合は、確認メッセージが引き続き表示されます。

ファイルの削除: 1つまたは複数のファイルを削除する前に確認ダイアログが表示されます。

ローカル側の削除にゴミ箱を使用する (利用可能な場合)

ローカル側から削除されたすべてのファイルはゴミ箱へ送られます。デフォルトでこれは有効になっています。

圧縮を使用

圧縮の使用を有効にするには、このボックスにチェックを付けます。クライアントとの通信時にファイル転送、画面受信またはチャットセッションに関わらず、送受信されるデータは圧縮されます。データも暗号化されるので、セキュリティの一つの手段を提供します。

差分ファイル転送

差分ファイル転送は、変更されていない情報の転送をスキップすることでパフォーマンスを向上させます。転送されるファイルが既に送り先のフォルダに存在する場合は、ファイルの変更部分だけが更新されます。

差分ファイル転送は、デフォルトで有効になっています。

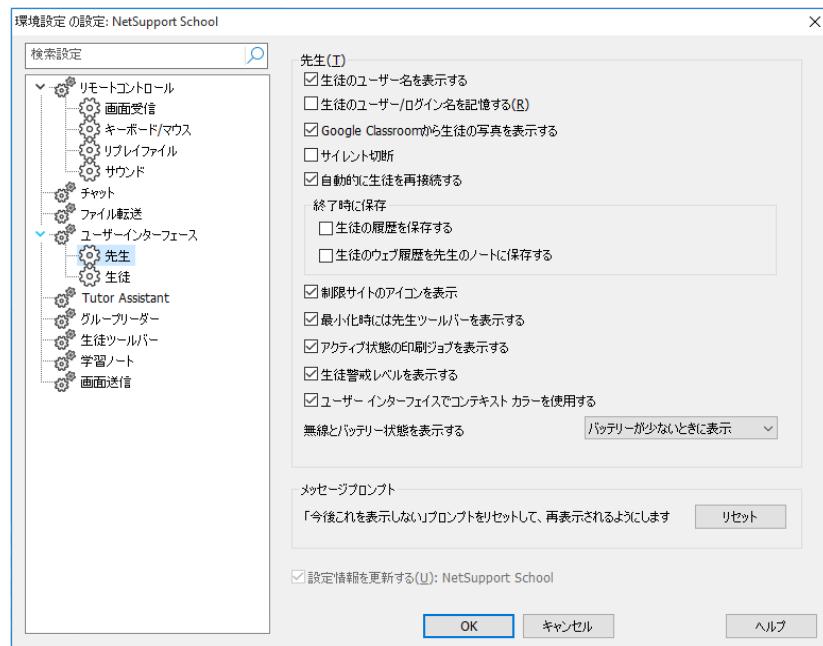
優先順位 (同時に画面受信している場合)

同時にクライアント画面の表示とファイルを転送している場合は、それぞれの操作は、他のパフォーマンスに影響を与えます。画面受信の反応をよくさせるにはファイル転送操作の優先順位を減らします。またその逆も同じです。ファイル転送に高い優先順位を与えるには左に、クライアント画面受信に高い優先順位を与えるには右に、コントロールをスライドさせます。クライアントの画面を表示していない場合は、この設定は無視されます。

コピーが完了したら、進捗画面を自動的に閉じる

完了時にファイル転送の進捗ダイアログを自動的に閉じます。ファイル転送の結果を確認したい場合は、このオプションのチェックを外します。

先生コンソールのユーザーインターフェイス設定



先生

生徒のユーザー名を表示する: 生徒登録を実行時にクライアントのログイン名を取得してコントロールウィンドウに表示される場合は、このオプションにチェックをしてください。

生徒のユーザー名 / ログイン名を記憶する: 生徒リストの生徒のユーザー/ログイン名を保存する場合はこのオプションにチェックをします。

Google Classroomから生徒の写真を表示する: Google Classroomと統合していて、写真が生徒アカウントに関連付けられている場合は、その写真を先生コンソールの生徒アイコンとして表示するように選択できます。

サイレント切断: セッション中にコントロールからクライアントが誤って切断すると先生コンソールにプロンプトが表示されます。この警告を禁止する場合は、このオプションにチェックをします。

生徒に自動再接続: 生徒が誤って切断してしまった場合、自動的にリモートコントロールセッションに再接続します。

終了時に保存

- 生徒の履歴を保存する:** このオプションにチェックを入れると、先生コンソールを終了時にインターネット、アプリケーション、印刷一の履歴をCSVファイルで自動的に保存します。
- 生徒のウェブ履歴を先生のノートに保存する:** このオプションは、先生が閉じられた時に、生徒のウェブ履歴を先生の学習ノートに自動的に保存します。

制限されたウェブサイトのアイコンを表示する: デフォルトでは、制限されたウェブサイトのためのウェブサイトのアイコンが表示されます。制限されたWebサイトが多数ある場合は、これらのアイコンを無効にして、Windowsリソースを過度に使用

しないようにすることができます。

最小化時は先生コンソールツールバーを表示する: 先生コンソールを最小化すると、NetSupport Schoolの主要機能にアクセス可能な先生コンソールツールバーが表示されます。このオプションを無効にする場合は、チェックを外してください。

稼動中の印刷ジョブを表示: 全ての表示モードで稼動中の印刷ジョブを表示します。

生徒のアラートレベルを表示する: 生徒は、生徒ツールバーからアラートを発信することができ、先生側の生徒アイコンは発信されたアラートの種類によって色が変化します。このオプションはアラートを表示または非表示にすることができます。

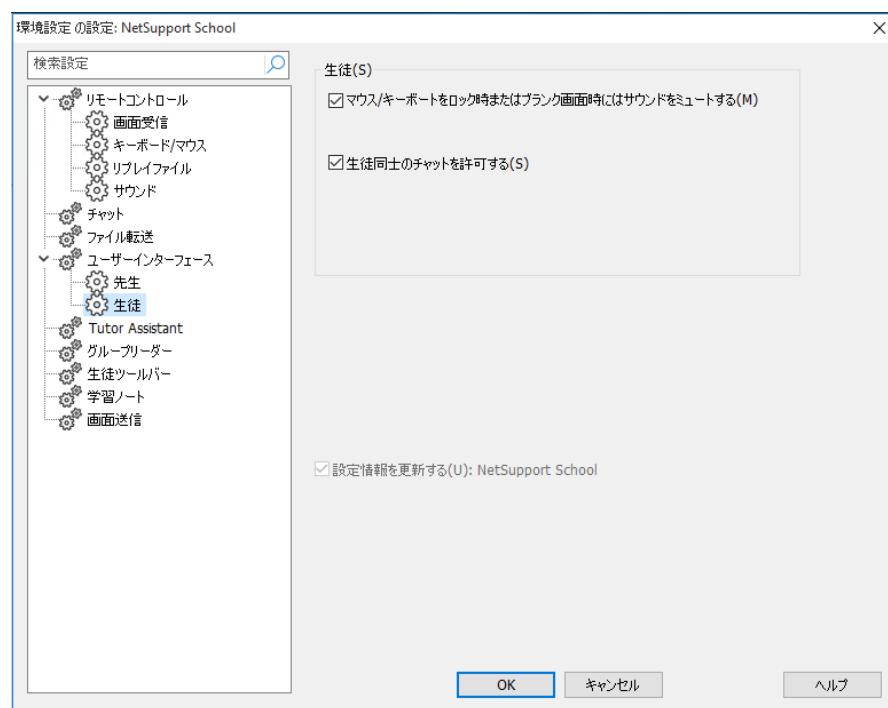
ユーザー インターフェイスでコンテキスト カラーを使用する: デフォルトでは、先生のユーザーインターフェイスで使用される色は、現在の表示モードに合わせて変更されます。このオプションを無効にすると、これをオフにして、代わりにユーザーインターフェイス全体で同じ色を使用できます。

無線とバッテリー状態を表示する: 無線とバッテリー状態の両方を表示するように選択することができ、10%以下になったバッテリーレベルだけを表示することもできます。

メッセージプロンプト

「今後、これを表示しない」プロンプトをリセットして、再度表示する: 生徒の電源を切る、生徒を再起動またはログアウトする、グループを削除する、または先生コンソールを終了するときのメッセージプロンプトをオフにした場合は、ここで再び有効にすることができます。[リセット] をクリックします。

生徒ユーザーインターフェイス設定



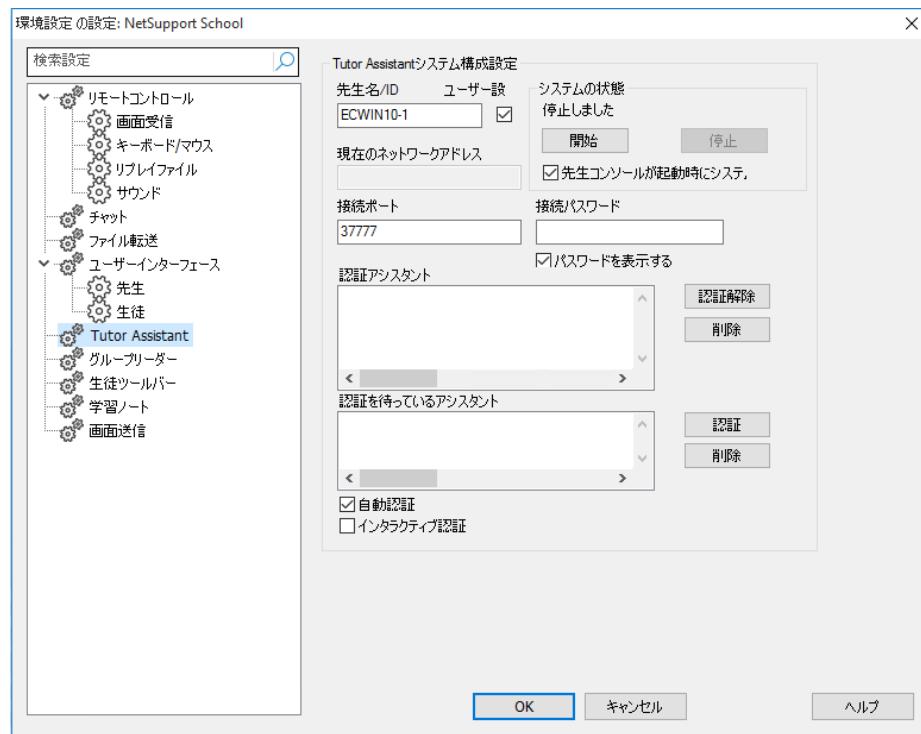
生徒

マウス/キーボードをロック時またはブランク画面時にサウンドをミュートする: マウス/キーボードのロック時またはブランク画面時に生徒側のサウンドをミュートすることができます。

生徒間チャット: このオプションにチェックをすると生徒が接続中の他の生徒とグループチャットを開始できるようになります。

先生アシスタント設定

NetSupport School先生アシスタントの設定を構成します。



先生名 / ID

先生アシスタントに表示される名前。カスタムを選ぶと先生に自分の名前を入力することができます。

システムの状態

現在のシステムの状態を表示します。ここからシステムを開始または停止することができます。

先生が開始するとシステムを開始する: 先生が開始するとシステムは自動的に開始します。

現在のネットワークアドレス

先生のネットワークアドレス。

接続ポート

ポート番号を入力します。デフォルトのポートは37777です。

接続パスワード

先生アシスタントが先生に接続するために使用するパスワードを入力します。

パスワードを表示する: 接続パスワードを表示します。

認証済みアシスタント

先生に接続するために認証された先生アシスタントの一覧。ここからアシスタントを削除したり認証解除することができます。

認証待ちアシスタント

先生に接続するための認証を待っている先生アシスタントの一覧。アシスタントを許可するには認証をクリックします。

自動認証

正しいパスワードを入力すると先生アシスタントは自動的に認証されます。

インターラクティブ認証

先生アシスタントは先生に接続するための手動認証が必要になります。

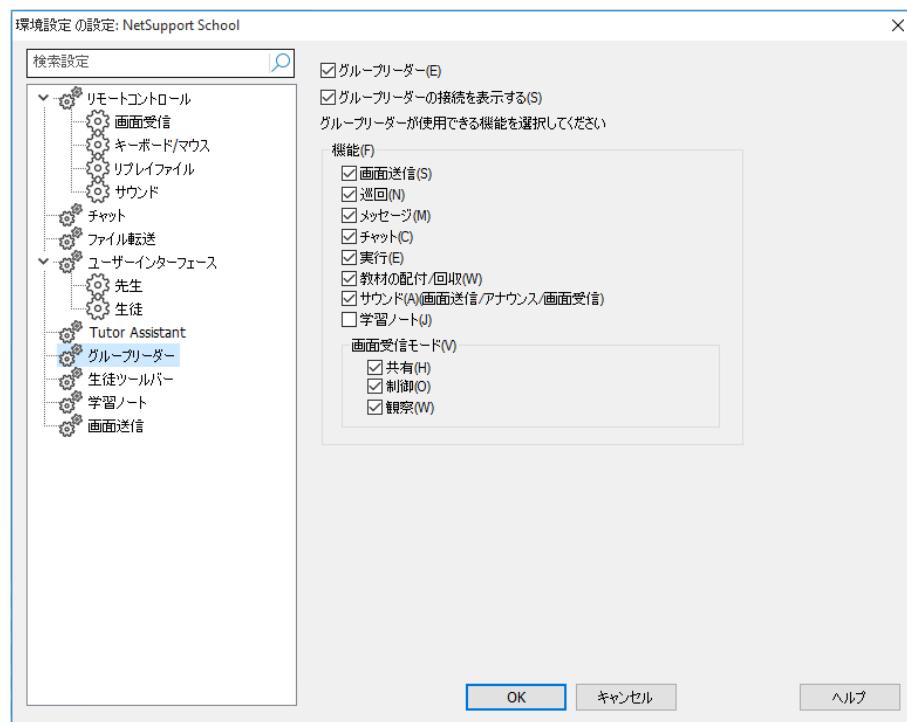
グループリーダーに関する設定情報

グループと一緒に作業をする時に、先生はグループ内の生徒をグループリーダーにすることが可能です。グループリーダーに指定された生徒は先生に代わって先生と同じようにグループを操作できます。グループリーダー中でも先生は全ての操作に関する責任を持ち、いつでもグループリーダーを解任できます。

グループリーダーが利用できる機能を選択するには、先生コンソールで[オプション]をクリックし、ドロップダウンメニューから[設定]を選択して、[グループリーダー]を選択します。

グループリーダーの視覚的な接続がデフォルトで表示され、すべてのビューでグループリーダーと生徒の間のリンクを簡単に確認できます。これらを表示したくない場合は、[視覚的なグループリーダーの接続を表示]オプションをオフにします。

デフォルトではグループリーダーは全機能を使用できます。該当する項目のチェックを外すと使用できなくなります。



グループリーダーは次の機能が実行可能です：

画面送信

巡回

メッセージ送信

チャット

アプリケーション実行

教材の配布/回収

サウンド

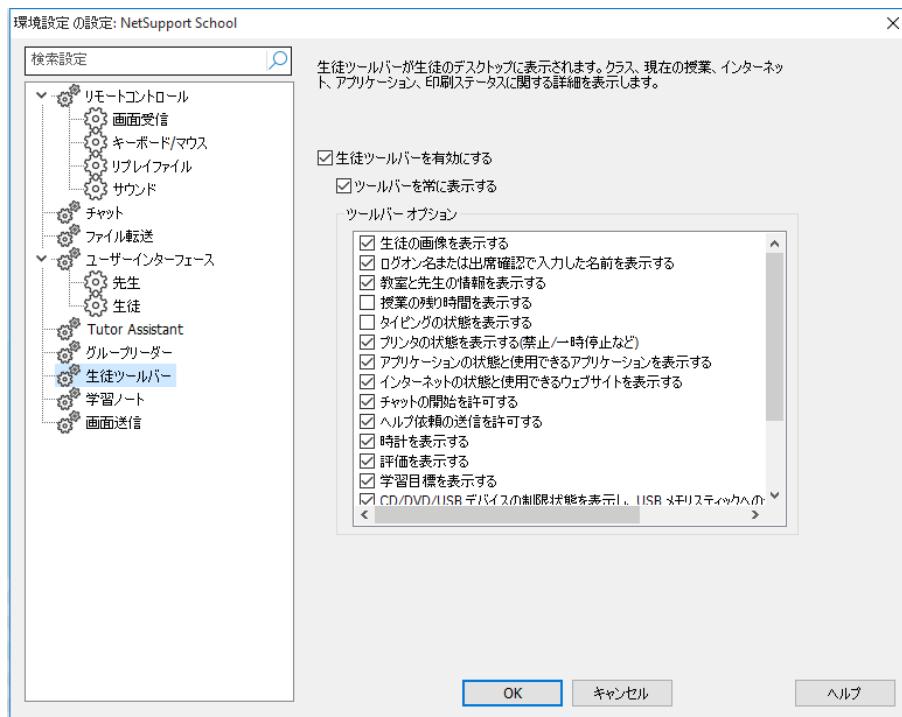
学習ノート

画面受信 (共有/制御/観察)

[OK] をクリックすると設定が有効になります。生徒を選択して グループリーダー に指定します。

生徒ツールバー設定

生徒ツールバーの設定をします。



生徒ツールバーの有効

生徒ツールバーを有効にします。

ツールバーを常に表示

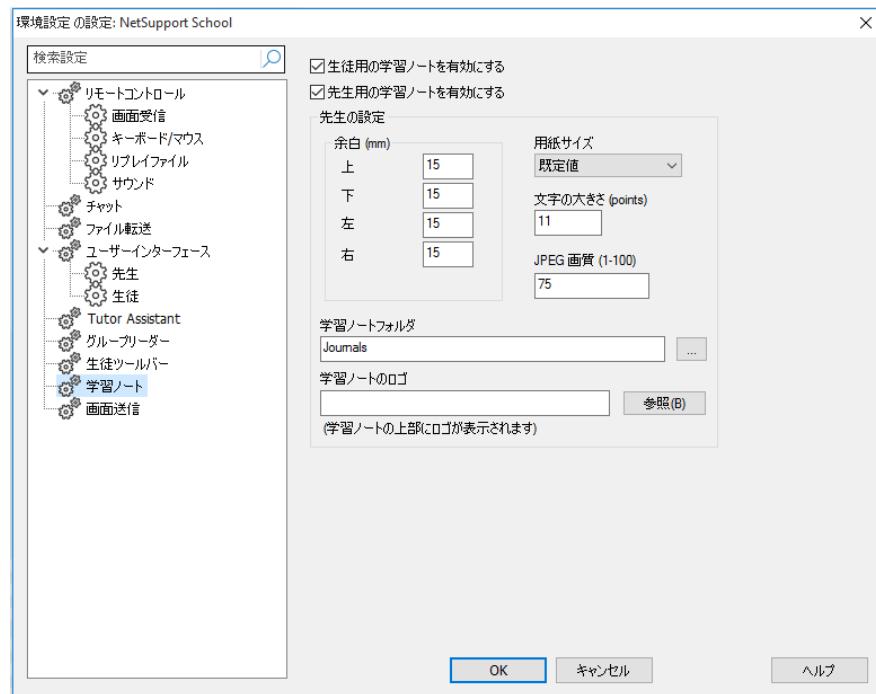
生徒の画面上部にツールバーが常に見えるようにするか自動非表示にするか決定します。

ツールバーオプション

生徒ツールバーに表示されるオプションを選びます。

先生用学習ノートの設定

学習ノートは、授業のキーポイントをまとめて携帯用 PDF ファイルに保存して提供されます。先生用に保存する学習ノートの設定をカスタマイズするには、これらのオプションを使います。学習ノートの設定をカスタマイズするには、{スタート}{プログラム}{NetSupport School}{NetSupport School 設定 - 学習ノート}を選択します。Windows 8のマシンでは、スタート画面で右クリックして画面の下部のすべてのアプリを選択します。NetSupport School生徒環境設定アイコンをクリックします。



生徒の学習ノートを有効にする

生徒用の学習ノートを起動します。

先生の学習ノートを有効にする

有効にした場合、先生が確認できる学習ノートのコピーが保存されます。

先生の設定

余白 (mm): 日誌の上下左右の余白を調整します。用紙サイズ: 生徒日誌用の用紙サイズオプションを選択します

フォントサイズ (points): 日誌で使用するフォントのサイズを設定します。

JPEG 画質 (0-100): 日誌内の画像の画質を設定します。デフォルトは75になっています。

日誌 フォルダ

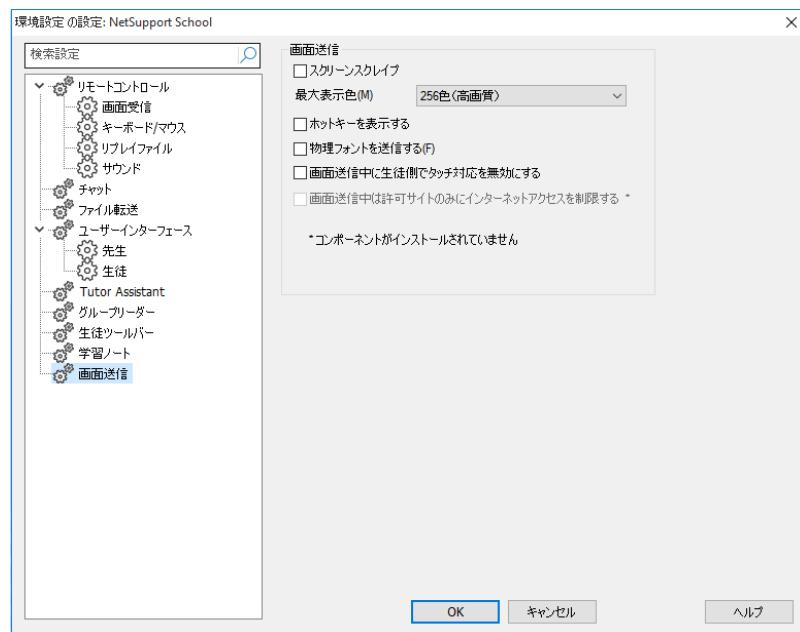
生徒日誌の保存場所を指定します。

学習ノートのロゴ

学習ノートの上部に表示される画像を追加することができます。

画面送信設定

画面送信機能は、生徒全員、一部、1人の画面に先生の画面を表示することができます。ここから、画面送信の設定をすることができます。



画面送信

ショー中にインターネット制限を適用する: ショー中に不適切なウェブサイトが生徒に表示されてしまうのを防止するために承認サイトリストのウェブサイトにしかアクセスできなくなります。

最大解像度: 生徒に画面を送信時の最大色数を選択することができます。デフォルトでは、256色 (高)に設定されています。

スクリーンスクレイプ: NetSupport School では、ビデオドライバにフッキングして画面データをキャプチャリングするという非常に効率的な方法を採用しています。しかし、他アプリケーションがこのドライバをバイパスとしている場合、この方法が上手く動作しません。そのような場合は、スクリーンスクレイプモードを有効にします。このモードはネットワークへの負荷がかかりますが、クライアント画面を正確に表示させることができます。

ホットキー表示: ショー中に先生が行った全ての操作を生徒が確認できるようにするには、ホットキーの使用を有効にします。先生が使用したキーの組み合わせ(例: CTRL+V)が先生、生徒両方の画面にパルーンで表示されます。

画面送信中に生徒側でタッチ対応を無効にする: 生徒がタッチ対応デバイスを使用している場合、画面送信を実行しながらタッチ対応を無効にすることもできます。

フィジカルフォント送信: データ量を軽減するためにフォント情報をローカルで参照するようにします。ターゲット PC は送信情報に近いフォントを内部で参照します。大抵の場合は同じフォントが存在しています。存在しない場合は、このボックスにチェックをして有効にします。

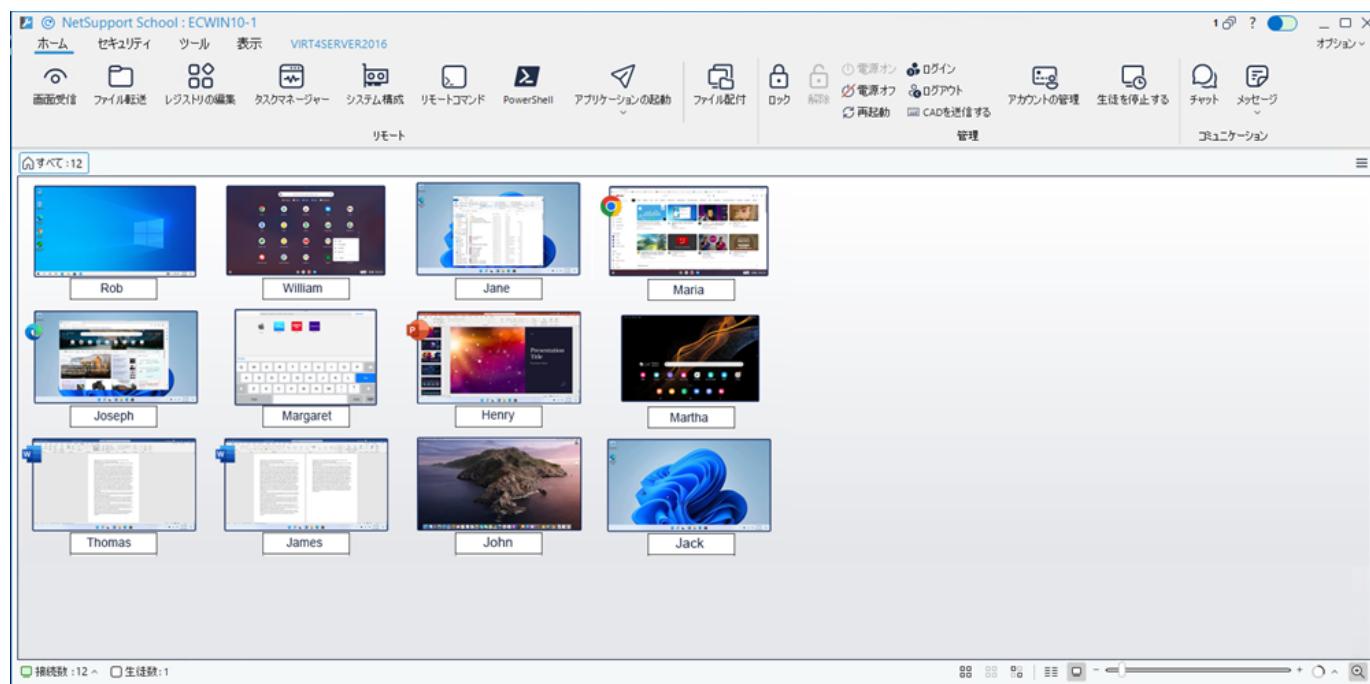
テックコンソール

教室管理方法は単に先生たちに適正なツールを提供するだけでなく、同時に学校内の全てのコンピュータをいつでも授業に利用できるように管理、維持できるツールも重要な要素になってきます。そんなことを考えながらNetSupport School は、ネットワーク管理者や技術者向けの「テクニカルコンソール」を搭載しています。

テックコンソールは学校全体のすべてのコンピュータを1つの画面で提供します。技術者がハードウェアとソフトウェアの構成を確認、インターネットとアプリケーションの使用状況を監視、常時有効のインターネット、アプリケーション印刷ポリシーを適用、学校全体のすべてのPCが安全かどうか判断するために照合されるセキュリティポリシーを定義することができます。

注意: テクニカルコンソールは他のNetSupport School コンポーネントと一緒にインストールもしくは、単体でインストールできます。

テックコンソールを起動するには、スタート画面で**NetSupport School テックコンソール**アイコンをクリックするか、インストール中にオプションが選択された場合はデスクトップアイコンをクリックします。



初めてテクニカルコンソールを起動すると、コントロール設定ダイアログが表示されます。これにより、コントロールはスタートアップ時に接続するクライアントを指定できます。このダイアログは今後のセッションでは表示されませんが、テックコンソールの右側にあるオプションをクリックし、ドロップダウンメニューから設定を選択することでアクセスできます。

リストビューでは、接続しているクライアントを2種類の方法で表示できます。サムネイルビューには生徒の画面のサムネイルが表示され、アクティビティを迅速かつ簡単に監視できます。詳細ビューには、名前、IPアドレス、ユーザー名、クライアントのプラットフォーム、クライアントのバージョン、現在のセキュリティ状態、ポリシー設定、ルーム、実行中のアプリケーション、すべてのWebサイトなど、生徒機の詳細が表示されます。

詳細ビューの生徒名の横に表示されるアイコンは、生徒のステータスに応じて変化します。使用可能なアイコンは次のとおりです：

グレーのPC=マシンがオフです。

カラーのPC=マシンがオン、先生の接続なし。

グリーンのユーザー=先生の接続あり(クライアントはクラスに参加)。

茶色一のユーザー=クライアントは先生です。

ビューを切り替えるには、リボンの表示タブを選択して詳細またはサムネイルをクリックするか、ステータスバーの詳細  またはサムネイル  アイコンをクリックします。

詳細ビューを表示している場合は、リボンの表示タブで必要なチェックボックスをオフにすることで、実行中のアプリケーション、すべてのWebサイト、およびクライアントのバージョン列を非表示にできます。

注意: 詳細ビューから、必要なアイコンを右クリックして、生徒のアプリケーションやWebサイトをアクティブにしたり閉じたりできます。

ステータスバーから、便利な「スライダー」バーを使用してクライアントの縮小画面のサイズを変更、縮小画面の更新間隔を変更、ウィンドウに合わせて表示させる縮小画面のサイズを調節することができます。

生徒と先生を区別できるように、先生のサムネイルの横に先生  アイコンが表示されます。先生から生徒へのリンクが確認できる接続バーに表示されます。先生機として表示するように手動でマシンを設定することができます。必要なクライアントを右クリックしてプロパティをクリックします。一般タブでこれは先生のコンピューターですのチェックボックスを選びます。

テクニカルコンソールはNetSupport School 先生コンソールの主な機能が一つにまとまっています：

- 1画面で校内ネットワークの全コンピュータをモニタ
- 各生徒PCのアプリケーションとインターネットの利用をモニタ
- 選択したコンピュータまたは全てのコンピュータにファイルやフォルダを転送
- 教室/実際のロケーション別に全コンピュータをグルーピング
- ハードウェア/ソフトウェアインベントリ
- タスクマネージャーを使用して、生徒上のアプリケーション、プロセス、サービスを表示および管理します。
- 授業中の先生にダイレクトにテクニカルサポートを提供
- 教室内のコンピュータをリモートで電源オン/オフ
- 教室内のコンピュータをリモートで再起動/ログアウト
- コンピュータに自動的にログイン
- 稼動中の教室ごとに生徒と先生を全て表示

- リモートで各 NetSupport School クライアントのセキュリティ設定を確認
- 先生または生徒とチャットを開始
- グループまたはネットワーク利用者全員にメッセージを送信
- 選択したコンピュータとマンツーマンのリモートコントロールの実行
- 全生徒PCのUSBメモリスティックの状態をリアルタイム表示
- 生徒のマウスとキーボードをロック/解除する
- 生徒PCのアプリケーションを起動
- 電源管理、Windows updateそしてセキュリティ設定の表示/設定。
- リモートシステムのレジストリを編集。
- 自分のPCでリモートシステムからローカルコマンドプロンプトを起動。
- 選択したクライアントでPowerShellウィンドウを起動します。
- 部屋モードを使用して生徒/先生に自動的に接続。
- 常時オンのインターネット、アプリケーション、USB、CD/DVDそしてプリンタの制限の学校全体の設定を適用。
- 検索機能を使用して生徒と先生機を簡単に見つけることができます。
- 生徒機で実行されているNetSupport School 生徒を停止します。
- テックコンソール機上で自動的にタスクを実行できるユーザー定義ツールを作成します。
- ファイルマネージャーを使用してテックコンソール上のファイルを管理します。

NetSupport Schoolを使用すると、先生は技術者にヘルプを依頼できます。先生のサポート機能はデフォルトで有効になっており、キャッシュバーの先生のサポート  トグルを切り替えることでオンまたはオフにできます。先生コンソールのキャッシュバーにサポート アイコンが表示されます。アイコンをクリックすると、先生は技術者にチャットしたりメッセージを直接送信したりできます。

生徒機を探す

テックコンソールの検索機能を使用して、生徒機と先生機を簡単に見つけることができます。ログオンしているユーザー名、マシン名、IP アドレス、実行中のアプリケーション、またはアクティブなWeb サイトで検索できます。

1. テックコンソールリボンの[表示]タブを選択し、[検索テキスト]欄に検索語を入力します。



必要な検索対象アイコンをクリックします。



ログオンしているユーザー名で検索します。



PC名で検索します。



IPアドレスで検索します。



実行中のアプリケーションで検索する。



アクティブなWebサイトで検索する。

2. 大文字と小文字を区別して検索するには、[クイックアクセリストの構成] アイコンをクリックします。
3. 検索をクリックします。
4. 検索結果は、グループバーの新しいグループに表示されます。

注意: 検索結果 (およびグループ) を削除するには、リボンの [検索を閉じる] アイコンをクリックします。

生徒のサービスを停止する

生徒機で実行中の NetSupport School 生徒を停止する必要がある場合があります。テックコンソールから生徒のサービスを停止できます。これを停止すると、NetSupport School は使用できなくなります。マシンが再起動されるまで生徒を停止したり、再起動する前に生徒を停止する時間を指定したり、指定した時間まで生徒を停止したりできます。

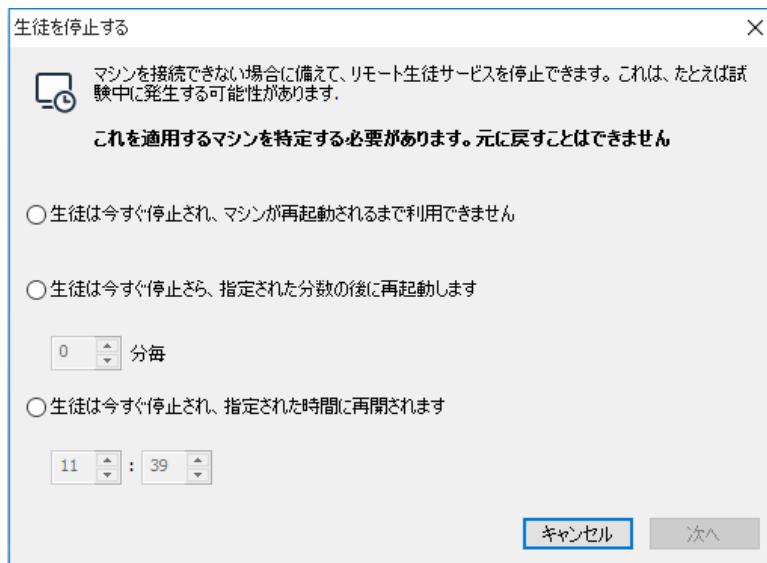
注意: 一定の期間または指定された時間サービスを中断した場合、マシンを再起動しても、指定された時間が経過しない限り、生徒のサービスは開始されません。

学生サービスを停止するには

1. テックコンソールで、生徒サービスを停止する生徒またはグループを選択します。

注意: 元に戻すことはできないため、正しいマシンが選択されていることを確認してください。

2. リボンの [ホーム] タブを選択し、[生徒の停止] をクリックします。



3. 必要なオプションを選択します:

生徒は現在停止されており、マシンが再起動されるまで使用できません: 生徒のサービスは停止され、マシンが再起動されるまで利用できません。

生徒は今すぐ停止し、指定された分単位の後に再起動します: 指定された時間の間、生徒のサービスを一時停止します。生徒が再起動するまでの時間を分単位で入力します。

生徒は今すぐ停止し、指定された時間に再起動します: 指定された時間まで生徒のサービスを停止します。生徒を再起動する時間を入力します。

4. [次へ] をクリックします。
5. 選択したオプションとこれが適用される生徒の概要が表示されます。
6. [OK] をクリックします。
7. 最終確認画面が表示されます。[はい] をクリックして続行します。

制限事項:

- これは、Windows の生徒のみが利用できます。
- 生徒のサービスを停止できる最大時間は 24 時間です。サービスを長期間停止する必要がある場合は、設定を毎日適用する必要があります。
- ターミナルサーバー環境では、個々のユーザー セッションに対して生徒のサービスを停止することはできません。

リモートインベントリシステム情報

サポートスタッフにとって、クライアントのパソコンのプラットフォームだけでなく、そのハードウェア仕様やインストールされているアプリケーションを知ることは、問題解決の重要な糸口となります。そのため、NetSupport School には、リモートのパソコンのハードウェア / ソフトウェア情報を取得できるツールが用意されています。

クライアント PC のハードウェアまたは環境に関する豊富な情報が収集される高度なハードウェア/ソフトウェアレポートに加え、インストールされている修正プログラムの詳細を取得し、タスクマネージャーを使用して現在実行中のアプリケーション、プロセスとサービスを表示および管理できます。

リアルタイム報告だけでなくサービスやアプリケーションの停止、開始が可能を遠隔操作するためのツールやセキュリティを提供します。

注意: インベントリはテクニカルコンソールからのみ実行可能です。

クライアントのインベントリを収集するには

1. テックコンソールのリストビューで必要なクライアントアイコンを選択します。
2. リボンのホームタブを選択し、**インベントリー**をクリックします。

または

リボンでクライアントの名前を表示しているタブを選択し、**インベントリ**をクリックします。

または

クライアントアイコンを右クリックしてインベントリを選択します。

3. 選択したクライアントのインベントリウィンドウが表示されます。

注意: 一度収集したクライアントの様々なインベントリ情報はローカルのNetSupport Schoolプログラムに保存されます。情報を表示させるためにそのPCに接続する必要はありません。

タスクマネージャを実行する

1. テックコンソールのリストビューで必要なクライアントアイコンを選択します。
2. リボンのホームタブを選択し、**タスクマネージャ**をクリックします。

または

リボンでクライアントの名前が表示されているタブを選択し、**タスクマネージャ**をクリックします。

または

クライアント画面を表示しているときに、画面表示 ウィンドウリボンのツールタブを選択し、タスクマネージャーアイコンをクリックします。

3. 選択したクライアントのタスクマネージャーウィンドウが表示されます。

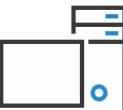
インベントリウィンドウ

インベントリウィンドウはNetSupport Schoolのインベントリ機能が提供する豊富な情報にアクセスするためのメインインターフェイスです。



ハードウェア構成 VIRT4SERVER2016

更新日時 : 12 Aug 2024 11:36:18

システム全般	名前:	VIRT4SERVER2016
	製造元:	Microsoft Corporation
	システム:	Windows Server 2016 Standard x64
	サービスパック:	<利用できません>
	バージョン:	1607
	登録ユーザー名:	Windows User
	メモリ容量:	4048 Mb
	ドメイン/ワークグループ:	HYPERV
	モデル:	Virtual Machine
	シリアル番号:	00376-30816-85886-AA667
	組織:	<利用できません>
	システム言語:	English (United States)
	システムタイムゾーン:	(GMT) GMT Daylight Time
	ログオンユーザー名:	ログオンしません
	Direct X のバージョン:	12.0
	システムの筐体:	Desktop

接続数 : 1 ^

ウィンドウは次の構成となっています:

キャプションバー

キャプションバーには、システムインベントリを表示しているリモートクライアントPCの名前が表示されます。右側では次のオプションが利用可能です:



開いているウィンドウの数を表示します。ウィンドウメニューにアクセスできます。



オンラインヘルプ、バージョン番号、ライセンシー、テクニカルサポート、および圧縮情報にアクセスします。



ウィンドウを最小化します。



ウィンドウを最大化します。



ウィンドウを閉じます。

リボン

リボンはインベントリコンポーネントへのアクセスを提供し、ここから、現在のビューを更新、印刷、およびエクスポートできます。

次のインベントリビューを使用できます:

ハードウェア: NetSupport Schoolは、特にクライアントPCのハードウェアまたは環境に関するさまざまな情報を収集し、問題の迅速な解決を支援するために必要なすべての重要な情報を提供します。

ソフトウェア: 選択したクライアントPCのソフトウェアのインベントリ報告を提供します。各製品名、製造元、製品アイコン、バージョンナンバー、関連するセットアップファイルや関連するEXEファイルを含みます。

ホットフィックス: NetSupport School スキャンは選択したクライアントPCにインストールされている'ホットフィックス' のステータスをスキャンしてチェックします。ホットフィックスIDがステータスと一緒にリストされます。ホットフィックスIDは該当するマイクロソフトのサポートページにリンクしています。そこで修正内容を確認できます。

それぞれのフィックスのステータスを確認する際に、NetSupport School は次のどれかを返します：

- ✓ フィックが存在し最新であることを確認します。
- ✗ ファイルが存在しないもしくは最新バージョンではありません。フィックスを再度インストールするこ
とをオススメします。
- ? NetSupport School はステータスを確認するために必要な情報を集めることができません。

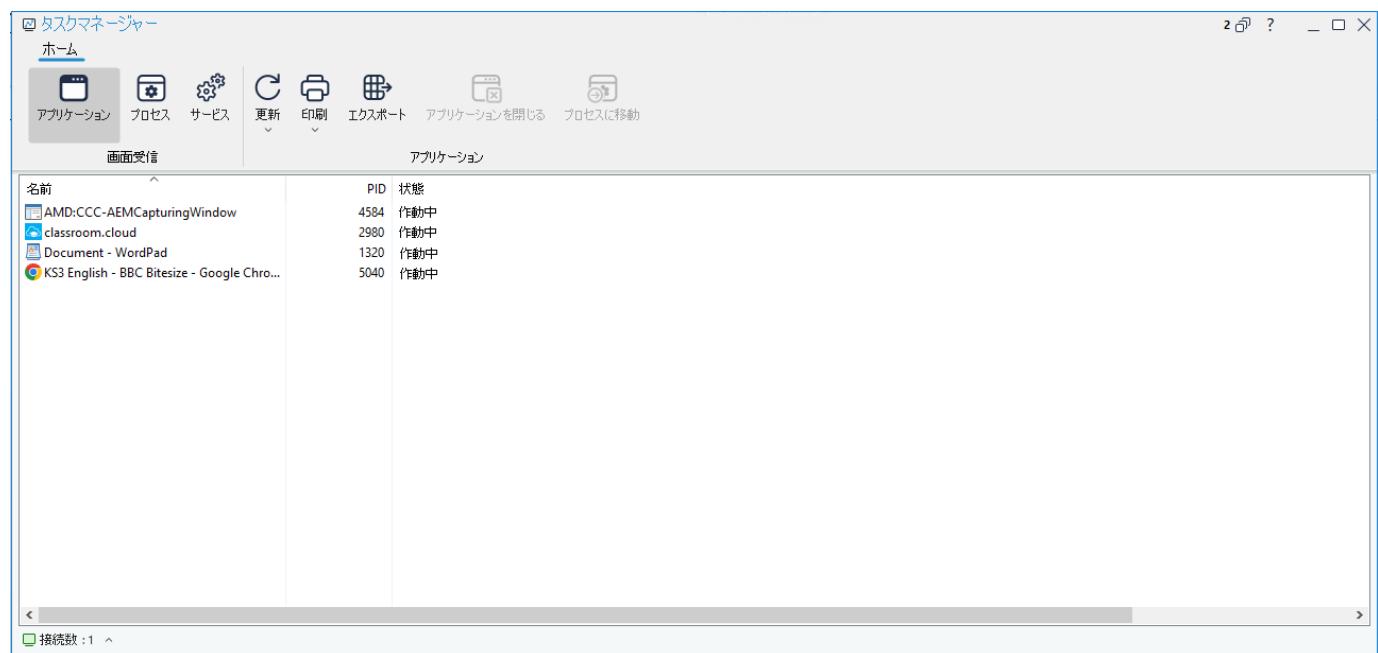
注意: 一度収集すると、様々なクライアントインベントリはNetSupport School のプログラムフォルダに保存されます。情報取得のため再度、ターゲットPCに接続する必要はありません。単純にビューリストから対象クライアントを選んでインベントリオプションを選択します。しかし、定期的にインベントリを更新したい場合は、ターゲットPCに接続する必要があります。

ステータスバー

ステータスバーには、接続している生徒の数が表示されます。接続をクリックすると、接続しているすべての生徒のリストが表示されます（生徒名をクリックすると、その生徒のインベントリウィンドウが開きます）。

タスクマネージャーウィンドウ

NetSupport Schoolを使用すると、タスクマネージャーをリモートで開き、クライアント上のアプリケーション、プロセス、およびサービスを管理できます。



ウィンドウは次の構成となっています:

キャプションバー

キャプションバーに、タスクマネージャを実行しているクライアントの名前が表示されます。右側では次のオプションが利用可能です:



開いているウィンドウの数を表示します。ウィンドウメニューにアクセスできます。



オンラインヘルプ、バージョン番号、ライセンシー、テクニカルサポート、および圧縮情報にアクセスします。



ウィンドウを最小化します。



ウィンドウを最大化します。



ウィンドウを閉じます。

リボン

リボンは、タスクマネージャーのタスクとツールへのアクセスを提供します。使用可能なオプションは、選択したビューによって異なります。すべてのビューからデータを更新、印刷、およびエクスポートできます。

次のビューを使用できます:

アプリケーション: クライアントマシンで現在実行中のアプリケーションのリストを表示します。アプリケーションを閉じるアイコンをクリックすると、リストから選択したアプリケーションを閉じることができます。

プロセス: クライアントマシンで現在実行中のプロセスのリストを提供します。プロセスの強制終了アイコンをクリックすると、リストから選択したプロセスを閉じることができます。

注意: リソースの監視をクリックして、実行中のプロセスの使用状況の違い(+/-)を確認します。

サービス: ターゲットPCで現在実行しているサービスのリストを表示します。コントロールは、必要なサービスアイコンをクリックして、サービスを停止、開始、一時停止、および再開できます。

ステータスバー

ステータスバーには、接続している生徒の数が表示されます。接続をクリックすると、接続しているすべての生徒のリストが表示されます(クライアント名をクリックすると、クライアントのタスクマネージャーウィンドウが開きます)。

ポリシー管理

テックコンソールでは、学校全体に適用できるポリシー制限のセットを作成することができます。ポリシーが適用されると、1日24時間実施されるようになります。ポリシー制限には、インターネットとアプリケーションの使用、USBとCD / DVDドライブへのアクセス、印刷とウェブカメラが含まれます。

注意: 先生は、NetSupport School - 開始オプション設定で生徒用のセントラルポリシーを上書きすることができます。

詳細ビューでは、生徒に対する現在のポリシー制限を表示できます。[ポリシー] 列のアイコンにカーソルを合わせると、現在のポリシーに関する詳細情報が表示されます。

セントラルポリシーが適用されていることをアドバイスするロックアイコンが関連する機能の隣に表示されます。

ポリシーを作成する

1. リボンの[セキュリティ]タブを選択し、[グループ]をクリックします。

または

ステータスバーの [詳細]  アイコンをクリックし、[ポリシー]列を右クリックして[ポリシー管理]を選択します。

2. ポリシー管理ダイアログが表示されます。



3. 必要な制限を設定します。
4. [OK]をクリックします。
5. [はい]をクリックして、ポリシーの変更をすべての生徒に適用します。

ポリシーを適用する

すべての接続しているマシンにポリシーを適用することができます。

注意: ポリシーから先生機を除外することができます。テックコンソール - 一般設定ダイアログで「先生コンピューターにポリシーを適用しない」チェックボックスを選びます。

1. リボンの [セキュリティ] タブを選択し、[適用] をクリックします。

ポリシーをクリアする

選択したクライアントから現在のポリシーをクリアします。

1. ステータスバーの [詳細]  アイコンをクリックし。
2. 必要なクライアント(複数可)を選択します。
3. ポリシー列で右クリックし、「ポリシーをクリア」を選びます。

生徒のセキュリティ設定

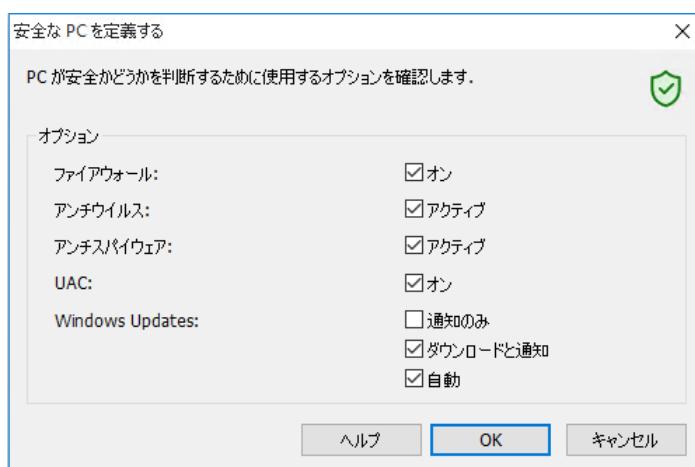
テックコンソールは、クライアントの現在のセキュリティ状態を表示する、ファイアウォール、クライアントのウィンドウアップデートなどのセキュリティ設定を変更する、PCが安全であるかどうか判断する設定を行うことができます。生徒が安全なPCを定義する条件を満たしている場合、詳細ビューに緑色のシールドが表示されます。クライアントがこれらの条件を一つでも満たさない場合は、これが赤に変わります。

注意: これらの設定は、テックコンソールでのみ使用できます。

安全なPCを定義する

PCが安全と分類されるオプションを定義します。

1. リボンの [セキュリティ] タブを選択し、[定義] をクリックします。

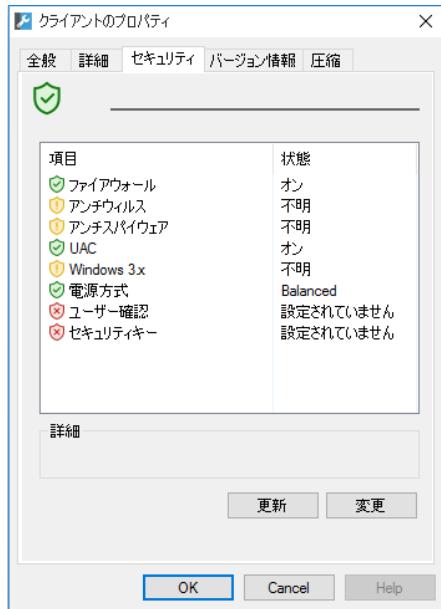


2. 必要なオプションを選択します。

現在のセキュリティ設定を表示する

詳細ビューでは、生徒の現在のセキュリティーステータスが [セキュリティ] 列に表示されます。シールド上にマウスを移動すると、クライアントのすべての項目の現在の状態が表示されます。

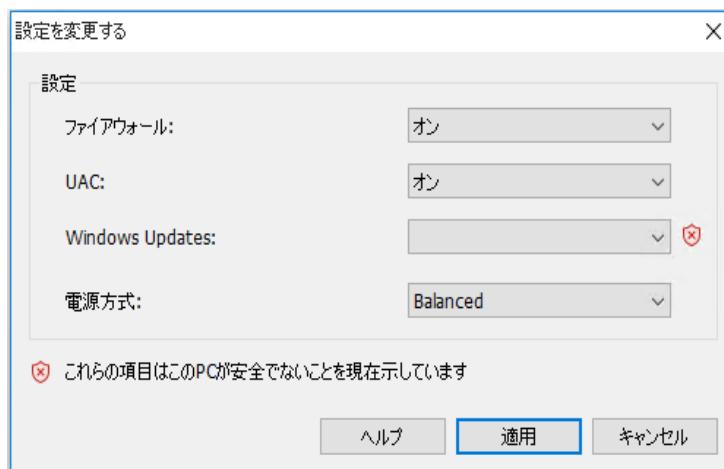
1. クライアントアイコンを右クリックして、プロパティを選択します。
2. 安全なPCの定義ダイアログが表示されます。



3. クライアントプロパティダイアログが表示され、セキュリティタブを選びます。
4. 生徒の現在のセキュリティーステータスが表示されます。

セキュリティ設定を変更する

1. クライアントアイコンを選びます。
2. リボンの [セキュリティ] タブを選択し、[セキュリティ設定] をクリックします。
または
詳細ビューで、[セキュリティ] 列のシールドを右クリックし、[セキュリティ設定の変更] を選択します。
3. 設定の変更ダイアログが表示されます。



4. 必要に応じて設定を変更します。
5. [適用] をクリックします。

または

1. クライアントアイコンを右クリックしてプロパティを選択します。
2. クライアントプロパティダイアログが表示され、セキュリティタブを選びます。
3. 変更をクリックして、必要に応じて設定を変更します。

リモートコマンドプロンプト ウィンドウ

コマンドプロンプト ウィンドウを起動することでコントロールは接続中のクライアント側にコマンドライン命令をリモートで実行できます。

注意: この機能は、テックコンソールでのみ使用できます。

- 必要なクライアントに接続します。
- テックコンソール リボンのホームタブを選択し、リモートコマンドをクリックします。

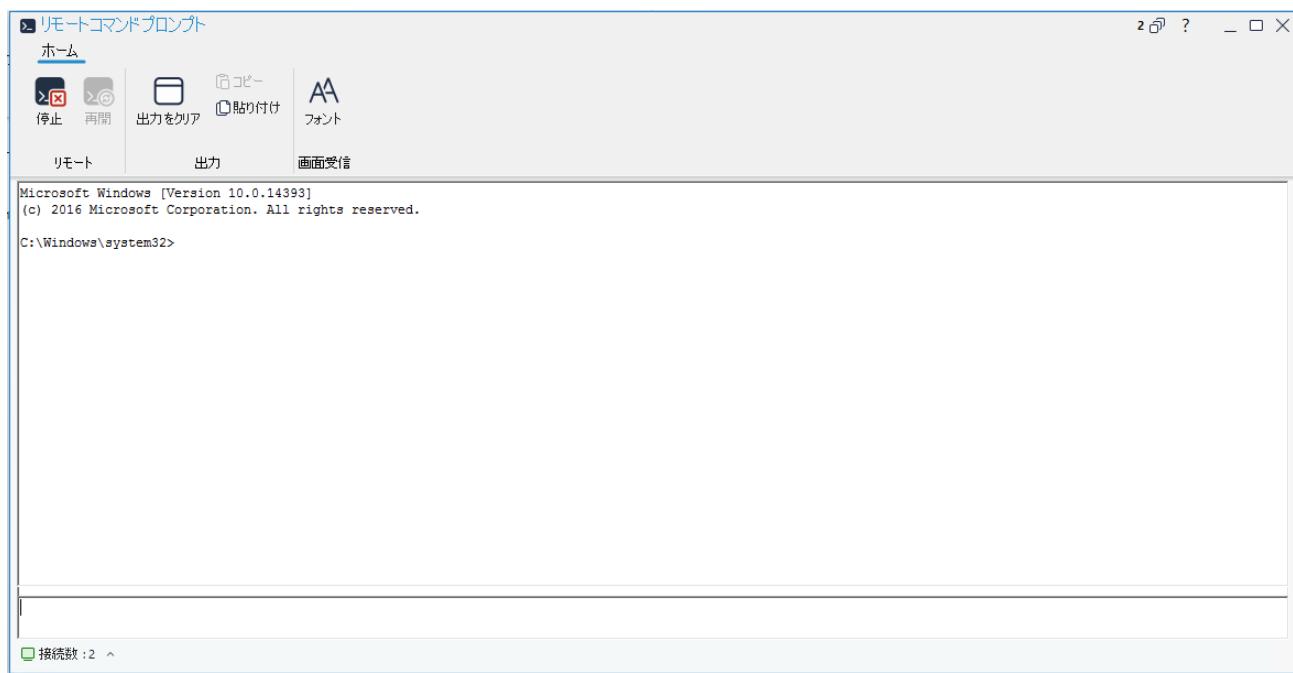
または

クライアントアイコンを右クリックし、リモートコマンドプロンプトを選択します。

または

リボンでクライアントの名前が表示されているタブを選択し、リモート コマンドをクリックします。

- リモートコマンド ウィンドウが表示されます。



タイトルバーで接続中のクライアント名の確認が可能です。ウィンドウは次のセクションに分かれています:

キャプションバー

キャプションバーには、リモートコマンドプロンプト ウィンドウが開いているクライアントの名前が表示されます。右側では次のオプションが利用可能です:



開いているウィンドウの数を表示します。ウィンドウメニューにアクセスできます。



オンライン ヘルプ、バージョン番号、ライセンシー、テクニカル サポート、および圧縮情報にアクセスします。



ウィンドウを最小化します。



ウィンドウを最大化します。



ウィンドウを閉じます。

リボン

リボンを介してさまざまなツールを使用できます。たとえば、出力ウィンドウをクリアしたり、表示されるフォントを変更したりできます。

出力/結果ペイン

クライアントで実行されたコマンドの結果を表示します。

入力ペイン

ここにクライアントで実行するコマンドを入力します。必要に応じてサイズを変更できます。ウィンドウを開いている間は、既に実行した内容を再度呼び出せるようにコントロールに各コマンドがストックされます。エントリーを上下の矢印キーを使ってスクロールさせて該当するコマンドが表示されたらエンターキーを押すかF7を押してウィンドウに全てのコマンドを表示します。該当するコマンドをクリックしてEnterキーを押します。

最大 50コマンドがストアされます。F8を押すと履歴を消去します。コントロールがリモートコマンドウィンドウを閉じると履歴は自動的に消去されます。

ステータスバー

ステータスバーには、接続している生徒の数が表示されます。接続をクリックすると、接続しているすべての生徒のリストが表示されます（クライアント名をクリックすると、クライアントのリモートコマンドプロンプトウィンドウが開きます）。

PowerShell ウィンドウ

PowerShellウィンドウを起動し、コントロールが選択したクライアントでPowerShellコマンドを実行できるようにします。

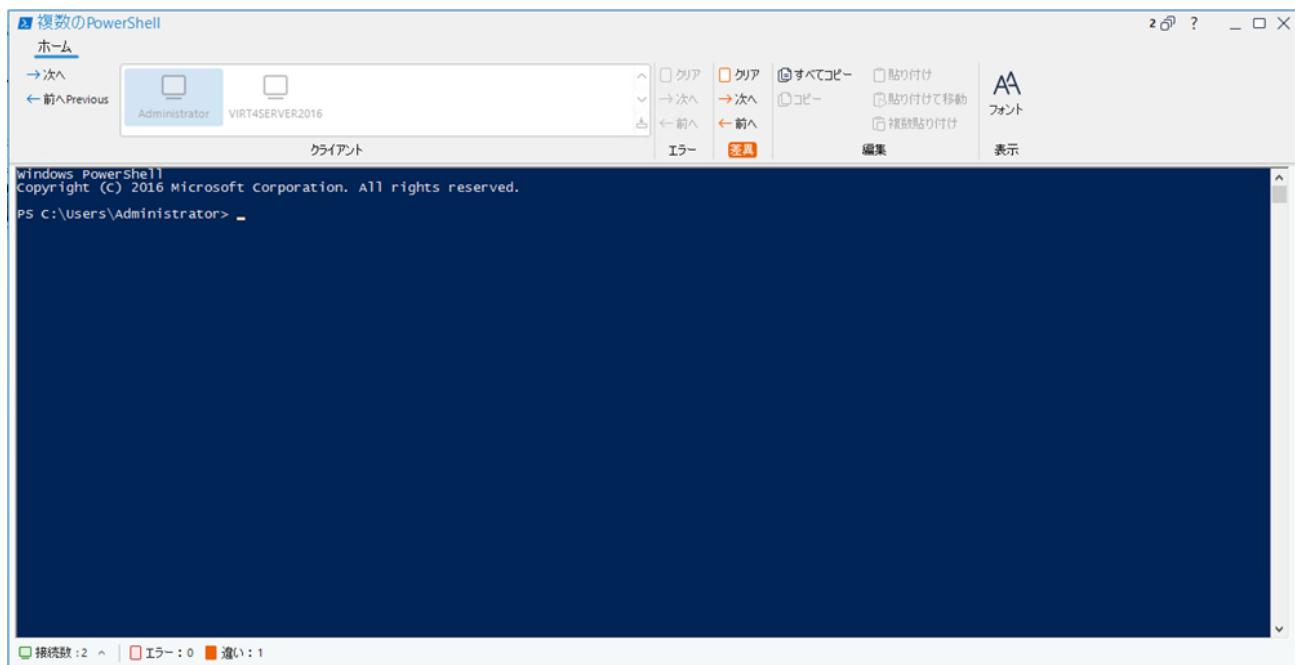
注意: この機能は、テックコンソールでのみ使用できます。

- 必要なクライアントに接続します。
- テックコンソールリボンのホームタブを選択し、リモートコマンドをクリックします。

または

個々のクライアントで PowerShell を起動する場合は、クライアントアイコンを右クリックして PowerShell を選択するか、リボンにクライアントの名前が表示されているタブを選択して PowerShell をクリックします。

- PowerShell ウィンドウが表示されます。



タイトルバーで接続中のクライアント名の確認が可能です。ウィンドウは次のセクションに分かれています:

キャッシュバー

キャッシュバーには、PowerShell ウィンドウが開いているクライアントの名前が表示されます (PowerShell が複数のクライアント用の場合は現在選択されているクライアント)。右側では次のオプションが利用可能です:



開いているウィンドウの数を表示します。ウィンドウメニューにアクセスできます。



オンラインヘルプ、バージョン番号、ライセンシー、テクニカルサポート、および圧縮情報にアクセスします。



ウィンドウを最小化します。



ウィンドウを最大化します。



ウィンドウを閉じます。

リボン

リボンを介してさまざまなツールを使用でき、たとえば、表示されるフォントを変更できます。PowerShellが複数のクライアントで起動されている場合、それらはクライアントペインに一覧表示されるため、必要なクライアントセッションに簡単にアクセスできます。

PowerShellが複数のクライアントで起動されたときに、いずれかのセッションでエラーが報告された場合、またはセッション間に違いがある場合は、リボンのエラーと違いセクションで通知されます。エラーや違いがいくつあるかを示すインジケーターが表示され、必要に応じてこれらをスクロールしてクリアできます。

出力/結果ペイン

ここで、クライアントで実行するコマンドを入力すると、結果が表示されます。

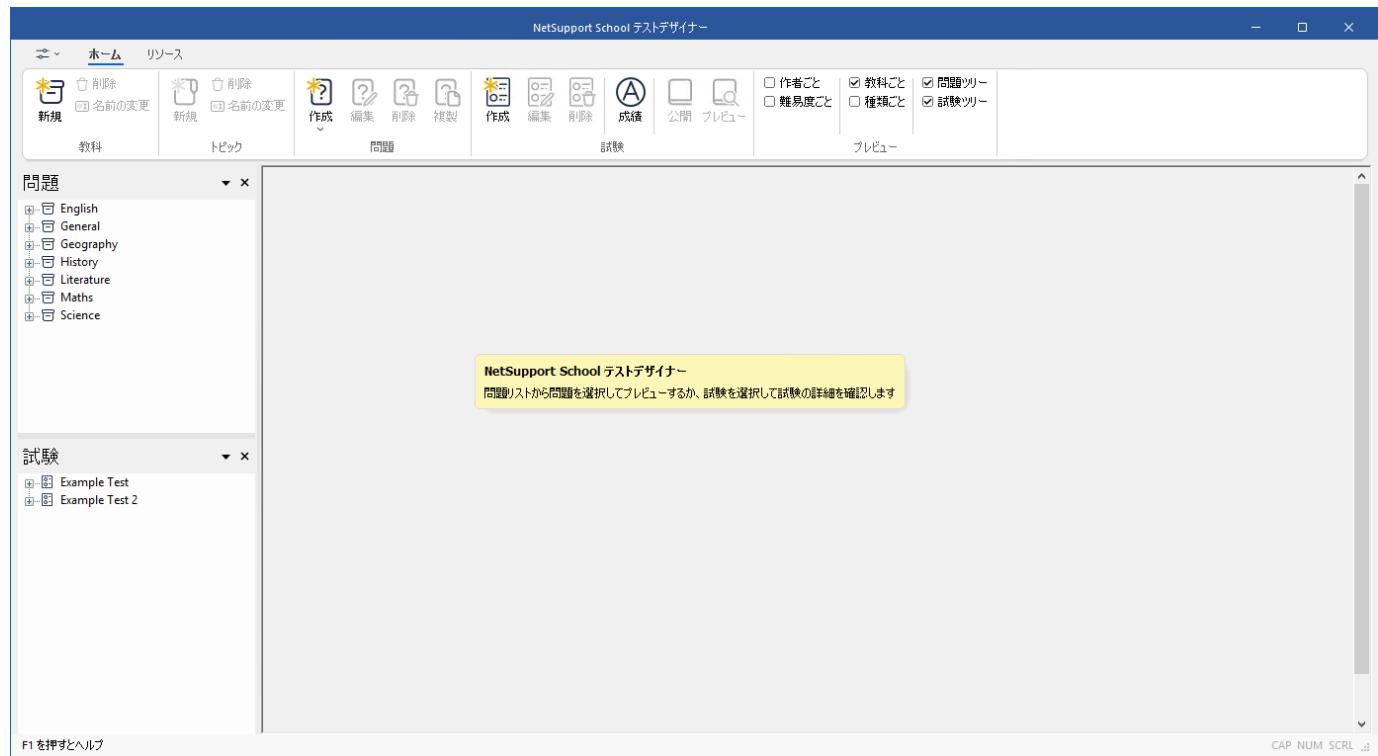
ウィンドウが開いている間は、各コマンドが保存され、再度実行したい以前の指示を呼び出すことができます。エンタリーを上下の矢印キーを使ってスクロールさせて該当するコマンドが表示されたらエンターキーを押すかF7を押してウィンドウに全てのコマンドを表示します。該当するコマンドをクリックしてEnterキーを押します。

ステータスバー

ステータスバーには、接続されているクライアントの数と、複数のクライアントセッション間のエラーまたは差異が表示されます。接続をクリックすると、接続しているすべての生徒のリストが表示されます（クライアント名をクリックすると、クライアントのPowerShellウィンドウが開きます）。

NetSupport School テストモジュールについて

NetSupport School テストモジュールは短時間でテストを作成し試験を行うことが可能な強力なユーティリティです。テストデザイナーでテキストや写真、ビデオ、サウンドを含む問題を作成し選択した生徒が制限時間内に解答します。その結果を自動的に回収し採点を行います。



テストモジュールには次のコンポーネントが含まれています:

テストデザイナー

するテストデザイナーは問題やテストの作成に使用します。

テストコンソール

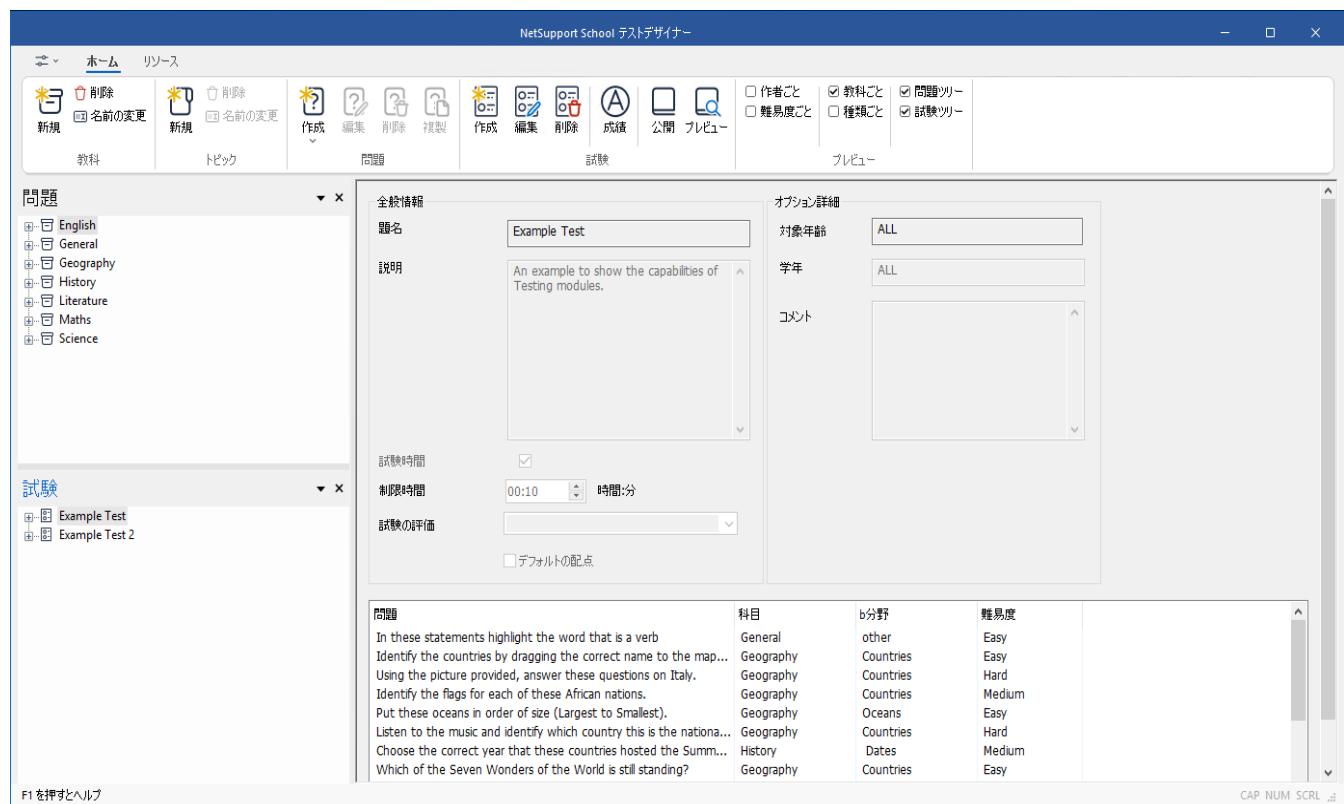
NetSupport School 先生コンソールから起動します。テストコンソールはテストの配布、監視、結果発表の役割をします。

テストプレイヤー

このコンポーネントは生徒機でテストを実行します。先生がテストを実施すると自動的に起動します。

テストデザイナーのユーザーインターフェイス

テストデザイナーでは、問題や試験を表示および作成できます。



ウインドウは以下のエリアに分かれています：

リボン

リボンを使用すると、テストデザイナーの使用と管理に必要なすべてのツールにアクセスできます。リボンは次のタブで構成されています：

オプション

データのインポートとエクスポート、ユーザーの管理、テストデザイナーオプションの構成を行うことができます。

ホーム

ここでは、科目、トピック、問題、試験を作成および管理できます。

リソース

問題に追加できるリソースが表示されます。ここから、リソースを追加、編集、削除できます。

左側のペイン

問題のツリービュー

利用可能な問題が表示されます。これらは科目ごとにグループ化されています。

試験のツリービュー

試験を表示します。試験名を展開すると、含まれている問題が表示されます。

右側のペイン

リソースタブが選択されている場合は、現在選択されている問題または試験のプレビュー、もしくはリソースのリストが表示されます。

テストデザイナーを起動する

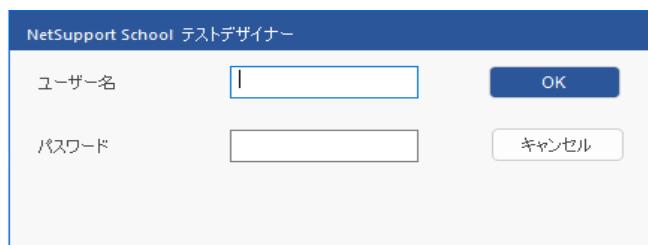
テストデザイナーは次のための主要なインターフェイスです:

- 問題を作成する。
- テスト/試験を作成する。
- 保管されている問題とテストを管理する。
- デザイナーへのユーザーアクセスを提供する。

注意: 参加者を選択、生徒機でテストの実行、テスト結果の記録は先生コンソール内で管理されます。

テストデザイナーを起動する

- スタート} プログラム} NetSupport School} テストデザイナー}を選択します。Windows 8のマシンでは、スタート画面で右クリックして画面の下部のすべてのアプリを選択します。NetSupport School テストデザイナー アイコンをクリックします。
または、
先生コンソールのリボンでフィードバックとウェルビーイングタブを選択し、**テストデザイナー**をクリックします。
- ログイン画面が表示されます。



ユーザー名とパスワードを入力します。

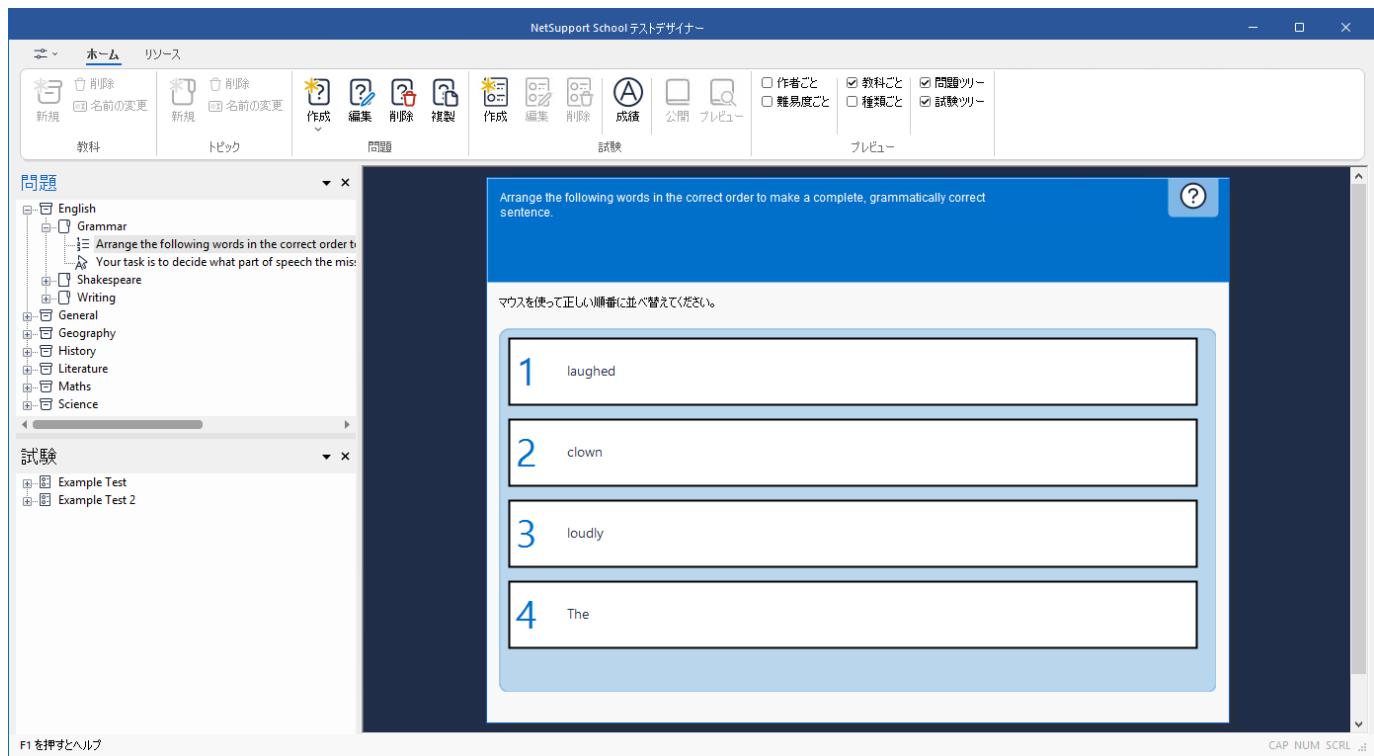
注意: デフォルトでは、管理者アカウントにはパスワードが設定されていません。追加のユーザー アカウントを作成するとき、またはテストデザイナーを終了するときに、設定するように求められます。

3. テストデザイナーウィンドウが開きます。

問題インターフェイス

さまざまな形式の問題を作成することができ、インポートした写真、ビデオ、サウンドクリップを使用してそれらを高度な問題にできます。

1. 問題ペインのツリービューで質問を選択します。
2. 右側のペインに問題のプレビューが表示されます。



リボンの[質問]セクションにあるアイコンを使用すると、次のことが可能になります:

- 問題を作成する
- 選択した項目を編集する
- 選択した項目を削除する
- 選択した項目を複製します

ツリーフェル表示で問題が配置される方法を変更する。作成者、問題の種類、科目または難易度に配置することができます。

いつでも科目と分野はツリーフェルに追加することができます。問題が属する科目グループがどこか不明な場合は、問題を作成するときにそれらを追加することができます。

科目をツリービューに直接追加するには、リボンのホームタブを選択して**新しい科目**をクリックするか、問題ペインで右クリックして**新しい科目**を選択します。

科目を右クリックして**新しいトピック**を選択するか、リボンの**新しいトピック**をクリックすると、科目の下に複数のトピックを追加できます。

問題を作成する

必要な手順を案内してくれる問題 ウィザードで9種類の問題のスタイルの選択ができます。

質問を作成するには

- ホームタブを選択し、リボンの問題セクションで作成をクリックします。

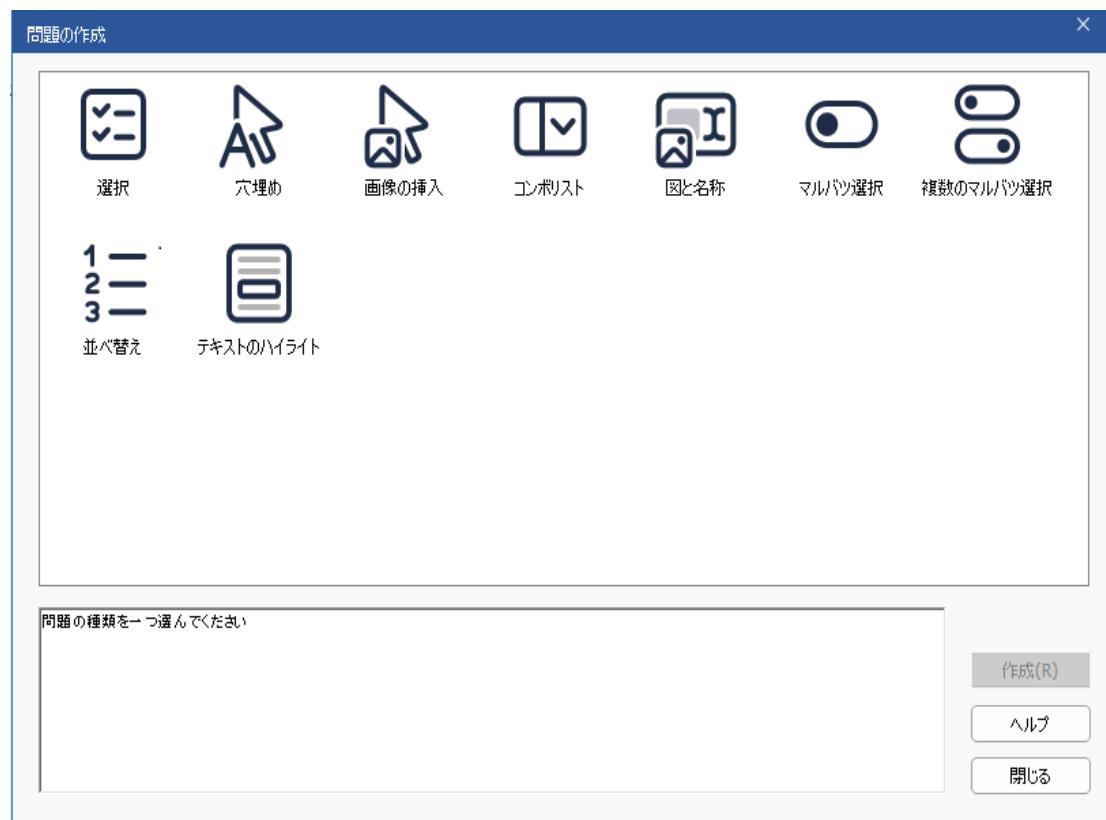
または

既存の問題を右クリックし、問題の作成をクリックします。

- 必要な問題の種類を選択し、「作成」をクリックします。

または

- リボンのホームタブを選択し、作成アイコンドロップダウン矢印をクリックして、リストから必要な問題を選択します。



注意: テストをコンパイルするときでも 試験編集 で問題を作成することもできます。

利用可能な質問の種類は次のとおりです:

マルチ選択

生徒は、最大4つの可能性のあるオプションから正しい答えを選択する必要があります。

穴埋め

生徒は、提供される選択肢の中から単語や語句を提供される追加することで、文を完成させる必要があります。

画像合わせ

生徒は、画像を適切な文と一致させる必要があります。

コンポリスト

生徒は、最大4つの質問が出題され、ドロップダウンリストから正しい答えを選択する必要があります。リストに追加のひつかけの答えを挿入することができます。

タイトル合わせ

さまざまな箇所が印付けされた写真を生徒に出題します。生徒は名前を正しく貼り付ける必要があります。

正誤(マルバツ)選択

生徒は文を出題され、これが正しい(マル)か誤り(バツ)かを決定する必要があります。

複数の正誤(マルバツ)選択

生徒は文の一覧が正しい(マル)か誤り(バツ)か決定する必要があります。

並べ替え

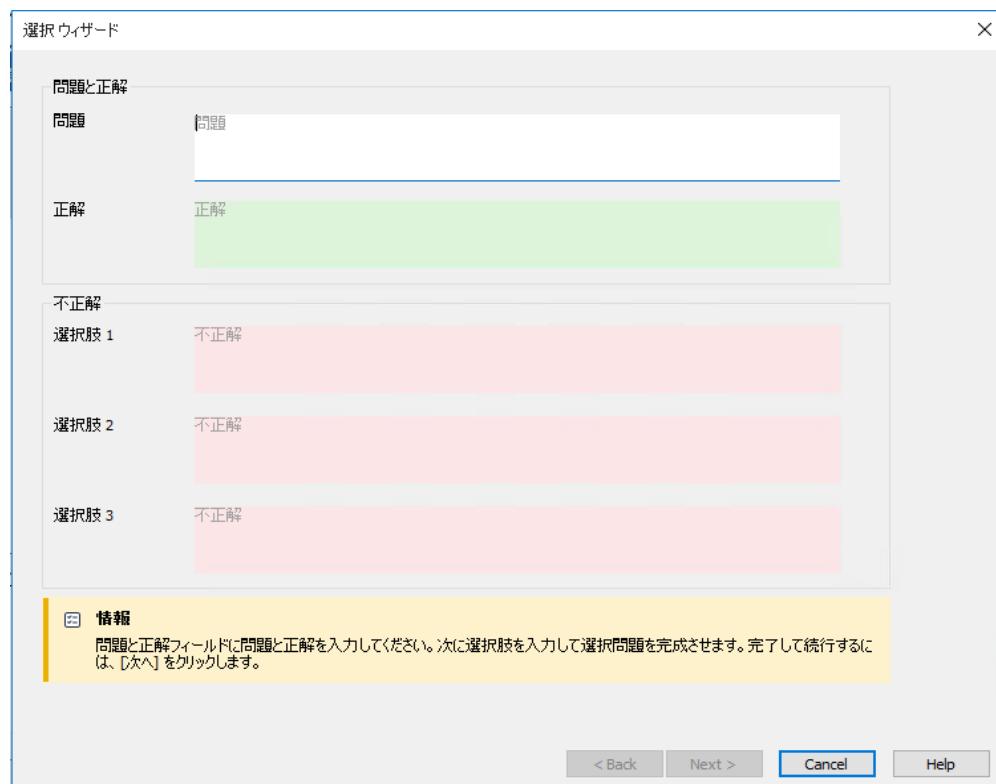
生徒は、正しい順序で項目を配置する必要があります。

テキストを強調表示する

学生は、質問に答えるために単語またはフレーズを強調表示する必要があります。

問題の作成 - マルチ選択

生徒は最大4つの可能性から正しい答えを選択します。

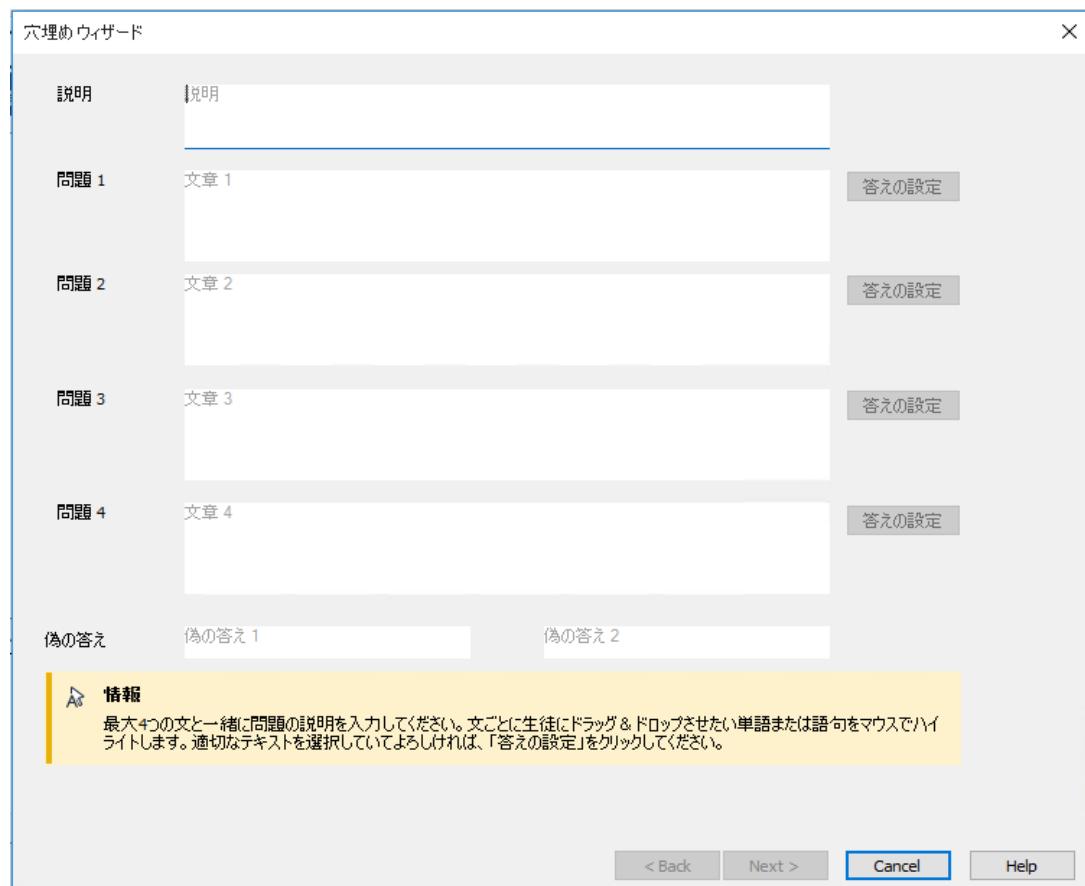


3ステージ中のステージ1は、問題と続いて正解と最大3つの誤答を設定します。生徒機で問題が実行されると、答えはランダムに配置されます。

ウィザードのパート1が完了したら、「次へ」をクリックします。

問題の作成 - 穴埋め

生徒は4つの部分的に完成した文を出題されます。一覧から適切な単語または語句をドラッグ＆ドロップして文を完成させる必要があります。

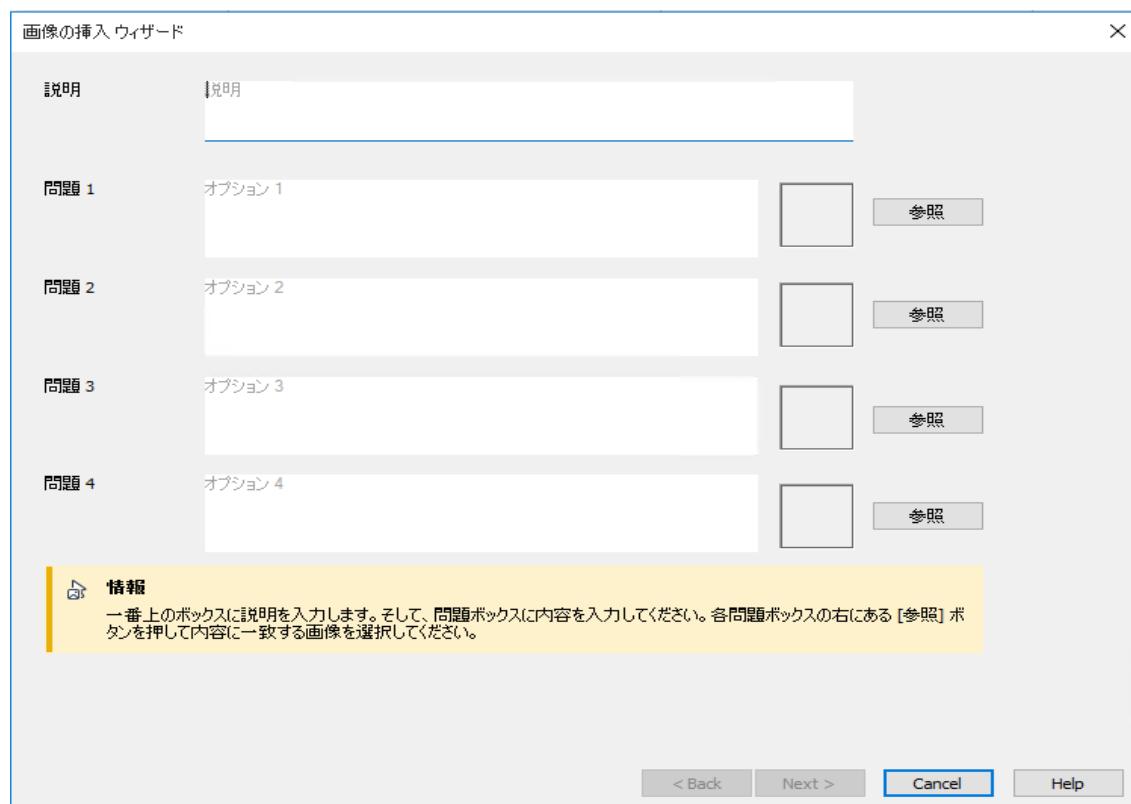


3ステージ中のステージ1は、4つの文と一緒に問題の指示を入力します。生徒にドラッグ＆ドロップさせたい各文中の単語や語句をマウスで強調表示し、適切なテキストを選択してそれによって「答えの設定」をクリックします。ダミー(不正解)の解答を2つ追加することができるので、生徒は正しい解答を特定してからステートメントにドラッグする必要があります。問題が生徒のマシンで実行されると、強調表示された4つの項目がステートメントから削除され、入力した偽の回答とともにランダムに配置されます。

ウィザードのパート1が完了したら、「次へ」をクリックします。

問題の作成 - 画像合わせ

生徒は最大4つの文または問題と画像を出題されます。正しい文と画像を一致させる必要があります。



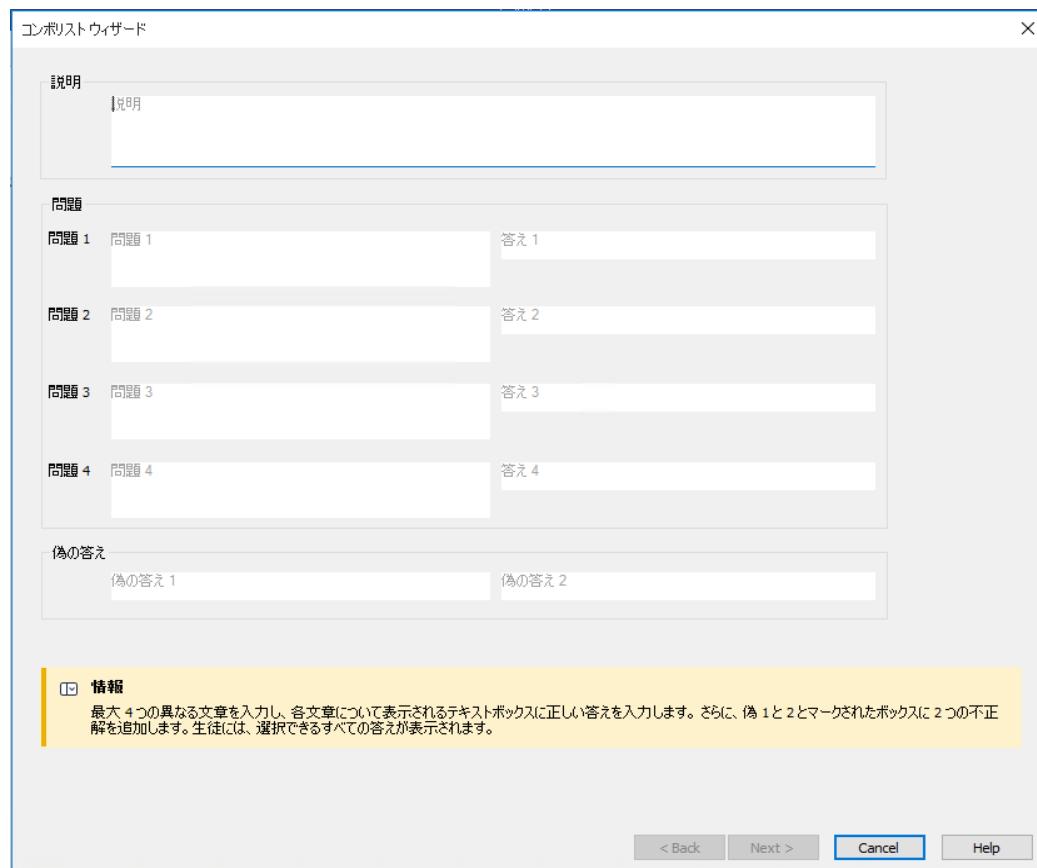
3ステージ中のステージ1は、最大4つの文または語句と一緒に指示を入力します。各文の隣に適切な画像を追加します。画像を検索するには[参照]をクリックします。画像データベースに現在保管されている写真一覧が表示されます。既存の画像を選択するか、新しい画像をインポートします。「問題に画像を適用する」をクリックします。

生徒機で問題が実行されると画像はランダムに画面下部に配置され、生徒は適切な文の隣に画像をドラッグ&ドロップします。

ウィザードのパート1が完了したら、「次へ」をクリックします。

問題の作成する - コンポリスト

生徒は最大4つの文を出題され、各文の隣には可能性がある答えの選択肢を含むドロップダウンリストがあります。一覧から正しい答えを選択する必要があります。

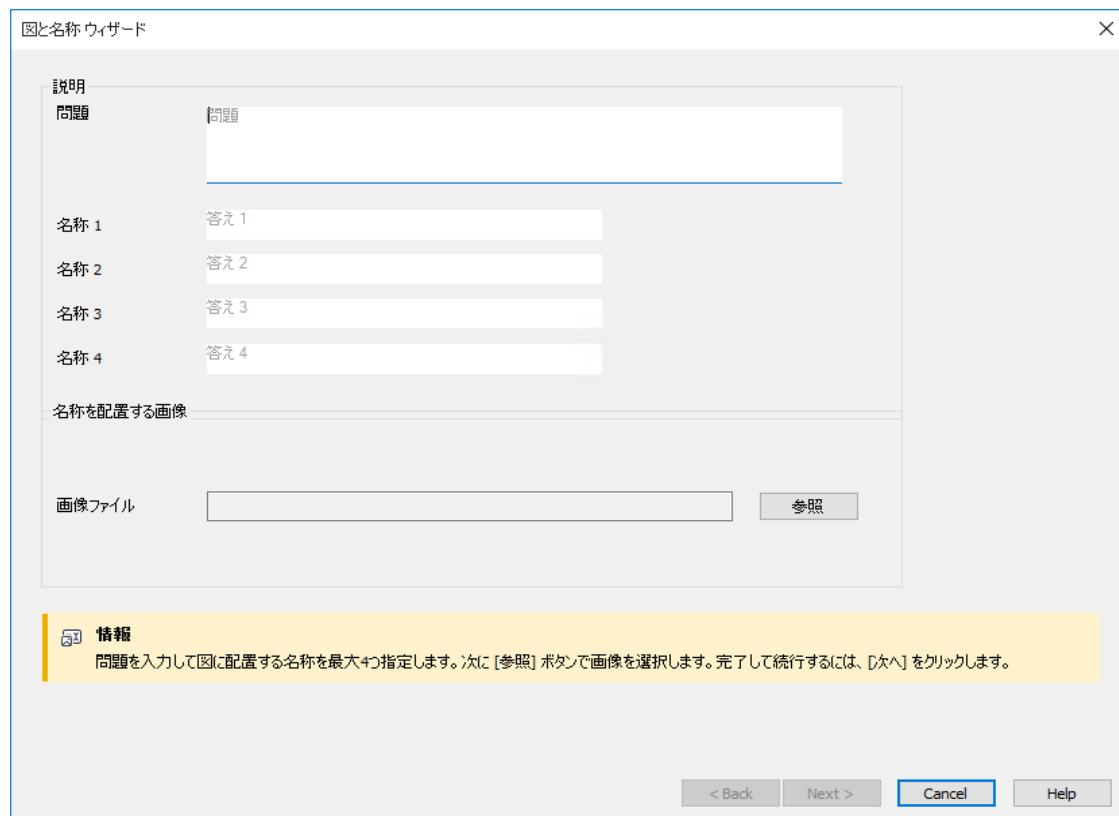


3ステージ中のステージ1は、最大4つの文または語句と一緒に指示を入力します。各文の隣に正しい答えのテキストを入力します。それから、さらに2つのダミーの答えを追加することができます。つまり、生徒機で問題が実行されると、選択できるすべての可能性のある答えが表示されます。

ウィザードのステップ1が完了したら、「次へ」をクリックします。

問題の作成 - タイトル合わせ

生徒に「空欄」のテキストボックスが隣接する最大4箇所が印された画像が出題されます。その画面下部には、正しいテキストボックスにドラッグ&ドロップする必要がある最大4つのテキストラベルがあります。

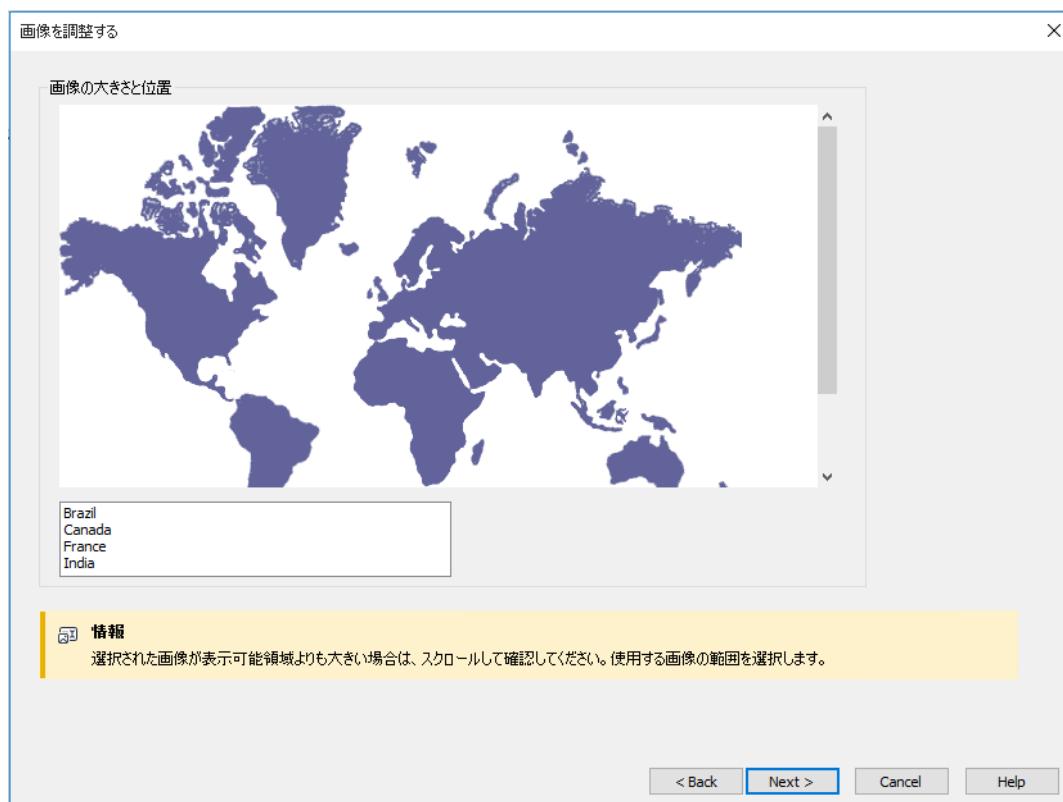


5ステージ中のステージ1は、最大4つのテキストラベルと一緒に問題を入力します。それから、生徒がテキストを貼り付ける必要がある画像を選択します。画像を検索するには「参照」をクリックします。画像データベースに現在保管されている画像の一覧が表示されます。既存の画像を選択するか、新しい画像をインポートします。「問題に画像を適用する」をクリックします。

ウィザードのステップ1が完了したら、「次へ」をクリックします。

画像を調節する

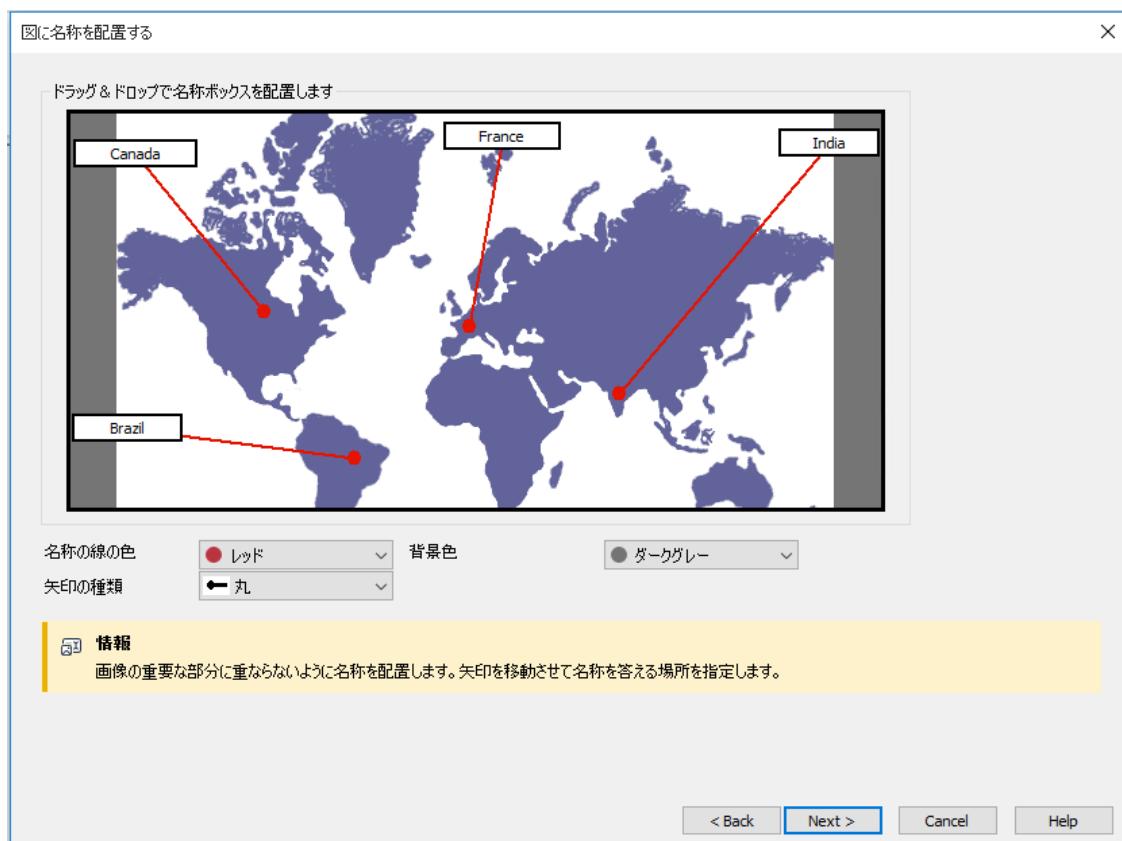
タイトル合わせの画像が表示エリアより大きすぎる場合は、サイズを調整します。



スクロールバーを使って表示エリア内の画像の位置を決めます。必要な部分を選択するには、マウスで範囲を指定します。準備ができたら、エンターキーを押して [次へ] をクリックします。

タイトル合わせ

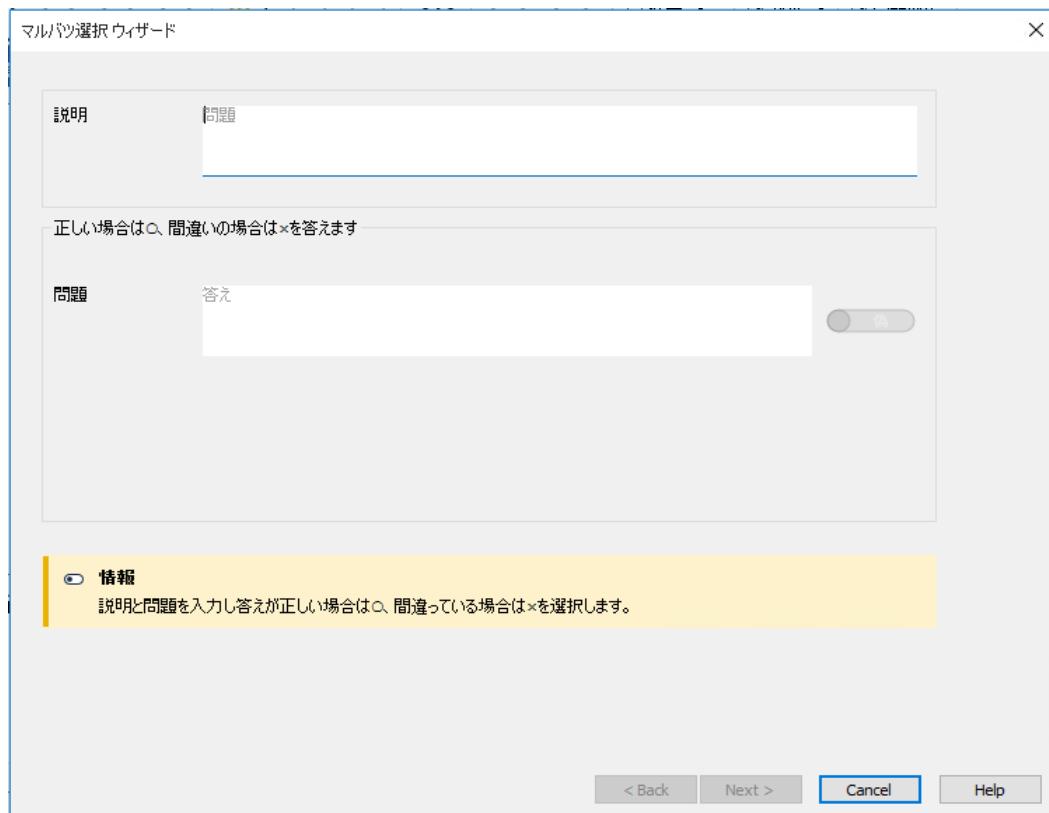
このプレビューウィンドウを使って画像に答えを配置し、ポインターと背景の色を選択します。



1. 画像の正しい位置に各「ポインター」の端をドラッグします。
2. テキストボックスを適切な位置にドラッグします。
3. ポインターのスタイルを選択してポインターと背景の色を選択します。
4. 準備ができたら [次へ] をクリックします。

問題の作成 - 正誤選択

生徒には文が出題され、それが正しいか誤りであるかどうかを決定する必要があります。

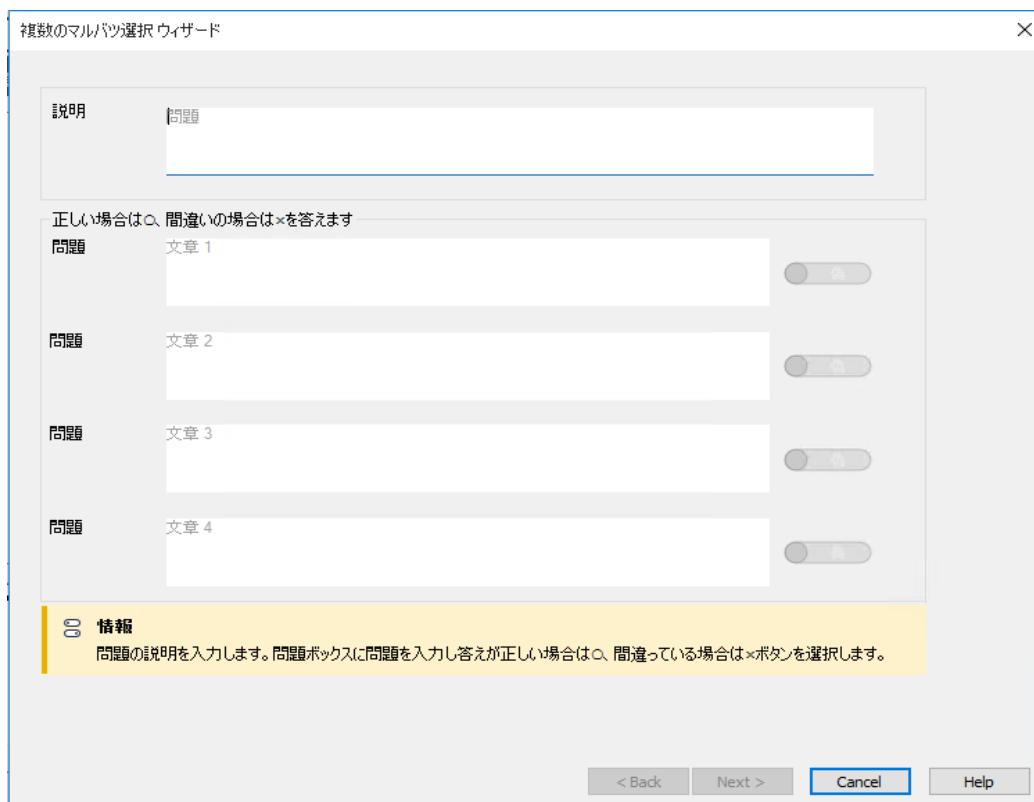


3ステージ中のステージ1は、問題の指示を入力し、それから生徒に答えさせたい文を入力し、それが正しいか誤りか指定します。

ウィザードのステップ1が完了したら、「次へ」をクリックします。

問題の作成 - 複数の正誤選択

生徒は最大4つの文が出題され、それらが正しい(マル)か誤り(バツ)かどうかを決定する必要があります。

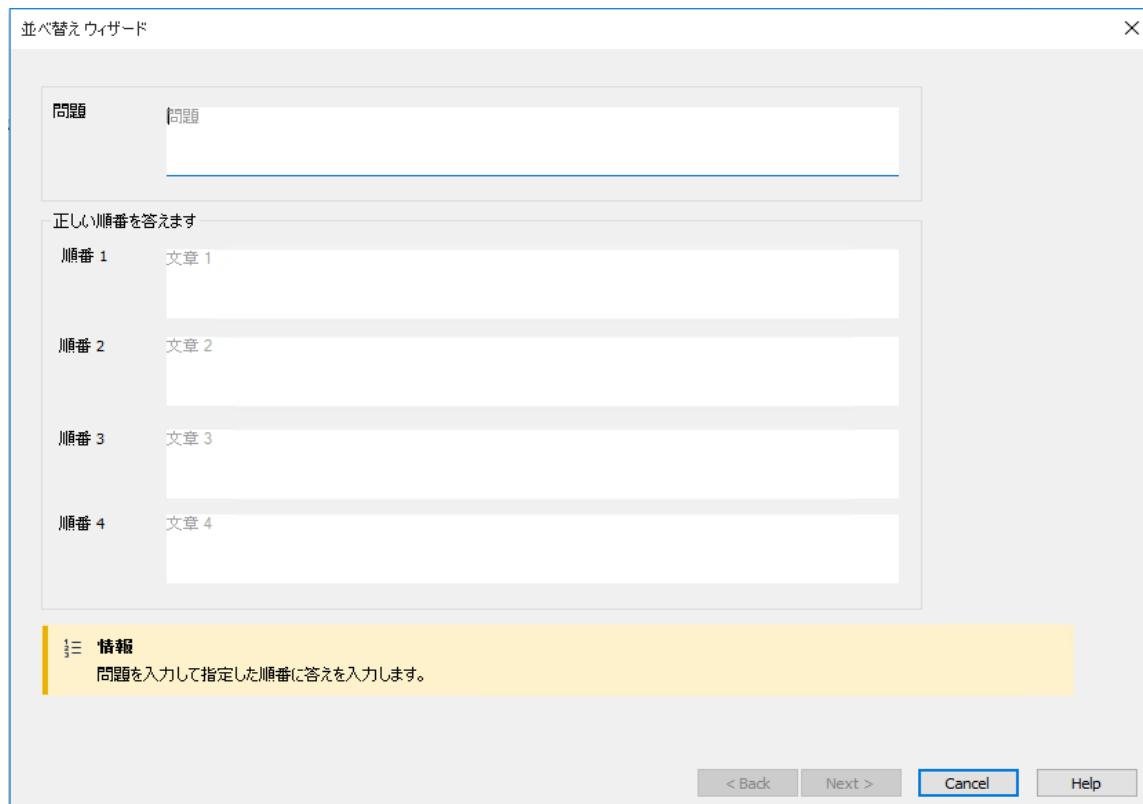


3ステージ中のステージ1は、最大4つの文と一緒に問題の指示を入力します。各文の隣に適切なボタンを選択することで正しか誤りかどうかを選びます。

ウィザードのステップ1が完了したら、「次へ」をクリックします。.

問題の作成 - 並べ替え

生徒は正しい順序で最大4項目を正しく配置する必要があります。



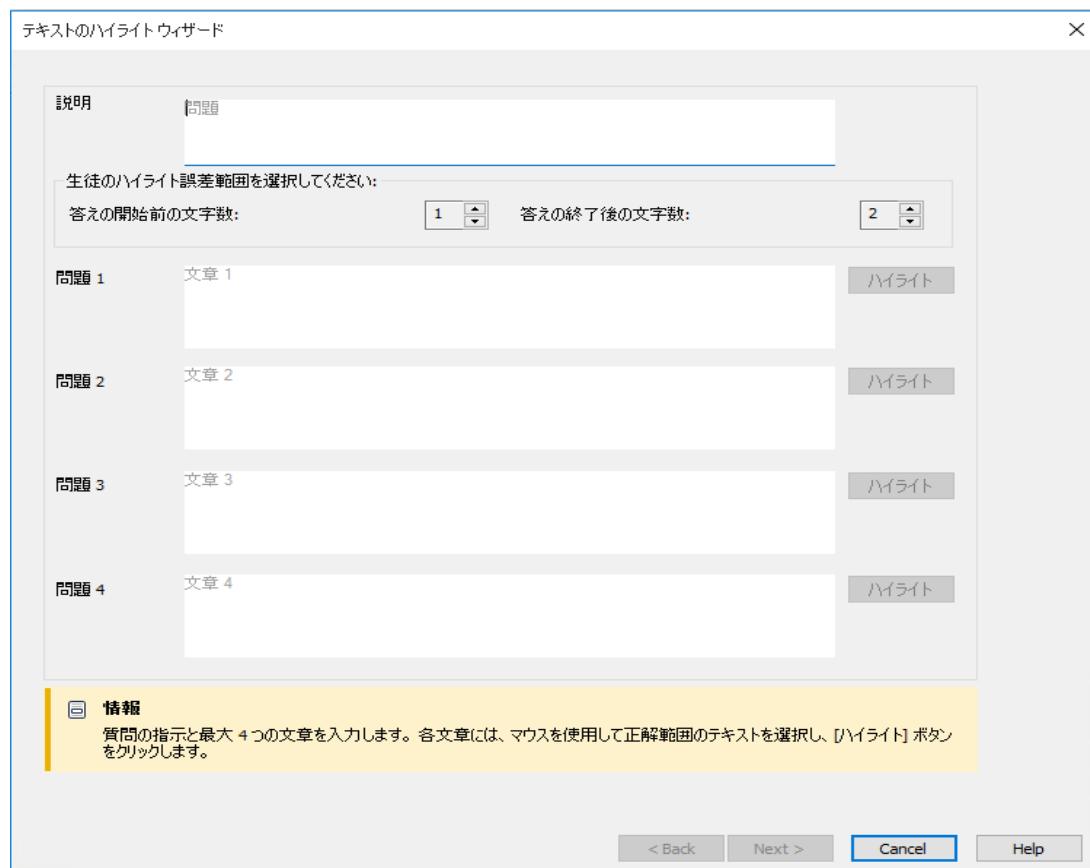
3ステージ中のステージ1は、正しい順序に最大4つの答えと一緒に問題を設定します。生徒機で問題が実行されると、答えはランダムに配置され、生徒は正し場所に各項目をドラッグ＆ドロップします。

ウィザードのステップ1が完了したら、「次へ」をクリックします。

文章問題をハイライト表示する

生徒には最大4つのステートメントが提示されます。ステートメントの正しいセクションを強調表示する必要があります。

注意: この質問タイプはバージョン15.00で導入され、以前のバージョンではこの質問をインポートまたは使用できません。以前のバージョンを実行している先生コンソールまたは生徒がいる場合、この問題タイプは使用しないでください。これは機能せず、テストに含まれている場合、どの生徒に対してもテストが開始されないためです。



3つのうちの最初の段階では、質問の指示を入力し、次に最大4つのステートメントを入力します。ステートメントを入力したら、ステートメントの正しいセクションを強調表示します。正しいテキストを強調表示するときに生徒のエラーを許容するために、エラー範囲を設定できます。これにより、強調表示されたセクションの前後の何文字を選択すると、回答が不正解と判定されるかを指定できます(デフォルトでは、これは選択の前に1文字、選択の後に2文字に設定されています)。正解は濃い緑色でハイライト表示され、誤差範囲は薄い緑色で表示されます。

正解として選択されたテキストがステートメントに複数回出現する場合、重複は淡い赤で強調表示されます。生徒がテキストの間違った部分を強調表示した場合、これは間違っていると判定されるため、ステートメントを言い換えることができます。

注意: 生徒が正しい答えよりも少ない数を強調表示した場合、その問題は不正解として判定されます。

ウィザードのパート1が完了したら、「次へ」をクリックします。

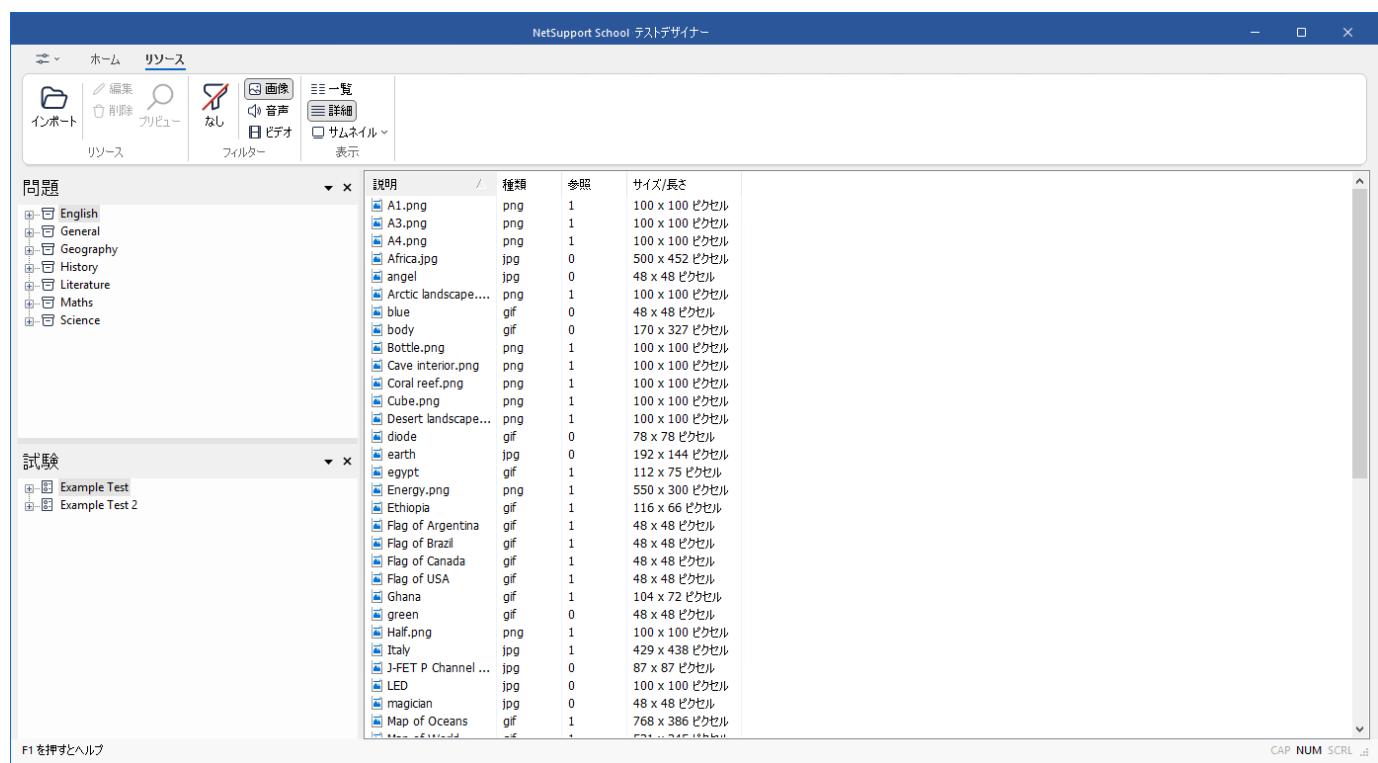
追加資料(素材)を含める

リソースデータベース

画像、動画、音声クリップ形式の表現は、しばしば作成した問題になくてはならない部分になる場合があります。タイトル合わせや画像合わせのようなタイプの問題はそれ自体が画像で構成されていますが、どのタイプの問題でも追加補足リソースを含めることが可能です。デザイナーには、「参照」モードがあり、適用している場合、解答前に必ず生徒はリソースを参照するようにします。

問題にリソースを挿入する前に、最初にプログラムの内部リソースデータベースに追加する必要があります。デフォルトでは、これは C:\Program Files\NetSupport\NetSupport School\Resources に保存されますが、リボンのオプション  アイコンを選択し、プログラムオプションの変更をクリックすることで場所を変更できます。

データベースにデータを追加するには、リボンのリソースタブを選択します。リソース一覧が表示されます。



NetSupport School テストデザイナー

リソース

説明 種類 参照 サイズ/長さ

A1.png	png	1	100 x 100 ピクセル
A3.png	png	1	100 x 100 ピクセル
A4.png	png	1	100 x 100 ピクセル
Africa.jpg	jpg	0	500 x 452 ピクセル
angel	jpg	0	48 x 48 ピクセル
Arctic landscape...	png	1	100 x 100 ピクセル
blue	gif	0	48 x 48 ピクセル
body	gif	0	170 x 327 ピクセル
Bottle.png	png	1	100 x 100 ピクセル
Cave interior.png	png	1	100 x 100 ピクセル
Coral reef.jpg	png	1	100 x 100 ピクセル
Cube.png	png	1	100 x 100 ピクセル
Desert landscape...	png	1	100 x 100 ピクセル
diode	gif	0	78 x 78 ピクセル
earth	jpg	0	192 x 144 ピクセル
egypt	gif	1	112 x 75 ピクセル
Energy.png	png	1	550 x 300 ピクセル
Ethiopia	gif	1	116 x 66 ピクセル
Flag of Argentina	gif	1	48 x 48 ピクセル
Flag of Brazil	gif	1	48 x 48 ピクセル
Flag of Canada	gif	1	48 x 48 ピクセル
Flag of USA	gif	1	48 x 48 ピクセル
Ghana	gif	1	104 x 72 ピクセル
green	gif	0	48 x 48 ピクセル
Half.png	png	1	100 x 100 ピクセル
Italy	jpg	1	429 x 438 ピクセル
J-FET P Channel ...	jpg	0	87 x 87 ピクセル
LED	jpg	0	100 x 100 ピクセル
magician	jpg	0	48 x 48 ピクセル
Map of Oceans	gif	1	768 x 386 ピクセル

F1を押すとヘルプ CAP NUM SCRLL

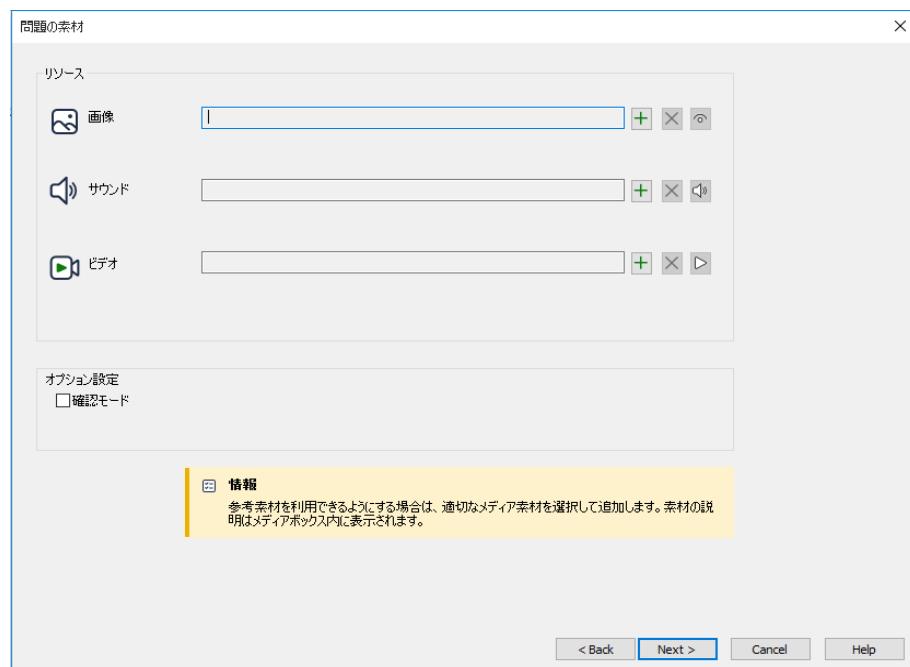
アイテムのインポートと管理ができるさまざまなツールが利用可能です。新しいリソースをインポートする前に、リボンのフィルターセクションで関連するカテゴリ(画像、サウンド、またはビデオ)を選択します。これにより各リソースはデータベース内の適切なフォルダに保存されます。

インポートをクリックして、必要なファイルを参照します。またWindowsエクスプローラーを使ってファイルの保存場所から直接ファイルをドラッグ&ドロップすることもできます。

問題にリソースを追加する段階で必要なファイルがデータベースにない場合、そこでファイルをインポートすることができます。

問題にリソースを追加する

各問題 ウィザードは、段階が進むとリソースの追加が可能になります。



1. 画像、サウンド、ビデオのどのリソース タイプが適切かを決定し、追加  アイコンをクリックします。
2. 必要なファイルが既にデータベースにインポートされている場合は、そのファイルを反転させ、適用をクリックします。選択する前にファイルをプレビューできます。

または

リストに新規に追加する場合は、インポートと参照をクリックしてファイルを選択します。ファイルを選択するとそのファイルで間違いか確認するためプレビュー画面が表示されます。またファイル名よりもリソースリストに表示されるのでファイルにはわかりやすい説明を入力します。リストに追加したら適用をクリックして問題にファイルを追加します。

3. [次へ] をクリックします。

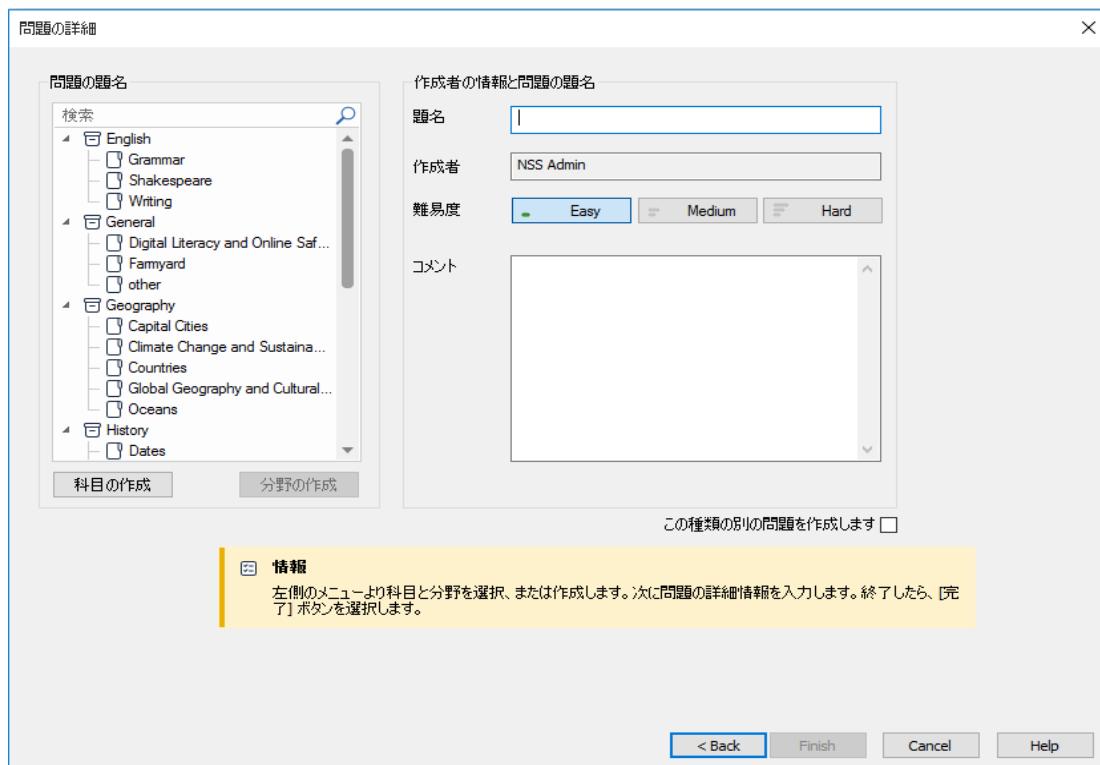
オプザーブモード

このオプションを選択すると、問題が表示される前にリソースファイルを生徒は閲覧しなくてはなりません。問題中にリソースを閲覧することはできません。生徒機で試験が開始されると、一度しかメディアを見ることができないと表示されます。このオプションを選択した場合、問題にリソースが追加されるまで続行できません。

問題の保管と作成者のコメントの追加

問題詳細ダイアログは問題作成プロセスを完了させます。問題をどこに保存するかまた作成者のコメントを追加するか決定します。

問題は NetSupport School プログラムフォルダ内の NetSupport School.mdb に内蔵データベースに保存されます。問題は、問題ペインのツリービューに保存されます。



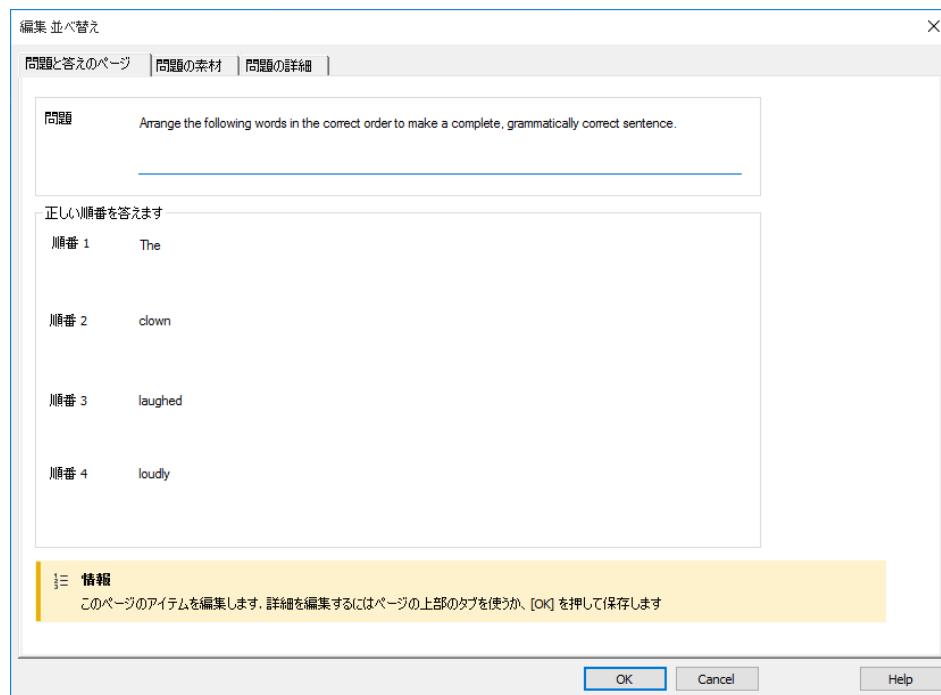
- 問題を割り当てる科目とトピックを選択します。

注意: 科目またはトピックを検索するには検索バーに用語の全部または一部を入力し、**検索**  アイコンをクリックします。その用語を含む科目やトピックがハイライト表示されます。検索を停止するには閉じる  アイコンをクリックします。

- 新しい科目やトピックを作成できます。科目の作成またはトピックの作成をクリックし、必要な名前を入力してOKをクリックします。新しい科目またはトピックがツリービューに追加されます。
- 必要に応じて、ツリービューに表示される問題の題名を編集し、メモフィールドに追加のサポートテキストを追加します。
- 各問題には、難易度を示すために、簡単、普通、難しいのレベルを割り当てることができます。
- 同じ問題の種類を再度作成したい場合は、この種類の別の問題を作成をクリックします。
- 完了をクリックして問題を保存します。

問題を編集する

保存された問題を編集するには、問題ウィンドウのツリービューでその質問をハイライト表示し、ホームタブを選択してリボンの問題セクションで編集をクリックするか、問題を右クリックして編集を選択します。



問題編集ダイアログの適切なタブを選択して必要な詳細を変更し、完了したら「OK」をクリックします。

注意: 問題は重複しても構いません。リボンのホームタブを選択して複製をクリックするか、問題を右クリックして複製を選択します。問題編集ダイアログが表示され、必要に応じて変更し、完了したら「OK」をクリックします。ツリーフェイド表示のオリジナルの問題の下に複製した問題が表示されます。

問題、科目、分野を削除する

問題が試験に表示されていない場合は、問題だけ削除することができます。ツリー階層表示の科目または分野の下に項目がない場合は、それらを削除することができます。現在選択している並べ替え表示で削除の範囲を決定します。

質問を削除する

1. 問題ペインのツリービューで質問を選択します。
2. ホームタブを選択し、リボンの問題セクションで削除をクリックします。
または
右クリックして削除を選択します。

科目を削除する

1. 問題ペインのツリービューで科目を選択します。
2. ホームタブを選択し、リボンの科目セクションで削除をクリックします。

トピックを削除する

1. 問題ペインのツリービューでトピックを選択します。
2. ホームタブを選択し、リボンのトピックセクションで削除をクリックします。

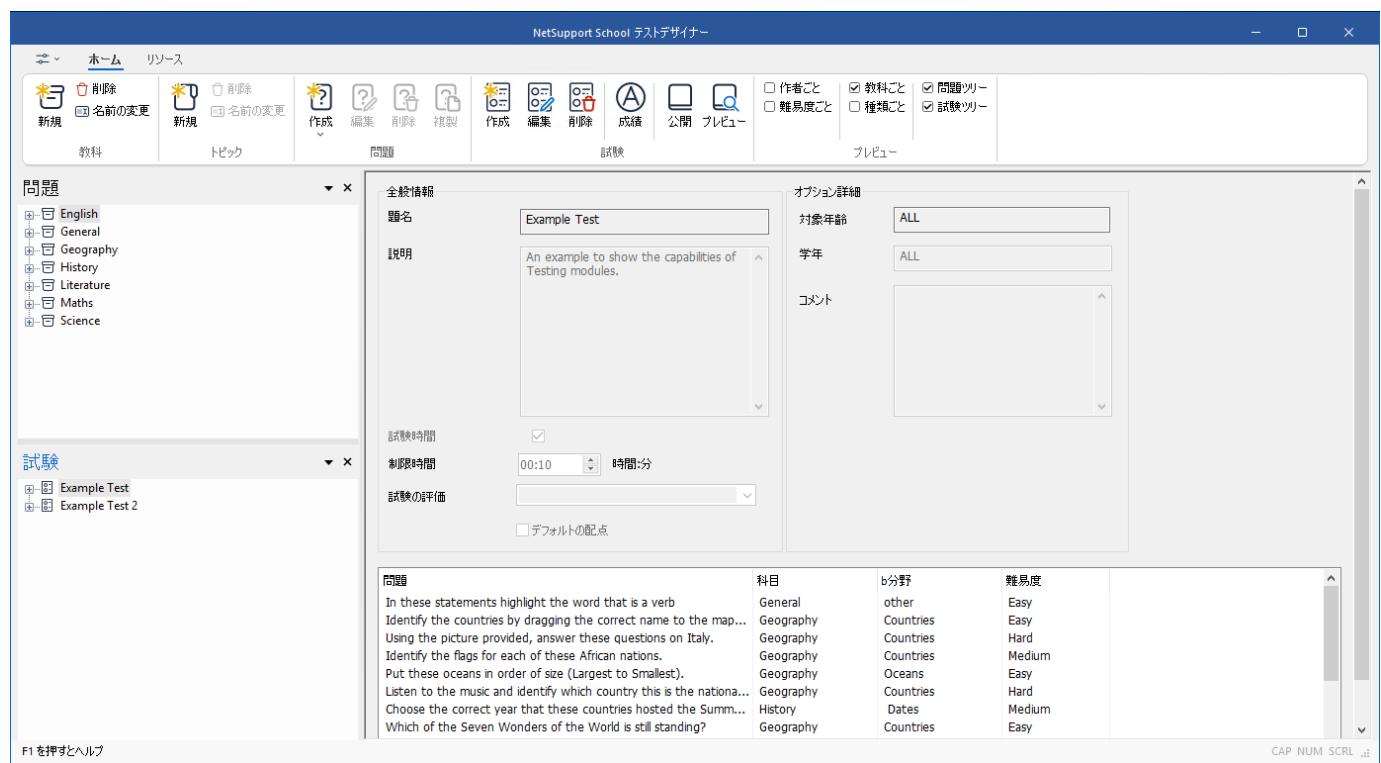
注意: 必要な項目を選択し、リボンの科目またはトピックセクションで名前の変更を選択することで、科目またはトピックの名前を変更できます。

科目または分野を削除するときは、プログラムはツリー階層表示の下に項目があるかどうか、現在の並べ替え表示によつては、項目がツリー階層表示のどこか他の場所に表示されているかどうかを確認します。

科目で並べ替えていると、一つの項目だけが存在します。したがって、分野が問題を含んでいない場合は分野が削除され、科目が分野を含んでいない場合は、科目が削除されます。しかし、問題で並べ替えていると、たとえば、ツリー階層表示に同一の科目や分野に複数存在するかもしれません。マルチ選択のカテゴリーにある地理の問題だけを削除した場合は、地理が表示される他のカテゴリーからではなく、その分野または科目がマルチ選択から削除されます。

試験インターフェイス

問題のライブラリを作成したら、それらを試験に追加することができます。独自の等級と採点方式を適用することができ、他の先生と共有使用のために試験を中央に「発行」することができます。



試験モードで利用できるアイコンは次のことが可能です:

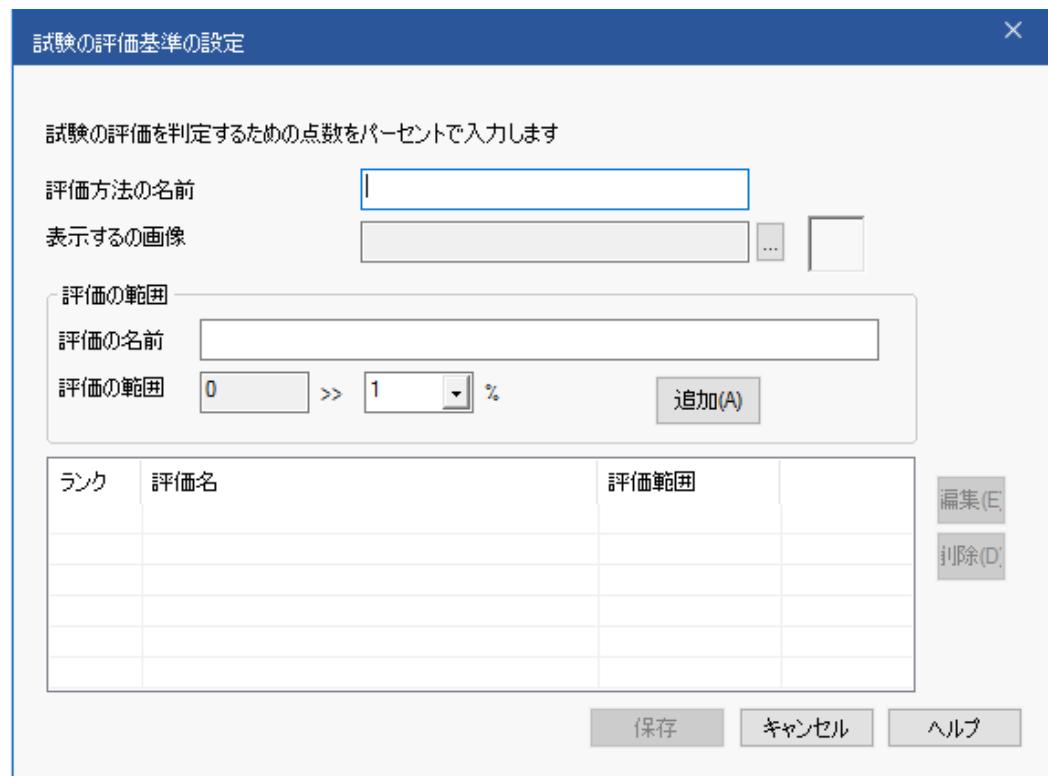
- 試験を作成する
- 試験の内容を編集する
- 試験を削除する
- 試験を発行する。生徒のPCで試験が実行される前に、試験を発行する必要があります。一般使用のための共有エリアに完成した試験を保管できるようになります。
- 試験をプレビューする。実際に生徒に表示される問題で試験を進めることができます。
- 試験の成績評価を編集する。試験に独自の成績評価を適用する。

試験の成績評価

試験が完了すると、結果の詳細な内訳を先生に提供します。さらに特定の区分内に生徒を分類することでレポートの精度を向上させることができます。

試験を作成し始める前に、試験成績を設定する必要があります。

リボンでホームタブを選択し、**成績**をクリックします。



成績評価の名前を入力し、レポートの画像を追加します。これは、生徒がどのくらい達成したかの目指標を提供します。たとえば、20%の得点を獲得した生徒は星1つが、80%獲得した生徒は星4つが成績の隣に表示されます。画像(厳密に32×32ピクセルに制限)を素材データベースにインポートする必要があります。

成績区分に説明を付けて適切なパーセンテージマークを添付します。一覧に各区分を挿入するには「追加」をクリックします。すべての区分が追加されたら、「保存」をクリックします。一覧にある項目のどれかを変更するには「編集」または「削除」ボタンを使用します。

テスト報告ウィンドウで各生徒が達成した成績を確認することができます。

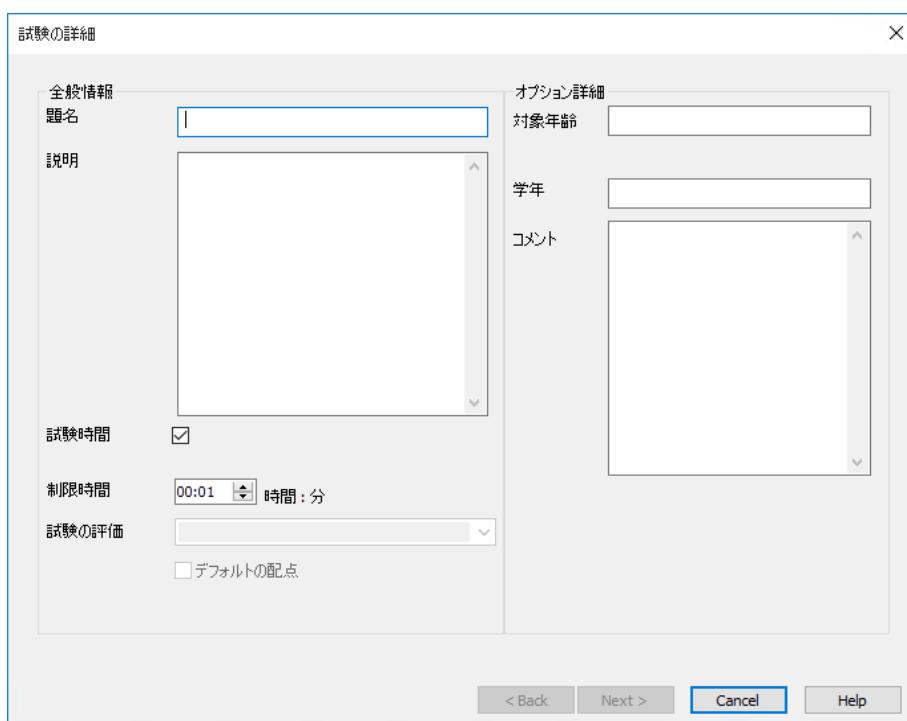
試験を作成する

問題編集 で問題の適切な混ぜ合わせを作成したら、これらの問題を試験に追加することは素早く簡単な手順です。

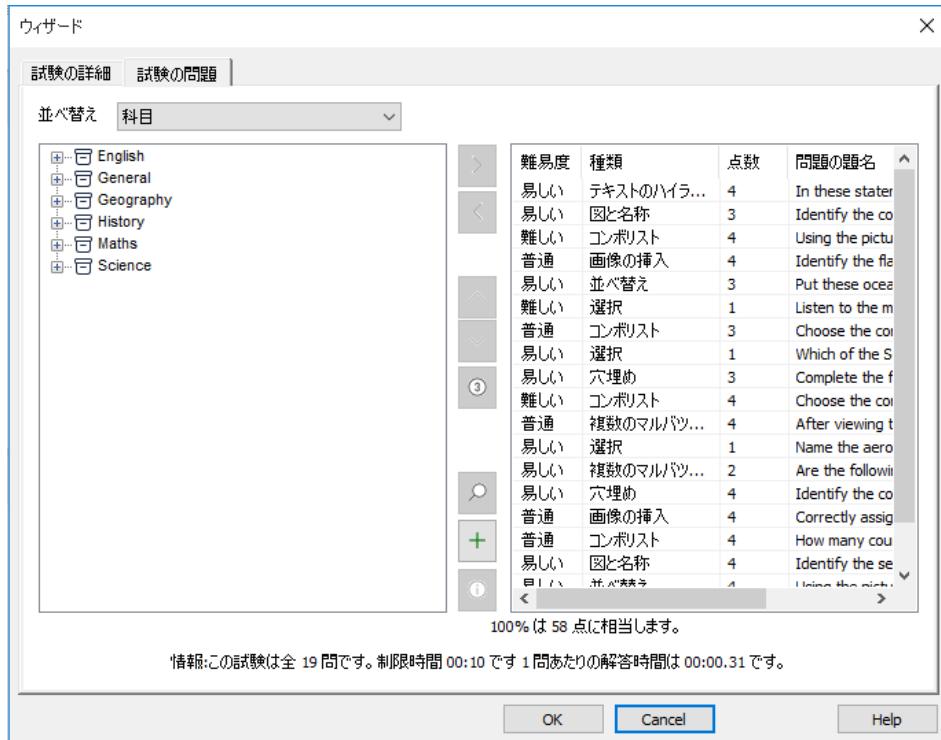
試験 ウィザードが必要な問題の選択、試験の制限時間の設定、独自の成績評価システムの使用、サポート情報の追加の手順を通してガイドします。このプロセス中に新しい問題を作成することもできます。

試験を作成する

1. ホームタブを選択し、リボンの試験 セクションで作成をクリックします。



2. 第1段階は、試験についての一般的なサポート情報を入力することです。試験時間を設けるかどうかを選択します。その場合は制限時間を時時:分分で設定します。評価ドロップダウンから選択して、独自の評価システムを使用できます (このオプションを使用するには、評価が存在する必要があります)。デフォルトの得点システムを使用するかどうか決定します。(第2段階で独自の得点を問題に割り当てられます。) それから、年齢範囲や試験対象のクラスのグループなどのいくつかの任意オプションを追加することができます。準備ができたら、「次へ」をクリックします。



- 第2段階は試験で使用する問題を選択することです。左側のペインでツリービューを展開し、必要な質問をハイライト表示して、追加  アイコンをクリックします。ツリーフェーズ表示は、作成者、難易度、問題の種類、科目で並べ替えることができます。すべての問題が選択されるまで、この手順を繰り返します。
- 選択された問題がウィンドウの右側の領域に表示されます。ここから、試験から問題を削除したり、必要な順番に問題を並べ替えたり、問題をプレビューしたり、問題に新しい点数を割り当てたり、新しい問題を作成するためのボタンを使用することができます。
- 完了をクリックして、試験を試験ペインのツリービューに保存します。

作成したら、リボンを使用して試験を編集または削除したり、試験をプレビューしたり、試験を公開したりできます。

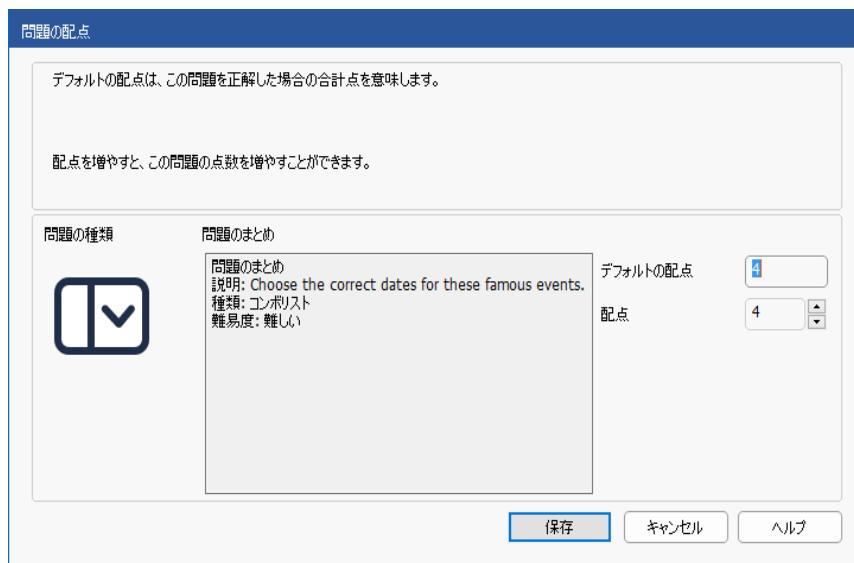
注意: 試験のツリーフェーズ表示に新しく作成された試験が表示されますが、それが「発行」されるまでは生徒のパソコンで実行することができません。試験、問題、写真、ビデオなどの様々な要素をテストコンソールで利用できるように1つのZIPファイルにまとめます。

問題の点数設定

問題はデフォルトの得点を使用して作成されますが、試験の作成または編集時に個々の問題に独自の得点を割り当てることができます。

1. 試験問題ダイアログで得点を修正する問題を選択し、**問題の得点**  アイコンをクリックします。

注意：試験の詳細ダイアログで**デフォルトの採点システムオプション**が選択されていないことを確認する必要があります。



2. アイコンを使用して得点を調整できます。その後、上  および 下  アイコンを使用して得点を調整できます。

注意：複数解答の問題は対応した数字に増やすことしかできません。

3. 保存をクリックして終了します。

試験をプレビューする

どのように生徒に表示されるかをシミュレートするために試験をいつでもプレビューすることができます。これは、各問題を確認したり、含まれている可能性のある写真やビデオ等の資料を表示するのに便利な方法です。試験は生徒のパソコンで実行されるように正確に実行しますが、プレビュー機能では結果を表示しません。

1. 試験ペインのツリー ビューで試験を選択します。
2. リボンのホームタブを選択し、**プレビュー**をクリックします。

または

試験名を右クリックして、**プレビュー**を選択します。

Example Test

問題

1:

2:

3:

4:

5:

6:

7:

8:

9:

10:

11:

12:

13:

14:

15:

16:

17:

In these statements highlight the word that is a verb

マウスの左ボタンをクリックしたままドラッグして、答えとなる単語またはフレーズをハイライト表示してください。次に、「ハイライト」ボタンをクリックして選択を確認します。

John visited Buckingham Palace with his friends. ハイライト

The boy played the piano at the concert. ハイライト

Sarah loved her new toys. ハイライト

Connor broke the window. ハイライト

09:57

閉じる

3. 問題の間を移動したり、プレビューを終了するにはウィンドウ下部のボタンを使用します。問題をそれぞれ表示するにはウィンドウ左側の各問題番号をクリックすることもできます。

注意: このモードで個別の問題をプレビューすることができます。問題を表示するには試験の下のツリーを展開し、該当する項目を強調表示し、「プレビュー」をクリックします。

試験を削除する

この手順は試験編集ウィンドウから試験を削除しますが、試験を発行するときに作成されるZipファイルを削除しません。したがって、まだ試験は生徒のパソコンで実行できるようになります。

1. 試験ペインのツリービューで試験を選択します。
2. ホームタブを選択し、リボンの試験セクションの削除をクリックします。

または

試験名を右クリックし、削除を選択します。

3. 本当に試験を削除するかを確認します。

試験を発行する

生徒のPCで試験が実行される前に、試験を「発行」する必要があります。この手順は試験の様々な要素(問題、資料等)をデフォルトのプログラムファイルテストフォルダ内または選択した共有ネットワークエリア内に保管されるZIPファイルにまとめにします。後者は、他の先生が試験にアクセスできるようになります。

発行されると、テストコンソールで選択することができます。

試験を発行するには

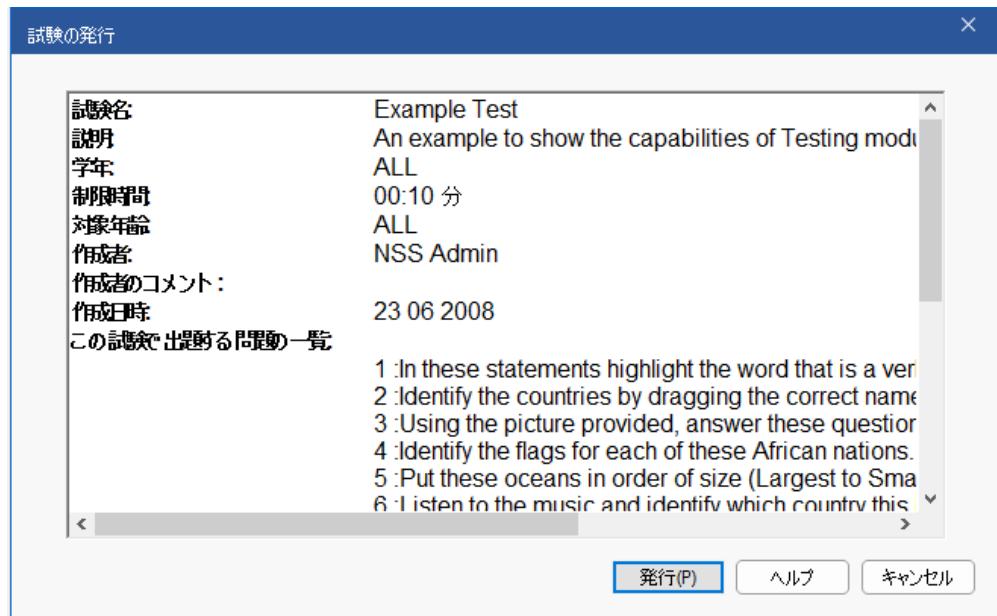
1. 試験ペインのツリービューで試験を選択します。
2. リボンでホームタブを選択し、公開をクリックします。

または

試験名を右クリックし、公開を選択します。

注意: このバージョンで公開された試験は、NetSupport School バージョン 15.10 以降でのみ使用してください。

3. 試験のプロパティを確認するためのウィンドウが表示されます。



4. 「名前を付けて保存」ダイアログが表示されます。試験に適切な名前を付けます。これが、実行する試験を選択したときにテストコンソールに表示される名前になります。試験を別の場所に保存する場合は、変更をクリックします。Zipファイルを作成するには「保存」をクリックします。

ユーザー アカウント の 設定

デフォルトの管理者ログオンに加えて、複数のテストデザイナーのユーザー アカウントを作成することができます

注意: デフォルトでは、管理者アカウントにはパスワードが設定されていません。追加のユーザー アカウントを作成するとき、またはテストデザイナーを終了するときに、設定するように求められます。

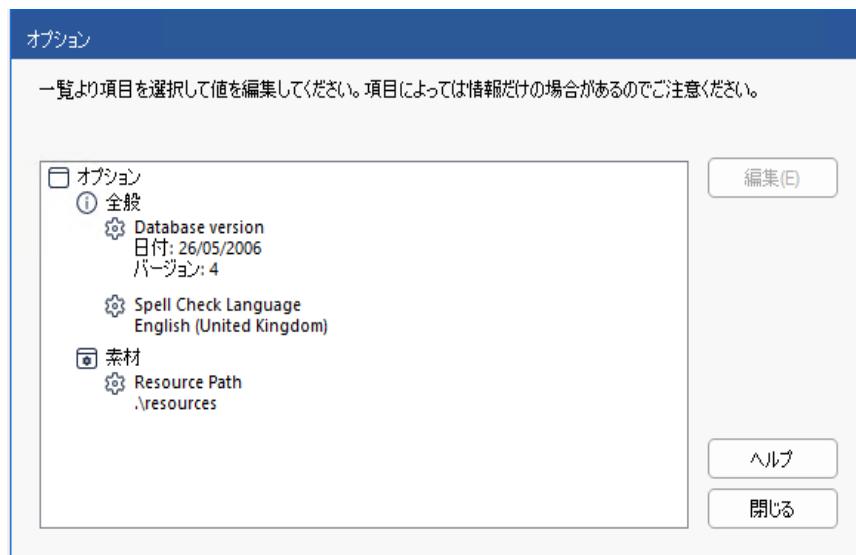
1. リボンのオプション  アイコンを選択し、このプログラムのユーザーの管理をクリックします。
2. ユーザー管理ダイアログが表示されます。



3. **追加**をクリックし、ユーザー名、ログイン名、パスワードを入力します。管理者権限を割り当てるかどうかを決定します。他のユーザーが作成した質問や試験を編集/削除する機能と一緒にデザイナー内のすべての機能へのユーザーアクセスを提供します。管理者以外のユーザーは試験を作成することだけができます。
4. **OK**をクリックします。

アドミンオプション

問題、試験等は NetSupport School の内部データベースに保管されます。このダイアログはデータベースのバージョン情報を表示します。インポートしたリソース(画像、動画、音声クリップ)の保管先パスを編集するオプションがあります。



一般

データベースのバージョン、現在使用中のNetSupport School.mdb は場合によっては内部データベースのアップデートを提供するかもしれません。どのバージョンが使用中がこのダイアログに表示します。

テストデザイナーに含まれるスペルチェッカーの言語を示します。これを変更するには編集をクリックします。

リソース

デフォルトではインポートした画像、動画、音声ファイルのリソースは NetSupport School のプログラムフォルダ内のリソースエリアに保存されます。このオプションでパスの編集が可能です。

データのインポート / エクスポート

テストデザイナーは、データの外部バックアップを保存したり、情報を他のユーザーが情報を使用できるようにするインポート / エクスポート機能を提供します。エクスポートされたファイルは、セキュリティのためパスワードで保護することができます。データベース内のすべてのアイテムまたは、試験、問題、素材だけをエクスポートするかを選択できます。

データのエクスポート

1. リボンのオプション  アイコンを選択し、選択した項目をファイルにエクスポートをクリックします。
- 注意:** エクスポートされたファイルは、NetSupport School バージョン 15.00 以降にのみインポートしてください。
2. [データベースのエクスポート]ダイアログボックスが表示されます。エクスポートする情報のカテゴリーを選択して[エクスポート]をクリックします。
 3. エクスポートウィザードが表示されます。エクスポートされたデータの場所を指定して、ファイル名を入力します。デフォルトでは、ファイルには現在の日付が付いていますが、好みで独自の名前を入力することができます。必要に応じて、パスワードでファイルを保護し、追加のメモを追加して続行して準備ができたら[次へ]をクリックします。
 4. 選択した情報の種類 (試験、質問、リソースなど) に応じて、ウィザードはエクスポートする特定の項目を選択するよう求めます (データベース内のすべての項目をエクスポートするように選択した場合を除く)。各項目を選択し、**追加**  アイコンをクリックします。エクスポートリストが完成したら、[次へ]をクリックします。
 5. ウィザードは、エクスポートするアイテムを確認します。試験や問題に関連付けられたすべての素材が含まれています。詳細を確認して、必要な場合は「戻る」をクリックして情報を変更してください。
 6. エクスポートを開始するには「完了」をクリックします。
 7. エクスポート処理中ダイアログが表示されます。完了したら「閉じる」をクリックします。

注意: エクスポートされたデータは、デザイナーから削除されません。

データのインポート

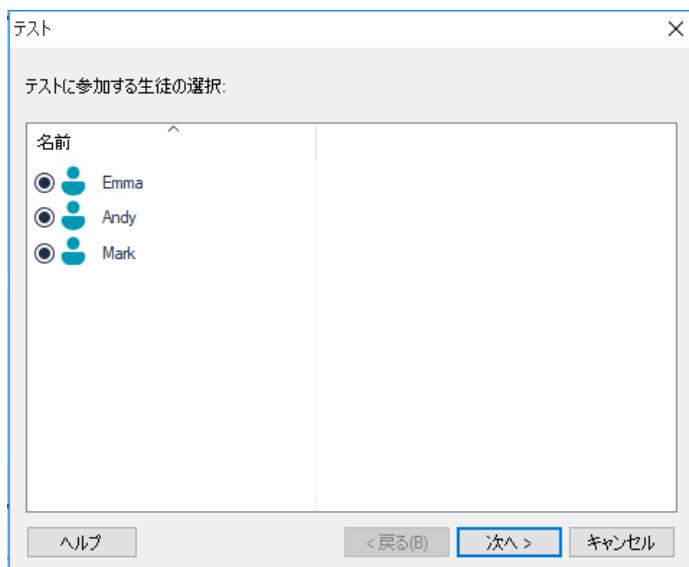
1. リボンのオプション  アイコンを選択し、エクスポートされたファイルからデータをインポートをクリックします。
2. 「データベースのインポート」ダイアログが表示されます。必要なエクスポートファイルを参照して「開く」をクリックします。
3. インポートを開始するには「データベースのインポート」をクリックします。ファイルが保護されている場合は、パスワードの入力を求められます。
4. データベースのインポート プロセスダイアログが表示され、インポートの進行状況が表示されます。完了したら「閉じる」をクリックします。

テストコンソール

問題や試験を作成するためにテストデザイナーを使用したら、生徒のパソコンで試験を実行し、結果を監視するためにNetSupport School 先生コンソール内のテストコンソールオプションを使用します。

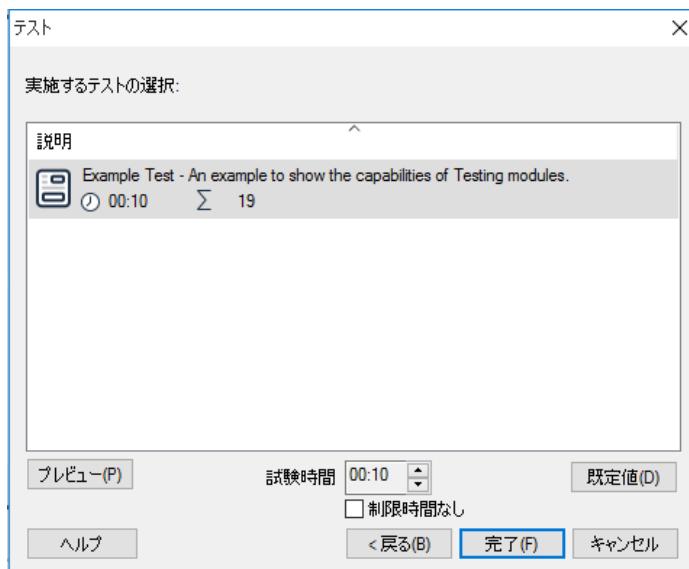
試験を実行する

1. リボンのフィードバックとウェルビーイングタブを選択し、評価をクリックします。
2. 生徒の選択ダイアログが表示されます。



接続している生徒の一覧から生徒名の隣のボックスをチェックまたはチェックを外して誰が試験に参加するか選択します。続行するには「次へ」をクリックします。

3. 発行済み試験の詳細が一覧表示され、選択した生徒のPCで実行したい試験を選択します。

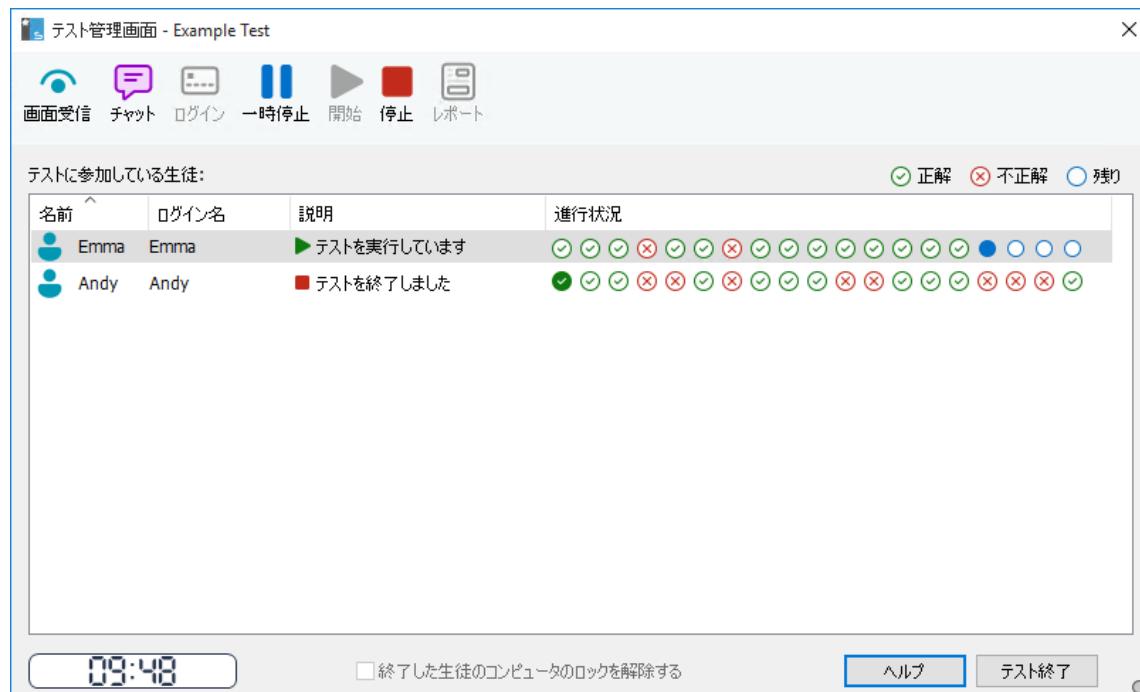


必要な場合は、試験の制限時間を変更することができます。試験をプレビューするには、「プレビュー」をクリックします。試験を実行する準備ができたら、「完了」をクリックします。

4. 生徒のPCでNetSupport Schoolテストプレイヤーが自動的に起動し、先生の画面には試験を管理するためのダイアログが先生コンソール画面に表示されます。

テストコンソール - 試験を実行する

試験を開始し、生徒の進行を監視し、結果を集計するためにこのダイアログが使用されます。



ウィンドウは個々の生徒の進行状況を追跡することができます。各問題は、リアルタイムで採点されるので、各生徒がどのくらいできているか確認することができます！試験の終わりには、クラスと個々の生徒による結果を表示し保存用に結果を印刷することができます。また、どこを間違えたかを確認できるように各生徒に自分達の結果を表示することもできます。

注意: 生徒が試験の途中で接続を切断した場合、説明には切断されたことが示されます。回答した質問の結果は、試験レポートで確認できます。

次のツールバー機能が利用できます：

画面受信

試験中、任意の時点で特定の生徒の画面を表示することができます。通常の画面受信ウィンドウに関連するすべてのオプションが利用可能です。

チャット

必要に応じて、試験の実行中に生徒とチャットセッションを開くことができます。テストプレイヤーには各問題の種類について生徒にガイドを提供するヘルプボタンがありますが、追加の支援をする必要がある場合があるかもしれません。

テストログイン

試験を始める前に、各生徒に自分の名前でログインするように要求することができます。たとえば、マシン名が表示されている場合、これが役に立ち、各生徒に照らし合わせて結果を確認するときにより意味があります。

テスト一時 停止

任意の時 点で試験を一時 停止することができます。続行する準備 ができたら「開始」をクリックします。

テスト開始

生徒のパソコンで試験を開始します。

テスト停止

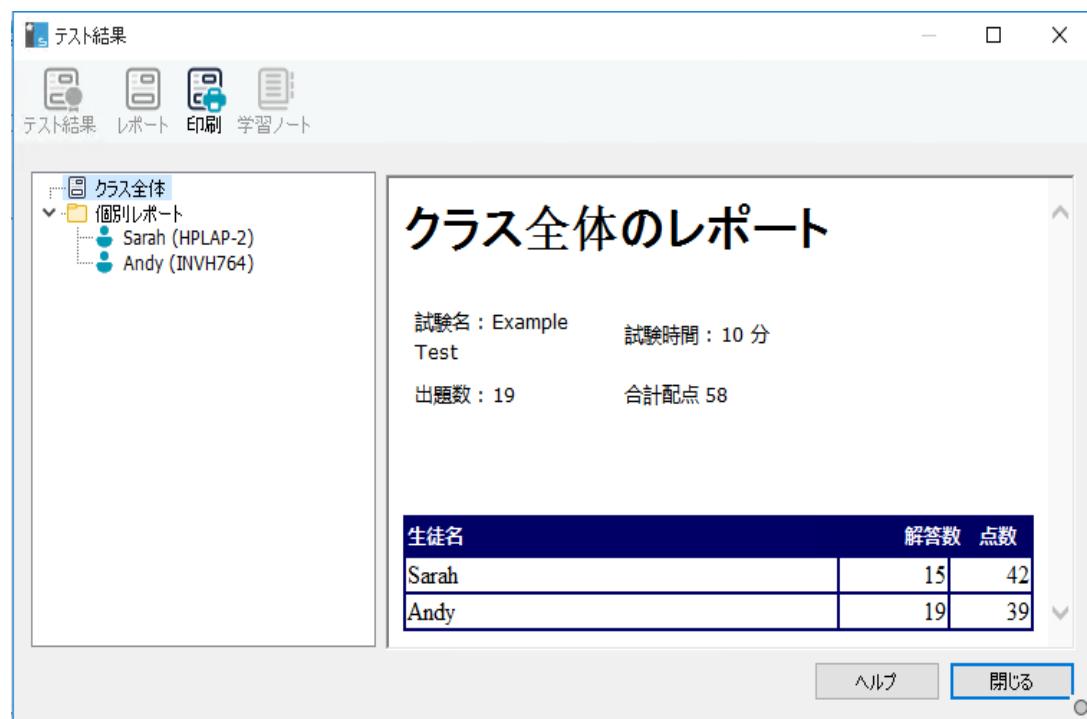
制限 時間内に全生徒が終了した場合、時間 を待たず に終了することができます。

結果報告

このオプションは、試験が終了したら結果を収集します。(先生が試験を停止するか、制限 時間が経過したとき)

テスト報告ウィンドウ

レポートウィンドウは、先生が試験の結果を確認することができます。また学生が自分の結果を確認できるようにするオプションもあります。



ツリー階層表示で必要な項目を選択することで、2種類のレポート(報告書)(クラスの要約と個別の生徒の要約)を表示することができます。それぞれ、印刷することができ、コピーをHTML形式で\\NetSupport \\NetSupport School\\Tests\\Reportsフォルダに保管することもできます。

注意: レポートの別の場所を 先生コンソールのプロファイルオプションで指定することができます。

クラス概要

これは表形式で各生徒の結果の要約を提供します。レポート(報告書)は試験の問題数、得点の数(マルチ選択以外の問題は正解につき1点の価値があります)を詳細に明記し、そして各生徒の得点を箇条書きにします。

生徒別概要

ツリー階層表示で生徒名を選択することで、個別の結果の完全な内訳を表示することができます。これは、生徒の苦手な問題を強調するのに理想的です。成績評価システムを適用している場合は、追加したコメントと一緒に表示される追加されたコメントと一緒に採点された評価も表示されます。それぞれの、問題で獲得した得点を最適化された目次が用意され、そこからに生徒がどのように答えたか確認するために各問題に移動することができます。

注意: 生徒が試験中に接続を切断した場合、ステータスは中断と表示されます。回答した質問については結果が表示されますが、結果を生徒に送信することはできません。

ツールバーは追加機能へのショートカットを搭載しています:

結果を表示

これは各生徒に自分達の結果を表示することができるようになります。必要に応じて答えが含まれています。すべての生徒同時に表示するには、ツリー階層で生徒のレポートを強調表示し、個々の生徒に表示するには、名前を選択します。

生徒が順番に各問題を確認できるように生徒のパソコンでテストプレイヤーが再度開きます。ウィンドウは、どの問題が正解、不正解だったか、または複数の答えがある問題の場合は部分的に正解を表示します。

答えを含むように選択している場合は、テストプレイヤーウィンドウに生徒が解答と正解を切り替えられる「答えを表示」ボタンが表示されます。

レポートを表示

このオプションは、生徒のパソコンで個別のサマリーを表示することができます。

レポートを印刷

先生がクラスと生徒の要約の印刷コピー入手できるようになります。ツリー階層表示の必要な項目を強調表示し、「レポートの印刷」をクリックします。

学習ノートに送る

生徒の結果のコピーを生徒達の学習ノートに送ることができます。それから生徒は、授業の後で自分の答えを確認する機会があります。

準備ができたら、テストを終了することができるテストコンソールに戻るにはウィンドウを閉じます。これは生徒の画面から結果またはレポートを消去します。

テストプレイヤー

NetSupport School テストプレイヤーは、試験が実行されると生徒のPCで起動されるテストユーティリティです。

先生が試験に参加する生徒を選択して実行する試験を選択するには テストコンソール のオプションを使用します。この時点では各生徒PCにてテストプレイヤーが自動的に起動します。先生が試験を開始すると、最初の問題が表示され、試験中は生徒は自分の方法で作業することができます。

The screenshot shows the 'Example Test' window of the NetSupport School Test Player. On the left, a vertical list of questions from 1 to 17 is displayed, with question 1 selected (indicated by a blue dot). The main area contains four statements for highlighting verbs:

- John **visited** Buckingham Palace with his friends. (highlight button)
- The boy played the piano at the concert. (highlight button)
- Sarah loved her new toys. (highlight button)
- Connor broke the window. (highlight button)

Below the statements is a digital clock showing 09:20. At the bottom are four navigation icons: back, forward, first, and last.

テストプレイヤーのウィンドウには次の内容が表示されます:

試験時間

残り時間をカウントダウンします。

問題一覧

番号付きのボタンは試験の出題数を指示します。生徒は素早く問題の間を移動するにはこれらをクリックします。試験の最後に時間が無くなる前に答えを確認したり、変更したりするのに便利です。

問題エリア

ウィンドウの本体は問題と問題の種類によっては関連オプションを表示します。ボタンは、写真、ビデオやサウンドクリップが含まれている可能性のある資料を確認するために用意されています。特定の種類の問題の答え方のヒントを生徒に提供する「参照」ボタンが利用できます。

ナビゲーションボタン

問題一覧内の番号付きボタンに加えて、生徒が問題の間を移動できるウィンドウ下部の「ナビゲーション」ボタンが利用できます。生徒は試験を完了したら、「終了」をクリックします。

試験が終了すると、先生は生徒に結果を表示し、必要に応じて答えを含めるためのオプションがあります。順番に各問題を確認できるように生徒のパソコンで再度テストプレイヤーが開きます。ウィンドウはどの問題を正解、不正解もしくは複数の答えがある問題の場合は部分的に正解したかを表示します。先生が答えを含めるように選択した場合は、生徒が自分の解答と正解を切り替えられる「答えを表示」ボタンが表示されます。

ご意見・ご感想

本マニュアルのデザイン、説明、操作方法などに関するご意見・ご感想は下記までお願ひいたします。

UK & インターナショナル

www.netsupportsoftware.com

テクニカルサポート: support@netsupportsoftware.com

セールス: sales@netsupportsoftware.com

北アメリカ

www.netsupport-inc.com

テクニカルサポート: support@netsupportsoftware.com

セールス: sales@netsupport-inc.com

カナダ

www.netsupport-canada.com

テクニカルサポート: support@netsupportsoftware.com

セールス: sales@netsupport-canada.com

ドイツ, オーストリア, スイス

www.netsupportsoftware.de

テクニカルサポート: support@netsupportsoftware.de

セールス: sales@netsupportsoftware.de